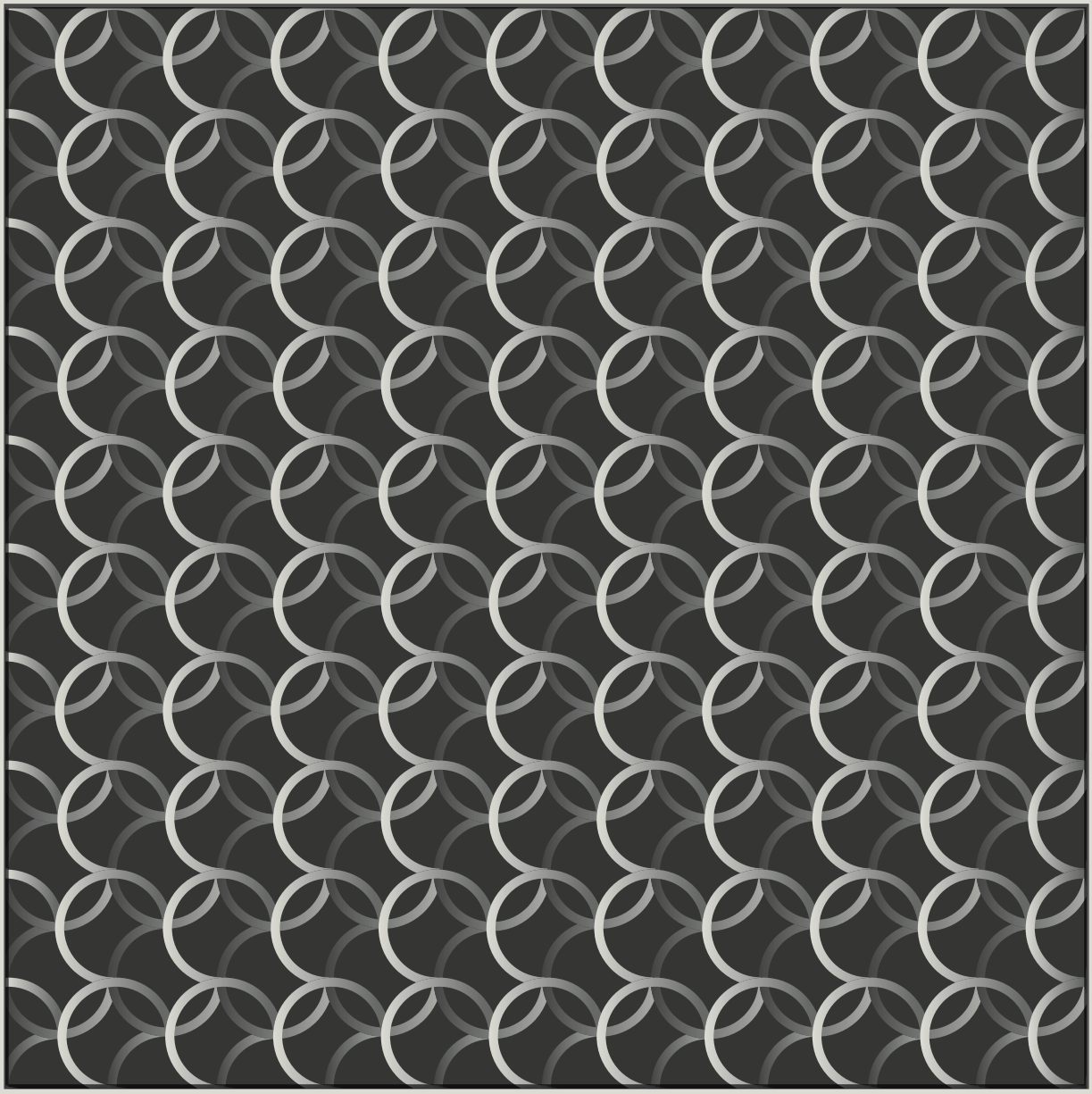
2017年度

シラバス

全学共通授業科目



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。
目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部
独：ドイツ語学科
英：英語学科
仏：フランス語学科
交：交流文化学科

養：国際教養学部
養（＊1）：国際教養学部、スペイン語履修者
養（＊2）：国際教養学部、中国語履修者
養（＊3）：国際教養学部、韓国語履修者

経：経済学部
済：経済学科
営：経営学科
環：国際環境経済学科

法：法学部
律：法律学科
国：国際関係法学科
総：総合政策学科
免：2013年度以降入学の教職課程登録者

14以降入学：2014年度以降入学者（全学部）
13以降入学：2013年度以降入学者（全学部）
13以降入学養：2013年度以降入学者（国際教養学部）
13以降入学経：2013年度以降入学者（経済学部）
12以前入学：2012年度以前入学者（全学部）
12以前入学養：2012年度以前入学者（国際教養学部）

2. シラバスページの見方（右図参照）

①入学年度

08年度以降……2008年度以降入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

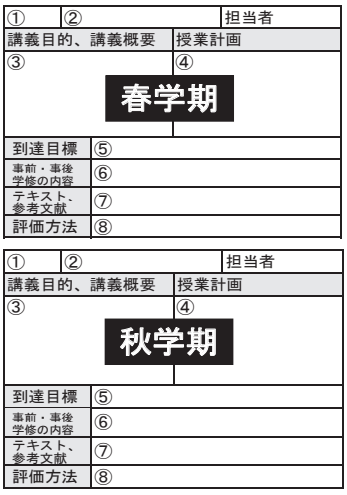
各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト、参考文献

⑧評価方法



※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。
開講学期に注意してください。

全学共通授業科目 目次（2008年度から2017年度入学者用）

全学総合講座

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座（芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割りについて）		青山　愛香	木3	1	－	10
全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディングⅠ）		有吉　秀樹	木2	1	－	11
	全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディングⅡ）	有吉　秀樹	木2	1	－	12
全学総合講座（働くための基礎知識－知って得する労働問題）		市原　博	水2	1	－	13
全学総合講座（キャンパスライフと仕事）	全学総合講座（キャンパスライフと仕事）	岡村　国和	木2	1	－	14
	全学総合講座（メディア社会とロック）	岡村　圭子	火3	1	－	15
全学総合講座（ジェンダーで眺めてみれば）		片山　亜紀	火3	1	－	16
全学総合講座（教えるという仕事）		川村　肇	木3	1	－	17
	全学総合講座（メディアと私たち）	川村　肇	月5	1	－	18
	全学総合講座（企業の社会的責任と企業活動）	高橋　均	金4	1	－	19
全学総合講座（NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える）		高松　和幸	金4	1	－	20
	全学総合講座（地域活性化システム論―これからの「まちづくり」のヒントを探る）	高松　和幸	金4	1	－	21
	全学総合講座（情報社会とルール）	多賀谷　一照	水3	1	－	22
全学総合講座（経営者が語る現代企業論1）		高安　健一	水2	1	－	23
	全学総合講座（経営者が語る現代企業論2）	高安　健一	水2	1	－	24
全学総合講座（環境学1)(環境基礎学−自然を見つめる）		中村　健治	火4	1	－	25
	全学総合講座（環境学2)(環境応用学－環境と社会）	中村　健治	火4	1	－	26
全学総合講座（大学における教養教育）		野澤　聡	月4	1	－	27
	全学総合講座（社会の中の科学）	野澤　聡	月4	1	－	28
全学総合講座（獨協学）		町田　喜義	水3	1	－	29
全学総合講座（スポーツを通じての大学生からの人間形成について考える）		松原　裕	木4	1	－	30
	全学総合講座（文学の原点を考える）	矢羽々　崇	金3	1	－	31
	全学総合講座（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	和田　智	火4	1	－	32
	全学総合講座（自由時間の達人）	和田　智	金4	1	－	33

全学共通講義科目部門

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想1（日本語文法形態論）	ことばと思想1（日本語文法統語論）	浅山　佳郎	月3	1	養･14以降入学	34
	ことばと思想1（言語学a）	安間　一雄	火3	1	養･12以前入学	35
	ことばと思想1（言語学概論）	安間　一雄	火3	1	養･13以降入学	35
	ことばと思想1（言語学b）	安間　一雄	金2	1	養	36
ことばと思想1（日本語教育概説）		石塚　京子	月3	1	養	37
ことばと思想1（倫理の基本について考える）	ことばと思想1（環境と生命の倫理）	市川　達人	火3	1	養	38
ことばと思想1（社会思想史1)(市民的社会像の黎明期）	ことばと思想1（社会思想史2)(市民的社会像の確立期）	市川　達人	火4	1	－	39
ことばと思想1（応用言語学）	ことばと思想1（第二言語習得）	臼井　芳子	水1	2	養	40
ことばと思想1（音楽を言葉で語る－音楽分析入門）		木村　佐千子	水3	1	－	41
ことばと思想1（心理学)(人間の行動・認知・動機の一般法則）	ことばと思想1（心理学)(人間の個性・多様性理解）	杉山　憲司	木1	1	－	42
ことばと思想1（心理学)(人間の行動・認知・動機の一般法則）	ことばと思想1（心理学)(人間の個性・多様性理解）	杉山　憲司	木2	1	－	42
ことばと思想1（こころの世界）		田口　雅徳	木2	1	養	43
	ことばと思想1（通訳・翻訳論）	永田　小絵	水3	2	－	44
ことばと思想1（英語学a）		野々宮　鮎美	火3	1	養	45
ことばと思想1（英語学b）		野々宮　鮎美	火4	1	養	46
ことばと思想1（倫理学a）	ことばと思想1（倫理学b）	林　永強	木3	1	養	47
ことばと思想1（フランス･ドイツ哲学入門1）	ことばと思想1（フランス･ドイツ哲学入門2）	犬塚　悠	水4	1	－	48
ことばと思想1（社会思想史1)(東洋古代から近世まで）	ことばと思想1（社会思想史2)(東洋近世から現代まで）	犬塚　悠	水2	1	養	49
歴史と文化1（ドイツ語圏のメディア文化a）	歴史と文化1（ドイツ語圏のメディア文化b）	秋野　有紀	月5	2	独	50
歴史と文化1（歴史学1)(中世の仏教と社会）	歴史と文化1（歴史学2)(中世の「悪党」と民衆）	新井　孝重	水2	1	13以降入学経	51
	歴史と文化1（日本文学論・中世Ⅱ）	飯島　一彦	水1	1	13以降入学養	52
歴史と文化1（スペイン･ラテンアメリカの社会文化）		井垣　昌	木3	2	養	53
	歴史と文化1（日本研究概論Ⅱ）	生田　守	木4	1	13以降入学養	54
歴史と文化1（歴史学1)(ヨーロッパ史1）	歴史と文化1（歴史学2)(ヨーロッパ史2）	上村　敏郎	木3	1	－	55
歴史と文化1（英語圏の文学）	歴史と文化1（英語圏の文学Ⅱ）	大熊　昭信	金2	1	養	56

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
	歴史と文化1（日韓交流史）	金 熙淑	月3	2	養	57
歴史と文化1（大衆文化論）		木本 玲一	火5	2	養	58
歴史と文化1（歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大）	歴史と文化1（歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後）	熊谷 哲也	木3	1	－	59
歴史と文化1（東西の文化を結ぶもの）	歴史と文化1（東西文化と近代化）	熊谷 哲也	木4	2	－	60
歴史と文化1（韓国文化各論c）		小宮 秀陵	火4	2	養	61
歴史と文化1（韓国史）		佐藤 厚	金3	2	養	62
歴史と文化1（ラテンアメリカ研究入門）		佐藤 勘治	月4	1	養	63
歴史と文化1（恐怖の日本文学）		佐藤 毅	木1	1	13以降入学養	64
	歴史と文化1（日本文学現代）	佐藤 毅	木1	1	養	65
歴史と文化1（歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー）	歴史と文化1（歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー）	佐藤 唯行	木3	1	－	66
歴史と文化1（韓国文学史）		沈 元燮	水3	2	13以降入学養	67
	歴史と文化1（日本事情とコミュニケーション教育）	城﨑 陽子	火4	1	養	68
歴史と文化1（日本文化論）		城﨑 陽子	火4	1	養・法	69
歴史と文化1（日本文学論・中世Ⅰ）		城﨑 陽子	火3	1	13以降入学養	70
歴史と文化1（都市と建築1）	歴史と文化1（都市と建築2）	鈴木 隆	木4	1	－	71
歴史と文化1（日本思想史1）		芹口 真結子	木2	2	養	72
歴史と文化1（歴史学1)(文明史研究a）	歴史と文化1（歴史学2)(文明史研究b）	高橋 裕子	月2	1	養	73
歴史と文化1（中国史a）	歴史と文化1（中国史b）	張 士陽	木4	2	養	74
歴史と文化1（スペイン・ラテンアメリカの文学）		中井 博康	月3	1	－	75
歴史と文化1（スペイン研究入門）		二宮 哲	月5	1	養	76
歴史と文化1（日本における死生学）	歴史と文化1（日本における世間学）	林 英一	火1	1	－	77
歴史と文化1（民俗学）		林 英一	木1	1	養	78
	歴史と文化1（地域文化）	林 英一	木1	2	養・法	79
歴史と文化1（日本文学古典）		福沢 健	月5	1	養	80
	歴史と文化1（平安時代の文学を読む）	福沢 健	月5	1	13以降入学養	81
歴史と文化1（文化史入門）		古川 堅治	木2	1	養	82
歴史と文化1（文化人類学a）		松岡 格	金1	1	養	83
	歴史と文化1（文化人類学b）	松岡 格	金2	1	養	83
歴史と文化1（歴史学1)(「15年戦争」をどうとらえるか）	歴史と文化1（歴史学2）（戦後史の中の「15年戦争」）	丸浜 昭	水2	2	養	84
歴史と文化1（移民・交易に見る文化変容）	歴史と文化1（グローバル化と情報・通信の文化史）	水口 章	月4	1	－	85
歴史と文化1（アラブ文化・芸術a）	歴史と文化1（アラブ文化・芸術b）	師岡カリーマ・エルサムニー	月2	2	養	86
	歴史と文化1（異文化間コミュニケーションb）	山本 英政	月2	1	英・養	87
歴史と文化1（在外日本人研究）		山本 英政	水2	2	13以降入学養	87
歴史と文化1（英語圏の文化）	歴史と文化1（英語圏事情）	山本 英政	木2	2	英・養	88
	歴史と文化1（日本思想史2）	矢森 小映子	木2	2	養	89
現代社会1（ブラジル研究）		E. ウラノ	火2	2	養	90
	現代社会1（日本国憲法）	L.ペドリサ	火5	1	法	91
現代社会1（地理学1)(自然環境と文化）	現代社会1（地理学2)(自然環境と文化）	秋本 弘章	水2	1	－	92
現代社会1（シネマで学ぶ法律学）	現代社会1（続・シネマで学ぶ法律学）	新井 剛	水3	1	－	93
現代社会1（暮らしの中の民法入門）	現代社会1（続・暮らしの中の民法入門）	新井 剛	木3	1	－	94
	現代社会1（不動産取引と法）	新井 剛	木4	2	－	95
現代社会1（ドイツ地域論）	現代社会1（ヨーロッパ地域論）	伊豆田 俊輔	金3	1	独	96
現代社会1（教育法1）	現代社会1（教育法2）	市川 須美子	木2	2	法	97
	現代社会1（非正規雇用を考える）	市原 博	水1	1	－	98
現代社会1（History of International Relations Ⅰ）	現代社会1（History of International Relations Ⅱ）	伊藤 兵馬	月3	1	－	99
現代社会1（国際法1)(国際社会と私たち）	現代社会1（国際法2)(国際紛争を考える）	井上 秀典	月5	1	－	100
現代社会1（東南アジアの開発と社会）		江藤 双恵	火1	2	13以降入学養	101
現代社会1（韓国政治論）		呉 吉煥	金4	2	養	102
現代社会1（地理学1)（世界の自然環境と文化）	現代社会1（地理学2)（世界の自然環境と文化）	大竹 伸郎	月4	1	養	103
現代社会1（現代の企業経営）		岡部 康弘	水1	1	経	104
現代社会1（地域メディア論）		岡村 圭子	火3	2	養・13以降入学経	105
現代社会1（社会学a）	現代社会1（社会学b）	岡村 圭子	土1	1	養	106
現代社会1（民法1）	現代社会1（民法2）	小川 佳子	月2	1	法	107
現代社会1（社会保障論a）	現代社会1（社会保障論b）	尾玉 剛士	水2	1	－	108
現代社会1（日本国憲法）	現代社会1（日本国憲法）	加藤 一彦	火2	1	法	109
現代社会1（経済学1)(はじめての経済学）	現代社会1（経済学2)(はじめての経済学）	小林 進	金3	1	経	110

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
現代社会1（家族と法）		齋藤 哲	木2	1	−	111
現代社会1（政治思想と理論、制度）	現代社会1（政策と政治過程）	佐藤 俊輔	月4	1	−	112
現代社会1（歴史の中のメディア）	現代社会1（メディアと現代社会）	柴崎 信三	水2	1	−	113
現代社会1（グローバリゼーションを巡って）	現代社会1（日本の表象と世界）	柴崎 信三	木2	1	経	114
	現代社会1（NGO論）	清水 俊弘	水2	1	養	115
現代社会1（社会生活と犯罪）		関根 徹	木1	1	−	116
現代社会1（ビジネス法務）		高橋 均	月1	1	−	117
	現代社会1（基礎から学ぶマネジメント）	高松 和幸	水1	1	経	118
現代社会1（市民と刑事司法）		徳永 光	月1	1	−	119
	現代社会1（ジェンダーとメディア表象）	西山 千恵子	水4	1	−	120
現代社会1（中東の社会空間）	現代社会1（中東政治と市民社会）	水口 章	月5	1	−	121
現代社会1（社会科学概論1）	現代社会1（社会科学概論2）	嶋津 格	月4	1	法	122
自然･環境･人間1（数学a）	自然･環境･人間1（数学b）	東 孝博	月2	1	養	123
自然･環境･人間1（物理学Ⅰ）	自然･環境･人間1（物理学Ⅱ）	東 孝博	月4	1	13以降入学養	124
自然･環境･人間1（宇宙論a）	自然･環境･人間1（宇宙論b）	東 孝博	火1	1	養	125
自然･環境･人間1（天文学a）	自然･環境･人間1（天文学b）	内田 俊郎	木4	1	養	126
自然･環境･人間1（歴史における科学技術1：西洋近代科学技術の起源）	自然･環境･人間1（歴史における科学技術2：日本の近代化と科学技術）	内田 正夫	木3	1	−	127
自然･環境･人間1（地球環境の変化とその要因）	自然･環境･人間1（地球環境問題と環境保全）	鈴木 滋	火2	1	−	128
自然･環境･人間1（科学技術基礎論Ⅰ）	自然･環境･人間1（科学技術基礎論Ⅱ）	野澤 聡	金4	1	13以降入学養	129
	自然･環境･人間1（科学技術と社会b）	野澤 聡	水1	1	13以降入学養	130
自然･環境･人間1（文化としての科学a）	自然･環境･人間1（文化としての科学b）	野澤 聡	木2	1	−	131
自然･環境･人間1（科学史a）	自然･環境･人間1（科学史b）	野澤 聡	月2	1	養	132
自然･環境･人間1（スポーツ科学概論）		依田 珠江	水3	1	13以降入学養	133
自然･環境･人間1（私の自由時間設計）		和田 智	金4	1	13以降入学養	134

全学共通実践科目部門

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想2（意味論）	ことばと思想2（談話論）	浅山 佳郎	木3	2	養	135
ことばと思想2（日本語口頭表現の実践的研究）		飯島 一彦	水1	1	−	136
ことばと思想2（碑文を読む）		飯島 一彦	金2	2	養	137
ことばと思想2（日本語音声表現のトレーニング基礎篇）	ことばと思想2（日本語音声表現のトレーニング表現篇）	梅津 正樹	土2	1	−	138
ことばと思想2（ラテン語Ⅰa）	ことばと思想2（ラテン語Ⅰb）	小倉 博行	金2	1	−	139
ことばと思想2（ラテン語Ⅱa）	ことばと思想2（ラテン語Ⅱb）	小倉 博行	金3	2	−	140
	ことばと思想2（韓国の言語文化）	金 秀晶	水3	2	養	141
ことばと思想2（書き言葉の問題）	ことばと思想2（話し言葉の問題）	佐藤 毅	木2	1	−	142
ことばと思想2（ロマンス語研究入門1）	ことばと思想2（ロマンス語研究入門2）	島津 寛	木4	2	−	143
ことばと思想2（プレゼンテーション実習）	ことばと思想2（プレゼンテーション実習）	清水 絹代	水2	1	−	144
ことばと思想2（プレゼンテーション実習）	ことばと思想2（プレゼンテーション実習）	清水 絹代	水3	1	−	144
	ことばと思想2（日本文学作品研究e）	城﨑 陽子	火3	2	13以降入学養	145
ことばと思想2（日本文学作品研究a）	ことばと思想2（写本を読む）	城﨑 陽子	水3	2	養	146
ことばと思想2（日本文学作品研究c）		城﨑 陽子	水4	2	養	147
ことばと思想2（古典ギリシア語Ⅰa）	ことばと思想2（古典ギリシア語Ⅰb）	高橋 裕子	月3	1	−	148
	ことばと思想2（心理検査法と自己理解）	田口 雅徳	木4	2	養	149
ことばと思想2（フランス思想入門a）	ことばと思想2（フランス思想入門b）	根木 昭英	水1	1	−	150
ことばと思想2（生活文化の発見）	ことばと思想2（生活文化の記述）	林 英一	木2	1	−	151
ことばと思想2（論文を書く）	ことばと思想2（口頭発表を行う）	福沢 健	月4	1	−	152
ことばと思想2（古典ギリシア語Ⅱa）	ことばと思想2（古典ギリシア語Ⅱb）	古川 堅治	木3	2	−	153
ことばと思想2（英語通訳)(英語通訳の仕事）	ことばと思想2（英語通訳)(英語通訳の仕事）	渡部 富栄	火3	1	−	154
歴史と文化2（Japanese Legends,Tales and Myths as Expressed in the Arts:1）	歴史と文化2（Japanese Legends,Tales and Myths as Expressed in the Arts:2）	A.ｿﾞｰﾘﾝｼﾞｬｰ	月4	2	−	155
歴史と文化2（Haiku in English）		J.ハレスキ	火4	1	−	156
歴史と文化2（Noh Play in English）		J.ハレスキ	水1	1	−	157

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
	歴史と文化2（日本文化研究a）	飯島　一彦	木5	2	養･法	158
	歴史と文化2（日本文化研究d）	飯島　一彦	金2	2	13以降入学養	159
歴史と文化2（世界戦争の時代のドイツの政治と文化(1890-1945)）	歴史と文化2（冷戦と地域統合の中のドイツの政治と文化(1945-2000)）	伊豆田　俊輔	火3	1	－	160
	歴史と文化2（日本文化研究b）	城﨑　陽子	水4	2	13以降入学養	161
	歴史と文化2（日韓比較文化論a）	金　煕淑	火4	2	養	162
	歴史と文化2（楽典（中級））	木村　佐千子	水3	1	－	163
歴史と文化2（楽典（音楽通論）－楽譜を読み･書くために）	歴史と文化2（楽典（音楽通論）－楽譜を読み･書くために）	木村　佐千子	金3	1	－	164
歴史と文化2（スペイン･ラテンアメリカの芸術文化）		倉田　量介	火3	2	養	165
	歴史と文化2（韓国の宗教）	佐藤　厚	金3	2	養	166
歴史と文化2（能楽論）	歴史と文化2（能楽における中世武士の諸像）	瀬尾　菊次	火2	1	－	167
歴史と文化2（イタリアの音楽史）	歴史と文化2（イタリアの声楽曲）	園田　みどり	水3	1	－	168
歴史と文化2（詩と音楽2）	歴史と文化2（詩と音楽7）	園田　みどり	木2	1	－	169
歴史と文化2（近代世界システム論）	歴史と文化2（食の歴史と文化）	野澤　丈二	木4	1	－	170
現代社会2（ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』）	現代社会2（ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』）	秋野　有紀	木3	1	独	171
	現代社会2（韓国研究情報収集法）	金　煕淑	月4	2	養	172
現代社会2（こども論）		小島　優生	水2	2	養	173
	現代社会2（家族と法･実践編）	齋藤　哲	木2	1	－	174
	現代社会2（社会生活と犯罪･実践編）	関根　徹	木1	1	－	175
	現代社会2（市民と刑事司法･応用）	徳永　光	月1	1	－	176
現代社会2（韓国社会論Ⅰ）		羅　一等	月2	2	養	177
現代社会2（市民社会と法）		花本　広志	金3	1	－	178
	現代社会2（自己表現の技法）	花本　広志	月3	1	－	179
現代社会2（経理入門1）	現代社会2（経理入門2）	原　郁代	火4	1	経	180
現代社会2（英文会計入門1）	現代社会2（英文会計入門2）	原　郁代	火5	1	－	181
現代社会2（新聞を読む1）	現代社会2（新聞を読む2）	半田　滋	木2	1	－	182
現代社会2（インターンシップ）		森永　卓郎	木2	2	－	183
	現代社会2（韓国社会論）	柳　蓮淑	月4	2	養	184
現代社会2（コンピュータ入門a）	現代社会2（コンピュータ入門b）	久東　義典	火3	1	外･養･経	185
現代社会2（コンピュータ入門a）	現代社会2（コンピュータ入門b）	杉村　和枝	金3	1	外･養･経	185
現代社会2（コンピュータ入門a）	現代社会2（コンピュータ入門b）	黄　海湘	金3	1	外･養･経	185
現代社会2（コンピュータ入門a）	現代社会2（コンピュータ入門b）	黄　海湘	金5	1	外･養･経	185
現代社会2（ホームページ作成）	現代社会2（ホームページ作成）	久東　義典	火5	1	養	186
現代社会2（ホームページ作成）	現代社会2（ホームページ作成）	和泉　順子	水2	1	養	187
自然･環境･人間2（サイエンスライティングa）	自然･環境･人間2（サイエンスライティングb）	東　孝博	木4	2	13以降入学養	188
	自然･環境･人間2（統計と調査法）	安間　一雄	金1	2	養	189
自然･環境･人間2（基礎生物学実験a）	自然･環境･人間2（基礎生物学実験b）	飯泉　恭一	月2	2	養	190
自然･環境･人間2（生物学Ⅰ）	自然･環境･人間2（生物学Ⅱ）	飯泉　恭一	月3	1	13以降入学養	191
自然･環境･人間2（科学の方法と実験a）	自然･環境･人間2（科学の方法と実験b）	内田　正夫	木4	2	養	192
自然･環境･人間2（体育経営スポーツマネージメント）		川北　準人	月3	2	養	193
自然･環境･人間2（コンピュータと言語）		呉　浩東	月2	1	外･養	194
自然･環境･人間2（自然言語処理b）		呉　浩東	木1	2	養	195
自然･環境･人間2（情報検索と加工）		黄　海湘	金1	2	養	196
自然･環境･人間2（データ構造とアルゴリズム論）		黄　海湘	水3	2	13以降入学養	197
自然･環境･人間2（マルチメディア論）		田中　雅英	火4	2	養	198
	自然･環境･人間2（文化について調べて書くb）	松岡　格	水2	2	養	199
	自然･環境･人間2（人間活動の自然環境への影響のデータからの理解）	中村　健治	水1	1	－	200
	自然･環境･人間2（スポーツコーチ学b）	松原　裕	水3	2	養	201
自然･環境･人間2（スポーツコーチ学a）		依田　珠江	木2	2	養	202
自然･環境･人間2（生理学Ⅰ）	自然･環境･人間2（生理学Ⅱ）	依田　珠江	木4	1	13以降入学養	203
	自然･環境･人間2（からだの仕組み）	依田　珠江	水3	2	13以降入学養	204
自然･環境･人間2（リーダーシップ論）		和田　智	金2	2	養	205

スポーツ・レクリエーション部門

科目名(副題)	開講学期	担当教員	曜 時	開始学年	履修不可	ページ
スポーツ・レクリエーション (インラインスケートa,b)	春・秋	和田　智	火 1	1		206
スポーツ・レクリエーション (インラインスケートb)	秋	和田　智	土 1	1		207
スポーツ・レクリエーション (インラインホッケーa)	春	松原　裕	水 3	1		208
スポーツ・レクリエーション (ウェルネス入門b)	秋	依田　珠江	水 2	1		209
スポーツ・レクリエーション (硬式テニスa,b)	春・秋	重藤　誠市郎	火 2	1		210
スポーツ・レクリエーション (硬式テニスa,b)	春・秋	重藤　誠市郎	火 3	1		210
スポーツ・レクリエーション (硬式テニスa,b)	春・秋	田中　茂宏	木 1	1		211
スポーツ・レクリエーション (硬式テニスa,b)	春・秋	松原　裕	水 1	1		212
スポーツ・レクリエーション (硬式テニスa,b)	春・秋	松原　裕	金 1	1		212
スポーツ・レクリエーション (ゴルフa,b)	春・秋	小笠原　慶太	金 1	1		213
スポーツ・レクリエーション (ゴルフa,b)	春・秋	小笠原　慶太	金 2	1		213
スポーツ・レクリエーション (コンディショントレーニングa,b)	春・秋	松原　裕	木 2	1		214
スポーツ・レクリエーション (コンディショントレーニングa,b)	春・秋	山口　知恵	月 2	1		215
スポーツ・レクリエーション (サッカーa,b)	春・秋	大森　一伸	火 2	1		216
スポーツ・レクリエーション (サッカーa,b)	春・秋	原仲　碧	金 3	1		217
スポーツ・レクリエーション (スポーツ型デトックスa,b)	春・秋	齋藤　初恵	金 1	1		218
スポーツ・レクリエーション (スポーツ型デトックスa,b)	春・秋	齋藤　初恵	金 2	1		218
スポーツ・レクリエーション (ソフトボールa,b)	春・秋	萩野　元祐	木 1	1		219
スポーツ・レクリエーション (ソフトボールa,b)	春・秋	萩野　元祐	木 2	1		219
スポーツ・レクリエーション (卓球b)	秋	今野　廣隆	木 2	1		220
スポーツ・レクリエーション (卓球a,b)	春・秋	神宮司　親治	金 3	1		221
スポーツ・レクリエーション (卓球a,b)	春・秋	山口　知恵	月 1	1		222
スポーツ・レクリエーション (トレーニング入門a,b)	春・秋	今野　廣隆	木 1	1		223
スポーツ・レクリエーション (トレーニング入門a,b)	春・秋	大森　一伸	火 1	1		224
スポーツ・レクリエーション (トレーニング入門b)	秋	川北　準人	月 3	1		225
スポーツ・レクリエーション (ニュースポーツa,b)	春・秋	村山　光義	月 3	1		226
スポーツ・レクリエーション (バスケットボールa,b)	春・秋	川北　準人	月 1	1		227
スポーツ・レクリエーション (バスケットボールa,b)	春・秋	川北　準人	月 2	1		227
スポーツ・レクリエーション (バスケットボールb)	秋	依田　珠江	木 1	1		228
スポーツ・レクリエーション (バスケットボールb)	秋	依田　珠江	木 2	1		228
スポーツ・レクリエーション (バドミントンa,b)	春・秋	田中　茂宏	木 3	1		229
スポーツ・レクリエーション (バドミントンa,b)	春・秋	藤野　和樹	水 1	1		230
スポーツ・レクリエーション (バドミントンa,b)	春・秋	藤野　和樹	水 2	1		230
スポーツ・レクリエーション (バドミントンa,b)	春・秋	山口　知恵	月 3	1		231
スポーツ・レクリエーション (バレーボールa)	春	今野　廣隆	木 2	1		232
スポーツ・レクリエーション (バレーボールa,b)	春・秋	佐藤　典子	金 2	1		233
スポーツ・レクリエーション (バレーボールa,b)	春・秋	佐藤　典子	金 3	1		233
スポーツ・レクリエーション (フットサルa,b)	春・秋	神宮司　親治	金 1	1		234
スポーツ・レクリエーション (フットサルa,b)	春・秋	原仲　碧	金 2	1		235
スポーツ・レクリエーション (フットサルa)	春	松原　裕	木 1	1		236
スポーツ・レクリエーション (フリスビーa,b)	春・秋	村山　光義	月 2	1		237
スポーツ・レクリエーション (フリスビーb)	秋	和田　智	火 2	1		238
スポーツ・レクリエーション (ボールルームダンスa,b)	春・秋	内堀　祐子	水 1	1		239
スポーツ・レクリエーション (ボールルームダンスa,b)	春・秋	内堀　祐子	水 2	1		239
スポーツ・レクリエーション (マットピラティスa,b)	春・秋	板垣　悦子	金 3	1		240
スポーツ・レクリエーション (マットピラティスa,b)	春・秋	板垣　悦子	金 4	1		240
スポーツ・レクリエーション (アウトドアレクリエーション)	春	和田　智	火 3	1		241
スポーツ・レクリエーション (アウトドア山岳)	春	和田　智	夏季集中	1		241
スポーツ・レクリエーション (アウトドアレクリエーション)	春	和田　智	水 2	1		242
スポーツ・レクリエーション (ウィンドサーフィン)	春	和田　智	夏季集中	1		242
スポーツ・レクリエーション (アウトドアレクリエーション)	春	和田　智	火 2	1		243
スポーツ・レクリエーション (アウトドア海浜)	春	和田　智	夏季集中	1		243
スポーツ・レクリエーション (スケートトレーニング)	秋	和田　智	土 2	1		244
スポーツ・レクリエーション (アイススポーツ)	秋	和田　智	冬季集中	1		244
スポーツ・レクリエーション (コーディネーショントレーニング)	秋	松原　裕	木 3	1		245
スポーツ・レクリエーション (スキー＆スノーボード)	秋	松原　裕	冬季集中	1		245
スポーツ・レクリエーション (学生交流支援プログラム)	春	依田　珠江	土 1	1	外・経・法	*
スポーツ・レクリエーション (学生交流支援プログラム)	春	松原　裕	土 1	1	外・経・法	*
スポーツ・レクリエーション (学生交流支援プログラム)	春	和田　智	土 1	1	外・経・法	*
スポーツ・レクリエーション (学生交流支援プログラム)	春	依田　珠江	土 2	1	外・経・法	*
スポーツ・レクリエーション (学生交流支援プログラム)	春	松原　裕	土 2	1	外・経・法	*
スポーツ・レクリエーション (学生交流支援プログラム)	春	和田　智	土 2	1	外・経・法	*

外国語科目群

英語部門(English)

外国語学部英語学科・交流文化学科、国際教養学部の学生は、英語部門「English」を履修することはできません。

■クラス指定科目(再履修クラス含む)

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
独・仏・経・法のみ	English(リーディングI a,b) /(Academic Reading Strategies I a,b)	各担当教員		-	246
指定された者のみ	English(リーディングI a,b) /(Academic Reading Strategies I a,b)	岡田 圭子	月 5 火 5	-	247
環・国・総のみ	English(ライティングI a,b) /(Academic Writing I a,b: Paragraph)	各担当教員		-	248
経のみ	English(スピーキングI a,b) /(Speaking in Academic Contexts I a,b)	各担当教員		-	249
Pathways 1利用クラス	English(リスニング I a,b) /(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		-	250
Pathways 2利用クラス	English(リスニング I a,b) /(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		-	251
指定された者のみ	English(リスニング I a,b) /(Academic Listening Strategies I a,b)	M. クロフォード	火 5 木 5	-	252
独・仏・経(13年度以降入学者)・法のみ	English(リーディング II a,b) /(Academic Reading Strategies II a,b)	各担当教員		-	253
指定された者のみ	English(リーディング II a,b) /(Academic Reading Strategies II a,b)	三谷 裕美	火 5 木 5	-	254
環・国・総のみ	English(ライティング II a,b) /(Academic Writing II a,b: Essay)	各担当教員		-	255
独・仏・経(13年度以降入学者)・法のみ	English(リスニング II a,b) /(Academic Listening Strategies II a,b)	各担当教員		-	256
指定された者のみ	English(リスニング II a,b) /(Academic Listening Strategies II a,b)	J. ラシーン	火 5 木 5	-	257
済・営のみ	English(リーディング III a,b) /(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	各担当教員		-	258
環のみ	English(テーマ研究a,b) /(English(Selected Topics in Social Sciences a,b)	各担当教員		-	259

■選択科目

科目の種類	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
Writing	English(ライティングI a,b) /(Academic Writing I a,b: Paragraph)	飯島 優雅	火 4	環・国・総	260
	English(ライティングI a,b) /(Academic Writing I a,b: Paragraph)	遠藤 朋之	木 2	環・国・総	261
	English(ライティングI a,b) /(Academic Writing I a,b: Paragraph)	T. マティカイネン	火 4	環・国・総	262
	English(ライティングI a,b) /(Academic Writing I a,b: Paragraph)	高畑 哲男	金 3	環・国・総	263
Speaking	English(スピーキングI a,b) /(Speaking in Academic Contexts I a,b)	W. ヘイ	月 3	経	264
	English(スピーキングI a,b) /(Speaking in Academic Contexts I a,b)	S. エイティム	水 3	経	265
	English(スピーキングI a,b) /(Speaking in Academic Contexts I a,b)	A. キャルコート	金 3	経	265
	English(スピーキングI a,b) /(Speaking in Academic Contexts I a,b)	S. フォー	金 3	経	266
	English(スピーキングI a,b) /(Speaking in Academic Contexts I a,b)	E. パタソン	金 4	経	267
	English(スピーキングII a,b) /(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	松岡 昇	月 3	-	268
	English(スピーキングII a,b) /(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	J. ハサウェイ	木 2	-	269
Reading	English(リーディング III a,b) /(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	中西 貴行	火 4	済・営(13年度以降入学者)	270
e-learning	English(e-ラーニング) /(Computer Assisted English Learning (CAEL))	岡田 圭子	火 4	1年生	271

Content-based	English(コンテント ii)	/(English Explorations)	J. ラシーン	火 3	TOEIC450点未満	272
Test-taking	English(資格I)	/(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	河原 伸一	金 4	TOEIC400点以上	273
	English(資格II)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	松岡 昇	月 4	TOEIC400点未満	274
	English(資格III)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	中西 貴行	木 4	TOEIC450点未満	275
	English(資格IV)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	鈴木 朝美	火 3	TOEIC450点未満	276
Pronunciation	English(発音)	/(Special Topics: Pronunciation Workshop)	寺川 かおり	木 4	–	277
	English(発音)	/(Special Topics: Pronunciation Workshop)	三谷 裕美	金 4	–	277
Basic Grammar	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	垣下 圭子	火 4	–	278
	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	豊田 宣是	木 1	–	279
	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	菊池 武	金 4	–	280

外国語科目群

外国語部門（英語以外）

対象・コース等	科目名（副題）	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
（基礎コース）	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員		独	281
（総合コース）	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員		独	282
（総合コース）	ドイツ語(Ia,b 会話)	各担当教員		独	283
（基礎コース）	ドイツ語(Ⅱa,b 基礎)	八幡　さくら	金 2	独	284
（総合コース）	ドイツ語(Ⅱa,b 基礎)	各担当教員		独	285
（総合コース）	ドイツ語(Ⅱa,b 会話)	各担当教員		独	286
	ドイツ語(Ⅲa,b 会話)	D.H.マッコイ	木 1	独	287
（基礎コース）	フランス語(Ia,b 基礎)	各担当教員		仏	288
（総合コース）	フランス語(Ia,b 総合J)	各担当教員		仏	289
（総合コース）	フランス語(Ia,b 総合F)	各担当教員		仏	290
（基礎コース）	フランス語(Ⅱa,b 基礎)	M.デルヴロワ	金 1	仏	291
（総合コース）	フランス語(Ⅱa,b 総合J)	各担当教員		仏	292
（総合コース）	フランス語(Ⅱa,b 総合F)	各担当教員		仏	293
	フランス語(Ⅲa,b)	F.-A.メール	月 3	仏	294
（基礎コース）	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員		養(*1)	295
（総合コース）	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員		養(*1)	296
（総合コース）	スペイン語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*1)	297
（基礎コース）	スペイン語(Ⅱa,b 文法)	蔦原　亮	火 3	養(*1)	298
（総合コース）	スペイン語(Ⅱa,b 文法)	各担当教員		養(*1)	299
（総合コース）	スペイン語(Ⅱa,b 会話)	各担当教員		養(*1)	300
	スペイン語(Ⅲa,b 講読)	金澤　直也	木 4	養(*1)	301
	スペイン語(Ⅲa,b 会話)	M.サンチェス	金 3	養(*1)	302
（基礎コース）	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*2)	303
（総合コース）	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*2)	304
（総合コース）	中国語(Ia,b 講読・文法)	各担当教員		養(*2)	305
（基礎コース）	中国語(Ⅱa,b 会話)	張　継英	火 3	養(*2)	306
（総合コース）	中国語(Ⅱa,b 会話)	各担当教員		養(*2)	307
（総合コース）	中国語(Ⅱa,b 講読・文法)	各担当教員		養(*2)	308
	中国語(Ⅲa,b 会話)	柴田　奈津美	水 3	養(*2)	309
	中国語(Ⅲa,b 講読・文法)	平野　佐和	火 2	養(*2)	310
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	柳　蓮淑	月 2	養(*3)	311
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	金　熙淑	火 2	養(*3)	312
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	金　熙淑	火 3	養(*3)	313
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	呉　吉煥	水 1	養(*3)	314
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	呉　吉煥	水 2	養(*3)	314
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	呉　吉煥	金 2	養(*3)	314
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	沈　民珪	金 3	養(*3)	315
（総合コース）	韓国語(Ia,b 総合1)	各担当教員		養(*3)	316
（総合コース）	韓国語(Ia,b 総合2)	各担当教員		養(*3)	317
（基礎コース）	韓国語(Ⅱa,b 講読・会話)	沈　民珪	金 4	養(*3)	318
（総合コース）	韓国語(Ⅱa,b 総合1)	沈　元燮	木 3	養(*3)	319
（総合コース）	韓国語(Ⅱa,b 総合2)	小宮　秀陵	月 1	養(*3)	320
	韓国語(Ⅲa,b 総合3)	柳　蓮淑	月 1	養(*3)	321

	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田 みどり	水 4	−	322
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田 みどり	木 3	−	322
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	島津　寛	土 1	−	323
	外国語(イタリア語Ⅱa,b 基礎)	島津　寛	土 2	−	324
	外国語(ポルトガル語Ia,b 総合)	牧野　真也	金 3	−	325
	外国語(ポルトガル語Ia,b 会話)	牧野　真也	金 4	−	326
	外国語(ロシア語Ia,b 総合)	齊藤　毅	水 2	−	327
	外国語(ロシア語Ia,b 会話)	小西　昌隆	月 4	−	328
	外国語(ロシア語Ⅱa,b 総合)	齊藤　毅	水 3	−	329
	外国語(ロシア語Ⅱa,b 会話)	小西　昌隆	月 3	−	330
	外国語(タイ語Ia,b 会話)	江藤　双恵	火 3	−	331
	外国語(タイ語Ⅱa,b 文字の読み書き)	江藤　双恵	火 2	−	332
	外国語(アラビア語Ia,b 会話と文化)	師岡カリーマ・エルサムニー	月 3	−	333
	外国語(アラビア語Ⅱa,b 読み書きと文法の基礎)	師岡カリーマ・エルサムニー	月 4	−	334
	外国語(現代ヘブライ語Ⅰa,b 基礎)	阿部　望	金 2	−	335
	外国語(トルコ語Ⅰa,b 総合)	M.チャクル	木 3	−	336
	外国語(トルコ語Ⅰa,b 会話)	M.チャクル	木 4	−	337
	外国語(トルコ語Ⅱa,b 応用)	M.チャクル	木 2	−	338

（春）	全学総合講座（芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割りについて）	担当者	青山　愛香

講義目的

　みなさんにとって、芸術はどのような存在でしょうか。電車のつり革広告や、駅で美術展のポスターを目にする機会は多いのではないでしょうか。そうした美術館や博物館で鑑賞する「芸術」以外にも、もしかしたらもっと身近に存在している芸術（アート）があるかもしれません。
　この講義では、芸術（アート）を仕事にして、第一線で活躍する講師陣の話を聞きながら、アートがこれまで社会とどのように深く結びつきながら存在して来たのか、改めて一緒に考えることを目的としています。

講義概要

　現在日本でアートに関わり、創作活動や教育機関、美術館や画廊で芸術に携わる講師陣に、ご自分の仕事についてお話頂きます。
　例えば、美術館や画廊（ギャラリー）については、これまで知らなかった現場の様子を知ることになるでしょう。また、創作活動に携わるアーチストの話を直に聞くことによって、アートがより一層身近に感じられるはずです。美術や文学、音楽を研究する専門家からは、さまざまな側面から幅広い時代の芸術と社会についてお話を頂く予定です。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

授業で聞いたことを元に、自分で関連テーマや作品、美術館等について調べることが求められる。

受講生への要望

毎回様々なジャンルで活躍しているゲストの方々のお話を聞きます。自分の視野を広げるために、積極的に質疑応答の際には参加して下さい。

評価方法

毎回のコメントペーパーと学期末の筆記試験で評価。第一回目のイントロダクションには必ず参加して、詳細を確認すること。

テキスト、参考文献

講師の配布するプリント。

授業計画

① イントロダクション
青山愛香（本学ドイツ語学科教授）

② 美術館で情報専門職が果たすべき役割とは？
川口雅子（国立西洋美術館アートディレクション）

③ 未定
村田朋泰（映像作家／トモヤスムラタカンパニー）

④ ハンセン療養所における芸術活動
金貴粉（国立ハンセン病資料館　学芸員）

⑤ 韓国音楽 － 静と動の世界
山本華子（洗足学園大学非常勤講師）

⑥ 冷戦と東ドイツの芸術
伊豆田俊輔（本学ドイツ語学科専任講師）

⑦ 身体と空間からはじまる芸術
山川冬樹（ホーメイ歌手／アーチスト）

⑧ ハンセン療養所大島青松園でのアート・プロジェクトについて
山川冬樹（ホーメイ歌手／アーチスト）

⑨ 旧石器時代洞窟壁画：氷河期ヨーロッパの美術と社会
五十嵐ジャンヌ（東京芸術大学美術研究科非常勤講師）

⑩ ゲームとしての芸術
木村太陽（美術家）

⑪ 社会の芸術 － 社会の課題と芸術の関わり
神野真吾（千葉大学准教授）

⑫ 獨協大学のみなさんにとってアートが必要なわけ
山本美知子（湘南台画廊　ディレクター）

⑬ 文学の言葉と政治の言葉
渡部重美（本学ドイツ語学科教授）

⑭ 総括①
青山愛香

⑮ 総括②
青山愛香

（春）	全学総合講座 （社会を生き抜くセルフブランディングⅠ）	担当者	有吉　秀樹

講義目的

本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。

尚、本講座は春と秋で内容が異なるため、春に受講した学生であっても、秋も登録することが可能である。

講義概要

講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの1年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2年生以上の受講も歓迎する。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前に該当講師が執筆した教科書中の章を熟読するなど、主体的・能動的に講義に参加することを強く望む。

受講生への要望

学外の方を迎えての講義である以上、礼節と緊張感をもって臨むこと。また、講義開始 10 分以降の入退室は一切できない。

評価方法

授業への参加度と期末の小テスト。3 回欠席した時点で、単位取得は不可能となる。レポートや追試による救済は一切ない。欠席が 2 回以内の者に限り、期末の小テストの採点対象とする。

テキスト、参考文献

有吉秀樹編著　『自分の「軸」を作る　セルフブランディング～経験に学ぶ戦略的キャリアの形成』　中央経済社を使用する。受講決定者は必ず購入すること。

授業計画

1. ガイダンスと受講上の注意

2～14. 外部講師による講話

15. 確認テスト

（秋）	全学総合講座 （社会を生き抜くセルフブランディングⅡ）	担当者	有吉　秀樹

講義目的

本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。

尚、本講座は春と秋で内容が異なるため、春に受講した学生であっても、秋も登録することが可能である。

講義概要

講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの1年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2年生以上の受講も歓迎する。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前に該当講師が執筆した教科書中の章を熟読するなど、主体的・能動的に講義に参加することを強く望む。

受講生への要望

学外の方を迎えての講義である以上、礼節と緊張感をもって臨むこと。また、講義開始 10 分以降の入退室は一切できない。

評価方法

授業への参加度と期末の小テスト。3 回欠席した時点で、単位取得は不可能となる。レポートや追試による救済は一切ない。欠席が 2 回以内の者に限り、期末の小テストの採点対象とする。

テキスト、参考文献

有吉秀樹編著　『自分の「軸」を作る　セルフブランディング～経験に学ぶ戦略的キャリアの形成』　中央経済社を使用する。受講決定者は必ず購入すること。

授業計画

1. ガイダンスと受講上の注意

2～14. 外部講師による講話

15. 確認テスト

（春）	全学総合講座 （働くための基礎知識―知って得する労働問題）	担当者	市原　博

講義目的

アベノミクスによる景気回復が声高に言われる中でも、雇用をめぐる状況は深刻なままである。雇用が増加したと言っても、増えたのはおもに非正規の人びとだし、最近は「ブラック企業」問題が注目を集めていることに象徴されるように、正社員の厳しい労働の在りかたへの不安から正社員への移行を希望しない非正規社員さえ出現してきていると言われる。

大学生の就職状況は改善してきているとは言われるが、企業による選抜は相変わらず厳しいままである。

こうした時代に生きて行く学生諸君には、雇用問題への正しい知識が必要不可欠である。本講義では、「働く」ことをめぐる様々な問題に多様な切り口から接近し、これからの産業社会で生きて行く若者に必要な知識を身につけてもらうとともに、雇用をめぐる問題が我々の生活にどのように係っているのかを考える。

講義概要

講義は毎回ゲストスピーカーを招き行うことにする。労働組合や経営者団体の関係者、弁護士、労働・社会保障研究者等、社会の各方面でご活躍の多様な第一級の講師の方々から「働くための基礎知識」を習得できるようにする。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

労働問題に関する新聞記事を読んだり、テレビニュースを見て、現在何が問題になっているかを自分なりに把握しておくこと。

受講生への要望

社会の各方面でご活躍の高名な先生方にお話いただくので、私語は厳に慎み、講師の方に失礼のないようにすること。遅刻・途中退室は認めない。

評価方法

原則としてレポートにより評価する。

テキスト、参考文献

各回の講義において紹介する。

授業計画

以下のようなテーマを予定している。授業の順番は講師の先生の都合で決まるので、下記の順番は日程を示すものではないことに注意すること。具体的な日程は最初の授業時に提示する。

1. ガイダンス
2. 労働法の基礎知識（1）
3. 労働法の基礎知識（2）
4. 少子化対策を考える―共働き社会の課題
5. 労使関係論（1）経営側からみて
6. 労使関係論（2）労働側からみて
7. 労使交渉と政策制度の取り組み－現場の経験から
8. 公務員の世界
9. 労働組合の一年
10. 社会保障制度―高齢化社会を迎えて
11. 労働安全衛生―メンタルヘルスを含む
12. 全契約社員の正社員化』はなぜ実現したのか
―広島電鉄労働組合の事例
13. ILOと労働CSR
14. ブラック企業問題への対応
15. まとめ

（春）（秋）	全学総合講座（キャンパスライフと仕事）	担当者	岡村　国和

講義目的

この講義の目的は、大学生活4年間を通じて人間形成をどのように考え、進めて行くかについて学ぶことにあります。1年次にその出発点を置き、4年間でどのように実現して行くかを計画することが大切です。

獨協大学の建学の精神「大学とは、学問を通じての人間形成の場である」（天野貞祐先生）に基づいて、学問、部活、交友に、時にはアルバイトにと、メリハリのある大学生活を送っていただきたいと考えています。

社会人は「決められた期間内で如何に目的を達成するか」を問われます。自分は大学生活の4年間で何が学べたのか？また何が達成できたのか？を胸を張って言えるようになっていただきたいのです。

社会には本当にさまざまな就業環境があります。そこで、当面の目標としては、まず働くとは何か？からはじめ、さまざまな業界経験者の貴重な体験談を聞いて自分を深めていくことを目指します。

講義概要

自分はどのようなキャンパスライフを送りたいのか。社会に出て働くとはどういうことか。自分はどのような職業に就きたいのか、また企業はどのような学生を求めているのか、について各講師の先生方のお話を聞いて自分なりに考えながら講義を進めます。

多くの場合、答えは各人によって異なると思います。まずは自分の人生観を確立できるようにさまざまな経験を積んで下さい。講師の先生の話から追体験することも大切です。

右の講義スケジュールにあるように、内容的にはバラエティーに富んでいて、貴重なお話がたくさん聞けると思います。毎回の講義の要点をまとめておくと、後で必ず財産になると思いますので、是非実践して下さい。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

自分は何がしたいのか？　どうすれば夢が叶うのか？　コミュニカーション能力とは何か？　などを考えつつ講義に参加して下さい。

受講生への要望

外部の講師の先生をお招きしますので、獨協大学の学生としてのマナーを守って受講してください。

評価方法

授業への参加度（40%）、および各講義のレポート（60%）で評価します。

テキスト、参考文献

必要な資料などは各講義の時に配布します。

授業計画

（春学期）

1　さまざまな進路を考える　オリエンテーション
2　1年生の今、すべきこと
3　自己理解・自己表現
4　企業で働く　企業が学生に求めるもの
5　社会が求める人材とは
6　マスコミの世界から見るキャンパスライフ
7　男女共同参画
8　公務員の仕事
9　女性の社会進出（海外で働く）
10　若者に届けたい「いのちの大切さ」
11　サービス業の世界　笑顔の大切さ
12　考古学から読み取る人間形成
13　話し方の大切さ（活躍する本学ＯＢに聞く）
14　これまでの総まとめ
15　内定者の体験談

（秋学期）

春学期の授業計画と内容はほぼ同じですが、順序が変わる場合があります。

{注意}

1　講義は上記のスケジュールで進めて行く予定ですが、講師の先生方のご都合によっては回が前後する可能性があります。

2　一部講義のテーマが変更になる可能性があります。

3　講師の先生のご都合により、講師の先生が替わる場合があります。

以上の点につきご理解下さい。

（秋）	全学総合講座（メディア社会とロック）	担当者	岡村　圭子

講義目的

「ロック」という文化をとおして、わたしたちが生きる現代社会、メディア・音楽産業、グローバル化について考えることが本講義の主なねらいである。かならずしも音楽についての専門的な知識／経験を持っている必要はなく、それぞれの講師の話を聴くなかから、自分なりに（自分の問題関心に応じて）話題を展開していってほしい。たとえば、ロックが生まれた背景や、ロックが日本の音楽（J ポップやグループサウンズ）にどういったかたちで影響してきたのかを知ることによって、異文化受容のメカニズムや多文化共生を考える糸口が見つかるかもしれない。観光、ファッションとロック音楽の関連を知るなかから、文化変容の形態やメディアの影響力についての議論が展開できるかもしれない。講師の方々のお仕事の内容をじかに聴くことによって、将来の方向性や、目指すべき職業があらたに見つかるかもしれない。この機会を十分に活かしてほしい。

講義概要

初回のオリエンテーションでは、授業の進め方や評価方法についての説明、受講に当たっての注意、参考文献リストの配布など、受講にあたっての重要なインフォメーションがあるので必ず出席のこと。

講義の前半では、ロックについての基礎的な解説をし、後半は、日本における大衆音楽とメディアとの関係について、さらに、ロックとの関連からそれぞれのテーマについての各論を展開する。

講師にお招きする方は、それぞれ音楽業界での業績が多くあり、経験・知識ともに豊富な方々ばかりである。なかなか聴く機会のない貴重な話や、専門的な話も出てくるかもしれない。ぜひとも、しっかりと予習をしたうえで、積極的に質問をしてほしい。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

自分の知っている「ロック」文化について調べておく。

受講生への要望

1）自分なりの問題関心を持ち、受講マナーを守って講義に参加できる学生を希望します。
2）初回オリエンテーションには必ず参加すること。

評価方法

授業への積極性（50%）
期末試験（50%）

テキスト、参考文献

サエキけんぞう『ロックとメディア社会』新泉社

授業計画

1．オリエンテーション
2．メディアの発達とロックの進化１
——ロック誕生の瞬間から現在まで
ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ・作詞家・ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝ
サエキけんぞう
3．メディアの発達とロックの進化２
——ロックの変革者たち
同上
4．アニメが飲み込むロック
——世界を席巻するアニメ文化のグローバル性
音楽評論家　冨田明宏
5．J ポップ論
音楽評論家 青木 優
6．日本のロック・海外進出史
サエキけんぞう
7．ロックフェスティバル考
——ロックが生み出す消費の現場
同上
8．ロックカルチャーとファッション
同上
9．ワールドクラブカルチャー論
音楽評論家　サラーム海上
１０．テクノ音楽と世界
音楽評論家　小暮秀夫
１１．グループサウンズ論
——異形の和製ポップスがもたらしたもの
音楽評論家　中村俊夫
１２．ロックとアイドル文化
ミュージシャン 掟ポルシェ
１３．ヒップホップ論
ミュージシャン 高木 完
１４．越境する音楽
音楽評論家 北中正和
１５．まとめ

！注意！
上記の順番は、講師の都合により前後することがあります。

（春）	全学総合講座（ジェンダーで眺めてみれば）	担当者	片山　亜紀

講義目的

この講義では、「性別」や「性」に関わる事柄を取り上げます。女性差別、男性差別、セクシュアル・マイノリティ（LGBT）をとりまく現実、女性ならではの問題、男性ならではの問題などを考えます。

受講者のみなさんは「性差別」なんてもう過去のことだと思っているかもしれません。しかし2016年の男女平等ランキングでは、日本は144ヶ国中111位という低成績でした。また、セクシュアル・マイノリティの人たちについて、日本の学校教育ではあまり教えられていません。

現実はどうなっていて、どう変わりそうなのか、またどう変えられそうか。この授業では、先人たち、そして現在活動中の人たちの取り組みから学びつつ、性別や性的指向を理由に差別されることのない社会にしていく方法について、いっしょに考えていきます。

講義概要

・いわゆる「オムニバス」形式で、研究者や活動家の方々をゲスト講師としてお招きして、お話を伺います。

・とくに一年生のみなさんは、大教室での講義は初めてかもしれませんが、自律的にふるまえるよう、早く慣れてください。この講義ではレジュメに書き込みをしながら聴講し、講師の方々や片山が投げかける問いにその場で答えたり、コメント用紙に答えを書いたりします。

・ほとんどの回は個人参加ですが、ランダムなグループを作ってディスカッションする回が二回ほどあります。知らない人、べつの学年の人と話をする貴重な回として、積極的に参加してください。

＊講義内容の性質上、性にかかわる言葉、イメージ、映像が出てきます。あらかじめご了承ください。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

関連文献を読んでおくこと。
レジュメをよく理解しておくこと。

受講生への要望

講義に参加するつもりで来てください。授業時間中、携帯などの電子機器は使えません。

評価方法

毎回の授業内レポート　約３割
学期末試験（論述中心の筆記試験）　７割
＊ただし５回を越えて欠席した場合、評価対象としない。

テキスト、参考文献

講義内で適宜紹介します。

授業計画

１．ジェンダー・スタディーズ――男とは、女とは
本学外国語学部英語学科：片山亜紀

２．現代日本のジェンダー問題
――フェミニズム団体の活動から見えること
アジア女性資料センター：濱田すみれさん

３．（未定）

４．学校教育と性の多様性――教育学の知見から
埼玉大学教育機構基盤教育研究センター：渡辺大輔さん

５．「不登校」と父性の問題――社会学の知見から
関東学院大学：加藤敦也さん

６．セクシュアル・マイノリティのライフヒストリー（１）
NPO 法人アカー：飯塚信吾さん、藤部荒術さん

７．セクシュアル・マイノリティのライフヒストリー（２）
NPO 法人アカー：飯塚信吾さん、藤部荒術さん

８．（未定）

９．トランスジェンダーの基礎知識
――トランスジェンダー活動家として言えること
やっぱ愛ダホ！idaho-net.：遠藤まめたさん

１０．日本近現代文学の中の LGBT（１）
――文学研究を通してわかること
フェリス女学院大学：黒岩裕市さん

１１．日本近現代文学の中の LGBT（２）
――文学研究を通してわかること
フェリス女学院大学：黒岩裕市さん

１２．LGBT とメディア
――トランスジェンダー活動家の視点から
やっぱ愛ダホ！idaho-net.：遠藤まめたさん

１３．ヘテロセクシュアル男性の多様性
――「草食系男子」をめぐる問題点
関東学院大学：加藤敦也さん

１４．（未定）

１５．全体まとめ（片山）

＊講義タイトルには変更があるかもしれません。また「未定」の回の内容は、第一回目でお知らせします。

（春）	全学総合講座（教えるという仕事）	担当者	川村　肇

講義目的

教えるということはどういうことか、子ども（あるいは人間）というものをどう見るのか、学校とは何か、学校という職場にはどういう問題があるのか、など教育をめぐる問題について様々な角度から考え、自分たちの受けてきた教育を相対化する視点を得るとともに、教育に関しての見方を深めていくことを目標にします。

また、これを通じて、広く社会の問題にも目を向け、考えていくきっかけを作ってほしいと思っています。

講義概要

教えるという仕事を、学校現場の先生方に、その経験を生かして語っていただきます。

お招きするのは、埼玉県内外の小中学校および高校の現役の先生方、さいたま教育研究所の先生、総勢12名の先生方を予定しています。

それぞれ、右の授業計画にあるようなテーマ（仮題）でお話しいただく予定です。模擬授業や、ビデオ観賞なども予定しています（ただし、先生方の都合で、順番や内容が変わることがあります。ご了承ください）。

みなさんが教育や社会の問題を考える素材を提供する科目にしたいと考えています。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

テキストを読んで自分の考えをまとめておいてください。

受講生への要望

教えるということは、教師だけが行うことではありませんから、教職をめざしてはいない学生の参加も歓迎しますし、この授業はそういう諸君にも役立つと思います。積極的、意欲的に参加してください。

評価方法

毎回の授業レポート（学んだこと、20 行程度）の提出をもって出席点とし、最終レポート（A4 判用紙で 3～4 枚）と併せて評価します。

テキスト、参考文献

高橋陽一編『新しい生活指導と進路指導』（武蔵野美術大学出版部）。その他、配布プリント類によります。
参考文献は、授業中適宜紹介します

授業計画

1　ガイダンス
テレビ東京制作「星空の中学生とともに」

2　松崎運之助（元夜間中学教諭）
「学ぶとは何か　夜間中学校を中心に」

3　白鳥勲（さいたま教育文化研究所）
「貧困社会の教育（1）子どもを支える」

4　窪岡文男（テレビ・ディレクター）
「貧困社会の教育（2）奨学金を考える」

5　岩田彦太郎（中学校教諭）
「教師の仕事　教師の労働実態」

6　宮下与兵衛（首都大学東京特任教授）
「生徒の学校参加　三者協議会の取り組み」

7　嶋村純子（中学校教諭）
「中学校の生活指導」

8　関口武（小学校教諭）
「小学校の生活指導　一年間の実践構想」

9　菊池恵子（立教大学非常勤講師）
「中学校の教科指導（1）英語を教える」

10　小堀俊夫（元中学校教諭）
「中学校の教科指導（2）社会科を教える」

11　森達（中学校教諭）
「大震災と教育　復興の現状と学校の課題」

12　奈須恵子（立教大学教授）
「多文化教育と学校」

13　中村悌一（さいたま教育文化研究所）
「中学校の生活指導　いじめと不登校」

14　川村
「体罰を考える」

15　川村
「講義のまとめ」

（秋）	全学総合講座（メディアと私たち）	担当者	川村　肇

講義目的

メディアは急速な発展を遂げる一方、メディアに対する政治的な圧力が強まっていることが伝えられています。

そうした中で、私たちはメディアとどう向き合えばいいのでしょうか。また、ソーシャルメディアの発達によって、情報を発信する側にもいる私たちは、どのようにそれを用いていけばいいのでしょうか。

本講義では、メディアと関わりの深いゲスト・ティーチャーにメディアの現場と仕事の実情について語ってもらい、メディアに関する考えを深めていくことを目的とします。

講義概要

テレビ、新聞などのメディアで働くゲストを招いて、それぞれ右のようなテーマでお話し戴きます。メディアとそれを取り巻く環境を考えることを通じて、「公正な報道」とは何か、匿名報道をどう考えるか、権力のメディア介入問題など、社会で問題になっていることについて、自分なりの意見を形作っていけるような講義にしたいと考えています。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

講師が紹介する文献や資料を自主的に集めて読み進めてください。

受講生への要望

質問を歓迎します。

評価方法

毎回提出する授業レポート用紙の記述内容と、最終レポートにより総合的に判断します。

テキスト、参考文献

配付された資料、適宜紹介する文献や資料を読み進めてください。

授業計画

1. ガイダンス
2. 新聞論説委員（本学非常勤講師／東京新聞・半田滋）
「自衛隊の「軍隊」化が呼び込む報道統制」
3. 元テレビディレクター（元 NHK・永田浩三）
「テレビメディアと政治権力」
4. テレビアナウンサー（日テレ・井田由美）
「女性アナウンサーの仕事の変遷」
5. 元テレビディレクター（元日テレ・窪岡文男）
「ドキュメンタリー制作の現場からテレビを考える」
6. 報道局（日テレ・中井孔人）
「テレビ報道と取材の基本」
7. 新聞記者（朝日新聞・河原理子）
「取材するということ」
8. 新聞記者（東京新聞・片山夏子）
「伝えるということ」
9. 映像クリエーター（笠原衛）
「映像をつくるということ・映像の読み方」
10. 雑誌記者（アエラ・渡辺豪）
「沖縄の基地問題を本土から考える」
11. 映画監督（綿井健陽）
「戦争を内側から撮る」（仮）
12. 憲法学者（本学名誉教授・右崎正博）
「放送法と放送倫理」（仮）
13. 講義のまとめ（1）
14. 講義のまとめ（2）
15. 講義のまとめ（3）

＊講義の順序は変更になることがあります。

（秋）	全学総合講座（企業の社会的責任と企業活動）	担当者	高橋　均

講義目的

1．学修を通じた獲得目標
（1） 企業の社会的責任の意義の理解
・企業が社会的責任を果たす意義は何か、具体的な企業活動の状況を通じて、理解を深めること
（2） 企業活動の実態認識
・企業風土や企業活動の方針等は、業種・業態によって様々であることを認識すること
2．質疑応答を通じたインプットとアウトプット
（1） 講演内容に課題意識を持って聞く能力向上
・各回の講演内容について、課題意識（今回の講座では、「企業の社会的責任」）を持って、集中して聴講する習慣を身に着けること
（2） 疑問に感じたことを表現する能力向上
・講演内容について質問や確認事項があった場合に、適切に発言できること

講義概要

1．現役の役員・上級管理職による講演
・マスコミ、金融、総合商社、製造業、弁護士事務所、監査法人等に勤務中、若しくは関係していた現役の役員、上級管理職、弁護士、公認会計士により、企業の社会的責任を念頭に、実務体験（苦労したこと、やりがいを感じたこと等）も交えて講演をして頂きます。
・若手企業担当者による企業説明会とは異なった視点の講演を通じて、将来の業界選択の一助にもなるものと考えます。
2．質疑
・有益な機会ですので、約６０分強の講演の後、講演者と質疑の時間を取ります。積極的な学生諸君の参加を期待しています。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

講演者の業界や企業について、事前にインターネットや業界紹介の書籍等でおおよその認識をしたり、事後に興味が湧いた場合に、より深く研究すると有益です。

受講生への要望

獨協大学の学生として相応しい態度で授業に参加すること

評価方法

① 毎回出席をとる予定（１０回以上の出席が単位認定の条件）
② 特に興味を感じた講演に関する４回のレポート提出により評価（なお、講演当日の質問学生は、加点する）

テキスト、参考文献

参考文献として、企業法学会編『企業責任と法～企業の社会的責任と法の役割・在り方』文眞堂（2015 年）。
なお、講演者の方から、必要に応じてプリントの配付や参考文献の紹介がある場合があります。

授業計画

第１回　イントロダクション
・授業の進め方、注意点、評価の仕方等
第２回～第１４回
・本講義は、2017 年度秋学期に初めての開講であり、今後、講義をしていただく方を人選・依頼を行うために、各回の具体的なテーマは未定です。
・人選を終了し、各講師の方からのテーマが出そろい次第、履修予定者（又は第１回授業時）に通知いたします。
第１５回　まとめ
・企業の社会的責任の意義と各回の講演で学んだことについて、自由討論の予定

（春）	全学総合講座 （NPO 論　人を変える・地域を変える・世界を変える）	担当者	高松　和幸

講義目的

講義では、NPOなどを通じての企業の社会貢献やNPO活動に関する、さまざまな取り組みについて、現実の臨場感あふれる模様を紹介することに主眼を置く。問題意識は、次のような視点もある。

解題：「疲弊した地域を取り巻く環境は厳しくなるばかりで，その地域のために，今こそ，企業・行政・市民が共働して，課題解決をしなければならない」

そこで企業独自の視点やNPO独自の展開などを、公共的な空間（場）に根ざしたものとして行政も含めて市民社会の一員として、地域に責任を持つ時代に入った。

講義概要

ドラッカーは『非営利組織の経営』の中で、市民社会を構成するセクターとしてＮＰＯは経営学的にも注目される対象であるとして、ＮＰＯの運営において、ミッションの重要性を指摘すると共に、マーケティング戦略、人材育成、成果測定といった企業並みのマネジメントの必要性を主張した。

その背景には、もはや旧来の慈善寄付に頼っては財政的に成り立たないという、米国をはじめとする先進国のＮＰＯが直面する危機があったが、ＮＰＯが生き残りをかけて事業展開に力を入れるにつれ、あらたなパートナーとして企業に働きかけ、企業と共に地域の問題解決に向けて進む動きが見られるようになった。

企業にとっても社会的な器として、その責任を果たすことが求められ、その流れの中で、ＮＰＯと共に活動に乗り出す事例が増えてきた。

もとよりＮＰＯはその組織使命の遂行のために企業と協力するものであるが、ＮＰＯにとって不足しがちな経営資源（資金・人材など）を企業によって補えることから、企業への依存関係が発生するというリスクを抱えている。

企業への依存が強まると、資本拡大をめざす企業にとっては好都合で利用される可能性が増すことになるが、ＮＰＯは公共的な使命を遂行するために、ＮＰＯにとっての倫理的基盤が損なわれ得ることを覚悟した上で、協働することになる。

かくして、その真偽はいかにあるか。様々な活動を通しての社会との接点をみることで、これら諸問題に関して、本講義では正面から取り上げて展開する。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

（事前）社会の様々な出来事・教養・
（事後）地域活性の主体者を理解する

受講生への要望

・積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
・遅刻は認めない。

評価方法

質問・レポートなど総合評価

テキスト、参考文献

その都度、指示する。

授業計画

1. ガイダンス　高松和幸

2. テーマ：企業連携のソーシャルプロジェクトを企画して東北 復興を支援する復興支援プロジェクト
「道のカフェ」プロデューサー　ベルベット・アンド・カンパニーＬＬＣ代表　　谷中修吾

3. テーマ：地域資源を活用！
NPO 法人　ａｔａｍｉｓｔａ　代表理事
市来広一郎

4. テーマ：自治体政策の独自開発
一般財団法人 武蔵野市開発公社　理事長　小森岳史

5. テーマ：防災分野で社会に、そして世界に挑む
NPO 法人プラス・アーツ　東京事務所
チーフ　小倉丈佳

6. テーマ：環境ＮＰＯとソーシャルビジネス
地球環境パートナーシッププラザ　平田裕之

7. テーマ：異彩を放つ小さな町からのメッセージ
NPO 法人オペラ彩　理事長　和田タカ子

8. テーマ：NPO と企業
一般財団法人　CS0 ネットワーク　事務局長
黒田かをり

9. テーマ：ふじみの国際文化センターの活動
ふじみの国際交流センター 理事長　石井ナナエ

10. テーマ：ソーシャル・イノベーション
㈱コミュニティ・ディベロップメント・パートナーズ
代表取締役　長本　光

11. テーマ：ノーベル賞受賞者との出会いが、私の人生を変えた
もったいない kids 植林プロジェクト 代表理事
伊藤恵里子

12. テーマ：カート缶による
森を育む紙製飲料容器普及協議会事務局長
世木田大介

13. テーマ：社会的企業
ＮＰＯ法人　とよあしはら　事務局長　山本裕隆

14. テーマ：自治体図書館の再生
前東京都小平市副市長　昼間守仁

15. テーマ：ＮＰＯと企業の協働はどこまで進んだか
NPO 法人　パートナーシップ・サポートセンター
代表　岸田眞代

上記の授業計画は講師の都合などにより変更することがあります。

（秋）	全学総合講座（地域活性化システム論－これからの「まちづくり」のヒントを探る）	担当者	高松　和幸

講義目的

この講義は，地域活性化をキーワードに，地域の活性化とまちづくりなどを制度の面や人的な面，社会諸資源の面から取上げる。地域活性化システム論では，地域やまちの置かれている状況やそのまちが持っている潜在力とは何かについて考え，様々な取組事例を紹介する。また講義では分かりやすく行うとともに，各都道府県の市町村が，いずれも地域の創意工夫にあふれた取組みをしており、どのような取組みが地域特性となるかも垣間見ることになる。それを支援するという意味では共通しており，それぞれの地域が相対化されることで，支援枠組みを利用しての地域活性化をしようというのが期待されている。

本講義では，こうした取組みについて，講師を招いて開催する。わが国の地域活性化の方向が学ぶ唯一の授業である。

講義概要

この科目は内閣府等の協力を得て実施している講義である。具体的な施策や事例などを，例示しながら講義する。

個別テーマは授業計画（最初の授業時に配布する）のとおりであるが，わが国の地域活性化の最先端の問題を中心に，テーマ設定を行っている。

この結果，地域の中で起きている様々な事例を通して，地域の実情が理解できると共に，地域の課題についての新たな認識と共に，自分が住んでいる地域や将来住むかもしれない地域の可能性に関して，示唆に富んだ内容が展開される。

この講義を通じて，地域で求められる人材に関する具体的な問題意識を得ることができであろう。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

（事前）社会の様々な出来事・教養
（事後）地域活性の主体者を理解する

受講生への要望

・積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
・遅刻は認めない。

評価方法

質問・レポートなど総合評価

テキスト、参考文献

その都度，指示する。

授業計画

1．ガイダンス　　高松和幸
2．良好な市街地形成を誘導するシステム
横浜市立大学国際総合科学部　国際都市学系
准教授　中西正彦

3．震災復興とまちづくり（仮題）
柴田いづみ　SKM 設計計画事務所　共同代表

4．やる気を起こせば必ず奇跡は起きる
行政に頼らない村おこし
豊重哲郎　鹿児島県鹿屋市柳谷自治公民館館長

5．地域活性化の動向
木村俊昭　元農林水産省大臣官房政策課　企画官

6．世界の食料事情と環境の関係
末松広行　林野庁林政部長

7．地域プロデューサーがつくる地域ブランド
廣川州伸　日本作家協会事務局長

8．安全・安心なまちづくり NPO と被災地の関係性
横浜市立大学国際総合科学部　国際都市学系
准教授　石川永子

9．観光と地域活性
綿石隆人　㈱JTB 法人東京　本社ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ部　部長

10. 私自身が活性化するために
㈱ヌールエ　代表取締役　筒井一郎

11. 持続的に地域に関わり地域の持続性を高めるということ　竹本吉輝　株式会社トビムシ 代表取締役

12. ローカル線は心の栄養剤
鳥塚　亮　　いすみ鉄道㈱　代表取締役社長

13. 都市の超高齢者と地方の健康資源を結ぶ介護旅行システム
篠塚恭一　ＮＰＯ法人
日本トラベルヘルパー協会　理事長

14. 地域の誇り・愛着を醸成・発信する
横浜市立大学国際総合科学部　国際都市学系
まちづくりコース　コース長／教授　鈴木伸治

15. 関東大震災の教訓
北原糸子　日本史学者　日本の災害研究家

上記授業計画は講師等の都合により変更することがあります。

（秋）	全学総合講座（情報社会とルール）	担当者	多賀谷　一照

講義目的

インターネットの普及、スマートフォンなどにより、今後の社会活動が物理的空間から情報空間に移っていく過程において、対面関係を前提としてきた社会ルールがどう変容していくか、新たな情報空間上の社会関係をどう形作っていったらよいかについて、学生諸君に問題意識を持ってもらうことを目標とする。

講義概要

情報社会、情報空間について、インターネットや光ファイバーによるブロードバンドサービスによって、既存の通信・放送にかかるルールがどう変容したか、暗号技術などにより新たなルールをどう作っていくか。それぞれの分野の専門家により、オムニバス方式で講義してもらう。（講義の順番、内容について若干の変更の可能性がある）

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

インターネットやメディアで関連する話題を注視させる。

受講生への要望

自分がラインなどでネットアクセスしている場合のあり様と対比 してください。

評価方法

講義全体の中で、３回程度レポート提出を求める。

テキスト、参考文献

毎回、レジメを原則配布します。

授業計画

第 1 回 総説
第 2 回 情報社会と違法有害通信
第 3 回 ウイキリークス、盗聴
第 4 回 情報セキュリティと暗号システム
第 5 回 情報社会とルール、倫理
第 6 回 － 第 7 回 通信システムと情報社会
第 8 回 電波と情報空間
第 9 回 放送と情報社会表現の自由
第 10 回 インテリジェンス
第 11 回 ビッグデータ
第 12 回 著作権と情報（1）
第 13 回 著作権と情報（2）
第 14 回 個人情報保護
第 15 回 まとめ

（春）	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 1）	担当者	高安　健一

講義目的

この講義は、企業のトップマネジメント経験者が業界事情や企業経営の実務をやさしく講義するものである。広範な業種の企業が取り上げられる。
講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ意義を発見したり、将来の職業選択のヒントを見つける契機となる授業である。
なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い外国語学部の学生にもわかるような平易な内容となっているが、時に専門用語も頻繁に使用される。

春と秋学期は講師陣、内容が異なるので、片方だけ受講しても支障ない。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えてくださる。
概ね１年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。
毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。
講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前学修としては業界地図や会社四季報などをみること。
事後学修としては、配布された資料を基にノートを整理することと専門知識など理解できなかったことを調べる。

受講生への要望

・遅刻・途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。
・授業の性格上独習はできない。特に就職活動を行う４年生は注意すること。

評価方法

定期試験のみで行う。欠席の多い受講者は評価しない。なお追試、レポートは行わないので注意すること。

テキスト、参考文献

講義の中でハンドアウトを配布する。

授業計画

第１回 会社の仕組みと株式会社

第２回 医薬品産業の難しさ・面白さ

第３回 家庭用品メーカー
～花王の成長戦略～

第４回 食品業界の動向と今後の戦略

第５回 タイヤ産業の世界トップ企業
～ブリヂストン強さの秘密～

第６回 地方銀行ビジネスの現状と課題

第７回 損保・生保のビジネスの現状と課題

第８回 物流のグローバル化

第９回 リースと不動産ビジネスの概要

第 10 回 日本のツーリズム

第 11 回 出版業界の最近の動向

第 12 回 広告業界の動向

第 13 回 コンビニ業界の成長と今後の課題

第 14 回 情報サービス産業の雄
～リクルートの成長の仕組み～

第 15 回 講義の纏め

※開講日程、内容は若干変更の可能性がある。

（秋）	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 2）	担当者	高安　健一

講義目的

この講義は、企業のトップマネジメント経験者が業界事情や企業経営の実務をやさしく講義するものである。広範な業種の企業が取り上げられる。
講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ意義を発見したり、将来の職業選択のヒントを見つける契機となる授業である。
なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い外国語学部の学生にもわかるような平易な内容となっているが、時に専門用語も頻繁に使用される。

春と秋学期は講師陣、内容が異なるので、片方だけ受講しても支障ない。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えてくださる。
概ね１年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。
毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。
講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前学修としては業界地図や会社四季報などをみること。
事後学修としては、配布された資料を基にノートを整理することと専門知識など理解できなかったことを調べる。

受講生への要望

・遅刻・途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。
・授業の性格上独習はできない。特に就職活動を行う４年生は注意すること。

評価方法

定期試験のみで行う。欠席の多い受講者は評価しない。なお追試、レポートは行わないので注意すること。

テキスト、参考文献

講義の中でハンドアウトを配布する。

授業計画

第１回 産業構造と企業の盛衰

第２回 科学発見・発明とビジネスの創造

第３回 化学技術と素材革命（炭素繊維の開発）

第４回 自動車の未来（ハイブリッドと水素自動車）

第５回 次世代モビリティとタイヤ開発

第６回 フィルム会社から化粧品への展開

第７回 生命科学の発見と医薬品開発

第８回 世界の食糧と人口問題

第９回 飲料の多様化

第 10 回 水と生活（海水の淡水化技術）

第 11 回 日本の資源問題

第 12 回 企業と環境課題

第 13 回 電力問題の将来

第 14 回 ICT 技術を活かす経営

第 15 回 講義の纏め

※開講日程、内容は若干変更の可能性がある。

（春）	全学総合講座 （環境学１）（環境基礎学－自然を見つめる）	担当者	中村　健治

講義目的

20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、自然環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を残さないための叡智の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立されている。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨に沿って提供するものである。

本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。

講義概要

春学期は、環境問題を考える際の基礎となる「自然環境の成り立ち」および「自然と人間社会のかかわり」について講義する。

本講座は、環境共生研究所研究員・経済学部教授中村健治がコーディネーターとなり、環境共生研究所研究員ほかが担当する。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前学習として講義の概要について具体的テーマを考える。事後学習として、講義内容の復習と身近な環境についての自分の意識の変化を認識するようにする。

受講生への要望

環境は、学際的に扱うべきテーマである。この講座を通じて広い視野を獲得することを望む。

評価方法

定期試験と授業参加度を総合的に評価する。また担当教員からレポート等が課せられた場合はこれも加味する。

テキスト、参考文献

浜本光紹監修、獨協大学環境共生研究所編、『環境学への誘い』（創成社、2016 年）

授業計画

1. 環境とは何か
2. 人類と環境（１）
3. 人類と環境（２）
4. 地域と気候変化
5. 地球温暖化
6. 気候と雨（１）
7. 気候と雨（２）
8. 水循環と植生（１）
9. 水循環と植生（２）
10. モンスーンアジアの人と自然（１）
11. モンスーンアジアの人と自然（２）
12. モンスーンアジアの人と自然（３）
13. 人類と環境
14. 地球環境の観測
15. まとめ

（秋）	全学総合講座 （環境学２）（環境応用学－環境と社会）	担当者	中村　健治

講義目的

20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、自然環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を残さないための叡智の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立されている。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨に沿って提供するものである。

本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。

講義概要

秋学期は「人間社会の環境問題への対応」を中心に講義する。

本講座は、環境共生研究所研究員・経済学部教授中村健治がコーディネーターとなり、環境共生研究所研究員ほかが担当する。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前学習として講義の概要について具体的テーマを考える。事後学習として、講義内容の復習と身近な環境についての自分の意識の変化を認識するようにする。

受講生への要望

環境は、学際的に扱うべきテーマである。この講座を通じて広い視野を獲得することを望む。

評価方法

定期試験と授業参加度を総合的に評価する。また担当教員からレポート等が課せられた場合はこれも加味する

テキスト、参考文献

浜本光紹監修、獨協大学環境共生研究所編、『環境学への誘い』（創成社、2016 年）

授業計画

1. オリエンテーション
2. 地球・地域環境問題の諸相（１）　環境と人間
3. 地球・地域環境問題の諸相（２）　人口と食糧問題
4. 地球・地域環境問題の諸相（３）　エネルギー問題
5. 地球・地域環境問題の対応（４）　環境経済・政策（１）
6. 地球・地域環境問題の対応（５）　環境経済・政策（２）
7. 地球・地域環境問題への対応　環境と法（１）
8. 地球・地域環境問題への対応　環境と法（２）
9. 地球・地域環境問題への対応　環境教育（１）
10. 地球・地域環境問題への対応　環境教育（２）
11. 地球・地域環境問題への取り組み（１）
12. 地球・地域環境問題への取り組み（２）
13. 地球・地域環境問題への取り組み（３）
14. 地球・地域環境問題への取り組み（４）
15. まとめ

（春）	全学総合講座（大学における教養教育）	担当者	野澤　聡

講義目的

様々な立場で活躍されている方々から、教養や教養教育について、多様な視点を提示していただくことによって
（1）多様な視点の中で、受講生が自分の考えを自覚し、自分と異なる考えが存在していることに気付く
（2）各自にとっての教養や教養教育に向かう姿勢を主体的に選び取る
（3）人文社会科学系の大学である獨協大学で、自然科学系の知識を学ぶことの意味を考える
ことを目標とする。

講義概要

大学の教養教育にはどんな意義があるのだろうか。現在の大学教育は、地球規模で生じている大きな変化の真っただ中にあり、大学における教養教育に対しても、その意義を問い直す声が高まっている。とくに、専門教育や卒業後の仕事と直接関係ないように見える教養教育に対しては、しばしば不要論も唱えられている。他方、社会がますます複雑化すると同時に、専門分野が著しく細分化されている現在では、狭い意味での専門分野だけを学んでいたのでは不十分であることは明らかである。では、現在にふさわしい教養あるいは教養教育とはどのようなものであろうか。

この講義では、本学や他大学の大学教員だけでなく、高校教員、書籍編集者、小説家、ジャーナリスト、行政官、ビジネスマンなど、様々な立場で活躍されている方に登壇していただき、ご自身の生き方と関連付けて、教養や教養教育のあるべき姿や現状の問題点についてお話ししていただく。

なお、各回の内容や講演者は変更することがある。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

授業報告に向けて各自で文献調査をおこない、執筆・推敲する。

受講生への要望

・授業は静粛に受けること。
（あまりに悪質な場合は退席を命じることがある）
・30 分以上中座した場合は欠席と見なすので注意。

評価方法

・学期末に提出する授業報告（レポート）（70%）と獨協大学レポート用紙の記述（30%）により評価する。
・詳細については、第 1 回の授業で説明する。

テキスト、参考文献

・教科書は使用しない。
・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
・【全般的な参考文献】村上陽一郎『あらためて教養とは』新潮文庫，2009 年

授業計画

1．　イントロダクション、教養とは、教養教育とは
2．　高校から見た大学の教養教育
3．　現場から見た教養―カルト教団の事例
4．　大学での学びと教養
5．　科学技術政策から見た大学における教養教育
6．　マスメディアから見た教養教育
7．　教養教育の歴史と多様性
8．　文系と理系のあいだ
9．　あなたは 10 年後どのように働きたいか
―ＡＩと働き方
10.　人生における大学と教養
11.　方言敬語と社会制度
12.　教養としての文学
13.　生命に向き合う教養
14.　教養としてのプライバシー
15.　教養を問う意味―異分野融合の思想を添えて

（秋）	全学総合講座（社会の中の科学）	担当者	野澤　聡

講義目的

科学技術が社会の中で作動するためには、様々な立場の人々の協働が不可欠である。とくに近年では、いわゆる人文・社会科学的な知見を科学技術に活かそうとする試みが注目されている。つまり、社会の中で科学技術を活かすためには、狭い意味での科学技術の専門家だけでは不十分なのであり、人文・社会科学の知見をもった人々との協働が強く望まれるようになりつつあるのだ。

この授業では、科学技術が社会の中で育まれており、つねに変化し続けているということを、様々な具体的な事例を通じて紹介することによって、受講生諸君が科学技術に興味関心をもってもらうことを目標とする。

受講生一人ひとりが学びつつある専門と、科学技術とをどのように関係付け、生かしていくのかを考えるきっかけを提供する。

講義概要

様々な分野で科学技術に関わっている人たちに登壇していただき、どのような科学技術に、どのような形で関わっているか、また、科学技術の希望と問題がどのようなところにあると考えているかをお話していただく。

高校までの授業や、大学での日々の勉強とは違った話題に触れることによって、様々な発見や共感や疑問を抱くことができるだろう。

なお、各回の内容は変更することがある。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

授業報告に向けて各自で文献調査をおこない、執筆・推敲する。

受講生への要望

・授業は静粛に受けること。
（あまりに悪質な場合は退席を命じることがある）
・30 分以上中座した場合は欠席と見なすので注意。

評価方法

・学期末に提出する授業報告（レポート）（70%）と獨協大学レポート用紙の記述（30%）により評価する。
・詳細については、第 1 回の授業で説明する。

テキスト、参考文献

・教科書は使用しない。
・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
・【全般的な参考文献】中島秀人『社会の中の科学』放送大学教育振興会，2008 年（図書館にあり）

授業計画

1．イントロダクション、社会の中で科学を考える

2．アジアと遺伝子
―遺伝子検査をめぐる意識と社会的諸課題

3．企業における研究開発と製品開発における消費者の役割

4．ICT 分野の技術戦略と科学技術政策（1）
ICT 関係重点政策の概要と主要プロジェクトの動向

5．ICT 分野の技術戦略と科学技術政策（2）
人工知能技術をめぐる国の研究開発

6．科学・技術・産業と知的財産

7．医療における市民の役割（1）
国のがん政策の概要と地域間格差

8．医療における市民の役割（2）
がん政策における新潮流

9．信仰と学問

10. 人工知能と社会

11. 緩和医療とは何か

12. 文学と科学技術

13. 歴史の中の科学と社会

14. 環境と科学技術

15. 経済成長と科学技術

（春）	全学総合講座（獨協学）	担当者	町田　喜義

講義目的

本学は昭和39(1964)年に創立され、入学式で天野貞祐学長は「獨協大学が将来いかなる文化の実を結び、その文化の実がいかなる大きさを持ち、形を持ち、匂いを持ち、味わいを持つかということは、獨協大学の芽生えである諸君の中にある。諸君が如何なる考え方をし、日々いかなる実践をなすかということに獨協大学の未来はかかっている」と述べられた。

4年後の昭和43（1968）年3月27日第一回卒業式が挙行され、ドイツ語学科生33名、英語学科生102名、経済学科生168名、合計303名が巣立った（入学者は650名余）。

2014年に創立50周年を迎え、本年3月で91,000余の卒業生を輩出し、新たな歴史を刻み始めている。本講座はその未来志向の歩みの中で卒業生に「獨協大学物語」を語ってもらうものである。

講義概要

受講生のほとんどは新入生であろうと思われるので、各担当者が学生生活を軸に、独逸協会学校、天野理念、獨協大学の歴史、大学と地域社会との関わり、人生観、職業選択、その他を分かりやすく講義する。

本学の新たな未来を担う諸君の前途に資する豊富な内容となるであろう。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

・事前学習：天野記念館内の「獨協歴史ギャラリー」見学。
・事後学習：ノートを持参し、講義内容や板書事項を書き留めること＜写メは厳禁＞

受講生への要望

初回から出席を取る。また、4 回以上の欠席は単位を認定しない。

評価方法

各講師が出題する課題レポートの中から3編を選択し､800～1,000 字程度にまとめ、学期末に提出する。

テキスト、参考文献

各担当者が指示する文献や配付資料など。

授業計画

1. 開講にあたって：犬井 正学長
2. 履修ガイダンス：町田喜義名誉教授
3. 天野貞祐著『学生論』を読んでみよう
4. 獨協大学の原風景
5. 選択的コミュニケーションー私が獨協を選んだ理由
6. 私と獨協学園
7. 獨協大学 4 年間でできること
8. 憲法と選挙：18 歳選挙年齢
9. 獨協大学創設の頃～現在
10. 獨協の理念についてーなぜ、外国語を学ぶのか？
11. アフリカの国際協力と私
12. 獨協大学の UI の継承と新たな価値の創造
13. 学問（国際関係論）との出会い
14. ホスピタリティ社会をめざして
15. まとめ

※ 上記の内容は、本シラバスを作成時点では担当者が最終決定していないので昨年度のテーマを記載する。

（春）	全学総合講座 （スポーツを通じての大学生からの人間形成について考える）	担当者	松原　裕

講義目的

大学生になり、これからどのようにして人間形成していくのか？大学時代は人間形成ということが学習のテーマの中心になります。

その手段のひとつとして「スポーツ」というものがあります。しかし、ここで言う「スポーツ」は日常生活からの気晴らしから戦争までを含みます。チャンピオンスポーツだけでなく、健康や世界といっ言葉もキーワードです。

視点を変えることで今後の生活や将来の生き方を各自が考え発見していくことへの知的刺激が目的です。

講義概要

毎回ゲストを招いてその講義を受ける形式になります。

毎回200字程度、各自の考えをまとめて記述した用紙を提出してもらいます。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

体調管理をしてベストコンディションで臨むこと。

毎回の授業内容を纏めておくこと。

受講生への要望

顔と名前を一致させコミュニケーションをとるために配布したカードに顔写真と必要事項を記入して提出する。

評価方法

授業への参加度、授業で提出した記述内容、最終レポートなどを総合して評価する。

テキスト、参考文献

適宜紹介する。

授業計画

１．　ガイダンス・ゲスト一覧紹介・ゲスト講義
２．　ゲスト講義・カード配布
３．　ゲスト講義・カード配布
４．　ゲスト講義
５．　ゲスト講義
６．　ゲスト講義
７．　ゲスト講義
８．　ゲスト講義
９．　ゲスト講義
１０．　ゲスト講義
１１．　ゲスト講義
１２．　ゲスト講義
１３．　ゲスト講義
１４．　ゲスト講義
１５．　ゲスト講義・最終レポート課題配布

現段階では依頼中のため決定されていないが、参考のため前年度のゲストとベースは下記の通りです。

伊藤慧　　サッカー・スポーツ指導者支援
シギー吉田　ラグビー・フォトジャーナリスト
渡辺律子　　体操・学校教育
松野隆史　　サッカー・理学療法
岩嶋孝夫　　硬式テニス・スポーツ科学
河原工　　サッカー・スポーツフォートゥモロー
福井哲　　サッカー・選手育成
黒田卓志　　サッカー・競技運営
田中重陽　　軟式野球・スポーツ科学
矢島鎗司　　スキー・土木・情報科学
中塚義実　　サッカー・体育社会学
中村孝　　サッカー・アジアンズブリッジ

（秋）	全学総合講座（文学の原点を考える）	担当者	矢羽々　崇

講義目的

「文学」というと，堅苦しいイメージがつきまといます。しかし，その根本には民話やメルヒェンのような単純な形式がありました。あるいは，歌が詩のはじまりだったはずです。そして人々は，それらのメッセージが喚起するイメージを心のなかで楽しんでいたはずです。また，映画やテレビのドラマは，そうしたイメージの具体化だと言えますし，やはり基本は演劇だったのです。

このように，「文学」は読まれなくなって，遠くなったように語られがちなのにもかかわらず，私たちの日常と切り離すことができないほど近くにあります。

そうした「文学」（音楽のように「文楽(ブンガク)」と訳されていたらよかったのに！）の楽しさに親しみ，その奥深さに触れてもらうことが，本講座の目標です。

講義概要

「語りと文学」では，主に民話やメルヒェンといった，文学の出発点にある語りを考えます。実際のメルヒェンの語りを聞いたり，グリムのメルヒェンについて考えたりします。

「歌と詩と文学」では，「詩」をそのおおもとの歌や祈りといった側面から捉えてみます。

「文学と映像」では，現代の文学にとって不即不離の関係にあるといえる映画やテレビなどでの映像化について考えます。

最終回のパネル・ディスカッションでは，受講学生数名と講師の間で，文学をめぐって話し合います。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

講義で話されたテーマについて，自分なりに文献などを読み，考えを深めるように。

受講生への要望

講師の方（特に外部講師の方）は，多忙ななか，時間を割いて担当してくださいます。それに相応しい態度での受講を期待します。

評価方法

授業時のコメントシート（40%）および期末試験（60%）により評価を決定します。

正当な理由がない欠席が 3 回以上となった場合，評価の対象としません。

テキスト、参考文献

授業時に指示します。

授業計画

1. 導入
2. 語りと文学１
3. 語りと文学２
4. 語りと文学３
5. 語りと文学４
6. 語りと文学５
7. 歌と詩と文学１
8. 歌と詩と文学２
9. 歌と詩と文学３
10. 歌と詩と文学４
11. 文学と映像１
12. 文学と映像２
13. 文学と映像３
14. 文学と映像４
15. パネル・ディスカッション

担当者および内容については，第１回の授業時に示します。

（秋）	全学総合講座 （食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	担当者	和田　智

講義目的

近年失われつつある伝統的食文化と新しい食習慣のもとに形成されてきた今日的な食文化の比較と現状を理解することは、健康な生活を求め、持続的な社会を形成するうえで重要なライフスキルといえる。

その地域に根ざした伝統食とその歴史的変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩を与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものへの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生んだ。

日本の食、世界の食について食の世界のスペシャリスト達の話から食についての関心を高め、行動に移すことを目的とする。

講義概要

人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多用な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかっては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験する。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

世界の食料問題について関心を持ち、毎回課される授業レポートに反映できるよう調べておくこと。

受講生への要望

オンラインライブアンケートシステムを利用するので、スマホ等での入力にご協力ください。

評価方法

授業での小レポート、学期末レポート、出席状況等により総合的に評価する。

テキスト、参考文献

授業で紹介する。

授業計画

1 オリエンテーション
「食をめぐる話題」
和田 智 獨協大学教授
2「食と茶の文化伝導」
磯淵 猛 ㈱ティー・イソブチカンパニー代表取締役社長
3「食事作法の背景にあるもの」
後藤加寿子　料理研究家　武者小路千家長女
4「世界の飢餓と WFP の活動」
国連 WFP 協会　広報担当者
5「栄養としての食」
講師未定
6「人はズルなしで生きられるか」
服部 文祥　東京新聞出版局・岳人編集部　サバイバル登山家
7「スローフードの考え方」
吉開俊也　ニッポン東京スローフード協会
8「パティシエから見るスイーツブーム」
羽鳥武夫　シュルプリーズ　パティシエ
9「ケケタン先生の考える子どもと食」
葛恵子（有）葛トータルフードプロデュース　クッキングプロデューサー
10「The　日本食」
柳原尚之　江戸懐石近茶流・柳原料理教室副主宰
11「水の話」
草加市水道部担当者
12「怪しい食情報に騙されない」
講師未定
13「有機農業と食」
金子美登　埼玉県小川町有機農業実践家
霜里農場代表・小川町町会議員
14「食を資源とした地域おこし」
金丸弘美　食環境ジャーナリスト
15「私たちの食はこのままではいけない」
和田　智　獨協大学教授
講師の都合により、順番は変更されます。

（秋）	全学総合講座（自由時間の達人）	担当者	和田　智

講義目的

みなさんは自由時間の大切さに気づいているでしょうか。自由時間をどのように使っていますか。

私たちの生涯は70万時間、労働時間は7万時間、自由時間は20万時間。これまでのあなたの目標といえば7万時間の労働時間のための学習や活動が多かったのではないでしょうか。自由時間をいかに充実させることができるかについてもっと考えて見ましょう。この授業ではいろいろと考えてきた人たちとそれを実践している人たちを紹介します。

「レジャー」の真の意味を知ることにより、個々の学生が現在を充実させ、将来の目標を立てる助けにすることを目的にしています。

春学期の理論編としての「自由時間設計」とこの授業を履修していただくと、より理解しやすく、あなたを行動へと向かわせてくれると思います

講義概要

第1回目の授業では、私たちの自由時間の現状について把握し、これからの授業を理解するための基礎的な理解をしていただきます。

第2回目の授業から、それぞれのゲストがどのような考え方、ライフスタイルを持ち、自由時間について実践しているかについて知っていただきます。

最後の授業では、これまでの講義で聞いてきたお話が「レジャー学」的にどのように理解できるのかを説明していきます。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

世界の食料問題について関心を持ち、毎回課される授業レポートに反映できるよう調べておくこと。

受講生への要望

オンラインライブアンケートシステムを利用するので、スマホ等での入力にご協力ください。

評価方法

授業での小レポート、学期末レポート、出席状況等により総合的に評価する。

テキスト、参考文献

授業で紹介します。

授業計画

1オリエンテーション
「あなたの自由時間の現状」
和田 智 コーディネイター

2自由時間の達人①
「ライフスタイルとしての有機農業」
鈴木智久　どんちゃんファーム

3自由時間の達人②
「好きなことを続けるということ」
松元　恵　フリーダイバー

4自由時間の達人③
「好きなことを続けるということ」
谷川育子　いくらサーカス主宰

5自由時間の達人④
「私がなぜ空を飛ぶようになったのか」
多胡光純　本学卒業生
エアーフォトグラファー

6自由時間の達人⑤
「生きることの証をもとめて」
服部 文祥　サバイバル登山家

7自由時間の達人⑥
「好きなことを続けるということ」
ズッカーマン明子　パントマイムアーティスト

8自由時間の達人⑦
「好きなことを続けるということ」
内堀晃太郎　本学卒業生　プロダンサー

9自由時間の達人⑧
「高齢者のためのレジャー」
山崎律子（株）余暇問題研究所代表取締役

10自由時間の達人⑨
「好きなことを続けるということ」
麻生子八咫　本学卒業生　活弁士

11自由時間の達人⑩
「新しい旅行の動向」
福井　善朗　神戸夙川学院大学客員教授

12自由時間の達人⑪
「好きなことを続けるということ」
村山恵梨　プロボウラー

13自由時間の達人⑫
「好きなことを続けるということ」
指揮者　鈴木彰久

14自由時間の達人⑬
「好きなことを続けるということ」
講師未定

15自由時間を「自由時間をレジャーとするために」
和田　智　獨協大学教授

講師の都合により、予定が変わることがあります。

08 年度以降	ことばと思想 1(日本語文法形態論)	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 日本語の文法のうち形態論をとりあげる。形態論とは語の内部構造を決定する過程である。講義では，日本語における形態素の認定にはじまり，融合的な過程である活用と接辞による派生とをあつかい，さらに自律的な形態素同士の結合である複合と，特殊な問題である漢語の構造をあつかう。 [講義概要] 履修者は毎回の該当箇所を予習し，わからない点を明確にしてから出席することが要求される。また，PORTAのコメント機能を利用した質問の提示も要求される。授業は，テキストを読了していることを前提としたうえで，質問への回答とテキスト内の個人ワーク用の課題の解答を確認したのち，毎回，テキスト内のグループワーク用の課題について，授業内グループでの議論をし，その報告を提出する，という構成がとられる。	1. 形態論とは 2. 単語 3. 品詞 4. 形態素の認定 5. 形態素の種類 6. 語構成 7. 活用 8. 二次語幹 9. テ形からの拡大 10. 自動詞と他動詞 11. 名詞の文法カテゴリ(1) 12. 名詞の文法カテゴリ(2) 13. 複合(1) 14. 複合(2) 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	PORTA 配布テキストを読了し，質問を準備するとともに，テキスト内の問題に解答しておくこと。
テキスト、参考文献	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。
評価方法	期末試験(70%)　授業活動の積極性(30%)

08 年度以降	ことばと思想 1(日本語文法統語論)	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 日本語の文法のうち統語論をとりあげる。統語論とは語から文をくみたてるときの，語順に関する構造を決定する過程のことである。この授業では，基本的には生成文法の枠組みから日本語を分析し，その構造的な普遍性を把握することを目的とする。 [講義概要] 履修者は毎回の該当箇所を予習し，わからない点を明確にしてから出席することが要求される。また，PORTAのコメント機能を利用した質問の提示も要求される。授業は，テキストを読了していることを前提としたうえで，質問への回答とテキスト内の個人ワーク用の課題の解答を確認したのち，毎回，テキスト内のグループワーク用の課題について，授業内グループでの議論をし，その報告を提出する，という構成がとられる。	1. 統語論の基礎 2. 単文の構造(1) 3. 単文の構造(2) 4. 主語と目的語 5. 格 6. 命題のパターン 7. かき混ぜ 8. 受動・使役 9. 恩恵 10. 句構造 11. 移動 12. c 統御 13. VP 補文 14. CP 15. 関係節

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	PORTA 配布テキストを読了し，質問を準備するとともに，テキスト内の問題に解答しておくこと。
テキスト、参考文献	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。
評価方法	期末試験(70%)　授業活動の積極性(30%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

13 年度以降 08～12 年度	ことばと思想 1 (言語学概論) ことばと思想 1 (言語学 a)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する．ここでは言語学の基礎的および応用的領域を取り上げ，社会における言語の機能を理解すると共に，その背景にある基本的な考え方を学ぶ．主として英語を対象言語とするが，言語資料分析については他の言語も扱う．また，言語学の周辺領域における言語研究にも言及する．	1. 話し言葉と書き言葉 ～言葉は約束事 : 言語学の研究対象，記号論，ローマ字表記 2. 動物の言語と人間の言語 ～チンパンジーも言葉が話せる？ : 動物のコミュニケーション 3. 言語と脳 ～失われた言葉を取り戻す : 心理言語学と大脳生理学 4. 子供の言葉の発達 ～どのようにして言語を習得するか？ : 第1言語の発達過程 5. 外国語の上達 ～どのようにしたらうまく話せるようになるか？ : 第2言語の習得理論 6. 音と音声 (1) ～カテゴリーができるまで : 調音音声学と音韻論 7. 音と音声 (2) ～音声はどのように聞こえるか？ : 音響音声学と聴覚音声学 8. 統語論 ～「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述 : 構造主義文法，生成文法，その他の文法 9. 形と意味 ～発話に意味を込める : 形態論，意味論，語用論 10. 会話の原則 ～言葉の適切な使い方 : 談話分析 11. 言語と社会 ～言葉の多様性と普遍性 : 社会言語学 12. 世界の言語とその系統 ～言語の系統と分類 : 歴史言語学 13. 言語の進化 ～言語と人類の発達 : 言語考古学 14. コンピューターと言語 ～近未来の言語研究 : 人工知能，機械翻訳，コーパス言語学 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする．
テキスト、参考文献	教科書 G. ユール／今井・中島訳 『現代言語学 20 章』(大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1)
評価方法	定期試験．

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	ことばと思想 1 （言語学 b）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある．メッセージを単位記号（デジタル信号）に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり，文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである．この授業では言語の基本的な構造を取り上げ，理論的枠組みを理解すると共に，ハンズオン的学習を通して言語資料の分析練習を行う．対象言語は英語を初め各国語にわたる．教材の事前予習を前提とする．	1. 形態論 (1)　形態素の同定（ハンガリー語，スペイン語） 2. 形態論 (2)　形態素の同定（現代ヘブライ語，マレー・インドネシア語，ペルシア語） 3. 形態論 (3)　形態素の同定（ラテン語，ラコタ語） 4. 音声学・音韻論 (1)　発音記号，音素・異音（英語） 5. 音声学・音韻論 (2)　音韻の同定（ウィチタ語，古典ヘブライ語，ラコタ語） 6. 音声学・音韻論 (3)　音素の同定（スペイン語，ヒンディー語，日本語） 7. 音声学・音韻論 (4)　超分節音素の同定（中国語，アイスランド語・スワヒリ語・アラビア語・英語） 8. 音声学・音韻論 (5)　音韻現象，生成音韻論（トルコ語，英語） 9. 統語論 (1)　直接構成素分析，句構造規則（英語） 10. 統語論 (2)　句構造規則（英語，イタリア語・ギリシア語） 11. 統語論 (3)　構造形成，語順，格（英語，中国語，ドイツ語，クリンゴン語） 12. 意味論　上位概念・下位概念，同意語・反意語（英語，日本語，ペルシア語） 13. 語用論　新旧情報，言語行為，話題化（英語，中国語） 14. 書記法（英語，イタリア語，ギリシア語，ヘブライ語） 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。
テキスト、参考文献	教科書 Paul R. Frommer & Edward Finegan, Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 5th ed.(Heinle, 2011; ISBN: 978-0495912316)
評価方法	定期試験。

08 年度以降	ことばと思想 1(日本語教育概説)	担当者	石塚　京子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義概要＞ 「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。この講義は、日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。なお、日本語教師養成課程を履修する学生にとっては、日本語教授法 1 の内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。 ＜講義の目的＞ 1.日本語教育と国語教育の違いを知る 2.日本語教育の歴史と現状を知る 3.さまざまな外国語教授法を概観する 4.日本語を外国語として客観的に捉える 5.外国語としての日本語の指導法を考える 6.教師の役割を考える	1.講義の概要説明、日本語教育の一例を紹介 2.日本語教育とは何か(1)　日本語教育と国語教育の違い 3.日本語教育とは何か(2)　日本語教育の歴史 4.日本語教育とは何か(3)　日本語教育の現状 5.日本語教育とは何か(4)　コミュニケーション教育 6.外国語教授法の歴史 7.外国語教授法の紹介(1) 8.外国語教授法の紹介(2) 9.異文化接触と日本語教育 10.言語教育と言語学習観 11.日本語のしくみと指導のポイント(1) 12.日本語のしくみと指導のポイント(2) 13.教室活動の活動例 14.教師の役割と評価 15.講義のまとめ ＊進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に出される課題について事前に調べておいてください。 配布した資料を授業後にまとめ、次回までにきちんと内容を整理しておいてください。
テキスト、参考文献	参考文献：佐々木泰子著『ベーシック日本語教育』（ひつじ書房、2007）＊その他は授業中に適宜紹介
評価方法	定期試験（70%）、平常点や課題などの提出状況（30%）を総合的に評価

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	ことばと思想 1 (倫理の基本について考える)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。しかし、この良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する良識がでてきたりしたとき、この「なぜ」が、つまり倫理的問いかけが生まれるのである。 近代という時代はこの倫理的問いかけを、敬(軽)して遠ざけてきた。しかし最近、倫理への関心は急速に高まっている。良識が揺らいできているのである。 講義では、倫理的問いかけの基本を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。最後に、これをふまえて現代倫理を代表する自由主義と功利主義を批判的に検討したい。	1. 哲学と倫理 2. 非倫理の時代か倫理の時代か 3. 「倫理」の概念 4. 倫理と道徳 5. 規範としての倫理(1)……習俗と倫理 6. 規範としての倫理(2)……法と倫理 7. 価値としての倫理(1)……四球から善へ 8. 価値としての倫理(2)……「事実・価値」問題 9. 行為への問い(1)……行為の構造と近代的行為モデル 10. 行為への問い(2)……他者からの問いかけ 11. 行為への問い(3)……動機主義と結果主義 12. 功利主義の倫理(1)……ベンサム 13. 功利主義の今日的展開 14. 自由主義の倫理(1)……カントとミル 15. 自由主義の倫理(2)……現代の自由主義

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストを使わない講義ですから、ノートをきちんととり復習をすることが大事です。
テキスト、参考文献	テキストは使いません。参考文献は適宜紹介します。
評価方法	期末の定期試験で評価します。

08 年度以降	ことばと思想 1 (環境と生命の倫理)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
21世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方で、人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいはやさしく殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。内的自然支配の深まりと外的自然支配の限界ともいうべきこの両者を見据えながら、伝統的な生命観や自然観を考え直していくこと、これが講義の課題である。生命倫理学とか環境倫理学という新しい学問分野が関心を集めているが、そこでの議論を踏まえて進めていく。	1. 「倫理問題」とは？……応用倫理について 2. 生命をめぐる状況(1) 「医療化社会」批判 3, 生命をめぐる状況(2) 所有的身体観と要素的生命表象 4. 生命倫理の前線(1) 医療倫理から生命倫理へ 5. 生命倫理の前線(2) 中絶、生殖医療の問題 6. 生命倫理の前線(3) 安楽死問題 7. 生命倫理の前線(4) 臓器移植の問題 8. ケアの倫理……人のケアから自然のケアへ 9. 環境倫理の世界(1) 環境保護とはどういうことか 10. 環境倫理の世界(2) 生態系価値を中心にする思想 11. 環境倫理の世界(3) 自然物の権利を中心とする思想 12. 環境倫理の世界(4) 地球レベルでの構造的不正義 13. 環境倫理の世界(5) 不正義に関する倫理的言説 14. 環境倫理の世界(6) 持続可能性と世代間倫理 15. 生命と環境とをつなぐ倫理的課題

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストを使わない講義ですから、ノートをきちんととり復習をすることが大事です。
テキスト、参考文献	テキストは使いません。参考文献は適宜紹介します。
評価方法	期末の定期試験で評価します。

08 年度以降	ことばと思想 1 (社会思想史 1)(市民的社会像の黎明期)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
現代を生きる私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の形成を、西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。 前期では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という観念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗あるいはその変革のなかで、新しい価値観や生き方が模索され形成される時代である。 後期の講義へとつながる問題意識として、「国家というまとまり」と「市場というまとまり」への二重の視点が生まれてくる過程に目を向けたい。	1. 授業の狙いについて 2.「社会」という思想問題 3.「市民社会」の原型と近代的再生 4. ルネッサンス思想と古典古代文化 5. マキャベリと『君主論』 6. マキャベリと近代政治理論 7. ユートピアという思想 8. トマス・モアと『ユートピア』 9. 中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 10. ルターの改革運動と神学 11. ルターの政治思想 12. ルターの職業思想 13. カルヴィニズムの宗教思想 14. カルヴィニズムと近代的エートス 15. まとめ－主権国家と市場社会

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストを使わない講義ですから、ノートをきちんととり復習をすることが大事です。
テキスト、参考文献	テキストは使いません。参考文献は適宜紹介します。
評価方法	期末の定期試験で評価します。

08 年度以降	ことばと思想 1 (社会思想史 2)(市民的社会像の確立期)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
西欧では 17 世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業がはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりに、個人が自分の自然権を守るため、契約という作為を通して国家を作るという社会契約思想が生みだされる。これと並んで、社会を担う「国民」が経済的主体として自覚され、国家と区別される市民社会という観念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて 19 世紀のマルクスまでたどってみる。ここでも「国家というまとまり」と「市場というまとまり」が隠れた主題となる。	1. 授業の狙いについて 2. 西欧自然法思想の源泉 3. 自然法思想の近代的転回 4. 社会をめぐる自然と作為(1)…ホッブズの利己心 5. 社会をめぐる自然と作為(2)…ホッブズの国家観 6. 個人を守ること(1)…ロックの所有的個人主義 7. 個人を守ること(2)…ロックの政治的自由主義 8. 文明化という課題…フランス啓蒙思想たち 9. 風土と社会…モンテスキューの権力論 10. 個人と社会の一体化(1)…ルソーの歴史認識 11. 個人と社会の一体化(2)…ルソーのデモクラシー 12. 社会は自然に発生する(1)…ヒュームの自然法批判 13. 社会は自然に発生する(2)…スミスの市場社会秩序 14. 社会的に生きる(1)…社会主義の思想 15. 社会的に生きる(2)…マルクスの思想

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストを使わない講義ですから、ノートをきちんととり復習をすることが大事です。
テキスト、参考文献	テキストは使いません。参考文献は適宜紹介します。
評価方法	期末の定期試験で評価します。

08 年度以降	ことばと思想 1(応用言語学)	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
+応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である（言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である)。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。 言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の４領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。 出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。	第 1 回：概要：応用言語学とは 第 2 回：習得のメカニズム 　　インプット・アウトプット仮説 第 3 回：言語習得と脳 1 第 4 回：言語習得と脳 2 第 5 回：４技能の習得：リーディング 第 6 回：４技能の習得：リスニング 第 7 回：リーディング・リスニングまとめ 第 8 回：４技能の習得：スピーキング・ライティング 第 9 回：口頭発表 1 第 10 回：言語喪失（社会） 第 11 回：言語喪失（個人） 第 12 回：バイリンガリズム（個人） 第 13 回：バイリンガル教育 第 14 回：口頭発表 2 第 15 回：まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、レポート課題および口頭発表の準備をすること。
テキスト、参考文献	配布資料・論文等有り。
評価方法	論文のまとめなど諸課題（30%)、口頭発表（30%)、期末テスト（40%）

08 年度以降	ことばと思想 1(第二言語習得)	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを理解し、諸理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。特に個人要因に焦点をあてる。また、テーマごとに論文を読み、研究方法、問題点、展望などについて議論する。 出席を前提とする。 また、課題（論文講読など）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 回：概要：環境要因・個人要因 第 2 回：環境要因、社会的動機づけ理論 第 3 回：適性、MI 第 4 回：不安 第 5 回：動機づけ 1 第 6 回：動機づけ 2 第 7 回：学習ストラテジー、学習ビリーフ、好意度 第 8 回：意欲、WTC 第 9 回：グループワーク：言語習得過程モデル 第 10 回：口頭発表 第 11 回：年齢：臨界期仮説、早期英語教育 第 12 回：スピーチ学習モデル、音声認識、早期英語教育 第 13 回：グループワーク：初中等教育における英語教育 第 14 回：口頭発表 第 15 回：まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、レポート課題および口頭発表の準備をすること。
テキスト、参考文献	配布資料・論文等有り。
評価方法	論文のまとめ（50%)、グループワーク→口頭発表→まとめレポート（50%）

08 年度以降	ことばと思想 1 (音楽を言葉で語る―音楽分析入門)	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
音楽は聴いて楽しむもの、言葉で描写したり分析したりするものではないと思っている方がいるかも知れません。音楽を分析・研究するには、まず音楽を言葉であらわさなくてはなりません。音楽を言葉で語るには、どのようにすればよいでしょうか？　この授業では、クラシック音楽や歌を例に、音楽を分析するにあたって注目すべきいくつかのポイントについて説明していき、みなさん自身が自分なりに音楽について語れるようになることを目指します。 音楽の演奏経験や音楽理論の知識は問いませんが、楽譜を用いて授業しますので、ある程度楽譜が読める（読むのが嫌いではない）方のほうが理解しやすいと考えます。また、ディスカッションやグループワークを行うこと、音楽学者等が書いた文章を読む機会が多いこと（音読してもらうこともあります）も了解しておいてください。みなさんが反応してくれないと成立しない授業ですので、積極的に参加できる方の受講を期待いたします。また、毎回、音楽を鑑賞しますので、鑑賞中は静粛を守ってください。	1. ガイダンス、導入 2. 長調と短調 3. テンポと拍子（1） 4. テンポと拍子（2） 5. 音の 3 要素 6. 音楽の形式（1） 7. 音楽の形式（2） 8. 音楽の形式（3） 9. 楽器法 10. 旋律（1） 11. 旋律（2） 12. ショパン 13. 分析のポイント 14. 授業内試験 15. まとめ ＊理解度等によって、内容を変更することがあります。 ＊一部、「歴史と文化 2 (楽典(音楽通論)―楽譜を読み・書くために)」の内容と重なるところもあります。

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の復習。授業で扱う作品について、必要に応じて調べてください。
テキスト、参考文献	参考文献は授業中に紹介します。教材はコピーで配布します。
評価方法	平常点（60%）および授業内試験（40%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	ことばと思想１(心理学)(人間の行動･認知･動機の一般法則)	担当者	杉山　憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は心理学から、現代の課題・問題について、幅広いテーマを選び、①研究成果、②研究方法、③日常生活との関わりや意味、について学びます。 心理学研究者として学生をみていると、①自身の個性や価値観を互いに認め合い、自信や自己効力感（コンピテンシー）を持ち、②友人や異質な人との協働学習を通じて、対人関係を身につけて欲しい、と考えています。 「自己を知る」と「他者や社会を知る」は、同じく重要で、国際社会では、標準化と個性化が求められます。 教科書は７章で構成され、執筆時のトピックスを扱っていますが、その後の発展は補足資料で補います。 春学期は、導入を含めて１～4章、①物の見方、考え方（感覚や認知）、②行動と状況の関係（行動と行動獲得・変容）、③動機や感情（モティベーション）を対象として、人間に共通な法則を学びます。	1．導入：ヒューマン・サイエンスとしての心理学とは？ 2．感じる／考える：感覚受容器、知覚・認知とは？ 3．感じる／考える：対象の意味づけ、情報処理モデル 4．感じる／考える：潜在認知、アフォーダンスなど 5．感じる／考える：センサー、ユニバーサル・デザイン 6．動く／変わる：行動と行動獲得・変容とは？ 7．動く／変わる：進化と人間行動、観察学習、認知学習 8．動く／変わる：教育と学習の違い、主体的学習 9．動く／変わる：ディープ・アクティブラーニング 10. 動く／変わる：知識基盤社会、キー・コンピテンシー 11. もえる／動かす：モティベーション、感情の役割 12. もえる／動かす：達成動機、対人社会性、共感性 13. もえる／動かす：ストレス、学習性無力感 14. もえる／動かす：内発的動機、コンピテンス 15. 春学期のまとめ、残された課題、秋学期のテーマ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前教材は PorTal に掲載し、事後展開学習は PorTal ないし教室で指示します。学修成果はリフレクションペーパー、レポート、試験等で確認し、フィードバックします。
テキスト、参考文献	テキスト：杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版 参考文献：資料を配付するか、授業中に紹介します。
評価方法	リフレクションペーパー（約 25%）、レポート（２テーマ各 25%）、試験（約 25%）で評価する予定ですが、最終的には教室で学生の意見を聴いてから決定します。

08 年度以降	ことばと思想１(心理学)(人間の個性･多様性理解)	担当者	杉山　憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は心理学から、現代の課題・問題について、幅広いテーマを選び、①研究成果、②研究方法、③日常生活との関わりや意味、について学びます。 心理学研究者として学生をみていると、①自身の個性や価値観を互いに認め合い、自信や自己効力感（コンピテンシー）を持ち、②友人や異質な人との協働学習を通じて、対人関係を身につけて欲しい、と考えています。 「自己を知る」と「他者や社会を知る」は、同じく重要で、国際社会では、標準化と個性化が求められます。 教科書は７章で構成され、執筆時のトピックスを扱っていますが、その後の発展は補足資料で補います。 秋学期は、導入の１章を含めて、５～７章、①性格や知能（パーソナリティ）、②生涯発達、子どもから高齢期（発達）、③対人関係と自己（社会）を対象として、心理学からみた人間の個人差／多様性、可塑性を学びます。	1．秋期の導入：授業ガイダンス、心理学とは何か？ 2．きわだつ／できる：パーソナリティ、そぼく性格観 3．きわだつ／できる：多様な人間性モデル、全体的理解 4．きわだつ／できる：Big Five性格検査、標準心理検査 5．きわだつ／できる：知能、創造性、社会的スキルとは? 6．育つ／育てる：発達理論、生涯発達視点とは？ 7．育つ／育てる：愛着、アロマザリングとは？ 8．育つ／育てる：青年期と勤勉性、発達支援 9．育つ／育てる：高齢化社会、ポジティブ心理学 10. かかわる／競う：社会的自己、自己制御 11. かかわる／競う：自己開示、自己呈示（印象操作） 12. かかわる／競う：同調、権威者への服従 13. かかわる／競う：社会的態度、コミュニケーション 14. かかわる／競う：集団、権限なきリーダーシップ 15. まとめ：各人の違いを認め、健康で幸福な生き方

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前教材は PorTal に掲載し、事後展開学習は PorTal ないし教室で指示します。学修成果はリフレクションペーパー、レポート、試験等で確認し、フィードバックします。
テキスト、参考文献	テキスト：杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版 参考文献：資料を配付するか、授業中に紹介します。
評価方法	リフレクションペーパー（約 25%）、レポート（２テーマ各 25%）、試験（約 25%）で評価する予定ですが、最終的には教室で学生の意見を聴いてから決定します。

08 年度以降	ことばと思想 1 (こころの世界)	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，まず，現代心理学の成立過程を概観する。その後，性格の形成，ストレス，心の健康とカウンセリングなどのテーマについて，心理学的研究に基づく調査や実験のデータを示しながら説明していく。 本講義を通して，心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また，心理学の基本的知識を習得し，同時に，社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。	1．はじめに：科学としての心理学 2．心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3．心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4．心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5．心理学のあゆみ④：精神分析理論 6．性格とは？：自己の性格理解 7．性格をとらえる枠組み：性格理論 8．性格の形成：遺伝的要因と双生児研究 9．性格の形成：環境的要因 10. ストレス①：ストレスと性格 11. ストレス②：ストレス・コーピング 12. ストレス③：ストレスの生理心理学 13. 現代社会とストレス 14. 現代社会とこころの病 15. カウンセリングとこころの健康

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習では授業計画に示した各回のテーマについて参考文献をもとに予習する。事後学習では講義内容について文献をもとにまとめ直す。事前・事後学習について授業内レポートにより適宜確認をおこなう。
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。事前事後学習用の参考文献は授業にて適宜提示する。
評価方法	授業におけるレポート(20%)と試験(80%)により総合的に評価する

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	ことばと思想１(通訳・翻訳論)	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とします。 学期前半では翻訳と通訳の発展の歴史、翻訳の規範などを通じて、翻訳・通訳の社会における役割と貢献について学びます。 学期後半では通訳という職業について理解を深め、また外国語学習に役立つ通訳訓練法を紹介します。 授業ではパワーポイントのスライドや映像資料を利用して講義を行いますので、欠席しないようにしてください。	1. 全体ガイダンス 2. 日本の翻訳通訳の歴史１ 3. 日本の翻訳通訳の歴史２ 4. 世界の通訳史、国連通訳 5. 翻訳者・通訳者の役割、通訳の種類 6. 会議通訳、ビジネス通訳、放送通訳 7. コミュニティ通訳、司法通訳 8. 医療通訳、手話通訳、通訳案内士 9. 外国語学習と通訳訓練について 10. 職業としての翻訳 11. 出版翻訳と産業翻訳 12. 法務・特許等の翻訳 13. 翻訳と通訳の理論１ 14. 通訳と翻訳の理論２ 15. 全体のまとめ、期末試験に関する説明

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの当該箇所を精読すること。
テキスト、参考文献	鳥飼玖美子編著　『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房
評価方法	定期試験の成績によって評価する。

08 年度以降	ことばと思想 1 (英語学 a)	担当者	野々宮　鮎美

講義目的、講義概要	授業計画
英語学の諸分野について、基本的な概念やテーマを解説していきます。扱う分野は、英語の音（音声学)、単語の成り立ち（形態論)、会話の仕組み（語用論・談話分析)、英語が千年以上の歴史の中でどう変化してきたか（英語史）などがあります。英語を言語学的に分析する知識や手法を身に着けることで、英語という言語をよりよく理解することを目指します。 授業は講義形式で行いますが、コーパスのみ実習を予定しています。基本的に教科書を使用し、必要があればプリントを配布します。	1. イントロダクション　(1~3章) 2. 音声学　(6章) 3. 音韻論　(7章) 4. 形態論　(8章) 5. 統語論　(9~10章) 6. 意味論　(11章) 7. 語用論　(12章) 8. 談話分析 9. 英語史(1)：古英語　(4章) 10. 英語史(2)：中英語　(4章) 11. 英語史(3)：近代英語（5章) 12. 英語史(4)：現代英語（5章) 13. 英語の多様性・社会言語学　(14章) 14. 英語の対照言語学的研究　(15章) 15. コーパス言語学

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の該当箇所や配布プリントを事前に読んでおくこと。また、必要であれば授業後に参考文献（授業で指示する）を読んでおくこと。
テキスト、参考文献	テキスト：龍城正明（編)『英語学パースペクティブ』(南雲堂, 2015 年) 参考文献：授業中に紹介。黒田龍之助『はじめての言語学』(講談社現代新書）など。
評価方法	定期試験 60%、課題 20%、授業への参加度 10%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	ことばと思想 1 (英語学 b)	担当者	野々宮　鮎美

講義目的、講義概要	授業計画
英語の背景（歴史、使用状況など）を学ぶことで、英語についての理解を深めます。授業の前半では、1000年以上に及ぶ歴史の中で英語がどのように変化していったかを見ます。世界史の知識はあった方がいいですが、イギリスの歴史（英語の外面史）に関しては授業でも簡単に紹介します。 後半では、現代社会での多様な英語のあり方（国別の英語など）を見ます。 授業は講義形式で行います。テキストは使用せず、事前にプリントを配布し、必要であれば視聴覚教材も使用します。コーパスに関しては実習を予定しています。	1. イントロダクション：英語ってどんな言語？ 2. インド・ヨーロッパ語族 3. 古英語１（外面史） 4. 古英語２（内面史） 5. 中英語１（外面史） 6. 中英語２（内面史） 7. 近代英語１（外面史） 8. 近代英語２（外面史） 9. 世界の英語１：アメリカ英語 10. 世界の英語２：イギリス英語 11. 世界の英語３：その他の地域の英語 12. 英語の特徴１：語彙・発音 13. 英語の特徴２：文の組み立て・語順 14. 英語の特徴３：英語の「敬語」・スタイル 15. 現代英語とコーパス

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたプリントを事前に読んでおく。また、小テストに備えて、プリントを読み返したり参考文献を読んだりすることが求められる。
テキスト、参考文献	参考文献：授業で紹介する。堀田隆一『英語史で解きほぐす英語の誤解』（中央大学出版会）、寺澤盾『英語の歴史 過去から未来への物語』（中公新書）など。
評価方法	定期試験 60%、小テスト 20%、課題 10%、授業への参加度 10%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	ことばと思想 1 (倫理学 a)	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
倫理学の主な論理を概説し、グローバル化世界における価値の普遍性を模索する。また、共生への可能性をも探究する。 授業の進行としては、各論理に関する文献を纏めて講義を行う一方、グループ・ディスカッションを通して議論する。教職科目でもあり、学校という現場で伝達・理解しやすい表現にて倫理學全般の基礎を幅広く修得するものである。	1. 授業計画の説明とグループ分け 2. 倫理学の定義 3. 倫理学の方法論 4. 功利主義I、発表および議論I 5. 功利主義II、発表および議論II 6. 義務論I 、発表および議論III 7. 義務論II、発表および議論IV 8. 徳倫理学I 、発表および議論V 9. 徳倫理学II 、発表および議論VI 10. 正義と平等I、発表および議論VII 11. 正義と平等II 、発表および議論VIII 12. 共生倫理学I、発表および議論IX 13. 共生倫理学II、発表および議論X 14. 共生倫理学II、発表および議論XI 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト、参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表および議論 40%、レポート 60%

08 年度以降	ことばと思想 1 (倫理学 b)	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
応用倫理学の諸論理を概説し、現代社会の問題に沿って検討する。各課題を論理的に分析しながら、実際にどう向き合うか考えていく。 授業の進行としては、各論理に関する文献を纏めて講義を行う一方、グループ・ディスカッションを通して議論する。教職科目でもあり、学校という現場で伝達・理解しやすい表現にて倫理學全般の基礎を幅広く修得するものである。	1. 授業計画の説明とグループ分け 2. 応用倫理学の定義 3. 応用倫理学の方法論 4. 科学技術倫理学I、発表および議論I 5. 科学技術倫理学II、発表および議論II 6. 環境倫理学I 7. 環境倫理学II 8. 医療倫理学I、発表および議論III 9. 医療倫理学II、発表および議論IV 10. 情報倫理学I、発表および議論VII 11. 情報倫理学II、発表および議論VIII 12. ビジネス倫理学I、発表および議論IX 13. ビジネス倫理学II、発表および議論X 14. ビジネス倫理学II、発表および議論XI 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト、参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表および議論 40%、レポート 60%

08 年度以降	ことばと思想１（フランス・ドイツ哲学入門１）	担当者	犬塚　悠

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、近代的な思考法が誕生する 15 世紀から 19 世紀のフランス・ドイツの哲学者らに焦点を当て、宗教的世界から人間理性が目覚める過程を追うことにある。別の言葉で言えばそれは、当たり前だと思われてきた世界を人々が疑い、自分の言葉で考え直し、新たな社会を作り出していく過程である。 偉大な哲学者の人生と思想を学ぶことは、一人だけで考えていたのでは思いもよらない世界へと私たちを導いてくれる。また、哲学史という大きな流れを知ることは、私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を知るために重要である。多様な考えの共存する国際社会で活躍するために必要な批判力と表現力をこの授業で身につけてほしい。	1. イントロダクション：本講義の見取り図 2. 近代的精神の登場 3. モラリストの人間観察１ 4. モラリストの人間観察２ 5. 理性への信頼１ 6. 理性への信頼２ 7. 啓蒙思想１ 8. 啓蒙思想２ 9. 啓蒙思想３ 10. ドイツ観念論１ 11. ドイツ観念論２ 12. ドイツ観念論３ 13. ドイツ観念論４ 14. 社会主義の思想 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に配布された資料、指示された参考文献をよく読むこと。
テキスト、参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	レポート 50%、授業内小試験 50%

08 年度以降	ことばと思想１(フランス・ドイツ哲学入門２)	担当者	犬塚　悠

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、19 世紀から 20 世紀のフランス・ドイツの哲学者らに焦点を当て、実存主義・現象学・構造主義といった、今日の学問・芸術にも大きな影響を及ぼしている思想の誕生と発展を追うことにある。これらの思想は、近代以降の社会が基盤としてきた人間の理性・主体性といったものの不確実性を暴き出し、その上で改めて私たちが望みうる人生や社会の構築を考えてきた。 偉大な哲学者の人生と思想を学ぶことは、一人だけで考えていたのでは思いもよらない世界へと私たちを導いてくれる。また、哲学史という大きな流れを知ることは、私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を知るために重要である。多様な考えの共存する国際社会で活躍するために必要な批判力と表現力をこの授業で身につけてほしい。	1. イントロダクション：本講義の見取り図 2. 実存主義の先駆者１ 3. 実存主義の先駆者２ 4. 生の哲学 5. 現象学１ 6. 現象学２ 7. 現象学３ 8. 現象学４ 9. 実存主義１ 10. 実存主義２ 11. フランクフルト学派１ 12. フランクフルト学派２ 13. 構造主義 14. ポスト構造主義 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に配布された資料、指示された参考文献をよく読むこと。
テキスト、参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	レポート 50%、授業内小試験 50%

08 年度以降	ことばと思想 1 (社会思想史 1)(東洋古代から近世まで)	担当者	犬塚　悠

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、東洋という大きな文化圏の古代からの思想史を学ぶことによって、現代の日本における私たちの考え方や社会の特性への理解を高めることである。具体的には、今学期は日本にも大きな影響を及ぼした仏教と儒教が、それぞれインドと中国でどのように誕生しその後発展していったかを中心的に扱う。 私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を自覚することは、国際社会において活躍する際に強みとなる。各文化の芸術作品が美というものを多様な形で表しているように、多様性があるからこそ互いを補い世界を豊かなものにできるという意識をこの講義を通して養ってほしい。	1. イントロダクション：本講義の見取り図 2. （インド）古代インドの思想 3. （インド）原始仏教１ 4. （インド）原始仏教２ 5. （インド）大乗仏教１ 6. （インド）大乗仏教２ 7. （チベット）チベット仏教 8. （中国）諸子百家の登場 9. （中国）孔子・儒教 10. （中国）孟子・荀子 11. （中国）朱子・王陽明 12. （中国）墨子 13. （中国）老荘思想 14. 古代・中世の東洋思想のまとめ 15. 東洋思想史と日本

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に配布された資料、指示された参考文献をよく読むこと。
テキスト、参考文献	授業中に適宜指示する
評価方法	レポート 50%、授業内小試験 50%

08 年度以降	ことばと思想 1 (社会思想史 2)(東洋近世から現代まで)	担当者	犬塚　悠

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、東洋という大きな文化圏の古代からの思想史を学ぶことによって、現代の日本における私たちの考え方や社会の特性への理解を高めることである。具体的には、今学期はインドと中国で誕生した仏教・儒教等がどのように日本に影響を与えてきたか、古代からの日本思想史を通して見ていく。 私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を自覚することは、国際社会において活躍する際に強みとなる。各文化の芸術作品が美というものを多様な形で表しているように、多様性があるからこそ互いを補い世界を豊かなものにできるという意識をこの講義を通して養ってほしい。	1. イントロダクション：本講義の見取り図 2. 古代日本の宗教観・人間観 3. 仏教の受容、平安時代の仏教 4. 鎌倉時代の仏教 5. 江戸時代の儒教 6. 江戸時代の民衆の思想 7. 国学・神道・洋学・幕末の思想 8. 啓蒙思想、キリスト教、国粋主義 9. 人間解放の思想 10. 近代的自我：ロマン主義・理想主義の文学 11. 京都学派 12. 民衆の伝承と自然環境の保存 13. 戦後の日本の思想 14. 日本の思想のまとめ 15. 日本思想史と現代

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に配布された資料、指示された参考文献をよく読むこと。
テキスト、参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	レポート 50%、授業内小試験 50%

08 年度以降	歴史と文化 1(ドイツ語圏のメディア文化 a)	担当者	秋野　有紀

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、**＜想像力×歴史・社会×制度＞**をテーマとします。映画を通して、ドイツ社会の歴史的事象がどのように描き出されているのかを分析するのが目的です。たとえば歴史を扱った映画作品は、＜歴史＞そのものではないし、芸術家の＜想像力＞のみの賜物でもありません。制作された時代の＜制度＞=思想、経済、政策の枠組みの中で作り出されるものです。それゆえに、作品の背景を知ることは、その作品を生み出したドイツの社会を読み解くひとつの手がかりとなります。 講義でとりあげる作品には、比較的よく知られたドイツの歴史的事象や社会事情が描かれています。映画作品をメインに考察しつつも、文献資料などで情報を補っていくので、作品に描かれている美学化された「歴史」や「現代社会」を“疑って”みてください。そして作者が歴史や社会をそう描いた「意図」を理解し、受けとってあげて下さい。作品には必ず、制作者の意図・社会の影響・制度や技術・資金の限界からくる制約があります。作品を楽しみつつも、映像メディアを通してドイツ社会を「読む」ための方法を考えていきましょう。	**＜映画を通してドイツ社会を「読む」＞** 1. 講義の概要と評価、参考文献について 2. イメージの政治 3. 文化の政治性① 4. 文化の政治性② 5. 好ましいナチス？① 6. 好ましいナチス？② 7. “娯楽”化し、消費される負の歴史遺産 8. 学生運動からテロへ―現代ドイツ、若者の主張？① 9. 学生運動からテロへ―現代ドイツ、若者の主張？② 10. 政治の装置としての劇場・ミュージアム 11. 文化施設は「敷居が高い」のからくり 12. 監視国家―東西ドイツの心の壁① 13. 監視国家―東西ドイツの心の壁② 14. 現代ドイツにおける多文化共生と表現の自由 15. ドイツのメディア文化政策と対外文化政策の課題

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講者の関心により、内容を変更したり、順番が前後する可能性があります。
テキスト、参考文献	プリントを配布します。参考文献は、初回授業時および授業内でも指示をします。
評価方法	学期末のレポート（80%）により評価しますが、平常授業におけるレスポンスペーパーなどの実績（20%）も評価対象となります。

08 年度以降	歴史と文化 1(ドイツ語圏のメディア文化 b)	担当者	秋野　有紀

講義目的、講義概要	授業計画
＜想像力×近代国家×制度＞をテーマに、ドイツ語圏を中心として、ヨーロッパの成立事情を「読む」ことを試みます。この授業のシラバスを読んでいる皆さんはきっとドイツやヨーロッパについて知りたいと思っていることでしょう。でも、その「ドイツ」や「ヨーロッパ」が、実は自明の存在ではなかったとしたら……？この講義では、現代の欧州やドイツの政治事情と映画の世界とを行ったり来たりします。映画では、政治的権力を持ち、人々の「視線」を集める使命を与えられた人物たちに焦点を当てます。近代国家ドイツの成立史をおさえた上で、現代の欧州政治を見てみるならば、欧州の国々が経験してきた／している動揺、そしてそこに住む普通の人々の政治への地道な関与こそが、「歴史」を作っており、現在もその試行錯誤の途上にあることが分かってきます。正解のない政治の世界は、真面目な話のみで構成されているわけではありません。偶然・欲望・笑い・失言が溢れる、ツッコミどころの多い世界だったりします。その面白さを味わいながらも、その先に、周りの世界を自分で「批判」する為の立脚点を築いていって下さい。	**＜映画を通してヨーロッパ成立事情を「読む」＞** 1. 講義の概要と評価、参考文献について 2.3. 現代欧州の政治とドイツの課題 Ⅰ, Ⅱ 4. 領邦国家から近代国家へ 5. 神聖ローマ帝国 6.7. オーストリア=ハンガリー帝国①, ② 8. 対外文化政策とパブリックディプロマシー 9. 国家のイメージ戦略 10. 視線の操作とポリティクス―文化施設の制度化 11.12. ミュージアムという装置と思想①, ② 13.14. バイエルン王国①, ② 15. 「文化国家」の罠―ナチスへの道 ※ 一年を通して、映画を素材としつつ、作品の背景となる歴史や政治制度をすべて解説しながら進めていきますので、ドイツについてまったく知らないけれどちょっと興味がある、というような学生の受講を歓迎します。

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講者の関心により、内容を変更したり、順番が前後する可能性があります。
テキスト、参考文献	プリントを配布します。参考文献は、初回授業時および授業内でも指示をします。
評価方法	学期末のレポート（80%）により評価しますが、平常授業におけるレスポンスペーパーなどの実績（20%）も評価対象となります。

08 年度以降	歴史と文化１（中世の仏教と社会）	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎中世は人々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を落とした時代であった。この講座では、平安末期の源平争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再建した勧進聖重源（かんじんひじりちょうげん）の活動を観ることによって、中世社会に果たした仏教の役割を考えたい。 （１）　東大寺を再建した男 （２）　重源の時代 （３）　信仰と経済	①　炎上する東大寺 ②　誰の力に頼るか ③　重源の業績 ④　木材をどこから運ぶか ⑤　出現した大群衆 ⑥　雨を突いて伊勢へ ⑦　重源の記憶 ⑧　法然と重源 ⑨　合戦の中の黒田荘（くろだのしょう） ⑩　天変地妖（てんぺんちよう）と飢餓・疫癘（えきれい） ⑪　源平合戦の余燼 ⑫　聖の社会事業 ⑬　新しい経済社会の出現 ⑭　後生の約束 ⑮　「荘園」外の経済

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業関連事項を図書館で調べる。ノートに整理する。
テキスト、参考文献	参考文献　新井孝重『黒田悪党たちの中世史』（NHK ブックス）、新井孝重『楠木正成』（吉川弘文館）
評価方法	試験成績(100%)による。

08 年度以降	歴史と文化１（中世の「悪党」と民衆）	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　中世は一揆の時代であるとも言われている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域自治とは何か、という問題を通じて民主主義の基礎を歴史的に考えたい。 （１）　戦乱の中の伊賀 （２）　自立する村 （３）　戦国のコンミューン	①　伊賀国の南北朝内乱 ②　錯綜する地侍の行動 ③　大規模な合戦は続けられない ④　国人領主の出現 ⑤　自立する村 ⑥　南都への志向 ⑦　悪党たち、起請文を提出 ⑧　タテの力とヨコの力 ⑨　惣国のコンミューン ⑩　内部の規律と「平和」 ⑪　織田信長軍、伊賀へ侵攻 ⑫　崩れ去る惣国・中世の黄昏 ⑬　兵農分離と石高制 ⑭　中世民衆の共同体をどうみるか ⑮　荘園史のまとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする
事前・事後学修の内容	授業関連事項を図書館で調べる。ノートに整理する。
テキスト、参考文献	参考文献　新井孝重『黒田悪党たちの中世史』（NHK ブックス）、新井孝重『楠木正成』（吉川弘文館）
評価方法	試験成績(100%)による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化１（日本文学論・中世Ⅱ）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：お伽草子に見る中世日本人の想像力を考えることで現代日本文化の淵源を探る。 講義概要：鎌倉時代以降、日本人の庶民の想像力が解放されて爆発的に様々な「お話」が記録されるようになった。それらを総称して「お伽草子」と呼ぶ。 現在「昔話」として語られる「お話」のほとんどは、「お伽草子」に淵源していると言っても過言ではない。つまりそれは、現代日本人の発想の根源の大きな一つが「お伽草子」にあるということである。 今期は「浦島太郎」と「一寸法師」を講読する。皆よく知っている昔話だが、実は元の形はかなり違っている部分もある。生活の中に潜む「境界領域」観を明らかにしながら物語を楽しんでいく。	1. オリエンテーション・導入 2. 概説①（日本の「お話」の歴史） 3. 概説②（「お伽草子」とは何か？） 4. 「浦島太郎」を読む① 5. 「浦島太郎」を読む② 6. 「浦島太郎」を読む③ 7. 「浦島太郎」を読む④ 8. 「浦島太郎」を読む⑤ 9. 「一寸法師」を読む① 10. 「一寸法師」を読む② 11. 「一寸法師」を読む③ 12. 「一寸法師」を読む④ 13. 「一寸法師」を読む⑤ 14. 「境界領域」と御伽草子 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキストを読んでくること。　事後学修：講義の重点を確認しておくこと。
テキスト、参考文献	テキスト：授業時にプリントを配布する。　参考文献：『境界領域論（仮題）』（飯島一彦著、新典社）、その他については授業中に一覧をプリントして配布する。
評価方法	学期末に、記述式の試験を実施する。その成績による。

08 年度以降	歴史と文化 1 (スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	担当者	井垣　昌

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この講義の目的は、ラテンアメリカの社会文化の特徴について、その構成と形成過程とともに概観し、域内の共通性と多様性について理解することにある。また、域外との関わりについて学ぶことで、世界におけるラテンアメリカおよび域外諸地域との結び付きについて理解を深める。 講義概要 　この講義では、ラテンアメリカの社会と文化について、いくつかのテーマに沿って授業を進める。授業では、講義に加え、テーマに関連する（と思われる）ことについて受講生が自ら調べることを奨励する。 　なお、右記の授業計画は、進捗状況などにより変わる場合がある。	1. オリエンテーション／ラテンアメリカの全体像 2. ラテンアメリカの地域的な特徴 3. ラテンアメリカにおける人種的な社会構成 4. ラテンアメリカにおける民族的な社会構成 5. ラテンアメリカにおける宗教的な多様性 6. ラテンアメリカにおける国家と社会の形成 7. ラテンアメリカにおける伝統文化の創造 8. ラテンアメリカをめぐる人の移動と基層文化 9. ラテンアメリカをめぐる人の移動と他者認識 10. ラテンアメリカの祝祭にみる社会文化の形成 11. ラテンアメリカの嗜好品にみるグローバル化 12. ラテンアメリカの嗜好品にみる反グローバル化 13. ラテンアメリカの社会文化と日本 14. 総まとめと質疑応答 15. 期末試験

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：資料の指定された箇所を精読し、用語の意味と具体例を関連付けて把握しておくこと。 事後：授業の学習内容を復習し、新出用語の意味と具体例を調べること。出された課題に取り組むこと。
テキスト、参考文献	テキスト：参考資料を配布 参考文献：授業中に紹介
評価方法	期末試験 50%、平常点 50%（小テスト、リアクションペーパー、プレゼンテーションなど）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化 1(日本研究概論Ⅱ)	担当者	生田　守

講義目的、講義概要	授業計画
日本語・日本人・日本文化について、トピックごとに研究や課題を紹介し、日本研究の視点を涵養するのが、この講義の目的である。 日本語とは、世界言語の中で見た場合、どんな特徴を持っているのだろうか。日本社会と敬語はどのように結びついているのだろうか。 文化とは何か。日本文化を普遍的な尺度で捉えるとはどういうことか。 さらに、日本人・日本文化論について、代表的な書を取り上げて分析する。 授業は講義形式で行う。	1.講義の概要 2.日本語論(1)世界の中の日本語 3.日本語論(2)日本語の言語的特徴 4.日本語論(3)日本語的表現 5.ことばと社会①日本社会と敬語 6.ことばと社会②ポライトネスと敬語 7.文化をめぐって①文化とは 8.文化をめぐって②価値・倫理 9.文楽に見る忠義 10.日本文化論を読む①(『武士道』、『菊と刀』、『「甘え」の 11.日本文化論を読む②　構造』等、代表的な書を取り上げ 12.日本文化論を読む③　る) 13.日本文化論を読む④ 14.日本文化論を読む⑤ 15.講義のまとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	特になし
テキスト、参考文献	授業時に資料を配布する
評価方法	試験 100%

08 年度以降	歴史と文化 1 (歴史学 1)(ヨーロッパ史 1)	担当者	上村　敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本講義は「歴史学とはどのような学問なのか」について、ヨーロッパ史を例にして概観し、歴史学の方法と対象、叙述スタイルについて理解を深めるとともに、現代においてなぜ歴史を学ぶ必要があるのかについて考えていく。 【講義概要】 最初に、古代ギリシアの歴史家ヘロドトスから実証史学の立役者ランケを経て、社会史を唱えたアナール学派、20 世紀後半以来歴史学の中心を占めるようになった文化史に至るまでの歴史学の歴史を簡単に紹介する。そして、いくつかの代表的な歴史研究の事例を挙げながら、歴史学の方法と対象について理解を深める。 ＊本授業計画はあくまでも予定であり、変更の可能性がある 正確な授業予定については初回ガイダンスで配布する。	第1回　授業ガイダンス「なぜ歴史を学ぶのか？」 第2回　歴史学の歴史（I）歴史学の誕生 第3回　歴史学の歴史（II）近代歴史学の誕生 第4回　新しい歴史学（I）実証史学への挑戦：アナール学派 第5回　新しい歴史学（II）文化史の台頭 第6回　歴史学の方法と対象（I）ミクロヒストリー 第7回　歴史学の方法と対象（II）グローバルヒストリー 第8回　歴史学の方法と対象（III）記憶の歴史 第9回　歴史学の方法と対象（IV）ナショナリズム研究 第10回 歴史学の方法と対象（V）書物の歴史 第11回 歴史学の方法と対象（VI）ジェンダー史 第12回 歴史学の方法と対象（VII）図像史料と歴史学 第13回 歴史学の方法と対象（VIII）フィクションと歴史学 第14回 まとめ 第15回 確認テスト

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：講義に備えて高校で使用した世界史の教科書の特にヨーロッパ史を扱った箇所を読み直すこと。 事後：講義で扱った歴史家や歴史書について自分の関心に応じて実際に手にとって読んでみてください。
テキスト、参考文献	講義の中で適宜指示する。
評価方法	授業内での課題（100%）、詳細は授業ガイダンスで説明する。

08 年度以降	歴史と文化 1 (歴史学 2)(ヨーロッパ史 2)	担当者	上村　敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本講義は、ヨーロッパの政治文化史について、特にハプスブルク君主国を中心とする中央ヨーロッパの事例を中心に取り上げながら、理解を深め、世界史の大きな転換点の一つである18世紀という時代のヨーロッパの歴史と文化について考えていく。 【講義概要】 2017年はハプスブルク家の女性君主マリア・テレージア生誕300周年という記念すべき年である。そこで本講義では、彼女が生きた18世紀ハプスブルク君主国における政治文化を様々な側面から考察する。 ＊本授業計画はあくまでも予定であり、変更の可能性がある 正確な授業予定については初回ガイダンスで配布する。	第1回　授業ガイダンス「18 世紀のヨーロッパ世界」 第2回　18 世紀ハプスブルク家の偉大な人物たち（I) 第3回　18 世紀ハプスブルク家の偉大な人物たち（II) 第4回　拡大の時代 第5回　18 世紀の政治世界 第6回　戦争の時代（I) ブルボン家とハプスブルク家 第7回　戦争の時代（II)オスマンの衰退とプロイセンの台頭 第8回　ハプスブルクの宮廷文化 第9回　精神世界の変化：啓蒙の時代 第10回 18 世紀の社会変化 第11回 災害の時代 第12回 改革の時代 第13回 フランス革命とハプスブルク君主国 第14回 まとめ 第15回 確認テスト

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：講義に備えて高校で使用した世界史の教科書の特にヨーロッパ史を扱った箇所を読み直すこと。 事後：講義で扱った参考文献について自分の関心に応じて実際に手にとって読んでみてください。
テキスト、参考文献	講義の中で適宜指示する。 本講義の構成は Karl Vocelka, *Glanz und Untergang der höfischen Welt*, (Wien 2001)を参考にしている。
評価方法	授業内での課題（100%）、詳細は授業ガイダンスで説明する。

08 年度以降	歴史と文化１(英語圏の文学)	担当者	大熊　昭信

講義目的、講義概要	授業計画
授業目的 今日グローバル社会と言われ、英語が世界語となっている事態から予想されるように英語で作品を発表する作家が増えている。しかしこうした事態はすでに植民地主義以後のイギリスやアメリカの植民地で始まっていたことである。それはもはやイギリス文学、アメリカ文学といった範疇を超えている。そうした英米人ならぬ作家たちの作品を含めて英語圏文学というのである。この授業ではそうした作家たちの多彩な創作活動を網羅的に紹介する。 講義概要 英米の旧植民地の作家や英米の作家の植民地に取材した作品を紹介し、カナダのアトウッドの『サバイバル』の紹介からはじめて、ソール・ベローや日系のジョイ・コガワ、黒人作家のイシュメール・リード、キャリル・フィリップス、イギリス人アメリカ人作家の植民地体験としてロレンスやメルヴィルなどを紹介する。	第１週　講義概要 第２週　カナダ 第３週　オストラリア、ニュージーランド 第４週　サモア 第５週　日系アメリカ人 第６週　ユダヤ人作家 第７週　中国系アメリカ人、朝鮮系アメリカ人 第８週　ガイアナ 第９週　カリブ海諸島 第 10 週　アフリカの英語作家 第 11 週　イギリス人作家の植民地体験 第 12 週　アメリカ人作家の植民地体験 第 13 週　アメリカの黒人作家 第 14 週　イギリスの黒人作家 第 15 週　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回事前にポータルサイトにアップしてある授業概要をダウンロードして目を通し、授業中にはそれにメモを加え、事後にはメモを見ながら全体を復習すること
テキスト、参考文献	参考文献：大熊昭信・庄司宏子編著『グローバル化の中のポストコロニアリズム――環太平洋諸国の英語文学と日本語文学の可能性
評価方法	定期試験５０％、レポート３０％、小テスト１０％、授業での発言１０％

08 年度以降	歴史と文化１(英語圏の文学Ⅱ)	担当者	大熊　昭信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 現代は異文化が混在する多文化社会と言われている。だが、いったい多文化社会とはどのような社会なのか。どのように形成されたのか。その中で文化はどのような形をとるのか。異文化間の交流にはどのような形態があるのか。そうした疑問に答えつつ、そこにみられるさまざまな文化交流や変容の在り方を、文化変容、異種混合といったタームを導入しながら、英語圏文学に具体例をとって検討したい。 講義概要 多文化社会から誕生し、現在生産され消費されている今日の英語圏文学の作家や作品をとりあげ、それらの国家間民族間の移動に焦点をあてて批評的に検討する。	第１週　講義の概要 第２週　多文化社会の形成 第３週　多文化社会のありかた 第４週　多文化社会のありかた（２） 第５週　多文化社会のなかの文学の在り方 第６週　植民地の作家の場合（１） 第７週　植民地の作家の場合（２） 第８週　宗主国の作家（１） 第９週　宗主国の作家（２） 第 10 週　エクソフォニー 第 11 週　クレオール：ハワイピジン 第 12 週　翻訳 第 13 週　在日と移民、 第 14 週　世界文学のほうへ 第 15 週　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回事前にポータルサイトにアップしてある授業概要をダウンロードして目を通し、授業中にはそれにメモを加え、事後にはメモを見ながら全体を復習すること
テキスト、参考文献	参考文献：大熊昭信・庄司宏子編著『グローバル化の中のポストコロニアリズム――環太平洋諸国の英語文学と日本語文学の可能性
評価方法	定期試験５０％、レポート３０％、小テスト１０％、授業での発言１０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化 1（日韓交流史）	担当者	金　熙淑（김 희숙）

講義目的、講義概要	授業計画
日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」（あるいは相互認識）のあり方やその変化についても焦点を当てていく。	1. ガイダンス 2. 韓国の歴史の流れ 3. 王仁博士と漢文 4. 日本の中の百済文化 5. 高麗時代の社会状況 6.『三国史記』と『三国遺事』 7. 朝鮮通信史① 8. 朝鮮通信史② 9. 豊臣秀吉と李舜臣① 10. 豊臣秀吉と李舜臣② 11. 申叔舟と雨森芳洲 12. 安重根と伊藤博文 13. 日韓併合の政策 14. 淺川巧と韓国 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	日韓交流の視点から出来事を学び、そのときの自分ならではの鋭いまなざしを向ける。
テキスト、参考文献	レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。
評価方法	毎回提出するコメントパーパー、課題レポート（講義内容から一つのテーマを選ぶ）

08 年度以降	歴史と文化 1 (大衆文化論)	担当者	木本　玲一

講義目的、講義概要	授業計画
音楽、ゲーム等のコンテンツや、それらの背景にあるサブカルチャー（音楽文化、オタク文化など)、さらにはそれらを売買する市場について、具体的な事例をもとに講義を進めていく。コンテンツを介したグローバル化についても講義する。各産業の成り立ち、市場の形成、関連する技術の変容、制度の確立、文化の動態などについて考えながら、私たちが日常的に接している文化を多角的に見る視点を養う。	1　イントロダクション 2　20世紀のサブカルチャー1：ロックと対抗文化 3　20世紀のサブカルチャー2：ロックの成熟化 4　20世紀のサブカルチャー3：ヒップホップの時代 5　20世紀のサブカルチャー4：ヒップホップの現在 6　サブカルチャーとグローバル化1：日本のロック 7　サブカルチャーとグローバル化2：その後 8　産業と文化1：文化産業論 9　産業と文化2：市場の動態 10　不良の文化 11　オタク文化 12　ゲーム文化(1) 13　ゲーム文化(2) 14　予備 15　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で指示する課題に取り組むこと
テキスト、参考文献	授業内で随時指示する
評価方法	テスト

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化１(歴史学 1)(イスラーム世界の成立と拡大)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目標） 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 （講義概要） 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。 なお、毎回出席をとる。	1.イスラームにの基本事項について説明する。 2.イスラーム教の誕生以前の世界について。 3.預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、時代背景。 4.最初の４人のカリフ（正統カリフ）の時代について。 5.ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味。 6.アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味。 7.イスラーム教の聖典コーラン、預言者の言行録であるハディースとその解釈。 8.アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9.アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開。 10.マムルーク朝について。とくにイクター制が西ヨーロッパの封建制と比較される点。 11.同　その２ 12.ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 13.同　その２ 14.歴史にみられるイスラーム教徒の生活と社会。 15.まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき，事後に内容を整理しておくこと。
テキスト、参考文献	とくにさだめない。授業で指示する。
評価方法	レポートの評価（70%）と平常点（30%）。レポートの表紙は授業で配布するので注意すること。

08 年度以降	歴史と文化１(歴史学 2)(イスラーム世界の近代化とその後)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的） イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 （講義概要） イスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても，理解が深められるよう留意したい。 なお、毎回出席をとる。	1.オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2.欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3.「西洋の衝撃」によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4.さまざまなイスラーム改革運動について考える。 5.パレスチナ問題とエジプトの近代化について。 6.トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。 7.近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8.知識人階層であるウラマー、イスラーム法、宗教的寄進（ワクフ）などと近代化との関係について検討する。 9.近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10.20 世紀のイスラーム世界について考える。 11.現在のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。東西冷戦終結後におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。 12.同その２ 13.同その３ 14.今日のイスラーム主義の主張と展開。 15.まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき，事後に内容を整理しておくこと。
テキスト、参考文献	とくにさだめない。授業で指示する。
評価方法	レポートの評価（70%）と平常点（30%）。レポートの表紙は授業で配布するので注意すること。

08 年度以降	歴史と文化１（東西文化を結ぶもの）	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） アジア史的な観点を中心に「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい。「東洋」という概念は，「西洋」側の主観の産物だが，ひとまずそこに気付いていただくことが最初の目標である。 （講義概要） 最初はセム系の一神教の理解を歴史に沿ってすすめ，やがてキリスト教が西洋世界の形成とつながることを理解し，次に東洋におけるイスラーム教や仏教やヒンドゥー教などを考察し、最後に大航海時代がもたらした「世界の一体化」の意味を検証する。	1. ユダヤ教・キリスト教の広がりとアジア世界。 2. 同その２ 3. 同その３ 4. イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。 5. 同その２ 6. 同その３ 7. 十字軍・レコンキスタとその時代。 8. 同その２ 9. 同その３ 10. 仏教・ヒンドゥー教とその世界。 11. 同その２ 12. 日本への仏教の伝播とその性格。 13. 同その２ 14. 大航海時代とその後。 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき，事後に内容を整理しておくこと。
テキスト、参考文献	（参考書）高橋正男『物語イスラエルの歴史――アブラハムから中東戦争まで――』（中公新書）
評価方法	レポートによる評価（100%）レポートの表紙を授業で配布するので注意すること。

08 年度以降	歴史と文化１（東西文化と近代化）	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 秋学期ではとくに、東洋における近代化が事実上の「西洋化」であった点を考察し、それが生み出すさまざまな現実を検討しながら、現代の世界のしくみを理解するための橋渡しとなることが目的である。 （講義概要） アジア地域について近代化の問題を広く考察する。とくに近代化にともなってオスマン帝国が解体し，広範な地域で宗教や民族意識にかかわる問題があらわれるが、それらが現在の国際情勢と結びついている点を検討したい。	1. 中東におけるさまざまな近代化。 2. 同その２ 3. 同その３ 4. 帝国主義とイスラーム世界 5. 同その２ 6. 同その３ 7. オスマン世界の近代化と民族・宗教意識のゆくえ。 8. 同その２ 9. 同その３ 10. ヨーロッパのオスマン世界、とくに旧ユーゴスラヴィアにおける民族意識の形成。 11. 同その２ 12. 同その３ 13. 旧ソ連諸国の民族意識。 14. 同その２ 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき，事後に内容を整理しておくこと。
テキスト、参考文献	（参考書）高橋正男『物語イスラエルの歴史――アブラハムから中東戦争まで――』（中公新書）
評価方法	レポートによる評価（100%）レポートの表紙を授業で配布するので注意すること。

08 年度以降	歴史と文化 1 (韓国文化各論 c)	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は先史から朝鮮時代までの歴史を概観し、韓国の歴史に関する基礎的知識を習得し、現代社会の前近代史に対する捉え方を理解することにある。 講義では韓国史の手引書となる 1 冊を選び、先史から朝鮮時代までの歴史の歩みを、国家別・時代別にみていく。この際、国内政治とともに、東アジアや西洋との国際関係の中での歴史的展開を重視する。また、各回で扱う単元に関連する論点を取り上げ、現代社会の韓国前近代史に対するまなざしも考えるようにしたい。 基本的には講義形式だが、重要な論点についてはグループで議論・発表するようにする。また授業の中で内容理解の定着を図るため、随時プリントを配布し、小テストも行う。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1. ガイダンス 2. 韓国史の時代区分 3. 韓国の先史時代 4. 古朝鮮・楽浪と領域論 5. 高句麗史と帰属問題 6. 百済史の展開と古代日本 7. 新羅の成長 8. 加耶諸国と倭 9. 統一新羅とその虚構性 10. 渤海の領域と対外関係 11. 高麗社会の展開と外交 12. 朝鮮前期の政治構造と国際関係 13. 朝鮮後期の社会変動 14. まとめ 1 15. まとめ 2

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキストを読んでくること。また授業中に配布したプリントに関しては整理しておくこと。
テキスト、参考文献	田中俊明編『朝鮮の歴史 ： 先史から現代』昭和堂, 2008 年
評価方法	授業に対する積極的参加度(10%),　レポート(30%),　グループ発表(20%),　期末試験(40%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化１(韓国史)	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
ここ数年、日本と韓国の関係は必ずしも良いとは言えない状況が続いている。その原因は近代の歴史に関する問題である。これに関連してインターネットサイトの中には様々な見解が溢れ、中には極端なものも多い。いま必要なのは、韓国（朝鮮半島）の歴史についてのバランスのとれた理解である。そこで本講義では韓国の通史を講義し、東アジアの中での韓国の位置および日韓関係について学ぶ。 講義は、事前の予習を前提とし、ポイントを記したプリントを配布し、それに基づいて話をする。 知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てる。これも成績評価の対象とするので、テキストを持参の上、きちんと授業を聴くこと。	第1回：ガイダンス 第2回：古代から統一新羅へ（1） 第3回：古代から統一新羅へ（2） 第4回：高麗時代（1） 第5回：高麗時代（2） 第6回：朝鮮時代（1） 第7回：朝鮮時代（2） 第8回：朝鮮時代（3） 第9回：植民地時代（1） 第10回：植民地時代（2） 第11回：現代（1）1945年から1960年 第12回：現代（2）1960年から1980年 第13回：現代（3）1980年から2000年 第14回：現代（4）2000年以後 第15回：まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキストを読んでくること。事後学修：小テストに備え、テキストとプリントを見直すこと。
テキスト、参考文献	＜テキスト＞水野俊平著『韓国の歴史』(河出書房新社、2007 年、1800 円)。 参考文献は授業時に指示する。
評価方法	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）。 ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化１（ラテンアメリカ研究入門）	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。 高校までの地理や世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々 の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深 く知る場としたい。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。	1　導入①　ラテンアメリカの多様性：ステレオタイプについて　シャキーラ、「ハンモックの埋葬」を題材に 2　導入②　ラテンアメリカの地理・気候と食文化 3　導入③　メキシコ食文化とグローバル化 4　人種・民族①　先住民とメスティーソ、ヨーロッパ系 5　人種・民族②　アフリカ系とアジア系 6　歴史①　先コロンブス期：インカ、アステカ、マヤ 7　歴史②　植民地期：コロンブスの到達の歴史的意味 8　文化と社会①　宗教と祭り、家族、女性 9　文化と社会②　文学と造形芸術 10　歴史③　ラテンアメリカの独立と 19 世紀 11　歴史④　米国と対峙する 20 世紀のラテンアメリカ 12　経済と社会・政治①　開発主義と独裁から民主化へ 13　経済と社会・政治②　ラテンアメリカの挑戦 14　米国ラティーノ：新しい民族集団の形成 15　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポルタおよび授業で配る資料を事前に読むこと。事後学習については授業中に指示する。
テキスト、参考文献	授業内で指示する。
評価方法	数回の小テストと出席３割、期末テスト７割

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化 1 (恐怖の日本文学)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
人間の感情で最も大きなものは、恐怖と快感である。本講義では、その恐怖の観念にスポットを当て、日本の伝統の中に恐怖がどのように描かれ、また現代人にとっての恐怖とは何かを探る。 現代日本文学におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるかを考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮までブックレビュー的に幅広く言及し、日本文学の奥深さと楽しさを味わう。 　春学期は、「恐怖」にスポットを当て、恐怖を扱った作品から日本人の恐怖の構造理解まで進む。	1.恐怖の現代文学のアウトライン 2.伝統的手法による恐怖、荒俣宏「帝都物語」 3.伝統的手法による恐怖、京極夏彦「魍魎の匣」ほか 4.伝統的手法による恐怖、坂東眞砂子「死国」ほか 5.超自然的事象の恐怖、「二重螺旋の悪魔」ほか 6.超自然的事象の恐怖、鈴木光司「リング」ほか 7.超自然的事象の恐怖、瀬名秀明「パラサイトイヴ」 8.心理学的な題材の恐怖、心理学的恐怖の源泉 9.心理学的な題材の恐怖、貴志祐介「黒い家」ほか 10.心理学的な題材の恐怖、桐野夏生「OUT」ほか 11.社会派ミステリーの恐怖、宮部みゆき「模倣犯」ほか 12 社会派ミステリーの恐怖、東野圭吾「容疑者Xの献身」 13.原作を映像で見る① 14.原作を映像で見る② 15.まとめ（総集編）

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前準備として、読書経験の中から恐怖を味わった作品を思い起こし、恐怖がどのような構造によるものかを事後に検証する。
テキスト、参考文献	その都度紹介する。
評価方法	授業時レポート 20%。定期試験レポート 80%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化 1(日本文学現代)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
現代日本文学におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるかを考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮までブックレビュー的に幅広く言及し、日本文学の奥深さと楽しさを味わう。 人間の感情で最も大きなものは、恐怖と快感である。本講義では、その快感＝癒やし（やさしさ）の観念にスポットを当て、日本の伝統の中に癒やし（やさしさ）が、現代人にとって何かを探る。	1.ガイダンス 2.人間関係の癒し①　　重松清「ビタミンＦ」ほか 3.人間関係の癒し②　　恩田陸「夜のピクニック」ほか 4.人間関係の癒し③　村上春樹「ノルウェイの森」ほか 5.時間の救い①　　浅田次郎「地下鉄に乗って」ほか 6.時間からの救い②　北村薫「スキップ」ほか 7.時間からの救い③　佐藤正午「Ｙ」ほか 8.笑いの持つ癒やし①　奥田英朗「インザプール」ほか 9.笑いの持つ癒やし②「しゃべれどもしゃべれども」ほか 10.美しい生き方の癒やし① 藤沢周平、司馬遼太郎、池波正太郎 11.美しい生き方の癒やし②有川浩「阪急電車」 12.美しい生き方のる癒やし③天童荒太「悼む人」ほか 13.原作を映像で見る① 14.原作を映像で見る② 15.まとめ（総集編）

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	シラバス及び前授業で予告した作品を読み、授業に備え、事後は、癒やしの構造を整理して、まとめておく
テキスト、参考文献	その都度紹介する。
評価方法	授業時レポート 20%。定期試験レポート 80%。

08 年度以降	歴史と文化 1 (歴史学 1)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の前半ではユダヤ人たちがアメリカに渡る以前のヨーロッパでの「負け犬」時代を学ぶ。特にユダヤ人差別の発生メカニズムについて解明する。 後半では「負け犬」だったユダヤ人たちがアメリカで辿った苦難の歴史と、多数派からの抑圧をはねのけ共生の道を模索してきた姿を学ぶ。	1. 中世英国のユダヤ人金融 2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る —1290年のイングランド— 3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国 5. 17~18世紀英国の外国貿易とユダヤ人 6. 英国人地主貴族社会への同化現象 7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム 8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ 9. 現代英国のユダヤ人社会 10. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 11. 植民地時代、建国初期における反ユダヤ主義の不在 12. 南北戦争期における反ユダヤ主義の出現 13. 公民権闘争期のユダヤ教会堂爆破 14. 1970年代以後の反ユダヤ主義 15. 閉ざされた象牙の塔、高等教育におけるユダヤ人排斥

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト、参考文献	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書　740 円） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年 講談社選書　1600 円）
評価方法	評価は筆記試験によって決定する。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。 12 択 20 問の Quiz 形式。

08 年度以降	歴史と文化 1 (歴史学 2)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生みだしたメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。 下記二冊のテキストにそってアメリカの人種関係史について学ぶ。	1. ユダヤの経済力はなぜ解明されなかったのか 2. 情報・通信産業のユダヤ人 3. メディア産業のユダヤ人 4. 小売業のユダヤ人 5. 不動産業のユダヤ人 6. 伝統的ユダヤ・ビジネス 7. ウォール街のユダヤ人 8. ユダヤ系投資銀行の興亡 9. ユダヤ人企業家成功の原因とは 10. 大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー･フォードの反ユダヤ･キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発、20世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 13. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 14. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト、参考文献	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書　740 円） 『アメリカ経済のユダヤ・パワー』佐藤唯行（2001 年 ダイヤモンド社電子書籍版 1200 円）
評価方法	春学期と同じ。電子書籍の使用に対応してスマホ、iPad の持ち込み可。

08 年度以降	歴史と文化１（韓国文学史）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）文学とは一国の文化の核心を集約した言語芸術である。本講座は、韓国文学史を代表する作品を、各時代の思想や世界観を中心に考察することを通して、韓国人の心の原風景を巨視的・通史的に把握しようとする韓国研究企画の一つである。 （講義概要） 1）　古代・中世　：古朝鮮から三国時代、高麗、朝鮮時代に至る文学の流れを世界観を中心に考察する。代表的な庶民芸術で、韓国人の愛情心理の原型をなしている「春香伝」は映画で鑑賞する。 ２）近現代：近代国民国家建設が殖民地化とともに進まざるをえなかった近代韓国文学の特殊性を把握した上で、植民地時代、南北分断、新自由主義時代を生き抜く韓国文学の流れを代表作を通じて考察する。新世代ネット文学は代表作を映画で鑑賞する。 sinnsedai 映画化された作品は、映画テキストを積極的に活用する。	1. 文学とは何か。世界文学の流れ。 2. 建国神話と古歌謡 3. 新羅の歌と仏教説話 4. 高麗の流行歌 5. 朝鮮時代の詩と歌 6. 朝鮮時代の庶民小説ーパンソリ映画「春香伝」１ 7. パンソリ映画「春香伝」２ 8. 中間テスト 9. 韓国近代文学の明暗：歴史と課題 10. 自由恋愛と啓蒙：最初の近代長編小説「無情」 11. 小説「万歳前」が描いた植民地下の朝鮮 12.「あなた」を呼ぶ詩人たち：「躑躅の花」、「服従」 13. 空と風と星と詩：詩人尹東柱の生涯と詩 14. 青少年世代ネット文学：映画版「オオカミの誘惑」 15. まとめ（＊差し替えの可能性あります）

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ネット検索などを通して、各テキストに関する事前調査を行ってください。 授業後にポイントとなるところを文章として整理し、記述式の問題の出題に備えてください。
テキスト、参考文献	沈元燮編、『1 冊で読む韓国文学テキスト』（冊子）配布
評価方法	中間テスト・期末テスト 80%、感想文・授業への参加度：20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	自己点検運営委員会で承認された到達目標を教務課で入力しますので、記入不要です。
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化１(日本事情とコミュニケーション教育)	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
日本の年中行事 日本文化の基点ともいうべき「年中行事」を中心に文学作品にうかがえる様々な行事を通史的に追いつつ、日本文化について学び、各国の文化との比較を通じてそれぞれの文化への理解を深めることを本講義の目的とします。 特に「五節供」とその周縁の行事をとりあげてこれを概説し、それらの行事に関する現代の様態をレポートしたり、各国の行事を紹介したりする時間をとり、ディスカッションする場面を設けます。	1　ガイダンス―年中行事とは・アンケート― 2　日本文化の基点―暦の概念― 3　日本文化の基点―儀式書の概説― 4　年中行事―正月行事・その１― 5　年中行事―正月行事・その２― 6　年中行事―正月行事・その３― 7　年中行事―上巳の儀礼・その１― 8　年中行事―上巳の儀礼・その２― 9　年中行事―端午の儀礼・その１― 10　年中行事―端午の儀礼・その２― 11　年中行事―七夕の儀礼・その１― 12　年中行事―七夕の儀礼・その２― 13　年中行事―重陽の儀礼― 14　年中行事―新嘗祭・大嘗祭― 15　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として、提示される課題に取り組んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：特に定めず、適宜プリントを配布します。
評価方法	レポート６０％、リアクションペーパーや課題を含めた授業への参加度４０％

08 年度以降	歴史と文化１(日本文化論)	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
人生儀礼 人の一生には節目ごとに様々な儀礼が行われます。これを「人生儀礼」とか「通過儀礼」と呼び、属する集団での身分の変化や新しい役割の獲得が行われます。 本講義では人が生まれて成長する過程で迎えるいくつかの儀礼（生誕、成人、婚姻、葬送など）を取り上げ、これを通史的に学習することで、日本文化における様々な伝統行事の成立や展開、そして人生儀礼の意義について理解することを講義の目的とします。	1　ガイダンス―人生儀礼とは― 2　生活習俗―衣― 3　生活習俗―食・その１― 4　生活習俗―食・その２― 5　生活習俗―住― 6　人生儀礼―生誕・その１― 7　人生儀礼―生誕・その２― 8　人生儀礼―成人・その１― 9　人生儀礼―成人・その２― 10　人生儀礼―婚姻・その１― 11　人生儀礼―婚姻・その２― 12　人生儀礼―葬送・その１― 13　人生儀礼―葬送・その２― 14　人生儀礼―葬送・その３― 15　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として提示される課題に取り組んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：特に定めず、適宜プリントを配布します。 参考文献：授業中に紹介します。
評価方法	レポート（７０%)、課題を含めた授業への参加度（３０%）で評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化１(日本文学論・中世Ⅰ)	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
古今集の世界―中世和歌史と古今伝授― わが国の勅撰集の第一にあげられる『古今和歌集』は、後代にわたって「注釈」されつつ、さらには「本説」と呼ばれる歌に関するエピソードなどを伴って享受されていきます。 本講義では、『古今和歌集』に関する様々な「注釈」や「古今伝授」と呼ばれる学習パターンが盛んとなる中世期から近世期にかけての和歌文学史の様態をいくつかの文献を読み解き、中世から近世にかけての和歌文学史の流れを理解することを講義の目的とします。	1　ガイダンス―勅撰集とは― 2　古今集仮名序の世界―『古今和歌集』仮名序を読む― 3　『古今和歌集』の注釈―その１・『俊頼髄脳』― 4　『古今和歌集』の注釈―その２・『奥義抄』― 5　『古今和歌集』の注釈―その３・『古今集注』― 6　六條藤家の登場―柿本人麿影供― 7　御子左家の登場―藤原俊成・『古来風体抄』― 8　御子左家の登場―藤原定家・『顕注密勘』― 9　御子左家の分裂―二条家・『六巻抄』― 10　二条家の流れ―頓阿・『頓阿序注』― 11　反御子左家の誕生―為顕流・『古今和歌集聞書三流抄』 12　為顕流からの展開―謡曲への影響― 13　古今伝授の世界―その１・御所伝授の成立― 14　古今伝授の世界―その２・地下伝授への展開― 15　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として、提示される課題に取り組んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：特に定めず、適宜プリントを配布します。 参考文献：授業中に紹介します。
評価方法	レポート（７０%)、課題を含めた授業への参加度（３０%）で評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化１（都市と建築１）	担当者	鈴木　隆

講義目的、講義概要	授業計画
木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ることを目的とする。 西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿ってゆく。 なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を 150 名とする。	1.　講義概要の説明 2.　古代エジプトの建築（１） 3.　古代エジプトの建築（２） 4.　古代メソポタミアの建築（１） 5.　古代メソポタミアの建築（２） 6.　古代ペルシャの建築 7.　エーゲ海建築 8.　中間のまとめ（テスト） 9.　古代ギリシャの建築（１） 10.　古代ギリシャの建築（２） 11.　古代ギリシャの建築（３） 12.　古代ローマの建築（１） 13.　古代ローマの建築（２） 14.　古代ローマの建築（３） 15.　まとめ（テスト） 以上の授業計画には多少の変更もありうる。

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応きるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に事典などを活用して講義の主題に関するある程度の予備知識を得ておくことが望ましい。事後には講義で得た知見と問題意識をもって改めて建築遺産を見直してみる。
テキスト、参考文献	テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する。
評価方法	まとめのテストの結果によって評価する。

08 年度以降	歴史と文化１（都市と建築２）	担当者	鈴木　隆

講義目的、講義概要	授業計画
木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ることを目的とする。 西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築￥の意味を考えながら辿ってゆく。 なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を 150 名とする。	1.　講義概要の説明 2.　初期キリスト教建築 3.　ビザンチン建築 4.　イスラム建築 5.　プレ・ロマネスク建築 6.　ロマネスク建築（１） 7.　ロマネスク建築（２） 8.　ロマネスク建築（３） 9.　中間のまとめ（テスト） 10.　ゴシック建築（１） 11.　ゴシック建築（２） 12.　ゴシック建築（３） 13.　ルネサンス建築（１） 14.　ルネサンス建築（２） 15.　まとめ（テスト） 以上の授業計画には多少の変更もありうる。

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応きるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に事典などを活用して講義の主題に関するある程度の予備知識を得ておくことが望ましい。事後には、講義で得た知見と問題意識をもって改めて建築遺産を見直してみる。
テキスト、参考文献	テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する。
評価方法	まとめのテストの結果によって評価する。

08 年度以降	歴史と文化 1(日本思想史 1)	担当者	芹口　真結子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 本講義では、確かな史資料や、先行研究をもとに、近世社会に生きた様々な階層の人々が有する意識・思想の特質が何であったのか、考えられるようにします。 「明るい江戸時代」あるいは「暗い江戸時代」といったイメージで近世社会を捉えるのではなく、さまざまな視角から多面的に時代を捉えていく方法を身につけて下さい。 【概要】 近世期に生きた人々、具体的には幕藩領主層、宗教者、儒学・国学者、民衆、被差別民の思想や、近世日本思想史に関わる様々なトピックの紹介を通じて、近世日本に存在した諸思想への理解を深めることを目標とします。 毎回の講義では小レポートを書く時間を設け、講義内容の理解度をはかります。	1. 講義の概要（ガイダンス） 2. 思想史研究の方法 3. 近世思想史の前史―戦国期の諸思想― 4. 幕藩領主の政治思想―「仁政」と「百姓成立」― 5. 近世の学問①―儒学― 6. 近世の学問②―国学― 7. 近世の学問③―医学と医療環境― 8. 近世の宗教①―僧侶の営み― 9. 近世の宗教②―近世神社の特質― 10. 近世の宗教③―諸宗教者の活動― 11. 近世民衆の思想①―生活知と通俗道徳― 12. 近世民衆の思想②―民衆宗教の誕生― 13. 近世の被差別民―「河原巻物」からみる意識― 14. 幕末期の思想―対外的危機をめぐって― 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で配布するプリントや、紹介した参考文献を積極的に読んでください。
テキスト、参考文献	テキストは使用しません。参考文献は授業中に適宜紹介します。
評価方法	平常点 40%、テスト 60%の割合で評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化１(歴史学 1)(文明史研究 a)	担当者	髙橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 講義全体をとおして、文明とは何かを考えていくことを目的とします。多彩な文明を作り出してきた人類の歴史について、はば広く学んでいきます。それにより多角的な視野を獲得し、現代社会を生きていく上で求められる国際的な教養や自らの価値観、世界観を築き上げていくことを目指します。 【講義概要】 前半は文明というものを考える上での様々な課題や問題点、さらには初期人類やメソポタミアなどを扱います。後半は日本に的を絞り、古墳時代にいたるまでの社会の変遷を講義をしていきます。	１．イントロダクション ２．史・資料に関する諸問題 ３．文明の発達と地域差 ４．道具の発明：初期人類 ５．象徴と創造：ホモ・サピエンス ６．農業の発達：メソポタミア ７．氷河期の日本列島：旧石器時代（１） ８．氷河期の日本列島：旧石器時代（２） ９．土器の発明と社会の発展：縄文時代（１） 10．土器の発明の社会の発展：縄文時代（２） 11．稲作と戦争：弥生時代（１） 12．稲作と戦争：弥生時代（２） 13．巨大墳墓と支配の確立：古墳時代（１） 14．巨大墳墓と支配の確立：古墳時代（２） 15．まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業後復習をし、興味を持った箇所について参考文献を読むなど、より深く掘り下げて勉強してください。
テキスト、参考文献	配布資料を主に使用します。参考文献は授業中に適宜指示します。
評価方法	定期試験　５０％、レポート　４０％、授業への参加度　１０％

08 年度以降	歴史と文化１(歴史学 2)(文明史研究 b)	担当者	髙橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 同上。 【講義概要】 ヨーロッパに焦点を当て、その歴史や文明を学んでいきます。 また右記の授業計画はあくまでも一応の目安であり、人数や皆さんの関心に応じて、授業内容を多少変更する可能性があります。	１．ケルト ２．古代ギリシア ３．古代ローマ ４．キリスト教の誕生 ５．中世 ６．大航海時代 ７．ルネサンス ８．オランダの繁栄 ９．ヨーロッパ諸国の海外進出と奴隷制 10．革命の時代 11．第一次世界大戦 12．第二次世界大戦 13．戦後の世界 14．ヨーロッパの統合とそれからの離脱 15．まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	同上。
テキスト、参考文献	同上。
評価方法	定期試験　５０％、レポート　４０％、授業への参加度　１０％

08 年度以降	歴史と文化 1 (中国史 a)	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために，その形成の背景となる中国近代史について講義します。 19 世紀前半，中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間，王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して，当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	1. 講義の概要 2. 清朝皇帝支配体制 3. 清朝の科挙と社会 4. 清朝体制下の国際関係 5. アヘン戦争 6. 南京条約と東南沿海地域の秩序再編 7. 太平天国の成立 8. 清朝の反撃と太平天国の滅亡 9. 回民の反乱 10. 洋務運動と洋学の受容 11. 開港場の社会と経済 12. 周辺地域の宗主権の喪失 13. 台湾事件と台湾出兵 14. 清仏戦争と台湾の近代化 15. 講義のまとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の指定された箇所を事前に読み，授業時に紹介した参考文献を事後に読むこと。
テキスト、参考文献	教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19　中華帝国の危機』中央公論新社，2008 年。
評価方法	平常点 10%，授業への参加度 10%，期末試験 80%

08 年度以降	歴史と文化 1 (中国史 b)	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために，その形成の背景となる中国近代史について講義します。 朝鮮をめぐる日中の対立は激化し，ついに日清戦争が勃発します。清朝はその敗北によって体制の存続は危機的になります。日本に割譲された台湾では住民の激しい抵抗運動が展開します。 この時代に伝統の創造により中国の変革を目指す人々，さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し，また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどります。 また 19 世紀後半になって「纏足」が問題として認識されるようになった過程について検討し，近代中国の女性の社会状況の変化を理解します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	1. 講義の概容 2. 朝鮮をめぐる日中関係（1） 3. 朝鮮をめぐる日中関係（2） 4. 日清戦争 5. 台湾の割譲と台湾住民の抵抗 6. 変法改革 7. 戊戌の政変 8. キリスト教布教と仇教運動 9. 義和団の蜂起 10. 義和団戦争 11. 清末の女性の地位と纏足問題 12. 天足運動の展開 13. 革命派の台頭 14. 光緒新政と地方自治の試み 15. 講義のまとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の指定された箇所を事前に読み，授業時に紹介した参考文献を事後に読むこと
テキスト、参考文献	教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19　中華帝国の危機』中央公論新社，2008 年。
評価方法	平常点 10%，授業への参加度 10%，期末試験 80%。

08 年度以降	歴史と文化 1 (スペイン・ラテンアメリカの文学)	担当者	中井　博康

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語で書かれた文学テクストについて、主要な作家や作品を取り上げながら、通時的に概説します。文学史や文化史の知識を身につけることも大切ですが、受講者にはむしろできるだけ多くの文学テクストを実際に読んでもらい、新たな作家や作品に出会う機会にしたいと思っています。	01　中世のイベリア半島：<El Cid>, Arcipreste de Hita, Don Juan Manuel 02　ルネサンスに向けて：Jorge Manrique, <La Celestina>, Romancero 03　1492 とクロニカ：Colón, Las Casas, Garcilaso de la Vega, Ercilla 04　16 世紀：神秘主義、ピカレスク小説、モーロ小説 05　17 世紀の散文と詩 : Cervantes, Góngora, Quevedo, Gracián 06　17 世紀の演劇：Lope de Vega, Tirso, Calderón, Ruiz de Alarcón 07　18 世紀：Moratín 08　19 世紀(1)：ロマン主義 09　19 世紀(2)：写実主義, 自然主義 10　19 世紀(3)：モデルニスモ, 98 年の世代など 11　20 世紀(1)：27 年の世代, Cela, Sender, Delibes, Buero Vallejo 12　20 世紀(2)：Borges, Asturias, Carpentier, Rulfo, Neruda 13　20 世紀(3)：Paz, Cortázar, García Márquez, Fuentes, Vargas Llosa 14　現代 15　総論

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	課外学習として、ブックリストの本を数冊読み、それぞれレポートを作成してもらいます。
テキスト、参考文献	特定のテキストは使用しません。レポートのためのブックリストを配布します。
評価方法	授業時のレスポンスカード（平常点 40%）とレポート（課題点 60%）により、総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化 1 (スペイン研究入門)	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン研究概論では、主にスペインの言語・地理・文化・歴史に関する講義を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、本講義は「ラテンアメリカ研究概論」と関連性・連続性が強いため、左記授業を選択することが望ましい。	1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシーアの言語文化 7. イスラム・スペイン 8. 1492 9. フラメンコ・闘牛 10. スペイン黄金世紀 11. 18、19世紀のスペイン 12. 18、19世紀のスペイン 13. スペイン内戦とフランコ体制 14. スペインの民主化とヨーロッパ統合 15. 春学期のまとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し、次回の内容をプリントで確認する。
テキスト、参考文献	適宜プリントを配布。
評価方法	定期試験によって評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化１(日本における死生学)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
人は必ず死にます。そして「死」と直面したときに「生」を意識します。そのために儀礼が行なわれてきました。「死生学」は「死」と「生」をめぐる研究の１つです。 本講座では、日本人が「死」をどのように捉え、儀礼を行ってきたのか。さらに、儀礼や墓制から死生観や霊魂観・先祖観を見ていきたいと思っています。そこから見えるものは、決して過去の問題ではなく、現在、そして未来の問題です。現在では葬儀価格の高騰、墓地の不足から葬儀の簡略化、無墓地化が進み、また限界集落では墓地管理不足の問題を抱えています。「変遷」に焦点をあてることで、これらの背景的問題をも浮き彫りにしたいと思っています。 どのように「死」と向き合い、「生」きるのか。そのことを考える礎となることが本講座の最大の目的です。	１、　講義の概説 ２、　「死」とは何か（文化的側面から） ３、　日本の葬法の時代的変遷 ４、　「死」の確認と直後の儀礼 ５、　葬送儀礼次第１ ６、　葬送儀礼次第２ ７、　墓地・墓石の意味／両墓制 ８、　近代以降の葬法の変化 ９、　火葬受容への抵抗と受容１ 10、　火葬受容への抵抗と受容２ 11、　火葬の受容と儀礼変化（現代の葬儀とその意味） 12、　葬儀から見える霊魂観・死生観 13、　墓・儀礼から見る「先祖観」 14、　「雨乞い」と葬儀の関連 15、　葬送儀礼と誕生儀礼の類似性/ペット･ロボットの死

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。
テキスト、参考文献	プリントを配布、参考・関連文献は授業中に紹介
評価方法	試験 100%、授業参加度・貢献度を加味する。

08 年度以降	歴史と文化１(日本における世間学)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
「今日は何を着て学校へ行こうか、この恰好で変に思われないだろうか」と考えたことはないでしょうか。日本人はとかく「主体」的にではなく、「まわりの目」によって行動が、良くも悪くも規制されがちです。それが「世間」というものです。この「世間」は日本独特のものと言われています。現代においても、「社会」の枠組みの中で生きている私たちですが、それとは別に、同時に「世間」の中を生きています。西洋的価値観の基に「社会」が成り立っているとはいえ、「世間」が無くなることはなさそうです。 本講座では、「世間」の構造、そして現代における「世間」の形と在りようを見ることにより、我々自身が「主体」であると同時に「世間」であることを自覚し、多様な価値観の中で、相互に寛容性をもって生きることができるのかを考える礎になればと思います。	１、　講義の概説 ２、　「ウチ」なる世界１ ３、　「ウチ」なる世界２ ４、　「ウチ」なる世界と「ソト」なる世界の関係 ５、　「世間」とは何か ６、　「世間」の特質１ ７、　「世間」の特質２ ８、　「世間」の特質３ ９、　世間話にみる「世間」 10、　祭祀組織構造を「世間」から読み解く 11、　「恥」の文化 12、　「社会」と「世間」１ 13、　「社会」と「世間」２ 14、　庶民感覚と政治 15、　現代の「世間」的世界

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。
テキスト、参考文献	プリントを配布、参考・関連文献は授業中に紹介
評価方法	試験 100%、授業参加度・貢献度を加味する。

08 年度以降	歴史と文化１(民俗学)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
「民俗学」は庶民生活のあり方を研究するものですが、過去の歴史だけを知るものではなく、そこから現在、そして未来の我々のあり方を考えるための基礎となる学問です。研究対象は生活全般と広いですが、本講座では、とくに「信仰」に立脚する行事・祭り・他界観などを中心に見て行きます。これらはその時代の価値観を反映し、流動的です。それゆえ近代になり、さらには高度経済成長期に急激に変化をとげました。そのような時代背景の中、現在の私たちの信仰心は低下したと言われています。それでも初詣・宮参りや、様々な場面で「伝統的信仰」に立脚する行事を行っています。それは何故でしょうか。このことは我々のアイデンティティの問題にも繋がります。本講座は、変化の様相を捉え、今後の我々の「存在」の問題として考えていきたいと思います。	１、　講義の概説 ２、　民俗学の研究対象 ３、　国学と民俗学 ４、　神道と仏教１ ５、　神道と仏教２ ６、　異界の存在１（妖怪・幽霊とは何か） ７、　異界の存在２（『東海道四谷怪談』） ８、　異界の存在３（妖怪と神との関係） ９、　昔話とその背景 10、　災害伝承と伝説 11、　年中行事１（正月行事） 12、　年中行事２（盆行事） 13、　現代の年中行事 14、　人の一生（人生儀礼） 15、　講義のまとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。
テキスト、参考文献	プリントを配布、参考・関連文献は授業中に紹介
評価方法	試験 100%、授業参加度・貢献度を加味する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化 1(地域文化)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は日本の「地域文化」を視座とするものです。方言や雑煮からもわかるように、日本では「地域」による生活文化に異なりが見られます。地域差と言われるものです。これら「生活」の在り方を「地域文化」として捉えます。 本講座では、日本文化を「地域」というミクロの視点から、「地域」の成立と、そこに生活する人々の繋がり方、また「地域」をどのように捉えることができるのか、都市部への人口集中における過疎地と都市部の文化的問題を「地名」や「祭り」を中心にして捉え、さらにボーダレスとなっている今日でありながら、「郷土」意識が強く残っていることから、これらを現代的な問題として捉え、今後のあり方について考えることを目的とします。	1、　講義の概説 2、　地名の成立ちと地域 3、　地域と生活構造１（村の成立と地域） 4、　地域と生活構造２（「地域」を捉える） 5、　結（白川郷の屋根葺き） 6、　地域認識の問題（地名と地域の関係） 7、　地域の祭り（具体的に） 8、　地域と祭りの関係 9、　内的他者とその機能（地域と祭祀組織の問題） 10、　伝統的祭りの方向性１（過疎地域の問題） 11、　伝統的祭りの方向性２（都市部の問題） 12、　フォークロリズム（「伝統」とは何か） 13、　ボーダレス社会と地域文化 14、　講義のまとめ 15、　講義のまとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。
テキスト、参考文献	プリントを配布、参考・関連文献は授業中に紹介
評価方法	試験 100%、授業参加度・貢献度を加味する。

08 年度以降	歴史と文化１（日本文学古典）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
奈良時代の文学・及び宮崎駿監督「もののけ姫」を取り扱いながら、講義概要にあるような能力の習得を目指す。 ①神話とは何かを説明できる。 ②世界各地に類似する神話が分布する理由が説明できる。 ③ヤマタノオロチ退治神話について、神話的な意味を説明できる。 ④近代と前近代の「神殺し」の違いについて説明できる。 ⑤近代と前近代の労働観の違いについて説明することができる。 ⑥「もののけ姫」と環境思想との関わりについて説明することができる。	1. 神話とは何か 2. ペルセウス・アンドロメダ型神話について 3. 日本人遙かな旅 4. 同時発生説・伝播説 5. エリアーデの神話論 6. バルトの神話作用 7. ヤマタノオロチ退治神話の意味 8. 日本神話とももののけ姫 9. アシタカの神殺し 10. エボシのタタラ場の近代性 11. 前近代と近代の労働観 12. エボシの神殺しと近代合理主義 13. ギルガメシュ叙事詩とももののけ姫 14. ももののけ姫と環境思想 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修　指定された予習課題を提出する。 事後学修　指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。
テキスト、参考文献	プリントを配布
評価方法	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70%　　授業への積極的参加：30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化１（平安時代の文学を読む）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
奈良・平安時代の文学及び宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」を取り扱いながら、以下の能力の習得を目指す。 ①原質神話の基本的な構成を説明することができる。 ②主人公の特徴として、「越境性」「非対称性」の概念を説明することができる。 ③根の国訪問神話の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。 ④伊勢物語の主人公「昔男」の二つの罪を、非対称性の観点から説明することができる。 ⑤源氏物語第一部の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。 ⑥「千と千尋の神隠し」のカオナシの役割について、移行対象の観点から説明することができる。	1. 原質神話とは何か 2. 根の国訪問神話 3. 主人公の特徴 4. 魔女の宅急便と原質神話 5. 在原業平の犯した二つの罪 6. 業平像の変容 7. 源氏物語第一部のあらすじ 8. 須磨・明石の巻と原質神話 9. 桐壺帝と父親との対決 10. 千尋の越境生・非対称性 11. 援助者としてのハク・カオナシ 12. カオナシと貨幣 13. カオナシと移行対象 14. ヒーローとヒロインの飛翔 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修　指定された予習課題を提出する。 事後学修　指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。
テキスト、参考文献	プリントを配布
評価方法	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70%　　授業への積極的参加：30%

08 年度以降	歴史と文化１(文化史入門)	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。その時、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれらを包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体現された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているか古代ギリシア・ローマ世界を例に取り上げ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的としています。授業は講義形式で行いますが、討議形式になるテーマもあるので積極的に参加して下さい。	１．　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２．　技術文化：動力とエネルギー源（奴隷労働の意義） ３．　技術文化：水の供給と浴場（テルマエ・ロマエ） ４．　運送手段：船と海上輸送（三段櫂船と商船） ５．　輸送手段：陸上輸送（一般道と高速道） ６．　造形芸術：建築と彫刻（アルカイック・スマイル） ７．　文学の世界:叙事詩と演劇(ギリシア悲劇の普遍性) ８．　宗教と祭祀:神々と人間(ギリシア神話とは何か？) ９．　性愛の諸相（１）男と女（同性愛） １０．性愛の諸相（２）男と女（結婚と異性愛） １１．競技（アゴン）的人間類型：理想的人間とは？ １２．クリエンテーラ・パトロネージ関係 １３．民主政の中の人間関係（１）:デマゴーグの意味 １４．民主政の中の人間関係（２）:ポピュリズム？ １５．討論会：総括と展望

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたプリントの指定された箇所を事前に精読して、必要に応じて参考文献を読んでおいて下さい。毎回出される課題に答えて授業後、あるいは次回に提出して下さい。
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。それ以外に各授業の際に、追加の参考文献を紹介することがあります。
評価方法	定期のレポート６０％、毎回の課題２０％、授業の参加度２０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化 1 (文化人類学 a)	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
文化人類学への入門授業である。学問としての成り立ちや、主要な関心に触れながら、文化人類学の基本概念を理解することを目的とする。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。小課題は原則小レポートであるが、一部調査課題を課す。この小課題は全て提出していない学生は、成績評価の対象としない。 ※授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。 ※後続科目の文化人類学Ⅱとは開講時限が異なっているので注意すること。	1. ガイダンス 2. 未開とは何か 3. 文化と文明 4. 言語と文字 5. 日常と非日常 6. 通過儀礼 7. 年齢と分類 8. タブー 9. 宗教と人類学 10. ジェンダーと人類学 11. 家族・親族 12. 贈与と交換 13. 伝統の創造 14. 文化の書き方 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題等に反映させること。
テキスト、参考文献	テキストは山下晋司等著『文化人類学キーワード　改訂版』(有斐閣) とする。その他のものは授業内で指示する。
評価方法	平常点 (授業への参加度等) [30%]、小課題・調査課題 [70%] を評価対象とする。小課題・調査課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。

08 年度以降	歴史と文化 1 (文化人類学 b)	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に学習した文化人類学の基本概念をふまえて、応用的で現代的なトピックを扱うとともに調査を実践することで、人類学の方法論と考え方を学ぶ。 本授業は講義形式を中心に行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には教員の解説する概念や視点について理解を深めるために簡単な調査を行ってもらう。特に秋学期は主体的に課題をこなすことが重要となる。また、授業中に小課題の提出を課す。 ※授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。この授業は原則として文化人類学Ⅰを履修していることを前提とする。 ※文化人類学Ⅰとは開講時限が異なっているので注意すること。	1. ガイダンス 2. 文化とは何か 3. 食と政治 4. 自然とは何か 5. 可視化・単純化 6. 調査実習 1 7. 可視化：再説 8. 調査実習 2 9. 可視化と地域知 10. 調査実習 3 11. 地域知と実践知 12. 調査実習 4 13. 地域の中の多様なアクター 14. 政策への多様な評価 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト、参考文献	教材は教員が用意するが、調査用に二種類のノートを用意してもらう必要がある (詳しくは授業内で指示する)。春学期にテキストとして使用した『文化人類学キーワード』は参考文献とする。
評価方法	平常点 (授業への参加度等) [30%]、調査課題と小課題 [70%] を評価対象とする。調査課題・小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。

08 年度以降	歴史と文化 1 (歴史学 1)(「15 年戦争」をどうとらえるか)	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945年に終わった戦争は太平洋戦争と呼ばれ、相手はアメリカだったととらえられがちであるが、これを見直したい。対米開戦前に泥沼の日中戦争が続いており、さかのぼれば1931年の満州事変にいきつく。足かけ15年の戦争で、日本が一番長く戦った国は中国である。 中高での学習では原爆や空襲などの被害を重点に学ぶことが多いようだが、被害面だけでなく加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるかもしれないが、映像をかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。中国や韓国をはじめアジア諸国との関わりがますます強まる中で、「対立」がつくられている。この戦争はどういうものだったかの事実はしっかり知っておきたい。 なお、秋学期と連動させており、できればあわせて受講して欲しい。	1　1945年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって 2　1941年12月8日―真珠湾からかコタバルからか 3　被害の問題①―空襲は何を示すか 4　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 5　日中戦争をとらえる①―満州事変から日中戦争へ 6　日中戦争ととらえる②―対米英戦争とのかかわり 7　加害の問題①―731部隊とは何か 8　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 9　治安戦としての日中戦争―「尽滅掃討」作戦 10　日本の戦争と植民地朝鮮 11　日本軍隊の特徴をみる 12　戦時下の社会―戦争への動員・女性と戦争他 13　敗戦をめぐって①―本土決戦体制の構築と沖縄 14　敗戦をめぐって②―ポツダム宣言とその受諾 15　「15年戦争」を振り返る

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に吉田裕『アジア・太平洋戦争』(岩波新書) の通読を勧める。事後はプリントを見直して欲しい。
テキスト、参考文献	上記のほかは、講義の中で紹介する
評価方法	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90%　平常時の意見･感想など 10%

08 年度以降	歴史と文化 1 (歴史学 2)(戦後史の中の「15 年戦争」)	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945年8月15日に敗戦を迎えた戦争は、戦後70年を越えた今日でもさまざまな課題を残す。その背景には、占領そして講和や賠償問題等を通してアメリカの強い関わりがある。トランプ政権が誕生し日米関係見直しが必至となる今、この歩みを知ることは重要である。沖縄のことも日本の問題としてしっかり考えたい。 中国や韓国などでは、この2、30年間で民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、同時に日本とも民衆同士の交流が進んできた。戦後補償や戦争認識をめぐる問題は、やっとそれを民衆が論議できるようになったと捉えたい。きちんと論議できる知識をもつ若者でいて欲しい。 2011年の3･11を経て、原発がどのように導入されどのような問題を持つかを学ぶこともあらためて欠かせないことになった。取り上げていきたい。 なお、なるべく春学期とあわせて受講して欲しい。	1　「15年戦争」の終わり方をふりかえる。 2　「民主化」と日本国憲法 3　東京裁判と日本の戦争責任をめぐって 4　朝鮮戦争とサンフランシスコ講和のもった問題 5　日本の国内での補償をめぐって 6　日本のアジアへの補償をめぐって 7　日韓条約はなぜ1965年に結ばれたか 8　日中国交回復を考える 9　「戦後」の沖縄の歩み 10　ベトナム戦争と沖縄の日本復帰 11　米軍基地問題と日本の安全保障を考える 12　原発をめぐって①―「ビキニ被曝」と原子力平和利用 13　原発をめぐって②―3.11から何を学ぶか 14　戦後50年の国会決議をめぐって―政治家の戦争認識 15　「戦後70年」を超えて

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ぜひ毎日、新聞に目を通すことを勧める。事後はプリントを見直して欲しい。
テキスト、参考文献	講義の中で紹介する
評価方法	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90%　平常時の意見･感想など 10%

08 年度以降	歴史と文化１(移民・交易に見る文化変容)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、交易や人の移動によって生じる社会変化について概括的な知識の習得を到達目標とします。 授業内容は、東西交易と国際移民に関する歴史について解説します。その上で、関連論文を読み、21世紀型市民社会における移民、難民について論理的に理解し、実生活において対応できるようにします。 授業の進め方は講義形式で、授業を二つに区分します。各区分の終了時には理解度を確認するためのグループ討議を行います。	1　イントロダクション（多元的共生社会について考える） 2　古代交易 3　東西交易の変化 4　大航海時代の物・人の移動 5　環大西洋世界の物・人の移動 6　産業革命と物・人の移動 7　まとめ1：交流と文化変容（討論） 8　移民過程とエスニック・マイノリティ 9　戦後の高度成長期の移民と国民国家 10 移民・難民政策と人権保護 11 ドイツの移民政策について 12 イギリスの移民政策について 13 オーストラリアの移民政策について 14 日本の入国管理政策について 15 まとめ2：在日外国人と日本社会（討論）

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：予習資料を事前に熟読（30 分程度）、不明な用語の調べ（60 分程度）を行ってください。 事後学習：授業で使用した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください（90 分程度）。
テキスト、参考文献	参考文献：『国際移民の時代』 S･カスルズ/M･J･ミラー、名古屋大学出版会、『多文化『共創』社会入門』小泉康一・川村千鶴子、慶應義塾大学出版会
評価方法	学習態度（10%）、課題（30%）、最終レポート（60%）で総合的に評価します。

08 年度以降	歴史と文化１(グローバル化と情報・通信の文化史)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、メディアの発達史を通し、情報と社会の関係についての概括的な知識を習得することを到達目標とします。 講義内容は、古代からの通信技術の発達史を振り返り、人類がどのような工夫をして情報を伝達してきたか、それが近代化とどう結びついたかを解説します。さらにメディアと社会について概観することで、現代の市民生活と情報がどのように関係しているかについて、論理的に思考できるようにします。 授業の進め方は講義形式で、授業を二つに区分します。各区分の終了時には理解度を確認するためにグループ討議行います。	1　イントロダクション（情報化時代について考える） 2　古代の情報伝達（駅制） 3　印刷文化と近代化（新聞、雑誌） 4　有線通信（電話の誕生） 5　通信社の果たす役割 6　ラジオというメディア 7　テレビというメディア 8　まとめ1：メディアと社会構造（討論） 9　パソコンと市民生活 10 ネット文化と社会運動 11 グローバル・メディアと国際世論 12 監視社会 13 インターネットとコミュニティ 14 モバイルメディアと空間移動 15 まとめ2：メディア集積と都市文化（討論）

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：予習資料を事前に熟読（30 分程度）、不明な用語の調べ（60 分程度）を行ってください。 事後学習：授業で使用した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください（90 分程度）。
テキスト、参考文献	参考文献：『情報化社会研究』柏倉康夫、放送大学大学院教材、『メディア文化論〔改訂版〕』吉見俊哉、有斐閣
評価方法	学習態度（10%）、課題（30%）、最終レポート（60%）で総合的に評価します。

08 年度以降	歴史と文化 1 (アラブ文化・芸術 a)	担当者	師岡　カリーマ　エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか。石油や砂漠、テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラームや女性の抑圧、混乱を招いた「アラブの春」、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像はアラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、みなさん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。	１．イントロダクション：アラブ人とは？ ２．３．「イスラム」と「イスラーム」 ４．ムスリムにとって「クルアーン」とは ５．アラブ人の生活文化　１）食生活と祭 ６．アラブ人の生活文化　２）家族・女性 ７．アラブ音楽入門 I ８．アラブ音楽入門 II ９．パレスチナ問題と芸術　１）ドキュメンタリー 「五つのカメラが壊された」鑑賞・ディスカッション １０．２）ドキュメンタリー　「レインボー」 １１．３）演劇「アライブ・フロム・パレスチナ」鑑賞 １２．演劇鑑賞レポート提出・ディスカッション １３．４）小説　ガッサーン・カナファーニ著 中編「太陽の男たち」「ハイファに戻って」 １４．５）詩人　「パレスチナの声」M・ダルウィーシュ １５．まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ガッサーン・カナファーニの上記課題図書をできるだけ早く図書館で入手して読み始めてください。
テキスト、参考文献	ガッサーン・カナファーニ著　中編「太陽の男たち」「ハイファに戻って」　読後レポート提出・ディスカッションが評価の大きなポイントになります
評価方法	演劇鑑賞後レポート、小説読後レポートに重点を置くほか、積極的な授業参加も考慮に入れます。

08 年度以降	歴史と文化 1 (アラブ文化・芸術 b)	担当者	師岡　カリーマ　エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラブの芸術といえば，世界一有名なファンタジー，そして SF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが，同時にアラブの文化は詩人の文化であり，また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説も交えながら、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。 ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。	1. 後期イントロダクション―アラブの日常 2. アラブの芸能界と歌謡曲（1） 3. アラブの芸能界と歌謡曲（2） 4. ノーベル賞作家 N.マフフーズの小説「バイナル・カスライン（「張り出し窓の街」）を理解するためのエジプト近代史 5. アラビアンナイトは逆輸入？「千夜一夜物語」 6. レバノン映画「キャラメル」とアラブ女性 7. 映画鑑賞レポート提出・ディスカッション 8. ハリウッド映画になったアラブ旅行文学 9. マルコ・ポーロよりすごい中世アラブの旅行家 10. イスラームというファクターを正しく理解する 11. アラブ文化は詩の文化：イスラームより古いアラブの詩 12. 詩の文化（続き）：中世ヒップホップと恋愛歌 13. 詩の文化（続き）：映像で見る現代のアイドル詩人 14. 小説「バイナルカスライン」（新訳タイトル：「張り出し窓の街」）読後レポート提出 15. まとめのディスカッション

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ナギーブ・マフフーズの上記課題図書をできるだけ早く図書館で入手して読み始めてください。
テキスト、参考文献	課題図書：ナギーブ・マフフーズ著「バイナルカスライン」（新訳タイトル：「張り出し窓の街」）
評価方法	課題図書の読後レポート提出・ディスカッションが評価の重要なポイントになります。

08 年度以降	歴史と文化 1 (在外日本人研究)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異郷で生きた日本人の足跡をたどり、「日本人ってなんなのか」を考えてみたい。 明治のころ、一攫千金を夢みて太平洋を越えた日本人たちはハワイへ、アメリカ本土へ、あるいは南米へと渡っていった。そうした人びとの子孫はいまや270万人にのぼる。 授業では、①一時滞在のつもりで日本を離れた彼らが帰国せず、②そのうち家族をもち異国で骨を埋める覚悟をもつようになる。しかし、③白人からの激しい差別を受け、日本人たちは、④それに忍従で対応して、⑤今日の確固とした地位を確立する、過程をみていく。 ただ、このようにダイジェストすると美点だけが強調されるが、授業では日本人の狡猾で日和見的な姿もとり上げる。 この授業はグローバルの「特殊研究」といって、講義の一部は参考文献を用いて理解を深めることとする。	1. ガイダンス 2. 夢のハワイへ 3. ポリネシアハワイの生活 4. アメリカ西海岸への移動 5. 敵意のはじまり 6. 差別のメカニズム― 7. 日本人の完全排除 8. 日米戦争と強制収容 9. 収容キャンプの生活 10. アメリカへの忠誠と従軍 11. 二世部隊 12. 帰米二世 13. 中南米へ渡った日本人 14. 戦後の人権獲得と汚名返上 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする
テキスト、参考文献	『ハワイの日本人移民』山本英政　明石書店
評価方法	学期末試験　レポート 受講希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください

08 年度以降	歴史と文化 1 (異文化間コミュニケーション b)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異文化間のコミュニケーションとは「他者理解」の作法と言い換えることができる。グローバル時代では不可欠なことだ。しかし、それは「言うは易く行うは難し」のフレーズ通りなのである。 本講義では、その事例としてアメリカの黒人問題をとり上げる。 価値観や行動様式、そして外見のちがう「他者」との出会いでは、相手を理解する努力と寛容さが必要だ。ただ、アメリカは黒人種との出会いにおいて大きな過ちを犯した。それは彼らを奴隷として処遇したことである。この大罪に、アメリカはいまだ苦しんでいる。黒人と白人との修復されない不仲は犯罪や貧困の温床となっている。 苦悩するアメリカの現状を紹介し、歴史をさかのぼって奴隷から「解放」、そして真の「解放」への闘争を紹介する。	1. ガイダンス 2. モザイク国家アメリカ 3. 最近の黒人暴動にみる共生の現実 4. 奴隷制とは 5. 奴隷解放？現実は？ 6. 自由と平等への戦いのはじまり 7. バスボイコット事件 8. 公民権運動の共生理念 9. 非暴力不服従　ガンジーとキング 10. 迷える北部の黒人たち 11. 急進派ブラック・パワーとは 12. ベトナム反戦と黒人運動 13. モハメッド・アリ 14. 最近の人種関係 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする
テキスト、参考文献	参考文献:『アメリカ黒人の歴史』本田創造　岩波新書 『キング牧師とマルコム X』上坂昇　講談社現代新書
評価方法	学期末試験レポート 受講希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください

08 年度以降	歴史と文化１(英語圏の文化)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
ジョークとホラ（ホラーではない）話しの好きなアメリカ人だがトランプという人物を大統領に選んでしまった。保守化や不寛容などで、アメリカの美点が大きく後退しそうだ。 年間、60 数万人もの移民を受け入れるこの国では白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには 5 割を切るという。国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ（WASP＜White Anglo-Saxon Protestant＞）社会を創造した。１９世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化したが、ワスプ文化は依然として社会の中心。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観を激震させた。 近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷と特徴を、社会の変化を捉えながらたどりながら明らかにする。	1. ガイダンス 2. ワスプとは 3. 大いなるアメリカ-独立とフロンティア スピリッツとピューリタニズム- 4. 新しい白人移民の流入 5. 多民族社会の問題 6. 異文化と差別 7. メルティングポット論 8. ビートニックス 9. 冷戦とベトナム戦争 10. カウンターカルチャー 11. ロックミュージックの誕生 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を読み、講義理解の補助とする
テキスト、参考文献	授業時で紹介する
評価方法	学期末試験　レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください

08 年度以降	歴史と文化１(英語圏事情)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化の理想は、世界の共生のはずである。しかし、テロの脅威が世界を不安に陥れている。力を武器に富の眠る第三世界を思うままに支配してきた欧米への反撃が収まらない。 授業では経済と軍事の頂点に君臨してきたアメリカをとり上げて、その価値観と行動様式を見ていき、平和に資する多国間の共生のあり方を探っていこう。キーワードは「力の支配」である。 ①　銃社会アメリカで起こる惨劇はたびたび報道される。銃を所持しようとするアメリカ人の価値観とはいったいなんなのか、検証する。 ②　アメリカと日本は第二次大戦以降、緊密な関係を築いてきたのだが、問題はないのか？日米は互いに敬い、果たし て平等なのだろうか ③　テロの横行のはじまりは２００１年の９１１である。人々を震撼させたあの事件がいったい何によってひきおこさ れたんだろうか イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。 反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なるもの」を発信しつづけ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。 アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル 化がすすむ世界に与える影響を考える。	1. ガイダンス 2. 銃社会アメリカ 3. なぜ、銃が必要か 4. 日本の中のアメリカ、米軍を考える 5. アメリカの占領 6. 日米による安全保障とは 7. 米兵事件の実相 8. 湾岸戦争 9. ９１１ 10. アフガン/イラク戦争 11. もう一つの９１１ 12. 映像 13. ソフト・パワー 14. アメリカンポップカルチャーの力 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを熟読し、授業理解の補助とする
テキスト、参考文献	『米兵犯罪と日米密約』明石書店
評価方法	学期末試験　レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化 1(日本思想史 2)	担当者	矢森　小映子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 現代の私たちがもっている世界観や自国イメージは、いかに形成され、流布し、再生産されてきたのでしょうか。本講義ではその展開過程を、主に近世日本の洋学者とその周辺の人々の事例を通して歴史的文脈の中で検討していきます。私たちが当たり前に思っている世界観やイメージがいつどのように形成され、どのような問題を抱えているのか、考えるきっかけにつなげてください。 【概要】 毎回一つのテーマに沿って、一人ないし複数の人物をとりあげます。彼らの史料を読み、その世界観と背景にある近世社会・思想の特質を考察していきます。近世の人々の世界観を史料から読み取れるようになること、さらにその形成過程を歴史的文脈の中で捉える作業を通し、思想史への理解を深めることを目標とします。	1. ガイダンス 2. 洋学と洋学者 3. 近世初期の世界観―「三国」世界観の展開― 4. 地球球体説の衝撃―「中国」イメージの変容― 5. 「国益」と自国認識―司馬江漢と本多利明― 6. 世界地理学者・山村才助の世界観 7. 国学者・平田篤胤の洋学受容と世界観 8. 洋学と江戸の社会―渡辺崋山と小関三英― 9. 藩と日本をめぐる意識―渡辺崋山を事例に― 10. 蘭書から見える一九世紀の世界 11. 箕作省吾『坤輿図識』の世界―幕末の世界観― 12. 只野真葛の世界観―近世の一女性が見た世界― 13. 近代への展望―新たな世界観との出会い― 14. 講義まとめ（確認テスト） 15. 講義まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	プリントを見直して講義内容を復習するとともに、参考文献を積極的に読んで講義に臨んでください。
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、毎回プリントを配布します。参考文献は授業中に適宜紹介します。
評価方法	平常点 30%、レポート 30%、テスト 40%の割合で評価します。

08 年度以降	現代社会 1 (ブラジル研究)	担当者	E．ウラノ

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は、受講生がブラジルについて積極的に考え、独自の視点を身につけることである。そのために、ブラジルに関する基礎知識を勉強していただくとともに、社会科学をベースとした思考能力を高めることを目指す。 この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性を、社会･経済・政治面から解説する。例えば、これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や社会政策が必要なのか。 近年目立つ出来事として、BRICs や G20 などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。また、日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。 講義形式の授業ではあるが、双方向のコミュニケーション、学生のプレゼンテーションなどを通じて積極的な参加が期待される。	1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2.「失われた 80 年代」、90 年代、インフレーション、経済安定化 3. 2000 年代、経済成長への道。2010 年代の成長と停滞 4. 格差社会の是正に向けて: Bolsa Família、新中間層の誕生（1） 5. 格差社会の是正に向けて: Bolsa Família、新中間層の誕生（2） 6. 人種による不平等：クォーター制度と是正の試み 7. 持続可能な成長への課題: 教育・インフラ整備・新たな政治経済危機 8. 映像から見たブラジル 9. 映像から見たブラジル 10. 日本の中のブラジル：在日ブラジル人の移住（1） 11. 日本の中のブラジル：在日ブラジル人の移住（2） 12. 日本の中のブラジル：在日ブラジル人の移住（3） 13. 学生のプレゼンテーション 14. 学生のプレゼンテーション 15. まとめ ※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	書籍、新聞、ニュースなどからブラジル関連の情報を自分でピックアップして、内容について考えること
テキスト、参考文献	参考文献： 堀坂浩太郎（2012）『ブラジル―跳躍の軌跡』、岩波新書
評価方法	基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、授業内ペーパー、プレゼンテーション等も加味した評価とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会１（日本国憲法）	担当者	Ｌ．ペドリサ

講義目的、講義概要	授業計画
今日、ほとんどの国には「憲法」という法がある。憲法は最高法規の性質を有し、国法の上位に位置するものとして、すべての法規範の根拠となる。日本では、70年にわたり日本国憲法が機能し続けている。この講義において、日本国憲法の重要な規定の解釈を中心に、統治構造および人権保障の仕組みを学ぶ。また、日常生活から離れた分野と思われがちではあるものの、憲法がどれほど我々の日常生活に深く関わっているかを考えることが目標である。	1. 憲法の基礎 2. 選挙と参政権 3. 国会の役割 4. 行政権と議院内閣制 5. 司法権と裁判制度 6. 天皇制 7. 平和主義 8. 人権の理念・歴史・特質 9. 人権総論 10. 信教の自由と政教分離 11. 表現の自由 12. 経済的自由 13. 人身の自由 14. 社会権 15. 幸福追求権と平等

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する 毎回出される課題を解いて次回に提出する
テキスト、参考文献	テキスト・駒村圭吾（編）『プレステップ憲法』（弘文堂、2014 年） 参考文献：片桐直人、井上武史、大林啓吾『一方先への憲法入門』（有斐閣、2016 年）
評価方法	定期試験 70%、授業課題 30%

08 年度以降	現代社会 1 (地理学 1)(自然環境と文化)	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　オリエンテーション 2　自然と人間とのかかわり 3　環境の諸要素（1）　地球の特質 4　環境の諸要素（2）　地形環境 5　環境の諸要素（3）　気候環境 6　環境の諸要素（4）　植生と土壌　生態系 7　熱帯地域（1）―自然的特質と伝統的農業 8　熱帯地域（2）―アジアの稲作 9　熱帯地域（3）―熱帯の開発と問題（1） 10　熱帯地域（4）―熱帯の開発と問題（2） 11　砂漠地域（1）―自然的特質と伝統的生業 12　砂漠地域（2）―イスラムの世界 13　砂漠地域（3）―石油資源と近代化 14　砂漠地域（4）―アラブとイスラエル 15　まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	該当地域の自然・人文・社会について高校レベルの内容を復習する。今日のその地域のニュースを地理的な視点から読み解く。
テキスト、参考文献	授業中に示す
評価方法	定期考査

08 年度以降	現代社会 1 (地理学 2)(自然環境と文化)	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　温帯地域（1）自然的特質 2　温帯地域（2）地中海森林地域 3　温帯地域（3）温帯混交林地域（ヨーロッパ） 4　温帯地域（4）温帯混交林地域（アジア） 5　温帯地域（5）北米の温帯地域（1） 6　温帯地域（6）北米の温帯地域（2） 7　温帯地域（7）そのほかの温帯地域 8　冷帯地域 9　冷帯地域・寒帯地域 10　山地地域 11　世界の環境問題（1）人口 12　世界の環境問題（2）食料 13　世界の環境問題（3）酸性雨と公害問題 14　世界の環境問題（4）地球の温暖化 15　まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	該当地域の自然・人文・社会について高校レベルの内容を復習する。今日のその地域のニュースを地理的な視点から読み解く。
テキスト、参考文献	授業中に示す
評価方法	定期考査

08 年度以降	現代社会１(シネマで学ぶ法律学)	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
法律学というと、何か堅苦しいイメージを持つ学生が多いように思う。確かに、法律学は、説得の学問であり、論理的な整合性を重視する。 しかし、人間が社会において生活していく上で、切っても切り離せないのが、法律というものである。したがって、法学部の学生のみならず、外国語学部や国際教養学部、経済学部の学生も、大学時代に法律学のエッセンスを学んでおくべきであろう。 それでは、いかにして学ぶか。本講義は、シネマを鑑賞しながら、そこに出てきた法律問題を素材に、法律学のエッセンスを紹介するという方法を採用する。 同時に、本講義は、名作シネマを鑑賞してもらうことで、文化的教養を培うことも目的としている。	1.　「依頼人」－法の世界の登場人物　1 2.　「依頼人」－法の世界の登場人物　2 3.　「禁じられた遊び」－国民主権・平和主義　1 4.　「禁じられた遊び」－国民主権・平和主義　2 5.　「レオン」－契約は守らなければならない　1 6.　「レオン」－契約は守らなければならない　2 7.　「エリン・ブロコビッチ」－不法行為　1 8.　「エリン・ブロコビッチ」－不法行為　2 9.　「レインマン」－相続問題　1 10.　「レインマン」－相続問題　2 11.　「それでもボクはやってない」－刑事裁判　1 12.　「それでもボクはやってない」－刑事裁判　2 13.　「デッドマン・ウォーキング」－死刑廃止論　1 14.　「デッドマン・ウォーキング」－死刑廃止論　2 15.　講義のまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講者同士で鑑賞したシネマについて意見を述べ合うこと。学んだ法律問題をまとめておくこと。
テキスト、参考文献	〔参考文献〕　野田進・松井茂記編『新・シネマで法学』(2014 年、有斐閣)
評価方法	定期試験 100%

08 年度以降	現代社会１(続・シネマで学ぶ法律学)	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
法律学というと、何か堅苦しいイメージを持つ学生が多いように思う。確かに、法律学は、説得の学問であり、論理的な整合性を重視する。しかし、人間が社会において生活していく上で、切っても切り離せないのが、法律というものである。したがって、法学部の学生のみならず、外国語学部や国際教養学部、経済学部の学生も、大学時代に法律学のエッセンスを学んでおくべきであろう。 それでは、いかにして学ぶか。本講義は、シネマを鑑賞しながら、そこに出てきた法律問題を素材に、法律学のエッセンスを紹介するという方法を採用する。 同時に、本講義は、名作シネマを鑑賞してもらうことで、文化的教養を培うことも目的としている。 なお、本講義は、春学期に開講した「現代社会１（シネマで学ぶ法律学)」のアドバンスト科目であるが、本科目のみの受講でも一向に差し支えない。	1.　「緑色の髪の少年」－平和主義、基本的人権　1 2.　「緑色の髪の少年」－平和主義、基本的人権　2 3.　「評決」－医療過誤　1 4.　「評決」－医療過誤　2 5.　「クレーマー・クレーマー」－離婚問題　1 6.　「クレーマー・クレーマー」－離婚問題　2 7.　「チャイナ・シンドローム」－不法行為等　1 8.　「チャイナ・シンドローム」－不法行為等　2 9.　「真実の行方」－罪と罰　1 10.　「真実の行方」－罪と罰　2 11.　「ショーシャンクの空に」－冤罪　1 12.　「ショーシャンクの空に」－冤罪　2 13.　「この自由な世界で」－労働問題　1 14.　「この自由な世界で」－労働問題　2 15.　講義のまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講者同士で鑑賞したシネマについて意見を述べ合うこと。学んだ法律問題をまとめておくこと。
テキスト、参考文献	〔参考文献〕　野田進・松井茂記編『新・シネマで法学』(2014 年、有斐閣)
評価方法	定期試験 100%

08 年度以降	現代社会１(暮らしの中の民法入門)	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
民法とは、一般市民が社会生活を送る際に生じた問題を解決するための法律である。たとえば、お金を貸す、お金を借りる、スマホを買う、ワンルームマンションを借りる。 このような行為の際に生じた問題を解決するための法律が民法である。したがって、民法は皆さんにとって、最も身近な法律であり、また最も重要な法律でもあるといえよう。 そこで、本講義は、皆さんが社会生活を送る上で、法律問題に直面した場合に、当惑することの無い様、必要な法的知識を伝授することを目的とする。 法学部の学生はもちろん、外国語学部や国際教養学部、経済学部の学生も、本講義で扱う法的知識はしっかり身に付けて、社会に巣立っていって欲しい。	１．お金の貸し借りに関する法律－消費貸借契約 ２．債権の回収法－担保法 ３．債権の回収の際の注意点－消滅時効等 ４．借金返済に関する法律①－貸金業法等 ５．借金返済に関する法律②－自己破産等 ６．お金の紛失・盗難・詐欺に関する法律 ７．人に関する法律 ８．不動産に関する法律① ９．不動産に関する法律② １０．動産に関する法律 １１．契約とは何か １２．各種の契約の問題点① １３．各種の契約の問題点② １４．各種の契約の問題点③ １５．講義のまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、講義で学修した内容を必ず復習すること。
テキスト、参考文献	六法必携。テキストは初回に指示する。
評価方法	定期試験 100％

08 年度以降	現代社会１（続・暮らしの中の民法入門）	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
民法とは、一般市民が社会生活を送る際に生じた問題を解決するための法律である。たとえば、自動車事故にあう、結婚する、離婚する、財産を相続する。このような行為の際に生じた問題を解決するための法律が民法である。したがって、民法は皆さんにとって、最も身近な法律であり、また最も重要な法律でもあるといえよう。 そこで、本講義は、皆さんが社会生活を送る上で、法律問題に直面した場合に、当惑することの無い様、必要な法的知識を伝授することを目的とする。法学部の学生はもちろん、外国語学部や国際教養学部、経済学部の学生も、本講義で扱う法的知識はしっかり身に付けて、社会に巣立っていって欲しい。 なお、本講義は、春学期に開講した「現代社会１（暮らしの中の民法入門)」の続編であるが、本科目のみの受講でも差し支えない。	１．損害賠償の法律①－総論 ２．損害賠償の法律②－債務不履行 ３．損害賠償の法律③－不法行為1 ４．損害賠償の法律④－不法行為2 ５．損害賠償の法律⑤－交通事故 ６．結婚の法律 ７．夫婦の法律 ８．親子の法律 ９．離婚の法律 １０．相続に関する法律①－相続財産、相続人 １１．相続に関する法律②－相続分 １２．相続に関する法律③－相続の承認・放棄 １３．相続に関する法律④－遺言 １４．最近の判例 １５．講義のまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、講義で学修した内容を必ず復習すること。
テキスト、参考文献	六法必携。テキストは初回に指示する。
評価方法	定期試験 100％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会１(不動産取引と法)	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
賃貸マンションを借りる、分譲マンションを買う、一戸建てを買う。人が生活をするにあたって、「住むところ」の存在は必要不可欠なものである。したがって、ほとんど全ての人は、一生のうちに、一度は不動産取引を経験することになる。しかしながら、その不動産取引の際に法律問題が生じた場合、どうすれば良いのかを学んでいる人は、あまり多くない。そのため、欠陥住宅問題などの社会問題が絶えず生じているのである。 そこで、本講義は、獨協大学で学ぶ学生諸君に向けて、不動産取引の際に法律問題が生じた場合に、どのように対処すれば良いか、そのために必要な知識を伝授することを目的とする。同時に、本講義は、不動産という物の見方や注意点をも講義することで、法的問題が生じるのを未然に防ぐ方法も伝授しようと考えている。	１．不動産取引にあたり知っておくと良いこと ２．不動産の登記とその見方 ３．建築の際に基準となる法律 ４．不動産売買に関する問題① ５．不動産売買に関する問題② ６．分譲マンションに関する法律① ７．分譲マンションに関する法律② ８．借地と借家の種類 ９．借地借家と金銭 １０．借地借家契約の更新と終了 １１．借地借家契約の解除事由① １２．借地借家契約の解除事由② １３．借地借家に関するその他の問題 １４．不動産業者 １５．講義のまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、講義で学修した内容を復習しておくこと。
テキスト、参考文献	六法必携。テキストは初回に指示する。
評価方法	定期試験 100％

08 年度以降	現代社会 1 (ドイツ地域論)	担当者	伊豆田　俊輔

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ地域論 本講義では、ドイツ語圏とEUについて、歴史的な背景から考察します。 春学期では、二つの世界大戦と「ドイツ」をめぐる問題、そして冷戦が、ヨーロッパ統合（現在のEU, 欧州連合）に決定的な役割を果たしたことに留意し、ドイツ語圏とEUの歴史的な側面を重点的に論じます。この中でも、ヨーロッパ統合のはじまりから現在のEUに至るまで、中心的役割を果たしているドイツの歴史に的を絞り、ヨーロッパ統合とドイツの関係を見ていきます。授業では、二つの世界大戦と冷戦を経て、現在のヨーロッパ統合の形が出来あがるまでを、基本的に時系列を追う形で考えていきます。	1. シラバスに基づいた授業ガイダンス 2. ドイツ帝国と第一次世界大戦 3. ヴァイマル共和国とヨーロッパ 4. ナチ・ドイツと第二次世界大戦 5. ドイツの敗戦と第二次世界大戦の帰結 6. 占領時代のドイツと冷戦のはじまり 7. 西ドイツ国家の誕生と西欧統合の始まり 8. アーデナウアーと西欧結合路線の推進 9. 西ドイツの「長い60年代」と 西欧社会 10. ブラントの東方外交とヨーロッパ 11. 東ドイツ国家とヨーロッパ1949-1985 12. 1960-80年代の欧州統合の危機と進展 13. 冷戦終結と1989年の東欧革命 14. 東西ドイツ統一 15. 統一ドイツとEUの課題

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に紹介した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育んでください。
テキスト、参考文献	教科書は指定しない。 参考文献は毎回レジュメに記載する。
評価方法	期末テスト 85%, 授業への参加度 15%を目安に、総合的に判断する。

08 年度以降	現代社会 1 (ヨーロッパ地域論)	担当者	伊豆田　俊輔

講義目的、講義概要	授業計画
ヨーロッパ地域論 本講義では、ドイツ語圏とEUについて、特にドイツ連邦共和国とEUはどのような特徴を備えており、また、現在どのような課題を抱えているのかに焦点を当てることで論じていきます。 第4回目までの講義では、ドイツとEUの基本的な政治制度について概説します。5-7回では、現在のヨーロッパにおける、広い意味での統合（＝歴史観や市民権などの「ソフト」な統合）を扱います。8-11回では、ヨーロッパ・ドイツ語圏における、冷戦後の変容について、東ドイツの問題、移民問題、EUの東方拡大、EUの対外政策の変容という側面から扱います。12-15回では、現在のEUが直面している複合的「危機」について、欧州憲法条約の失敗、通貨危機、Brexit、ポピュリズムと言われる政治運動を通じて見ていきます。	1. シラバスに基づいた授業ガイダンス 2. 概説①―ドイツの政治制度 3. 概説②―EUの制度と課題 4. 概説③―ドイツのEU内における「大国化」？ 5. 「ソフト」な統合①―歴史認識 6. 「ソフト」な統合②―教育 7. 「ソフト」な統合③―EU市民権 8. ドイツとEUの変容①―東ドイツ問題 9. ドイツとEUの変容②―ドイツの移民国化 10. ドイツとEUの変容③―EUの東方拡大 11. ドイツとEUの変容④―EUの対外政策 12. EUの「危機」①―「統合」の終焉？ 13. EUの「危機」②―ユーロ危機 14. EUの「危機」③―Brexit 15. EUの「危機」④―ポピュリズム政治

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に紹介した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育んでください。
テキスト、参考文献	教科書は指定しない。 参考文献は毎回レジュメに記載する。
評価方法	期末テスト 85%, 授業への参加度 15%を目安に、総合的に判断する。

08 年度以降	現代社会 1（教育法 1）	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法は、教育の場で生じる様々な問題を、法的視点から、つまり、権利義務関係の視点から整理して問題の分析・解決を提起してゆく法分野です。現在、学校でも、家庭でも、子どもの人権侵害が多発しています。教師の体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例も後を絶たないし、一部の部活動では一定程度の体罰・暴力を当然視している場合もあります。また、いじめについては対策法も制定されるほど学校では常態化しており、いじめ自殺報道も続いており、いじめ裁判は増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害についての具体的な裁判例を、体罰、いじめ、校則、学校教育措置、教育情報に分類して、法的に分析し、教育法のかが得方と現時点での理論的到達点を解説します。	1　学校における子どもの人権侵害と裁判 2　学校事故裁判と子どもの人権裁判 3　体罰裁判とその特徴 4　天草市体罰事件最高裁判決 5　生活指導とその限界（指導死事件） 6　いじめ裁判とその論点 7　いじめ自殺と予見可能性 8　いじめ対策推進法と課題 9　丸刈り訴訟と校則裁判の論点 10　パーマ校則裁判 11　学校教育措置と原級留置き訴訟 12　信教の自由と学習権（エホバの証人信徒退学事件） 13　教育個人情報保護（指導要録開示請求事件） 14　学力テスト学校別結果公開請求事件 15　まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で取り上げる判例を事前または事後に読んでほしい。
テキスト、参考文献	教育関係 6 法
評価方法	試験

08 年度以降	現代社会 1（教育法 2）	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法の現代的状況把握（教育法a）を前提に、教育法のより体系的な理解のために、歴史的アプローチとして簡略な戦後教育法史を解説し、教育法の基礎概念である教育人権の理解を深めます。まず、戦後教育改革の法制とその変質過程（教育法の生成過程でもあります）を、代表的な自主性擁護的教育裁判を通じて通覧し、国家と教育のかかわり方を考察します。次に、主要な教育人権である学習権、親の教育の自由、教師の教育の自由を教育判例によって考察します。最後に、地方教育行政のあり方、2006年教育基本法改正とその後の教育法制の展開を分析します。	1　戦後教育改革と憲法・教育基本法法制 2　逆コースの教育改革 3　教科書裁判（1） 4　教科書裁判（2） 5　最高裁学テ判決 6　障害児の学習権（特殊学級入級処分訴訟） 7　子どもの市民的自由（内申書裁判） 8　親の教育の自由の歴史的展開（日曜日訴訟） 9　道徳教育債務履行請求事件 10　親の教育情報請求権 11　教師の教育の自由（伝習館高校事件） 12　教師の教育の自由と日の丸・君が代強制 13　教育委員会制度の変遷 14　教育基本法改正とその後の教育法制 15　まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で取り上げる判例を事前または事後に読んでほしい。
テキスト、参考文献	教育関係 6 法
評価方法	試験

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会 1（非正規雇用を考える）	担当者	市原　博

講義目的、講義概要	授業計画
近年仕事にかかわる問題としてもっとも注目を集めているのは、非正規で働く人々、特に若者が増えていることです。バブル崩壊後の長期不況の中で、コスト削減のために非正規社員による正社員の置き換えが広く行われてきました。最近の雇用情勢の好転によってもこの問題は解決されておらず、むしろ、中高年となった非正規の方々の貧困問題＝格差拡大が注目されるようになっています。この授業では、そうした事態がどのように生じたのか、その実態はどのようなものであり、企業は彼ら・彼女らをどのように使用しているのか、また、非正規雇用に対する法的規制はどのようになっており、最近政府が取り組んでいる「働き方改革」で何が変わるのかを考えます。 また、非正規雇用とともに近年関心を集めている「ブラック企業」問題も取り上げます。 非正規雇用をめぐる問題を正しく理解し、自らの働き方を考え直す機会を提供するのがこの授業の目的です。	1. イントロダクション－正社員と非正規とは何か 2. パート労働－基幹パート 3. パート従業員の活用策 4. パート労働法による規制とその変化 5. フリーターの増加とその理由 6. 中高年フリーターの実態 7. フリーターから正社員への移行の条件 8. 派遣労働の法的規制とその変化 9. 派遣労働者の属性 10. 男女雇用機会均等法の変化 11. 女子社員の職務配分と均等処遇 12. 女子社員の活用策 13. ブラック企業の見分け方 14. ブラック企業への対処法 15. 「働き方改革」の内容

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料を事前・事後によく読み、また関連する新聞記事を読むようにしてください。
テキスト、参考文献	テキストは特に指定せず、資料をプリントして配ります。 参考文献はたくさんありますので、項目ごとに授業中に指示します。
評価方法	おおよそ、授業への参加度 10%、小テスト・レポート 10%、定期試験 80%で評価します。

08 年度以降	現代社会 1 (History of International Relations I)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed for students to learn the history of international relations. Students will enhance the knowledge and the understanding of international relations through the studies of key events that occurred from the 16th century to the end of World War II. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn history of international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. The Rise of Sovereign States and Europe 3. Revolutions and the Congress of Vienna 4. The Age of Pax Britannica 5. The Emergence of Imperialism 6. Emerging New Alliances and Imperialism 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination 9. The Path to World War I 10. The End of World War I 11. The Resurgence of Peace and Stability 12. The Path to World War II 13. The Outbreak of World War II 14. The End of World War II 15. Course Review

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (50%), and final examination (50%).

08 年度以降	現代社会 1 (History of International Relations II)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed for students to learn the history of international relations. Students will enhance the knowledge and the understanding of international relations through the studies of key events that occurred from the beginning of the Cold War to the early 21st century. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn history of international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. The Beginning of the Cold War 3. The Outbreak of the Korean War 4. The Cold War in Europe 5. The Cold War in the Middle East 6. The Vietnam War and the Bipolar Structure 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination 9. The Cold War in South Asia 10. The End of the Cold War 11. The Post-Cold War World 12. The End of Pax Americana 13. Changing Global Order I 14. Changing Global Order II 15. Course Review

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (50%), and final examination (50%).

08 年度以降	現代社会 1（国際法 1）（国際社会と私たち）	担当者	井上　秀典

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際社会において私たちと法がどのように関わっているのかを理解する。また、国際法と国内法が密接に関係していることも理解する。 〔講義概要〕 国際社会における法のしくみおよび特徴を概観する。一見、私たちとあまり関係ないと思われがちな国際法であるが、どのような関わり合いがあるのかを考察する。	1. ガイダンス 2. 国際法の形成と発展 3. 国際法の成立形式 4. 条約のしくみ 5. 国際法の主体 6. 国際法と国内法 7. 国家承認と政府承認 8. 主権、主権免除 9. 平等権、不干渉義務 10. 外交関係と国際法 11. 領事関係と国際法 12. 国際法と管轄権 13. 国際責任1 14. 国際責任2 15. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義終了後、疑問点がある場合、教員に質問し、また図書館等において参考文献を自分で調べた内容をノートに書き込み、整理すること。
テキスト、参考文献	教科書：井上秀典『持続可能な社会を考える法律学入門』八千代出版　参考文献：小松一郎『実践国際法』信山社、柳原正治『国際法』放送大学教育振興会、『国際条約集』有斐閣、
評価方法	学期末試験の成績 100%で評価する。

08 年度以降	現代社会 1（国際法 2）（国際紛争を考える）	担当者	井上　秀典

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際社会において多様な分野での紛争およびその解決について理解する。また、国際法と国内法が密接に関係していることも理解する。 〔講義概要〕 国際法が国際社会の多様な分野でどのように発展してきているのかを概観する。特に国家間の対立や国際紛争に対してどのような解決が図られているのかを考察する。	1. ガイダンス 2. 領域および領域紛争 3. 領海、排他的経済水域、公海 4. 大陸棚、深海底 5. 国際人権保障 6. 難民と国際法 7. 国際犯罪 8. 国際環境法の歴史 9. 気候変動と国際法 10. 紛争の平和的解決 11. 安全保障と国際法 12. 平和的維持活動 13. 自衛権 14. 武力行使に関する国際法 15. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義終了後、疑問点がある場合、教員に質問し、また図書館等において参考文献を自分で調べた内容をノートに書き込み、整理すること。
テキスト、参考文献	教科書：井上秀典『持続可能な社会を考える法律学入門』八千代出版　参考文献：小松一郎『実践国際法』信山社、柳原正治『国際法』放送大学教育振興会、『国際条約集』有斐閣
評価方法	学期末試験の成績 100%で評価する。

08 年度以降	現代社会 1 (東南アジアの開発と社会)	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　東南アジアの開発／発展がもたらした社会の変化について、また文化的な影響について、グローバルな視点とローカルな視点の両面から批判的に検討する。東南アジアの人々について、よその地域の他人ごとの話ではなく、さまざまな形で自分とつながる人々であることを理解し、この講義で学びを自分自身の今後の生き方を考える機会とする。 講義概要 　東南アジア社会が直面する課題について、さまざまな視角から学習し、望ましい発展とは何か、また、今日のグローバルな発展／開発に対して、自分自身のとるべきスタンスを考える。また、主としてタイを事例に、１、開発／発展に関わる政府の政策、NGOs などによるオルタナティブなアプローチについて紹介し、２、開発／発展によって生じた問題を解決するためのさまざまな福祉的アプローチについて検討する。	第１回：地域研究的な思考方法について 第２回：東南アジアの地域的特徴 第３回：東南アジア地域研究の課題 第４回：東南アジア社会の多様性 第５回：東南アジアにおける都市–農村間の格差 第６回：東南アジアと私たちの関わり 第７回：東南アジアにおける開発政策の展開 第８回：オルタナティブな開発／発展観／思想 第９回：タイにおける開発／発展と宗教 第 10 回：タイにおける開発／発展と環境 第 11 回：タイにおける開発／発展と労働力 第 12 回：タイにおける開発／発展と家族・子ども 第 13 回：タイにおける開発／発展と女性 第 14 回：タイにおける社会保障／福祉 第 15 回：試験

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を読んでおく。講義中に示された資料をヒントに、さらに関連事項を調べる。
テキスト、参考文献	『地域研究』(JCAS Review) Vol.7 No.1 (2005 年 6 月発行) 北川隆吉監修『地域研究の課題と方法　アジアアフリカ社会研究入門』　文化書房博文社　(2006 年) 大泉啓一郎著　『老いてゆくアジア』中公新書 (2007 年)
評価方法	定期試験が 60 パーセント、授業中に提出された課題を 40 パーセントとして総合的に判断する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会 1 (韓国政治論)	担当者	呉 吉煥（オー・キルハン）

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国の政治と政治史についての基礎的な知識を習得して、朝鮮半島の政治と社会に対する理解を深めることが目的である。 韓国政治の理解には、朝鮮半島における政治文化の形成・展開を検討することがとりわけ重要である。政治文化とは、政治のあり方を規定するイデオロギー、伝統、観念、信仰、ルールなどの政治過程に関わる一切の文化のことで、朝鮮半島ではそれが近代以後に大きく変貌したとされる。だが、その根幹となるものはすでに前近代に形成されており、政治文化の正確な把握には、前近代朝鮮の政治の展開過程を検討する必要がある。 講義では、朝鮮半島の政治を前近代から時代順に概観しつつ、各時期における政治の様子と政治文化の特徴を明らかにしていく。	1. ガイダンス、韓国政治史の時期区分 2. 高麗の建国と展開 3. 支配体制の変動と高麗の滅亡 4. 朝鮮王朝の成立と両班支配体制の確立 5. 両班支配体制の展開と再編 6. 開国と近代社会の形成 7. 大韓帝国と植民地化 8. 日本の植民地時期 9. 米軍政と「分断体制」の成立（第１共和国） 10. 学生革命（第２共和国） 11. 軍事クーデタと軍事政権（第３・４共和国） 12. 軍事政権と韓国社会 13. 「光州民衆抗争」と軍部の再登場（第5共和国） 14. 民主化と文民政権の誕生（第６共和国） 15. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習として、各授業内容に該当する時期を概説した朝鮮史の文献を読んでおくこと。
テキスト、参考文献	テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布して授業を進める。参考文献については、初回の授業時に紹介する。
評価方法	授業への参加度（授業態度、コメントペーパの内容など）：５０%、期末試験：５０%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会１（地理学１）（世界の自然環境と文化）	担当者	大竹　伸郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は地理的なものの見方や考え方を学ぶことで、自然環境の成り立ちやそれぞれの地域で育まれた文化と自然環境の関わりについて理解し、現代社会に関する基礎的な素養を身につけることである。 講義では、現代社会の暮らしの基盤となっている地球の自然環境や各地域によって異なる人文現象（衣食住など）に焦点をあて、人の暮らしと自然の関わりについて講義するとともに、現代の社会生活が起因となっている世界規模の諸問題についても取り上げる。	1　オリエンテーション 2　我々の暮らしと自然環境 3　環境の諸要素①（地球の成り立ちと地形） 4　環境の諸要素②（地球の周りの気団と気候） 5　環境の諸要素③（地球の植生と土壌） 6　環境の諸要素④（地球に暮らす様々な生き物） 7　熱帯地域①（熱帯地域の人々の暮らと文化） 8　熱帯地域②（焼畑農業と熱帯の稲作） 9　熱帯地域③（熱帯開発と環境問題１） 10　熱帯地域④（熱帯開発と環境問題２） 11　乾燥帯地域①（乾燥帯地域の人々の暮らしと文化） 12　乾燥帯地域②（一神教と自然環境） 13　乾燥帯地域③（資源ナショナリズムの台頭） 14　乾燥帯地域④（中東問題の遠因と現状） 15　まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には配布資料により学修内容を整理する。
テキスト、参考文献	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房
評価方法	定期試験の結果に（80%）によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績（20%）も評価対象とする。

08 年度以降	現代社会１（地理学２）（世界の自然環境と文化）	担当者	大竹　伸郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は地理的なものの見方や考え方を学ぶことで、自然環境の成り立ちやそれぞれの地域で育まれた文化と自然環境の関わりについて理解し、現代社会に関する基礎的な素養を身につけることである。 講義では、現代社会の暮らしの基盤となっている地球の自然環境や各地域によって異なる人文現象（衣食住など）に焦点をあて、人の暮らしと自然の関わりについて講義するとともに、現代の社会生活が起因となっている世界規模の諸問題についても取り上げる。	1　オリエンテーション 2　温帯地域①（温帯地域の特徴と人々の暮らし） 3　温帯地域②（地中海性気候の人々の暮らしと文化） 4　温帯地域③（大陸西岸気候の人々の暮らしと文化） 5　温帯地域④（モンスーン気候の人々暮らしと文化） 6　温帯地域⑤（北米温帯地域の人々の暮らしと文化１） 7　温帯地域⑥（北米温帯地域の人々の暮らしと文化２） 8　冷帯地域　（冷帯地域の人々の暮らしと文化） 9　寒帯地域　（寒帯地域の人々の暮らしと文化） 10　山地地域　（山地地域の暮らしと文化） 11　世界の環境問題①（人口問題と食料） 12　世界の環境問題②（越境する大気汚染） 13　世界の環境問題③（我々の暮らしと地球温暖化１） 14　世界の環境問題④（我々の暮らしと地球温暖化２） 15　まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には配布資料により学修内容を整理する。
テキスト、参考文献	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房
評価方法	定試験の結果に（80%）によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績（20%）も評価対象とする。

08 年度以降	現代社会 1（現代の企業経営）	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
経営学は、かなり幅広い学問領域を含んでいる。主たるものでも、戦略論、組織論、組織行動論、人的資源論、国際経営論等がある。本講義はこれらの中で組織行動論に焦点を当てる。組織行動論とは、企業などの組織環境の中で人はなぜその行動を取るのかを理解することに主眼を置く。講義方法前半はパワーポイントを使い、なるべくわかり易く企業の実例をあげて理論の説明を行う。後半はグループに別れてケース分析を行い前で発表をする。	1. ガイダンス 2. モチベーション 3. グループの性質 4. リーダーシップ 5. コミュニケーション 6. 紛争と対立 7. 意思決定 8. パワーとポリティクス 9. 人的資源 10. 企業文化 11. 組織構造 12. 組織変革 13. ＤＶＤ（時事トピック） 14. 復習 15. Ｑ＆Ａ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義は復習中心である。興味あるトピックに関しては講義中にあげる文献や資料を各自が読んでおくこと。
テキスト、参考文献	毎回講義資料を配布する。
評価方法	評価は学期末試験による。出席は本学の慣例による。４回以上欠席は不可。遅刻については、公的機関の遅れ等以外の理由の入室は禁止。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会 1 (地域メディア論)	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
Think Globally, Act locallyというフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。それに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには現代の環境問題や社会福祉のあり方を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌やフリーペーパー、コミュニティFMなどである。それらが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。学期のさいごには、受講者自身が制作したローカル・メディアを提出・発表してもらう。	１．イントロダクション ２．グローバル化とローカル・コミュニティ ３．地域・地方文化の復権とメディア ４．各地の地域メディア（１） ５．各地の地域メディア（２） ６．メディアによる地域文化の創造（１） ７．メディアによる地域文化の創造（２） ８．メディアによる地域文化の創造（３） ９．災害と地域メディア（１） １０.災害と地域メディア（２） １１.多文化共生と地域メディア（１） １２.多文化共生と地域メディア（２） １３.受講者による発表（１） １４.受講者による発表（２） １５.まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	自分がよく読んだり視聴したりするローカル・メディアについて調べておく。
テキスト、参考文献	岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房
評価方法	授業時間内での発表・質問など（50%）、期末試験（50%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会 1 (社会学 a)	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も、家族や親しい友人も「他者」である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、そういった他者たちと社会的関係を築かなくては私たちは生活できない。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では「他者 other(s)」が重要なキー概念となっている。さらに、他者について考えることは、「自己（わたし)」について考えることでもある。本講義では、社会学の基礎知識をふまえつつ、先行研究を現代的な文脈で捉え、社会学が生まれた経緯と社会学的視点、さらにアイデンティティ形成のメカニズムについて学ぶ。それをとおして社会のなかに生きる「他者と自己」の関係を考えてみよう。	1. イントロダクション 2. 社会学的視座とは 3. 社会学の歴史（1）──A.コント、H.スペンサー 4. 社会学の歴史（2）──E.デュルケム 5. 社会学の歴史（3）──M.ウェーバー 6. 社会の類型（1）──コミュニティとアソシエーション 7. 社会の類型（2）─ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 8. 社会の類型（3）──第一次集団 9. Identity形成と社会（1）──鏡に映った自己 10. Identity形成と社会（2）──重要な他者 11. Identity形成と社会（3）──マージナル・マン 12. Identity形成と社会（4）──未定 13. 補完的アイデンティティについて 14. 他者と自己の社会学 15. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	身分証明書以外に、私たちはどのようにして自分が自分であることを証明するか考えておく。
テキスト、参考文献	G.ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会)』世界思想社、E.デュルケム『自殺論』中央公論社 M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、G.H.ミード『社会的自我』恒星社厚生閣
評価方法	授業への積極性(小レポートや提出物)　50%、期末試験　50%

08 年度以降	現代社会 1 (社会学 b)	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちが日常的に何気なく行っていることや「あたりまえ」だと思っていること、あるいは「社会問題」と呼ばれる事象について、社会学的な見地から分析してみるとどうだろうか。それまで見えていなかったことが見えてくるかもしれない。それまで気づいてさえいなかったことが、突然気になりだすかもしれない。 本講義では、近代の都市社会やグローバル化が抱える問題についての研究業績を知り、それを手がかりにしながら、わたしたちにとって身近な出来事を社会学的に考えてみたい。とくに「都市」「移民」「地域」「大量消費」「社会的逸脱」といったキー概念を中心に扱う。	1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」──E.フロム 3. 同調様式の 3 類型──D.リースマン 4. 都市化と移民──W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説──E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題──R.パーク 7. 予言の自己成就──R.K.マートン 8. 誇示的消費──T.ヴェブレン 9. 認知的不協和の理論──L.フェスティンガー 10. 文化的再生産──P.ブルデュー 11. コンフルエント・ラブ──A.ギデンズ 12. 現代社会を社会学的にみる（1）情報技術とメディア 13. 現代社会を社会学的にみる（2）グローバル化 14. 現代社会を社会学的にみる（3）ローカル化 15. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	グローバル化と都市化がもたらす光と影について考えておく。
テキスト、参考文献	E.フロム『自由からの逃走』東京創元社、D.リースマン『孤独な群集』みすず書房 A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房　ほか
評価方法	授業への積極性（小レポートや提出物）50%、 期末試験 50%

08 年度以降	現代社会１（民法１）	担当者	小川　佳子

講義目的、講義概要	授業計画
法とはなにか。私たちは、あらゆる法に囲まれ、法と密接な関わりを持ちながら生きているが、そもそも法とはなにか。何のためにあるのか。さらに、裁判とは何か。これらについて解説した後、民法についての講義を行う。後半では、典型的なケースについて説明を行う。なお、講義を通し、その都度、ニュースとなった裁判や法律問題についても解説を行う予定である。	１　法とは何か。 ２　法と裁判 ３　生活関係と法 ４　民法とは（１）概説 ５　民法とは（２）財産編 ６　民法とは（３）家族編 ７　ケース：金銭消費貸借 ８　ケース：建物賃貸借 ９　ケース：不動産明渡 １０ケース：売買 １１ケース：婚姻関係 １２ケース：相続関係 １３ケース：親子関係 １４ケース：成年後見 １５その他

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	シラバス及び直前の講義においてテーマとして指定された論点につき、考察しておくこと
テキスト、参考文献	最新版の六法
評価方法	原則として期末試験で評価する

08 年度以降	現代社会１（民法２）	担当者	小川　佳子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続き、民法についての解説を行う。秋学期では民事紛争の解決はどのように行われるかについてまず解説し、その後、春学期では触れられなかった類型の民事事件につき解説する。	１　民事紛争と民法 ２　民事紛争の解決：裁判（１） ３　民事紛争の解決：裁判（２） ４　民事紛争の解決：裁判以外の方法（１） ５　民事紛争の解決：裁判以外の方法（２） ６　ケース：債権回収 ７　ケース：労働事件 ８　ケース：損害賠償 ９　ケース：医療関係事件 １０ケース：交通事故事件 １１ケース：時効 １２ケース：保証 １３裁判例（１） １４裁判例（２） １５その他

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	シラバス及び直前の講義においてテーマとして指定された論点につき、考察しておくこと。
テキスト、参考文献	最新版の六法
評価方法	原則として期末試験で評価する

08 年度以降	現代社会 1（社会保障論 a）	担当者	尾玉　剛士

講義目的、講義概要	授業計画
年金や医療などの社会保障制度のあり方は、人々の生活、企業の活動、政府の財政に対して大きな影響を与えます。この講義では、社会保障とは何か、なぜ必要とされてきたのかについて考えることから始め、続いて現在の日本の社会保障制度とそれが直面している課題について解説します。日本の置かれている状況の理解を深めるために、随時外国との比較を行います。 とりあげる予定のテーマは「授業計画」の通りです。学期末までに、今後の社会保障のあり方について、意見を形成できるようになることを目指します。	1. 講義目的・概要・評価方法の説明 2. 社会保障とは何か 3. 経済と社会の変化：低成長・少子高齢化・雇用 4. 年金制度(1) 5. 年金制度(2) 6. 中間まとめ＆年金制度(3) 7. 医療保険制度(1) 8. 医療保険制度(2) 9. 医療保険制度(3) 10. 介護保険 11. 公的扶助（生活保護） 12. 子育て支援政策 13. 障害者福祉 14. まとめ① 15. まとめ②

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのか注意しながら学びを深めてください。
テキスト、参考文献	参考文献リストを含む資料を毎回配布します。
評価方法	中間テスト 20%・期末テスト 80%。中間テストの無断欠席は 0 点扱いとします。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡してください。

08 年度以降	現代社会 1（社会保障論 b）	担当者	尾玉　剛士

講義目的、講義概要	授業計画
「ジェンダーから見た社会保障」がテーマです。第二次世界大戦後の先進諸国では、年金や医療などの社会保障制度が大きく発展しましたが、こうした社会保障制度は往々にして「男性はお金を稼ぎ、女性は家で家事やケアをする」といった性別役割分業やジェンダー・バイアスを前提としていました。 しかし、こうした性別役割分業には、男性は家庭生活や地域社会との交流に時間を割きにくく、女性は男性に経済的に依存せざるを得ず、男性がいない家庭は貧困に陥りやすいといった側面もあります。 この講義では、ジェンダーの視点から日本や諸外国の社会保障制度を捉え直し、今後の社会のあり方について考えていきます。 「社会保障論a」の履修は前提としませんが、両方履修することで理解が深まると思われます。	1. 講義目的・概要・評価方法の説明 2. ジェンダーから見た社会保障(1)：歴史的変遷 3. ジェンダーから見た社会保障(2)：現在の課題 4. 出産に関する社会保障 5. 子育てに関する社会保障 6. ジェンダーから見た雇用と税制 7. 中間まとめ 8. ジェンダーから見た年金 9. ジェンダーから見た介護 10. シングルマザーと社会保障(1)：日本の状況 11. シングルマザーと社会保障(2)：海外の状況 12. ジェンダーから見た生活保護 13. ジェンダーから見た海外の社会保障 14. まとめ① 15. まとめ②

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのか注意しながら学びを深めてください。
テキスト、参考文献	参考文献リストを含む資料を毎回配布します。
評価方法	中間テスト 20%・期末テスト 80%。中間テストの無断欠席は 0 点扱いとします。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡してください。

08 年度以降	現代社会 1 （日本国憲法）	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
日本国憲法の入門講義を行う。半期完結講義なので、ピンポイント的に日本の人権問題を扱うことになる。 毎回、判例を読みながら、この国の人権状況を考えてみたい。 指定した教科書の他、『六法』と判例は必ず持参すること。	1. ガイダンス 2. 『六法』の使い方 3. 憲法概念 4. 立憲主義 5. 日本国憲法制定過程 6. 法の下の平等 7. 精神的自由：信教の自由 8. 精神的自由：学問の自由 9. 精神的自由：表現の自由／報道の自由 10. 精神的自由：表現の自由／プライバシーの権利 11. 人身の自由と被疑者の人権 12. 社会権：生存権 13. 社会権：教育権 14. 法律学の答案の書き方 15. 総評とまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：教科書を通読しておくこと。事後：講義中あげた参考文献を下に「憲法復習ノート」を必ず作成すること。
テキスト、参考文献	加藤一彦『教職教養憲法 15 話［改訂 3 版］』（北樹出版）
評価方法	定期試験：100%

08 年度以降	現代社会 1 （日本国憲法）	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
日本国憲法の入門講義を行う。半期完結講義なので、ピンポイント的に日本の人権問題を扱うことになる。 毎回、判例を読みながら、この国の人権状況を考えてみたい。 指定した教科書の他、『六法』と判例は必ず持参すること。	1. ガイダンス 2. 『六法』の使い方 3. 憲法概念 4. 立憲主義 5. 日本国憲法制定過程 6. 法の下の平等 7. 精神的自由：信教の自由 8. 精神的自由：学問の自由 9. 神的自由：表現の自由／報道の自由 10. 精神的自由：表現の自由／プライバシーの権利 11. 人身の自由と被疑者の人権 12. 社会権：生存権 13. 社会権：教育権 14. 法律学の答案作成方法 15. 総評とまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：教科書を通読しておくこと。事後：講義中あげた参考文献を下に「憲法復習ノート」を必ず作成すること。
テキスト、参考文献	加藤一彦『教職教養憲法 15 話［改訂 3 版］』（北樹出版）
評価方法	定期試験：100%

08 年度以降	現代社会 1（経済学 1）（はじめての経済学）	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、国内総生産(GDP)の概念の理解から出発して、一国の生産量の決定問題を取り扱う。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。	講義中にプリント配布

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で学んだことをその日に復習するように心がける
テキスト、参考文献	未定
評価方法	定期試験 90%　小テスト 10%

08 年度以降	現代社会 1（経済学 2）（はじめての経済学）	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば多数の多重債務者の存在にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、この講義では価格メカニズムの必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。	講義中にプリント配布

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で学んだことをその日に復習するように心がける
テキスト、参考文献	未定
評価方法	定期試験 90%　小テスト 10%

08 年度以降	現代社会１（家族と法）	担当者	齋藤　哲

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、世間で話題になっている家族と法にまつわる様々な件や全く話題になっていない件に対して、 ちょっとだけ首を突っ込んだり、突っ込まなかったり、深入りしちゃったりする授業です。	第１章　家族法の話し 第２章　婚姻の話し 第３章　婚姻解消の話し 第４章　親子の話し 第５章　養子の話し 第６章　親権の話し 第７章　後見の話し 第８章　相続の話し 第９章　遺言の話し 第 10 章　ストーカー法とＤＶ法の話し 第 11 章　扶養と生活保護の話し

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定テキストに目を通すこと
テキスト、参考文献	齋藤哲『家族と法』（不磨書房・信山社、2017 発行予定）
評価方法	11 回以上出席している受講生の期末試験

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会 1 (政治思想と理論、制度)	担当者	佐藤　俊輔

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では政治学への導入として、特に自由民主政治の思想、歴史、制度について基礎的な知識を身に付け、理解を深めることを目指します。 それを通して政治学の基本的な概念や考え方を習得することが第 1 の目的です。また、これらの概念や考え方を応用し、政治の現状について理解、分析できるようになることがもうひとつの目的となります。 上記の目的のため、本講義では①政治とは何か、権力とは、自由とは、国家とは何かといったやや抽象的な政治学の原論から説き起こし、次に②デモクラシーの思想、歴史と、③現代民主政の主要な政治制度について諸国の事例とともに概観します。④最後に、それらを踏まえたうえで、個人や社会と国家との関係について論じます。	1. イントロダクション―講義の目的と全体像 2. 政治とは何か 3. 権力とは何か 4. 国家とは何か（1）―近代国家の形成 5. 国家とは何か（2）―近代国家の役割 6. 国家とは何か（3）―福祉国家の成立 7. 国家とは何か（4）―福祉国家の変容 8. デモクラシーとは何か（1）―民主政治の起源 9. デモクラシーとは何か（2）―民主政治の変容 10. 政治制度（1）―自由民主政治の制度像 11. 政治制度（2）―執政制度の多様性 12. 政治制度（3）―代表制民主政治の多様性 13. 国家と社会（1）―政治参加と差異を巡る政治 14. 国家と社会（2）―市民社会と民主政治 15. 講義のまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義の終了後に各自でまとめを行い、理解の足りない箇所については参考図書などを用いて補うこと。そのうえで関心があれば講義中に紹介する参考文献へあたり、理解と思考を深めてほしい。
テキスト、参考文献	テキストは特に指定しませんが、初回講義の際に講義全体にとって参考となる概説書を紹介します。また、参考文献については各回の講義の中で適宜紹介してゆく予定です。
評価方法	定期試験（80%）と授業内のコメントカードなど平常点（20%）により評価します。

08 年度以降	現代社会 1 (政策と政治過程)	担当者	佐藤　俊輔

講義目的、講義概要	授業計画
現代社会 1 (政治思想と理論、制度)の知識に基づき、本講義では現代民主政の枠組みのなかで政治が作動し、政策が形成される過程について、基礎的な知識を身に付けることを目指します。講義では、理論の紹介と共に、その理論に関わる日本政治や国際政治の状況を紹介します。これを通じて現代政治を理解できるようになることがもうひとつの目的です。 上記の目的に照らして、本講義では①政治・政策形成の過程、②その中で活動する諸アクターに焦点をあてて学びます。そのうえで、それら政治・政策過程の枠組みとなっている③政治空間の再編成について、地方自治、グローバル化、地域統合といったイシューから考察し、現代政治の特徴と課題について論じます。	1. イントロダクション―講義の目的と全体像 2. 選挙制度 3. 投票と政党支持 4. 政党（1）―政党の機能と役割 5. 政党（2）―政党と政党システム 6. 議会 7. 官僚制 8. 利益集団 9. 世論とマスメディア 10. 地方政治 11. 主権国家と国際秩序 12. 地域統合―EU の事例 13. 政治空間の再編と現代政治の課題 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義の終了後に自分なりのまとめを行い、理解の足りない箇所については参考図書などを用いて補うこと。そのうえで関心があれば、ぜひ講義中に紹介する参考文献へあたり、理解と思考を深めてほしい。
テキスト、参考文献	テキストは特に指定しませんが、初回講義の際に講義全体にとって参考となる概説書を紹介します。また、参考文献については各回の講義の中で適宜紹介してゆく予定です。
評価方法	定期試験（80%）と授業内のコメントカードなど平常点（20%）により評価します。

08 年度以降	現代社会 1（歴史の中のメディア）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの社会はどのような情報の流れのなかで変化を遂げてきたのだろうか。人と人、人と社会を取り結ぶコミュニケーションを「メディア」の機能の進化の中に探り、個人と企業や政府との関係、政治や国際社会への影響など、広く社会とのかかわりを歴史の中に探ります。 この授業では人の肉声による言葉のやりとりから活字印刷の発明による情報の大量伝達の始まり、電信、映像、電波などの技術革新を通した伝達速度の飛躍と感覚の拡張など、その発展の歴史を具体的な事例に沿ってたどりながら、インターネットという新たなメディアが登場した21世紀の今日の社会の姿を考えます。もとより、メディアは人間と社会を結ぶ伝達の手段ですが、そのネットワークの広がりと人間の知識や感覚の拡張によって、社会システムや価値観を変えてゆく仕組みでもあります。 いまメディアの歴史のなかにそれを問うことで、民主主義や市場経済といった現代社会の普遍的なシステムの成り立ちと発展、その先行きを考えたいと思います。	1. はじめに 2. グーテンベルクの革命 3. ピュリツァーと〈新聞戦争〉 4. ロイターと大英帝国 5. 視覚の 20 世紀 6. プロパガンダとメディア 7. 戦争と国民国家とメディア 8. グローバリゼーションと情報 9. メディア複合体のゆくえ 10. テレビとネット 11. エンターテインメントとメディア 12. 民主主義とメディアモデルの揺らぎ 13. 情報は有償か無償か 14. メディアのなかの人間 15. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を事前に読んでおくとともに、各回のキーワードを事後調べなおして論点整理を求める。
テキスト、参考文献	各回資料を配布する。ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』(柏書房)を参考文献とする。
評価方法	定期試験の成績（80%）にくわえて、通常の授業で課すリポートの実績（20%）を勘案して評価する。

08 年度以降	現代社会 1（メディアと現代社会）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
新聞、雑誌、放送、出版など「マスメディア」と呼ばれてきた媒体は、民主主義と市場経済という社会の仕組みのなかで、国民の「公共性」を支える固有の役割を担ってきました。情報の伝達と世論の形成などを通して人々の権利の養護や権力の監視など、言論表現の自由という近代社会の人間の基本権を足場にしたジャーナリズムの働きは、民主主義の下の言論の機能を飛躍させ、社会的な影響力の大きさからメディアは三権にならぶ「第四の権力」と呼ばれます。国民の権利を代行する議会を補完し、それ以上に「民意」と「公益」の形成に大きな影響を及ぼしてきたそのメディアが近年、大きな曲がり角を迎えています。インターネットという新たなメディアが普及し、個人が国境を越えて瞬時に情報をやり取りできる環境の下で、メディアが民主主義と市場経済といった近代社会のありようをどのように変えているのかを、ここで考えていきます。	1 はじめに 2 ジャーナリズムとはなにか 3 調査報道と「知る権利」 4 「表現の自由」と現代社会 5 誤報・虚報はなぜ生まれるのか 6 「世論」とメディア 7 情報操作はなぜ行われるのか 8 メディアの倫理と「公益性」の行方 9 放送と通信の融合とテレビ 10 外交と情報摩擦 11 メディアの再編と市場 12 国家機密保護と情報漏洩 13 メディアと文化 14 ネット社会と「公共圏」 15 まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を事前に読んでおくとともに、各回のキーワードを事後調べなおして論点整理を求める。
テキスト、参考文献	各回資料を配布する。佐藤卓己「メディア社会」（岩波新書）を参考文献とする。
評価方法	定期試験の成績（80%）にくわえて、通常の授業で課すリポートの実績（20%）を勘案して評価する。

08 年度以降	現代社会 1（グローバリゼーションを巡って）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
近代社会の成立と発展を歴史のなかにたどりながら、そこで「情報」が果たした役割をさまざまな時代、地域に探ります。近代を特徴づける資本主義という経済システムと民主主義という政治の仕組みは、なぜ西欧など特定の地域に発達し、文明が先行する社会と遅滞する社会を分け隔てていったのか。そこでは人々を合理的な行動に向かわせる社会基盤が、科学技術と情報伝達の広がりによって形成され、成長を目指した市場の競争や個人の自由な権利の行使を通して今日の「豊かな社会」が実現されました。 情報を運ぶ〈乗り物〉としての情報技術（IT）は、例えば、活字印刷による初期の新聞や出版物から映像や電気通信、そして今日のコンピューターへと進化を重ね、人とモノとお金がやすやすと国境を超えて行き交う、いわゆるグローバリゼーションを発展させました。こうした質と量の両面で「情報」が果たす役割の変化を通して、人と社会や文化、そして国家や世界とのかかわりを考え、そこで生じる問題点を含めた新たなありようを展望します。	1. はじめに 2. 文化と文明 3. 三つの波 4. 情報と近代社会①ルネサンスと科学技術 5. 情報と近代社会②プロテスタントと富の蓄積 6. 情報と近代社会③産業革命と大英帝国 7. 情報と近代社会④米国と市場経済の発展 8. 情報と近代社会⑤冷戦と豊かな社会 9. 情報と近代社会⑥米国の覇権と揺らぎ 10. 情報と日本の近代①キャッチアップ 11. 情報と日本の近代②孤立と破綻 12. 情報と日本の近代③成長とその翳り 13. 情報とグローバリゼーション① 14. 情報とグローバリゼーション② 15. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各自参考文献の通読とともに、授業で扱ったキーワードを調べなおして各回の論点整理を心がけたい。
テキスト、参考文献	各回資料を配布する。佐和隆光『市場主義の終焉』（岩波新書）を参考文献とする。
評価方法	定期試験の実績（80%）にくわえて授業内で課すリポートの実績（20%）を勘案して評価する。

08 年度以降	現代社会 1（日本の表象と世界）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
情報社会は国際競争や企業システムから民主主義や法など統治の仕組み、社会の「公」と「私」の関係や固有の文化のありようなど、「近代」が自明としてきたさまざまなシステムや制度、ルール、価値観を大きく変えています。 米国の一極支配に覆われてきた前世紀の経済社会がその覇権の凋落と新興国の著しい台頭へ局面を転換させ、文明の正統性を担ってきた欧米社会が混迷と内向化を深める一方で、イスラムなど異文化の反抗が広がるのも、情報化によるグローバリゼーションの負の一断面でしょう。 空洞化する代議制民主主義の傍らでネット世論が高まり、ビットコインに代表される仮想通貨が貨幣システムを揺るがす。知的財産の価値が企業の秩序を変える一方、グローバリゼーションはローカルな文化の反発も呼び起こす、情報技術によって激しい変化の波に洗われている近代社会のシステムや価値観をさまざまな領域に探り、これからの社会が共有すべき新たな秩序形成の条件を探ります。	1. はじめに 2. ソフトパワーの時代 3. 「表現の自由」の二律背反 4. 選挙と「炎上」－民主主義の逆説 5. フラットな企業と尖った人材 6. ビットコイン－貨幣とは何か 7. 社会リスクーネット犯罪と安全 8. 知的財産　保護と利用－著作権・特許権 9. 国際分業と競争力 10. レクサスとオリーブの木 11. 規制緩和と派遣労働 12. エンロン破綻－金融化と市場の失敗 13. ニューエコノミーと「成長」の神話 14. フェアとシェアー互酬社会と格差社会 15. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各自参考文献の通読とともに、授業で扱ったキーワードを調べなおして各回の論点整理を心がけたい。
テキスト、参考文献	各回資料を配布する。石田英敬『大人のためのメディア論講義』（ちくま新書）を参考文献とする。
評価方法	定期試験の実績（80%）にくわえて授業内で課すリポートの実績（20%）を勘案して評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会 1 (NGO 論)	担当者	清水　俊弘

講義目的、講義概要	授業計画
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。 この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ＯＤＡ）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 　また、こうした紛争地等で活動するＮＧＯが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する。	1.NGO 論オリエンテーション 2.～3.「対テロ戦争」と市民社会 I／アフガニスタンの現状と NGO の活動 4.～5.「対テロ戦争」と市民社会 II／イラクの現状と NGO の活動 6.パレスチナ問題とＮＧＯの取り組み 7.NGO の安全対策（講義と演習） 8.東アジアの平和と市民交流 9.ミレニアム開発目標（MDG s）と持続的開発目標（SDG s）。ラオスにおける森林保全から考える。 10.アフリカにおける HIV/AIDS の原状と NGO の取り組み 11.NGO の組織運営と人材、資金について 12.~13.非人道兵器の禁止と市民社会 I 対人地雷の廃絶ｷｬﾝﾍﾟｰﾝに学ぶＮＧＯのﾈｯﾄﾜｰｸ 14.非人道兵器の禁止と市民社会 II クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 15.理解度の確認

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に政府開発援助（ODA）や国連などの国際機関の概要について予習をしておくこと、そして事後には様々な NGO が主催するセミナーに参加したり、インターンとして関わることを薦める。
テキスト、参考文献	参考文献：日本国際ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ著『NGO の選択』めこん　2005 年 参考文献：清水俊弘著　『クラスター爆弾なんてもういらない』合同出版 2008 年
評価方法	平常点、授業への参加度、課題提出などの実績（30%）及び期末考査（小論文またはリポート）の結果（70%）を評価対象とする。

08 年度以降	現代社会 1（社会生活と犯罪）	担当者	関根　徹

講義目的、講義概要	授業計画
法律は社会を規律するルールです。しかし、我々は特にそのルールを意識することなく、日常生活を送っています。我々が法律を意識するようになるのは、何らかのトラブルが発生した時です。そのトラブルの最たるものが犯罪です。本授業では、社会生活の中で生じている主な犯罪を題材にして、それがどのように解決されるのかということを見て、法律の運用の感覚をつかんでもらいたいと思います。 本授業は、実際に発生した事件を題材にして、どのようなことが問題となったのか、その事件の解決方法には、どのようなものがあるのかということを見ることを内容とし、講義形式で行います。 なお、途中でレポートを課します。詳しくは授業で説明します。	1. 講義の概要 2. 刑法の基礎 1 3. 刑法の基礎 2 4. 殺人と同意殺人 5. 錯誤 6. 臓器移植 7. 責任 8. 罪刑法定主義 9. 胎児傷害 10. 窃盗 11. 詐欺 12. 強盗 13. 共同正犯 14. 文書偽造 15. 講義のまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に授業で必要な法律の条文を読んできてください。授業後に問題となる条文を読みながら、事件がどのように解決されているのかということを確認してください。
テキスト、参考文献	テキストは特に指定しません。資料を配布し、それに基づいて授業を進めます。参考文献については、必要に応じて紹介します。
評価方法	試験（80%）レポート（20%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会１（ビジネス法務）	担当者	高橋　均

講義目的、講義概要	授業計画
１．講義目的 株式会社の仕組みや特徴、企業活動の内容の学修を通じて、ビジネス法務として最も重要な会社法の理解を深めます。また、企業戦略として、近年その重要度を増している企業買収や合併・分割についても、実際の企業間の攻防の実例を通して、知見を深めます。 会社に入社後、又は将来、起業化する際にも役立つ内容となります。 ２．授業の実施要領 講義形式ですが、双方向や学生相互のディスカッションを積極的に取り入れる予定です。企業の最前線の様子も紹介するために、ＤＶＤの鑑賞も行います。 ３．履修対象者 全学部の学生諸君が履修できます。	1. 導入（授業の進め方、会社組織について） 2. 会社の種類と会社の利害関係者 3. 会社機関と企業自治 4. 欧米の会社の機関設計とその特色 5. 会社の資金調達 6. 会社役員の法的責任 7. 企業買収 8. 敵対的買収への防衛（経営者の決断） 9. 買収戦略の是非 10. 会社の合併と分割 11. 会社の設立と準備 12. 会社の倒産・会社更正 13. コーポレート・ガバナンスの概念と対応 14. 企業不祥事の防止と内部統制システムの整備 15. 企業の社会的責任と役割

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前の学修としては、レジュメに予め目を通しておくこと、事後の学修としては、個別企業に関するマスコミ報道に関心を持つことにより、授業との関連を意識すること
テキスト、参考文献	テキストは、指定教科書（追って、履修者には連絡）とオリジナルプリントで行います。参考文献は、さしあたり、企業法学会編『企業責任と法～企業の社会的責任と法の役割・在り方～』文眞堂（2015 年）。
評価方法	期末試験　７０％　平常授業（質疑の様子、授業中での複数回の課題提出）　３０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会 1（基礎から学ぶマネジメント）	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：マネジメントの基礎概念を理解することを目的とする。概念レベルとしての企業や経営、管理や組織、経営効率性や事業有効性等について、事例等を通して解説する。そこから見えてくる、マネジメントとはどのようなものかを一緒に考えたい。 講義概要：本講義では、マネジメントで明らかにしている基本的な課題を取り上げる。企業は、よくヒト・モノ・カネ・情報が大切だという。なぜ大切なのか、組織を構成する要素とは何か、実際の仕組みが株式会社やNPOには存在する。ものづくりとしての仕組み、ヒトを動かす仕組み等、システムとしてマネジメントを見ると、カネの動きを統制する財務、社会の器としての組織の新しい視点が学習効果を高める。	1. オリエンテーション・・本講義の全体を紹介する 2. マネジメントとは何か 3. 株式会社等の仕組み 4. コーポレート・ガバナンス 5. 企業集団とグループ経営 6. ものづくりと生産システム 7. ＮＰＯ・企業の組織 8. 組織における人間行動 9. モチベーションと組織 10. イノベーションとマーケティング 11. 人的資源・戦略・管理 12. 企業の資金調達 13. BOPビジネス 14. マッチングギフト「企業市民」としての企業 15. マネジメントのフロンティア・・まとめとして、これまで取り上げた知見をはじめ、有用な分析用具等も取り上げ、その動向に注目して説明する

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	（事前）経営全般に関する教養を身につけ・（事後）経営関連事例などを読み取る能力を養う
テキスト、参考文献	適宜、プリント配布 （参考）拙著『経営組織論の展開』創成社など
評価方法	レポート重視（授業中，クイズ等も行う）

08 年度以降	現代社会 1（市民と刑事司法）	担当者	徳永　光

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的） 刑事法は、犯罪と刑罰に関する法律です。新聞やテレビのニュース、小説やドラマの中では、犯罪や捜査、刑事裁判の話がよく取り上げられ、目にする機会は多いと思います。その反面、刑事法は、日々の暮らしに縁遠いものとして敬遠され、実はよく知られていない分野でもあります。 この講義では、ニュースの背景にある犯罪や捜査・裁判手続についての基本的なルールと実態を学び、どのような問題があるのかを考えてもらいたいと思っています。 （講義概要） 「刑事法」の分野は、大きくわけて、刑法、刑事訴訟法、刑事政策（犯罪者への処遇・支援、少年法など）の3つに分かれます。この講義では、それぞれから具体的な話題を拾い検討していきたいと思います。ほぼ毎回授業レポートを作成してもらいます。	1. ガイダンス 2. 犯罪と刑罰 3. 日本の犯罪動向（1） 4. 受刑者処遇と社会復帰支援 5. 日本の犯罪動向（2） 6. 日本型刑事司法（1） 7. 日本型刑事司法（2） 8. 再審事件と冤罪原因 9. 刑事裁判の諸原則 10. 裁判員裁判 11. 捜査の諸原則と新たな捜査手法 12. 被害者支援 13. 死刑制度 14. 刑事司法制度改革 15. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	翌週のテーマに関する簡単な課題を示しますので、各自検討をしておいてください。
テキスト、参考文献	適宜、資料を配付します。六法は不要です。
評価方法	授業レポート等（40%）、期末試験（60%）により評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会１(ジェンダーとメディア表象)	担当者	西山　千恵子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　私たちは毎日メディアを通じて膨大な情報に接し、そこから女性、男性についての「知識」を得て、男女のイメージ、固定観念を作り上げています。。 　この講義では、ジェンダー概念を理解したうえで、ジェンダーの視点からメディアを批評的に読み解く力をはぐくむことを目的とします。 講義概要 　講義の前半はジェンダー概念の基礎的理解を図り、後半はメディア・リテラシーの基礎を踏まえたうえで、メディアをジェンダーの視点で検討していきます。また既存の固定的な男女のイメージに対抗する表現についても考察していきます。授業の終わりにはコメントカードの提出があります。一部、性的表現や暴力的表現を含む映像等もありますので、ご了承ください	1.　イントロダクション　現代日本の男女の統計 2.　国連の「男女平等」に向けての動き 3.　日本の「男女平等」に向けての動き 4.　日本のジェンダーに関わる諸問題 5.　ジェンダーとジェンダーの周辺概念 6.　セクシュアル・マイノリティの主張・運動 7.　セクシュアル・マイノリティとメディア表現 8.　メディアとジェンダー 9.　ジェンダー視点のメディア・リテラシー 10.　広告における性表現とジェンダー 11.　映画における女性・男性 12.　ポルノメディアとジェンダー 13.　映画とセクシュアル・マイノリティ 14.　「芸術」とジェンダー 15.　まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業後、配布したプリントやノートを確認し、講義内容を復習すること。 また日常接するメディアに描かれた男女について、「作られた男女イメージ」などの観点から意識して見直してみること。
テキスト、参考文献	プリントを配布します。 参考文献は授業中に指示します。
評価方法	学期末試験１００％ 特にすぐれたコメントはこれを加点要素とする。

08 年度以降	現代社会 1 (中東の社会空間)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、西アジア・北アフリカ両地域の社会規範について、宗教、家族、社会問題をもとに概括的な知識を修得することを到達目標とします。 講義内容は、生活規範としてのイスラム、家族のあり方を通して中東地域の人々の価値観について解説します。そのことで、中東地域の人々の行動および思考と社会規範との関係について理解を深め、異なる文化を持つ人々が市民として共生する方法について論理的かつ創造的思考ができるようにします。 基本的に講義形式をとりますが、講義内容を 3 区分し、それぞれのまとめの授業においてグループ討論を行います。	1　イントロダクション（社会と生活規範を考える） 2　中東地域の多様性（民族、宗教） 3　イスラムの基礎知識1（人々の日常生活） 4　イスラムの基礎知識2（イスラム法と統治） 5　まとめ1：市民と宗教的規範（討論） 6　中東地域と家族システム 7　メソポタミアの父制 8　アラブの父系内婚制 9　共同体主義と核家族 10 まとめ2：市民社会と家族（討論） 11 教育問題からみる中東社会 12 ジェンダー問題からみる中東社会 13 経済格差からみる中東社会 14 都市化と若者にみる社会変化 15 まとめ3：現代の中東地域の社会空間の特性

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：予習資料を事前に熟読（30 分程度）、不明な用語の調べ（60 分程度）を行ってください。 事後学習：授業で使用した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください（90 分程度）。
テキスト、参考文献	参考文献:『中東を理解する―社会空間論敵アプローチ』水口章、日本評論社、『家族システムの起源－Ⅰユーラシア 下』エマニュエル・トッド、藤原書店、『宗教とグローバル市民社会』ロバート・N・ベラー、岩波書店
評価方法	学習態度（10%）、課題（30%）、最終レポート（60%）で総合的に評価します。

08 年度以降	現代社会 1 (中東政治と市民社会)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、21世紀型市民社会における市民の政治運動を理解するための知識を習得することを到達目標とします。 講義内容は、社会が大きく変動している西アジア・北アフリカ地域の紛争や革命の事例分析を通し、社会集団への市民の帰属意識について解説します。そのことで、国際情勢を分析する力を身につけるようにします。 授業は、講義形式と各国担当グループ研究を組み合わせて進めていきます。 なお、第1回目の授業でグループ分けを行うため、必ず出席してください。	1　イントロダクション（市民社会における統治を考える） 2　国家の変容 3　国家統合と亀裂 4　イラン革命と市民運動 5　ソ連のアフガニスタン介入 6　湾岸戦争とイラク戦争 7　イスラム過激派の台頭・9.11テロ事件 8　中東和平問題 9　まとめ1：集団と帰属意識（討論） 10 「アラブの春」と市民社会 11 チュニジアの政変と市民（グループ発表） 12 エジプトの政変と市民（グループ発表） 13 リビアの政変と市民 （グループ発表） 14 シリアの政変と市民（グループ発表） 15 まとめ2：中東地域の市民社会の安定性（討論）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：予習資料を事前に熟読（30 分程度）、不明な用語の調べ（60 分程度）を行ってください。 事後学習：授業で使用した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください（90 分程度）。
テキスト、参考文献	参考文献:『中東を理解する―社会空間論敵アプローチ』水口章、日本評論社、『アラブ革命はなぜ起きたか』エマニュエル・トッド、藤原書店、『中東の新たな秩序』松尾昌樹他、ミネルヴァ書房
評価方法	学習態度（10%）、課題（30%）、最終レポート（60%）で総合的に評価します。

08 年度以降	現代社会 1 （社会科学概論 1）	担当者	嶋津　格

講義目的、講義概要	授業計画
大学でこれから学問を始めようとしている諸君を相手に、社会科学の入門的授業をするというのは、私のような老学者にとってはとてもワクワクする挑戦です。私の能力の許す限りで、自分が18歳だったらこんな授業が聴きたかったな、と思えるような授業をしたいと考えています。講義の目的は、これから社会科学上の様々な議論を学ぶ諸君に対して、全体の海図として使えるような大まかな地図を与えること、です。もちろんそれは、私の個人としての偏りから自由ではありませんが、後で学生諸君が自由に訂正・批判してゆくための手始めとして役立てばよいのです。何の先入観ももたずに大海原の航海に乗り出すのは、あまりにも無謀、いやむしろ不可能なことですから。 前半の社会科学概論1では、私がこれまで付き合ってきた何人かの思想家を種にして、自分の学問史の要素も含めて講義します。	1.序論：全体の見通し、その他 2.ケルゼンのこと 3.マルクス主義 4.ポパーのこと 5.碧海純一先生のこと 6.ハイエクのこと 7.外から見た経済学 8.ロールズのこと 9.ノージックとリバタリアニズム 10.オークショットのこと 11.ファインバーグのこと 12.私の民主主義論 13.私の自由主義論 14.私にとっての保守と革新 15. まとめ、または全体を振り返って

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	下記 HomePage で挙げる文献に目を通してみよう。嶋津に、質問や自分の意見を書いたメールを出してみよう。メアドは後に指示する。
テキスト、参考文献	テキストはなし。参考文献については、各回について、嶋津の HomePage（Google で「格のページ」で検索）で指示する。password は授業で開示する。そこにある最終講義ビデオ（2014 年 3 月）も参照。
評価方法	期末試験による。質問等のメールは加点（最大 10 点）方向にのみ評価する。

08 年度以降	現代社会 1 （社会科学概論 2）	担当者	嶋津　格

講義目的、講義概要	授業計画
大学でこれから学問を始めようとしている諸君を相手に、社会科学の入門的授業をするというのは、私のような老学者にとってはとてもワクワクする挑戦です。私の能力の許す限りで、自分が18歳だったらこんな授業が聴きたかったな、と思えるような授業をしたいと考えています。講義の目的は、これから社会科学上の様々な議論を学ぶ諸君に対して、全体の海図として使えるような大まかな地図を与えること、です。もちろんそれは、私の個人としての偏りから自由ではありませんが、後で学生諸君が自由に訂正・批判してゆくための手始めとして役立てばよいのです。何の先入観ももたずに大海原の航海に乗り出すのは、あまりにも無謀、いやむしろ不可能なことですから。 後半の社会科学概論2では、現代の世界と日本の時事的諸問題を社会科学の問題として捉える試みを行う。「正解」ではなく一つのとらえ方にすぎないことを注意されたい。	1.序論：全体の見通し、その他 2.第 1 次世界大戦と平和主義 3.（世界的視野から見た）第2次世界大戦 4.米軍の占領政策と日本の戦後体制 5.冷戦と日本の思想 6.冷戦終焉と自由民主主義の多幸症 7.「終わ」らなかった歴史と文化対立 8.リベラリズムの相対化と反自由主義の諸相 9.様々なユートピア論と革新思想 10.もう一つのファイルミニズム（iFeminism） 11.多元主義またはdiversity論の諸相 12.私の教育論 13.秩序の希少性論 14.ナショナリズム論 15.まとめ、または全体を振り返って

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	下記 HomePage で挙げる文献に目を通してみよう。嶋津に、質問や自分の意見を書いたメールを出してみよう。メアドは後に指示する。
テキスト、参考文献	テキストはなし。参考文献については、各回について、嶋津の HomePage（Google で「格のページ」で検索）で指示する。password は授業で開示する。
評価方法	期末試験による。質問等のメールは加点（最大 10 点）方向にのみ評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (数学 a)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、自然や社会において偶然に支配されているとみなされる現象を解析する数学の一分野である「確率論」について学びます。「確率」については、高等学校数学で扱われていますが、ここでは、その内容を復習しつつ、実際に様々な分野で応用されている、「確率」を基にした「統計」の基本的な考え方につなげることを目標に授業を進めていきます。 なお、2016年度以前の数学Ⅱと同じ内容になります。制度上数学Ⅰの既修者は履修できませんが、聴講することは可能です。また、2016年度以前の数学Ⅱ履修者は履修することができません。	1. はじめに 2. 場合の数と集合 3. 順列・組合せ 4. 標本空間と事象 5. 確率 1 6. 確率 2 7. 条件付確率と事象の独立 8. 確率変数と確率分布 1 9. 確率変数と確率分布 2 10. 確率分布の平均 11. 確率分布の分散 12. 二項分布 13. 正規分布 14. 問題演習 15. まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	プリントを事前に配布します。当日の部分を予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認、復習しておいてください。
テキスト、参考文献	テキスト：授業最初にプリント配布 参考文献：石村園子『すぐわかる確率・統計』(東京図書 2001 年)
評価方法	授業中の問題解答 10%、授業最後の課題 10%、学期最後の問題演習 80%により評価

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (数学 b)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、自然や社会において存在するまとまった数値や符号の集合体の性質を解析する「統計学」の基本的な考え方を学び、大学での学習や社会に出てからの仕事で必要となる統計処理の初歩を身につけることを目的とします。 最初に、集合体の性質を決める情報がすべて得られる場合の「記述統計」、次に、情報がすべて得られない場合の「推測統計」を扱います。推測統計では確率の考え方が応用されますので、まず、そこで使われるいくつかの確率分布について解説し、その後、それらを基にした推定や検定といった解析手法を紹介し、同時に課題演習も行います。 計算はコンピュータで行いますが、統計処理された数値の意味を把握するため、統計解析ソフトは使いません。 なお、2016年度以前の数学Ⅱ既修者は制度上履修できませんが、聴講することは可能です。	1. はじめに 2. １変量データ 1 3. １変量データ 2 4. ２変量データ 5. 母集団と標本 6. 標本平均と標本分散 7. 確率分布 1 8. 確率分布 2 9. 母平均の区間推定 10. 母分散の区間推定 11. 母平均の検定 12. 母平均の差の検定 13. 等分散性の検定 14. 問題演習 15. まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストで当日の部分を予習してください。 毎回出される課題の結果を確認、復習しておいてください。
テキスト、参考文献	テキスト：石村園子『すぐわかる確率・統計』(東京図書 2001 年)
評価方法	授業中出された課題の評価を総合して評価する

08 年度以降	自然・環境・人間１(物理学Ⅰ)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、物理学の中でも２０世紀までに確立され、すでに様々な場面で応用されている分野を扱います。これらは、高等学校までの理科や物理で学んでいる内容ですが、もう一度、私たちの身の回りの生活との関係という視点で見直すことを目標として、学習を進めていきます。	1.　はじめに 2.　力と運動１－物体の運動 3.　力と運動２－物体に働く力 4.　力と運動３－運動の法則 5.　力と運動４－万有引力 6.　熱１－温度と熱 7.　熱２－熱と分子運動 8.　波動１－媒質の振動と波 9.　波動２－音波と光波 10.　電磁気１－電気と磁気 11.　電磁気２－電流と磁場 12.　電磁気３－電磁誘導 13.　電磁気４－電磁波 14.　問題演習 15.　まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間１(物理学Ⅱ)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、２０世紀以降物理学の分野で得られた新しい知見について紹介します。一つは「時間と空間」に関するもの、もう一つは「物質の究極像」に関するものです。これら人類の得た新しい知見を題材にして、自然に対する認識を深めることを目標に授業を進めていきます。 なお、春学期開講「物理学Ⅰ」の授業で学習した知識があることを前提とします。	1.　はじめに 2.　時間と空間１－電磁気学と相対性原理 3.　時間と空間２－ローレンツ変換 4.　時間と空間３－４次元不変量 5.　時間と空間４－等価原理 6.　時間と空間５－時空の歪み 7.　時間と空間６－ブラックホール 8.　物質の究極像１－元素と原子 9.　物質の究極像２－原子の構造 10.　物質の究極像３－前期量子論 11.　物質の究極像４－量子力学 12.　物質の究極像５－素粒子論 13.　物質の究極像６－統一理論 14.　問題演習 15.　まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (宇宙論 a)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 a 」では、まず、近代科学以前の宇宙論を概観し、次に、近代的宇宙観の成立と現代的宇宙観の成立を見ていきます。そして、現代宇宙論で確立されたビッグバン宇宙について解説します。	1. はじめに 2. 近代科学以前の宇宙論 3. 天体の運行法則の発見と新たな宇宙像の誕生 4. ガリレイによる動力学の発見と相対性原理 5. ニュートン力学とニュートン的宇宙観 6. ニュートン的宇宙観の発展と電磁気学の成立 7. ニュートン的宇宙観への批判と特殊相対性理論の成立 8. 同時概念・時間概念の相対性 9. 空間概念の相対性と新しい時間空間概念の成立 10. 等価原理と一般相対性理論の成立 11. アインシュタイン方程式と時空の歪み 12. 宇宙の時間的・空間的広がりと宇宙の一様性・等方性 13. 膨張宇宙論 14. ビッグバン宇宙論 15. まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポートシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』(岩波新書 2008 年)
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (宇宙論 b)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 b 」では、現代宇宙論において近年得られた知見について解説します。 なお、春学期開講「宇宙論 a 」の内容についての知識があることを前提に講義を進めます。	1. はじめに 2. 宇宙論が対象とする宇宙 3. 宇宙の階層構造 4. 物質の階層構造 5. 膨張宇宙の観測 6. 膨張宇宙の理論 7. ビッグバン理論と物質の形成 8. 宇宙の構造形成 9. 物質の究極像 10. 宇宙の進化 11. ビッグバン理論の問題点 12. インフレーション宇宙 13. 宇宙の特異点と量子宇宙論 14. 超ひも理論と膜宇宙 15. まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポートシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』(岩波新書 2008 年)
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (天文学 a)	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、恒星や太陽、惑星の見かけの運動のような肉眼で観察できる現象から話を始め、ケプラーの法則、太陽系の様々な天体、太陽系・惑星の形成と話を進める。 身近な天文現象をとおして宇宙に興味を持ってもらうこと、広大な宇宙の中で太陽系とはどのような天体なのかを理解することが講義の目標である。	1. 講義内容の紹介、資料の配布方法の説明など 2. 天球の考え方 3. 太陽の年周運動 4. 惑星の見かけの運動 5. ケプラーの法則１ 第一法則 6. ケプラーの法則２ 第二法則 7. ケプラーの法則３ 第三法則 8. ニュートンの万有引力の法則 9. 太陽系の広がり 10. 太陽系の姿 惑星と小惑星 11. 太陽系の姿 彗星や太陽系外縁天体 12. 太陽系の形成１ 原始惑星系円盤と微惑星 13. 太陽系の形成２ 木星型惑星、地球型惑星の形成 14. 系外惑星 15. まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。
テキスト、参考文献	テキストなし。資料を配布する。参考書：大金要次郎著 新版地学教育講座 11『星の位置と運動』（東海大出版会）、小森長生著 新版地学教育講座 12『太陽系と惑星』（東海大出版会）
評価方法	試験 100%

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (天文学 b)	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目標は、恒星とはどのようなもので、どのように誕生し、どのような終末を迎えるのか大要を理解することと、我々と恒星の関係を理解することである。 天文学が他の自然科学の分野と大きく異なる点のひとつは、対象を直接調べることができないことである。この講義では恒星の表面から来る光という間接的な情報からどのように恒星の物理量が推定され、そこからどのように恒星の内部や進化が理解できるかを説明していく。	1. 講義内容の紹介、資料の配布方法の説明など 2. 星の見かけの明るさ 3. 星までの距離 4. 星の光度と絶対等級 5. 星のスペクトルと表面温度 6. HR 図 7. 星の半径と質量 8. 星のエネルギー源 9. 星の進化１ 星の誕生から主系列星へ 10. 星の進化２ 主系列以後の星の進化 11. 高密度星 白色矮星と中性子星 12. ブラックホール 13. 超新星 14. 元素の起源 15. まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。資料を PDF ファイルで配布する。参考書：米山忠興著『教養のための天文学講義』（丸善）、 中嶋浩一著『天文学入門 星とは何か』（丸善）
評価方法	試験 100%

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (歴史における科学技術 1 : 西洋近代科学技術の起源)	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
～ルネサンスから啓蒙主義時代まで～ 私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来の政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は私たちすべての市民に求められる。そこで、「科学技術とはなにか」ということについて、歴史から学び、考察する学問分野が科学史・技術史である。 この授業では、西洋のルネサンスから近代社会の形成と、その中で近代科学が生み出されてきた過程を概観し、それが人々の自然世界に対する近代的な認識を形づくった道筋を考察する。私たちはどのようにして近代的な自然の見方を獲得してきたのか。その起源を考察することを通して現代科学に基づく私たちの世界観をあらためて振り返ってみよう。	1.イントロダクション "科学革命"の時代 2.旧世界と新世界(1) 中世からの流れ　ルネサンス 3.旧世界と新世界(2) 印刷術　大航海 4.繋がりあった世界(1) 世界の連関・学問の連関 5.繋がりあった世界(2) 自然魔術 6.天上世界(1) 惑星の見かけの運動　地動説 7.天上世界(2) 宇宙の調和　望遠鏡　地球の運動 8.月下世界(1) 地球　地上の物体の運動　水と空気 9.月下世界(2) 錬金術　原子とメカニズム 10.生き物の世界(1) 医学　解剖 11.生き物の世界(2) 新しい医薬　動植物 12.新しい科学と技術の体制(1)建築・鉱山冶金・時計 13.新しい科学と技術の体制(2)科学術情報の流通システム 14.啓蒙主義(Enlightenment)と科学・技術 15.講義のまとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各自教科書を読んで下さい。日本語訳でもよいが、できれば原書で。
テキスト、参考文献	Lawrence M. Principe, *The Scientific Revolution: A Very Short Introduction* (Oxford University Press 2011) (必要に応じて担当者による日本語訳を配布)。
評価方法	定期試験（60%）、中間小レポート（40%）

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (歴史における科学技術 2 : 日本の近代化と科学技術)	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
～西欧科学技術の導入から現代の諸問題まで～ 私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来の政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は私たちすべての市民に求められる。そこで、科学技術のありようを歴史から学び、考察する学問分野が科学史・技術史である。 西洋において近代科学が生み出されてきた時代、日本はいわゆる鎖国体制によって西洋近代科学技術から隔絶されてきたが、その間にも蘭学という形でそれを取り入れ、やがて明治維新以後、急速にそれを導入し、消化し、我がものとしてきた。このような歴史は日本の科学技術に特殊な性格を刻印し、さらに戦争の時代と戦後の高度成長を経て、現代に到る科学技術のありようを形成してきた。	1.　洋学の時代(1)日本の伝統技術と伝統的自然観 2.　〃　(2)蘭学の興り 3.　〃　(3)幕末の洋学 4.　明治維新から帝国大学まで(1)殖産興業と科学技術政策 5.　〃　(2)社会インフラの整備、帝国大学の設立 6.　"自立"から敗戦まで　(1)理化学研究所の設立 7.　〃　(2)大正～昭和初期の科学 8.　〃　(3)戦争と科学技術 9.　戦後復興と高度成長　(1)産業と科学の戦後復興 10.　〃　(2)技術革新と高度成長 11.　現代科学技術の諸問題　(1)先端科学技術の特性 12.　〃　(2)公害・環境問題の歴史① 13.　〃　(3)公害・環境問題の歴史② 14.　〃　(4)核エネルギー利用の歴史① 15.　〃　(5)核エネルギー利用の歴史②

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で示した参考文献を学習すること
テキスト、参考文献	テキストなし。必要に応じてプリントを配布する。
評価方法	定期試験（60%）、中間小レポート（40%）

08 年度以降	自然・環境・人間１(地球環境の変化とその要因)	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然的および人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。	１　オリエンテーション：授業概要等の説明 ２　地球環境とは何か？　今、何が起っているのか？ ３　地球環境の歴史（I） ４　地球環境の歴史（II） ５　地球環境の構造等：地球という惑星について ６　地球環境と地球システム（I）：物質圏の相互関係 ７　地球環境と地球システム（II）：炭素循環など ８　地球環境と資源（I）：資源の特性 ９　地球環境と資源（II）：エネルギー １０　地球環境と材料：地球材料学（ジオマテリアル・サイエンス）とは １１　地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ １２　環境：地球環境と広域・地域環境との比較 １３　環境と共生：人間活動・物質循環との関係 １４　地球環境問題概論 １５　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある。

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料等の指定した箇所について事前に精読しておいてください。 また、受講後は講義内容を整理し、まとめるようにしてください。
テキスト、参考文献	**テキスト**：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献**：講義内容によって、適時指示する。
評価方法	基本的には定期試験の結果（100%）による。

08 年度以降	自然・環境・人間１(地球環境問題と環境保全)	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものの見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。	１　オリエンテーション：授業概要等の説明 ２　地球環境問題各論（I）：地球温暖化（a） ３　地球環境問題各論（I）：地球温暖化（b） ４　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊（a） ５　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊（b） ６　地球環境問題各論（II）：酸性雨 ７　地球環境問題各論（II）：海洋汚染 ８　地球環境問題各論（II）：有害廃棄物の越境移動 ９　地球環境問題各論（III）：砂漠化 １０　地球環境問題各論（III）：森林減少 １１　地球環境問題各論（III）：野生生物（種）の減少 １２　地球環境問題各論（III）：開発途上国等の環境（公害）問題など １３　地球環境の保全（I）：環境と開発 １４　地球環境の保全（II）：文化・経済・社会等との関係 １５　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある。

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料等の指定した箇所について事前に精読しておいてください。 また、受講後は講義内容を整理し、まとめるようにしてください。
テキスト、参考文献	**テキスト**：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献**：講義内容によって、適時指示する。
評価方法	基本的には定期試験の結果（100%）による。

08 年度以降	自然・環境・人間１（科学技術基礎論Ⅰ）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
現在の科学技術は、専門分化が極度に進行しているため、科学技術の専門家でさえ自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。だが、現在に生きるわれわれは、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、われわれが直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、われわれにとって身近な事例から出発して、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、他分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働することの意義を理解することを目的とする。 春学期は主として生命に関する事例を取り上げて考察する。	1. イントロダクション、生命とは何か 2. いつから生命か 3. タームペーパーの書き方について 4. いつまで生命か 5. 遺伝とはなにか 6. 品種改良と遺伝子 7. 進化・遺伝・優生学 8. 病気とは何か―正常と異常を考える 9. 感染と免疫 10. 生命と食品 11. 食のリスクと安全 12. 生命から見た環境 13. 環境問題とは何か―オゾンホール問題を例に 14. 環境の持続可能性と不確実性 15. 先端の科学技術と生命

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	タームペーパー作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆・推敲する。
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
評価方法	タームペーパー（期末レポート）（７０％）と、獨協大学レポート用紙の記述（３０％）により評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間１（科学技術基礎論 II）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
現在の科学技術は、高度化・専門化が極度に進行したため、科学技術の専門家でさえ自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。その一方で、現在に生きるわれわれは、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、われわれが直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、われわれにとって身近な事例から出発して、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、他分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働の意義を理解することを目的とする。 秋学期は主として物質や情報に関する事例を取り上げて考察する	1. イントロダクション、科学と不確実性 2. 科学的予測の原理と実態 3. タームペーパーの書き方について 4. 事故と科学技術 5. 「情報」とは何か 6. プライバシーと科学技術 7. デジタルディバイドと科学技術 8. 科学技術における安全 9. 科学技術とリスク 10. 科学技術と確率 11. 科学技術と統計 12. 物質とは何か 13. 物質が存在するとはどういうことか 14. 物質とエネルギー 15. 物質から見た環境

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	タームペーパー作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆・推敲する。
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
評価方法	タームペーパー（期末レポート）（７０％）と、獨協大学レポート用紙の記述（３０％）により評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	自然・環境・人間１（科学技術と社会ｂ）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
我々は科学技術に囲まれて生きている。科学技術は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を作り出したりして、我々の人生や生活を豊かにする。他方、インターネットを利用したサイバーテロや、受精卵のゲノム編集のように、我々の安全を脅かしたり、生命観を揺るがしたりする問題も発生している。2011年3月11日の東日本大震災と、その後に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故は、我々が科学技術と社会との関係を真剣に考えなければならないことを示している。 この講義では、科学技術と社会との関わりを示す代表的な事例とその意義を理解し、科学技術と社会との関わりを学ぶことによって、社会の中で科学技術を生かにはどうしたらよいのか考えることを目的とする。	1. イントロダクション、科学、技術、社会とは 2. 科学技術とイノベーション 3. タームペーパーの書き方について 4. 科学技術の発達は人々の仕事を奪うか 5. 公害と科学技術 6. 気候変動問題と科学技術 7. 気候変動問題の解決に向けて 8. 知的財産と科学技術 9. 製造物責任と科学技術 10. 研究不正を考える 11. 科学者の社会的責任 12. 巨大科学技術と社会 13. なぜ理系に進む女性は少ないのか 14. 専門家と市民との関係 15. 科学技術政策

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	タームペーパー作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆・推敲する。
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
評価方法	タームペーパー（期末レポート）（７０％）と、獨協大学レポート用紙の記述（３０％）により評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間１(文化としての科学ａ)	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
科学はどのような文化なのだろうか。科学を生み出すのは人間である以上、科学は文化としての内実を備えているはずである。だが、ともすればわれわれは科学の成果ばかりに目を奪われて、科学が人間によって生み出されたものであり、それ自体が文化なのだということをなかなか実感できないのではなかろうか。 この講義では、映像資料などを活用しながら、科学における基本的で重要ないくつかの概念（考え方）を取り上げるとともに、科学研究に関わる人々の人生や考え方を知ることによって、科学を文化として捉えることを目的とする。 春学期は、科学が人間をどのように捉えてきたのかについて、人体と知性の面から考える。	1. イントロダクション、人間機械論とは何か 2. 人間機械論の誕生と展開 3. タームペーパーの書き方について 4. 文芸作品の中の人間機械論 5. 知性は人間と機械を分けるものか 6. なぜ人間には知性があるのか―近代以前の知性論 7. 知性は人間の本質か―近代における知性論 8. 考える機械―計算機の登場 9. 「人工知能」の誕生と展開 10. 機械は考えることができるか 11. ゲノムは生命の設計図か 12. 遺伝子からゲノムへ―分子生物学の展開 13. ゲノム編集時代の到来 14. 科学から見た人間と倫理 15. 文化としての科学と人間

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	タームペーパー作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆・推敲する。
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
評価方法	タームペーパー（期末レポート）（７０％）と、獨協大学レポート用紙の記述（３０％）により評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間１(文化としての科学ｂ)	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
科学はどのような文化なのだろうか。科学を生み出すのは人間である以上、科学は文化としての内実を備えているはずである。だが、ともすればわれわれは科学の成果ばかりに目を奪われて、科学が人間によって生み出されたものであり、それ自体が文化なのだということをなかなか実感できないのではなかろうか。 この講義では、映像資料などを活用しながら、科学における基本的で重要ないくつかの概念（考え方）を取り上げるとともに、科学研究に関わる人々の人生や考え方を知ることによって、科学を文化として捉えることを目的とする。 秋学期は、科学が宇宙や自然をどのように捉えてきたのかについて、現代や過去の研究を事例にして考える。	1. イントロダクション、「万物の理論」とはなにか 2. 重さとはなにか 3. タームペーパーの書き方について 4. 宇宙の誕生と物理法則 5. 宇宙は一つしかないのか 6. ある数学論争の背景と概要 7. ある数学論争の検証 8. 未解決問題への挑戦（１）ポアンカレ予想の誕生 9. 未解決問題への挑戦（２）研究者たちの苦闘 10. 未解決問題への挑戦（３）失踪した数学者 11. 近世日本の数学文化―和算について 12. 和算とその時代―芸事としての数学 13. 古代の精密科学（１）アンティキテラ島の機械 14. 古代の精密科学（２）古代の科学理論の意味と役割 15. 文化としての科学と自然

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	タームペーパー作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆・推敲する。
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
評価方法	タームペーパー（期末レポート）（７０％）と、獨協大学レポート用紙の記述（３０％）により評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間１（科学史 a）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは科学が永遠不変の真理であって、人間とは関わりなく存在していると思いがちである。だが、科学は人間によって形成されてきたのであり、その有様は歴史の中で変化し続けてきた。この講義では、歴史の中で科学を捉えることによって、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのか考えることを目的とする。 春学期は、古代から１７世紀の科学革命を経て、「科学者(scientist)」という言葉が登場した１９世紀初めまでに、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観する。	1. イントロダクション、科学とはなにか？ 2. 科学的な考え方の始まり（古代） 3. タームペーパーの書き方について 4. 古代世界の宇宙観 5. 地中海世界からアラビア世界へ 6. アラビア世界からヨーロッパ世界へ 7. 宇宙観の転換―天動説から地動説へ 8. 魔術と科学 9. 機械論的自然観の登場 10. ニュートンと科学革命 11. 科学アカデミーの誕生と展開 12. 科学史における女性 13. 産業革命と科学 14. フランス革命と科学 15. 「科学者（Scientist)」の誕生

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	タームペーパー作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆・推敲する。
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
評価方法	タームペーパー（期末レポート）（７０％）と、獨協大学レポート用紙の記述（３０％）により評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間１（科学史 b）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは科学が永遠不変の真理であって、人間とは関わりなく存在していると思いがちである。だが、科学は人間によって形成されてきたのであり、その有様は歴史の中で変化し続けてきた。この講義では、歴史の中で科学を捉えることによって、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのか考えることを目的とする。 秋学期は、「科学者（scientist)」という言葉が登場した１９世紀の初めから現代までを扱い、科学が社会の中で大きな力を獲得してく過程について、具体的な事例に焦点を当てて概観する。	1. イントロダクション、“Scientist”とは誰か 2. 蒸気機関と熱力学の誕生 3. タームペーパーの書き方について 4. 科学の制度化と専門職業化 5. 科学の産業化 6. 公害の発生と科学 7. 進化論と社会 8. 帝国主義と科学 9. 研究所の誕生 10. 科学と国家 11. 現代科学の登場と自然観の転換 12. 科学と戦争 13. ビッグサイエンスの誕生 14. 環境科学の誕生と展開 15. 科学の過去・現在・未来

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	タームペーパー作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆・推敲する。
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
評価方法	タームペーパー（期末レポート）（７０％）と、獨協大学レポート用紙の記述（３０％）により評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (スポーツ科学概論)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 スポーツ科学分野は近年目覚ましい発展を遂げている。「スポーツ」を「科学」することによってトップアスリートの身体機能やパフォーマンスの秘密が明らかになり、効率的なトレーニング方法が開発されている。また健康の維持増進にも寄与する実験科学的データや、社会科学的分野でも日々新たな知見が得られており、私たちの生活にもスポーツ科学は貢献している。スポーツを科学することによって個々の受講生がスポーツに対する理解を深めることを目標とする。 2020年に開催される東京でオリンピック・パラリンピックを今までとは違った視点から見てみよう。	1. ガイダンス 2. スポーツ科学とは 3. スポーツの起源と歴史 4. 世界のスポーツ 5. 筋の科学① 6. 筋の科学② 7. 持久力の科学① 8. 持久力の科学② 9. スポーツテクノロジー 10. 競技スポーツの科学① 11. 競技スポーツの科学② 12. 競技スポーツの科学③ 13. メンタルトレーニング 14. オリンピック・パラリンピック 15. スポーツと熱中症

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞やメディアなどで取り上げられるスポーツ科学の情報を収集し、講義で得た知識をもとに分析すること
テキスト、参考文献	特に指定しない。
評価方法	授業内レポート（40%）と定期試験（60%）により評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (私の自由時間設計)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の 2 割から 3 割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1 割です。あなたは 1 割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」(生きがい)とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずです。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目的にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。	1 オリエンテーション 2 自由時間とは 3 生活時間の構成 4 自由時間の推移と現状 5 自由時間「三つの意味」その 1 6 自由時間「三つの意味」その 2 7 少子化とライフスタイル 8 古典的解釈から知るレジャー 9 「スコレー」とは 10 余暇享受能力を開発していますか 11 ビデオ「森と老人」に見る余暇享受能力 12 クオリティオブライフ 13 環境と健康 14 幸福感 15 まとめ 授業で通信端末を大教室における双方向授業としてライブアンケート等に必要に応じて利用しますので、大講義室での授業をより活性化するために必要ですので、ぜひご協力をお願いします。

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	身近な社会人の労働と余暇について時間配分、余暇享受能力という観点で観察しておくこと。学習後は授業内で考えたことを実践するための自らの自由時間設計を行う。
テキスト、参考文献	講義支援システムまたは Porta に授業資料をアップロードしますので、授業前に印刷してお持ちください。
評価方法	授業への取り組み姿勢・授業内レポート（50%）、学期末試験（50%）により評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	ことばと思想２（意味論）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 意味についての基本的な知識と方法の習得を目的とする。本講義では，単語レベルの意味に関する議論から，文の意味，さらには談話レベルでの語用論までをあつかい，文法全体に対する見通しがつけられるような意味論を学習していく。 〔講義概要〕 履修者は毎回の該当箇所を予習し，わからない点を明確にしてから出席することが要求される。また，PORTAのコメント機能を利用した質問の提示も要求される。授業は，テキストを読了していることを前提としたうえで，質問への回答とテキスト内の個人ワーク用の課題の解答を確認したのち，毎回，テキスト内のグループワーク用の課題について，授業内グループでの議論をし，その報告を提出する，という構成がとられる。	1. 意味論と語用論 2. 単語の意味 3. 有標性 4. 否定 5. 指示 6. 視点 7. モダリティ 8. テンス 9. アスペクト 10. 語から文へ 11. 文脈と意味 12. 複文の意味 13. 語用論 14. 関連性 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	PORTA 配布テキストを読了し，質問を準備するとともに，テキスト内の問題に解答しておくこと。
テキスト、参考文献	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。
評価方法	期末試験(70%)　授業活動の積極性(30%)

08 年度以降	ことばと思想２（談話論）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 談話についての基本的な知識と方法の習得を目的とする。本講義では，日本語教育の中上級の学習項目を談話論にもとめるという目標のもとで，談話とはなにか，どのような理論があり，どのような具体的分析が可能なのかを学習していく。 〔講義概要〕 履修者は毎回の該当箇所を予習し，わからない点を明確にしてから出席することが要求される。また，PORTAのコメント機能を利用した質問の提示も要求される。授業は，テキストを読了していることを前提としたうえで，質問への回答とテキスト内の個人ワーク用の課題の解答を確認したのち，毎回，テキスト内のグループワーク用の課題について，授業内グループでの議論をし，その報告を提出する，という構成がとられる。	1. 談話とはなにか 2. 談話の構成要素 3. 指示と代名詞 4. 省略 5. 主題 6. 接続 7. 語順 8. ヴォイスとアスペクト 9. テンス 10. 文の種類 11. 各種の文の機能 12. 文章の談話構造 13. 会話談話構造 14. 応答と間投 15. 談話論と言語教育

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	PORTA 配布テキストを読了し，質問を準備するとともに，テキスト内の問題に解答しておくこと。
テキスト、参考文献	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。
評価方法	期末試験(70%)　授業活動の積極性(30%)

08 年度以降	ことばと思想２（日本語口頭表現の実践的研究）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：現代の日本社会で日本語による真摯なコミュニケーションを実現させる方法と理論を会得し、より豊かな言語生活を獲得するための基礎力を養う。 講義概要：日本では「読む・書く」に比べると日本語の「聞く・話す」の訓練はほとんどなされていない。学校教育には「読む・書く」のみが期待され、「聞く・話す」は「世間」（会社などの働く場も含む）や「家」での訓練で充分と考えられてきたからである。しかし、グローバル化を迎えた現代は「世間」や「家」でのみ通じる日本語（聞く・話す）だけでは通用しない。かといってディベートやプレゼンテーション等の技術が万能なわけでもない。この授業では、「聞く・話す」に関する基礎的訓練を、講義と課題と実践を毎回組み合わせて実施する。課題が多く、毎回参加しないと意味がないので、そのつもりで履修すること。	1. オリエンテーション・導入 2. 概説①（「話す・聞く」の理論、意思疎通のサイクル） 3. 概説②（私達はなぜ「話す」のか？なぜ「聞く」のか？） 4. アイ・コンタクトの重要性、「向い合い」の意味 5. 「私は○○です」を伝える、受け止める 6. 「本当に伝えたいこと」とは何か？ 7. 「本当に伝えたいこと」を伝える、受け止める 8. 伝わるように伝える、受け止める 9. 聞いたことをそのまま書く① 10. 聞いたことをそのまま書く② 11. 書いてあることを話す、表現する、受け止める① 12. 書いてあることを話す、表現する、受け止める② 13. 書いてあることを話す、表現する、受け止める③ 14. 書いてあることを話す、表現する、受け止める④ 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について､副題に示したテーマをもとに､21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：毎回、次回に向けての課題を出すので、それを忘れずに実施すること。 事後学修：毎回の課題は「振り返り」を含むので、課題を忘れずに実施すること。
テキスト、参考文献	テキスト：特になし　　参考文献：特になし
評価方法	課題の提出 60%、後半に予定されているグループ実習での成果 40%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	ことばと思想２（碑文を読む）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：路傍に見過ごされる石碑を読む。 講義概要：現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために解釈と理解の道筋を示して、身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。 今年度は草加周辺の旧日光街道に焦点を当てて、フィールドワークを増やし、読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。 変体仮名や異体字、漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。 全体としては足を動かし、手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。	1. オリエンテーション・導入 2. 概説（石碑の種類・刻まれた文字達） 3. フィールドワーク、草加宿 4. フィールドワーク、草加市民俗資料館 5. フィールドワーク、大学周辺 6. フィールドワーク、草加茶屋町周辺 7. フィールドワーク、蒲生茶屋町周辺 8. 道標・講中碑を読む 9. 日本漢文体の読解、梵字の読解 10. 墓碑銘・供養碑を読む 11. 学生諸君の報告と検討① 12. 学生諸君の報告と検討② 13. 学生諸君の報告と検討③ 14. 学生諸君の報告と検討④ 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について､副題に示したテーマをもとに､21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：身辺の石碑に注意を払っておくこと。事後：調査報告書の内容の充実に努めること。
テキスト、参考文献	授業中に示す。
評価方法	フィールドワーク参加 10%。各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、およびその内容 40%。授業中に検討した上で手直しの後、調査報告書 2 点の提出、その内容 50%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	ことばと思想２(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語と日本語音声表現の特質を知り　そこからコミュニケーション能力を高めるための基礎を学ぶ 音声表現には「話して伝える」と「読んで伝える」があり「聴いて判断する力」「察する力」が重要な要素である 本講義では　各人の個性に合ったコミュニケーション力が身につくよう　実践を重視した講義を行う 話し手・聴き手それぞれ個性があり価値観が異なる　「整然としたことばで話しても　正しく伝わるとは限らないし　相手の心に響くとは限らない　　この講義では「言葉の力」と「言葉の空しさ」を体験しながら　理論ではなく実践によってコミュニケーションの方法論を考える 毎時間「話す」「読む」「説明する」「察する」などの実践を行い　それが評価に繋がる　従って出席することが最低条件となる　秋学期に履修した者も　実践を積む場として活用できる講義になる	1. オリエンテーション「日本人とことば」 2. 自然な発声・発音「発声発音トレーニング」 3. 実践スピーチⅠ「人前で話す（自分を表現する)」 4. 実践スピーチⅠ「人前で話す（自分を表現する)」 5. 伝わる文章と音声表現「言葉の選択・構文」 6. 実践・説明Ⅰ「具体的な説明」・・適格な言葉と表現 7. 実践スピーチⅡ「課題に即した話をする」 8. 実践スピーチⅡ「課題に即した話をする」 9. 実践・説明Ⅱ「抽象的な説明」・・察しあうこと 10. 曖昧表現・方言と若者言葉 11. 実践スピーチⅢ「聴き手を納得させる」 12. 実践スピーチⅢ「聴き手を納得させる」 13. 敬語の基本「敬語の五分類と用法」 14. 敬語の応用Ⅰ「尊敬語と謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ」 15. 敬語の応用Ⅱ「内と外の関係」・・ミニテスト

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	個々に指摘された音声表現の注意点を改善するよう努力してください（毎回　確認します） 実践スピーチは　事前に準備することを求める（事前指導に沿った文章作成が重要です）
テキスト、参考文献	文化庁・国立国語研究所・ＮＨＫ等が発表した資料の抜粋をプリントして配布します
評価方法	授業参加度（毎回の音声トレーニング）45%　　実践スピーチ 35%　　ミニテスト 20%

08 年度以降	ことばと思想２(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語と日本語音声表現の特質を知り　そこからコミュニケーション能力を高めるための基礎と応用を学ぶ 音声表現には「話して伝える」と「読んで伝える」があり「聴いて判断する力」「察する力」が重要な要素である 本講義では　各人の個性に合ったコミュニケーション力が身につくよう　実践を重視した講義を行う 話し手・聴き手それぞれ個性があり価値観が異なる 同じ「ことば」でも解釈や認識は異なる　「絶対的に正しい話しことば」など存在しない この講義では「言葉の力」と「言葉の空しさ」を体験しながらコミュニケーションの方法論を考える　毎時間　実践を伴うので春学期履修者には実践を積む場となる 始めて参加する者には　基本から始めるので問題はない また基本的な言葉遣いや敬語　話し方についても具体的に説明するので　就職試験の面接にも参考になる	1. オリエンテーション「ことばの役割」 2. 自然な発声・発音「発声発音トレーニング」 3. 実践スピーチⅠ「人前で話す（自己ＰＲ)」 4. 実践スピーチⅠ「人前で話す（自己ＰＲ)」 5. 読んで伝えるⅠ「意味通りのイントネーション」 6. 読んで伝えるⅡ「話し口調と読み口調」 7. 実践スピーチⅡ「聴き手を説得する」 8. 実践スピーチⅡ「聴き手を説得する」 9. 聴き手の心に残るスピーチ文 10. 実践「言葉の力と空しさ（他人の感性を察する)」 11. 実践スピーチⅢ「想いを伝える」 12. 実践スピーチⅢ「想いを伝える」 13. 日常言葉の点検「社会人としての言葉の使い方」 14. 敬語の基本と応用Ⅰ・・ミニテスト 15. 敬語の基本と応用Ⅱ・・ミニテスト

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	個々に指摘された音声表現の注意点を改善するよう努力してください（毎回確認します） 実践スピーチは　事前に準備することを求める（事前指導に沿った文章作成が必要です）
テキスト、参考文献	文化庁・国立国語研究所・ＮＨＫ等が発表した資料の抜粋をプリントして配布します
評価方法	授業参加度（毎回の音声トレーニング）45%　　実践スピーチ 35%　　ミニテスト 20%

08 年度以降	ことばと思想２(ラテン語Ｉa)	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語とは今から2,000年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていた言語です。ローマの支配圏が拡大するのに伴い、このラテン語も西ヨーロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したものなのです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語（そしてギリシア語）の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。 教科書を使って、毎回文法事項を説明します。皆さんは課ごとに付されている練習問題を解き、それを提出します。次回までにこちらがそれを添削し、返却および解説を行ないます。	1:第一課 文字と発音・音韻組織・音節 2:第一課 アクセント・母音の長音化と短音化 3:第一課 直説法現在能動相・接続詞の例 4:第二課 第一変化名詞・名詞の性と格・不規則動詞 5:第二課 第二変化名詞・er で終わる第二変化男性名詞 6:第三課 第一・第二変化形容詞・前置詞・sum と eo の合成動詞 7:第三課 人称代名詞・再帰代名詞 8:第四課 未完了過去・未来 9:第四課 第三変化名詞 10:第五課 完了・過去完了・未来完了 11:第五課 第三変化形容詞・場所の表現 12:第六課 指示代名詞・idem と ipse 13:第六課 直説法受動相未完了系三時称・受動文 14:第七課 疑問代名詞と疑問形容詞・関係代名詞 15:第七課 第四変化名詞・第五変化名詞・ローマ人の名前

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習復習をお勧めしておきます
テキスト、参考文献	中山恒夫『標準ラテン文法』（白水社）
評価方法	課ごとのラテン語作文を提出してもらい，20 点満点で平均 12 点以上を合格とします.

08 年度以降	ことばと思想２(ラテン語 Ib)	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じです。ただし，秋学期から受講するという場合は，春学期で学ぶ内容を終えている必要があります	1:第八課 目的分詞・動詞の基本形・完了受動分詞・直説法受動相完了系三時称 2:第八課 命令法能動相・命令法受動相・形容詞からの副詞・述語的同格 3:第九課 不規則動詞・形容詞の比較 4:第九課 副詞の比較・部分を表す述語的同格 5:第十課 形式受動相動詞・分詞 6:第十課 接合分詞・絶対的奪格 7:第十一課 不定法 8:第十一課 対格＋不定法 9:第十二課 代名詞型形容詞・不定代名詞・nemo と nihil 10:第十二課 二重否定・動名詞・動形容詞 11:第十三課 非人称動詞・属格の用法 12:第十三課 与格の用法 13:第十四課 対格の用法・奪格の用法 14:第十五課 接続法の活用 15:第十五課 主文の接続法

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習復習をお勧めします
テキスト、参考文献	春学期と同じです。
評価方法	春学期と同じです。

08 年度以降	ことばと思想 2(ラテン語 IIa)	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語の原典を講読し、読解力の向上を目指します。従って、この授業を受講するには、ラテン語の初級文法を学び終えていることが前提です。 ラテン語の文法を学んだ人は「とにかく予習が大変だった」あるいは「課題をこなすのに一苦労だった」と言います。そこで、せっかく「完走」しても、「あれをまたやるのは...」と、続けることを断念してしまう人も少なからずいます。この授業はそうした心配には及びません。詳しい註や解説をあらかじめ用意することで、予習の段階でのいわば「不必要な試行錯誤」を回避できるよう工夫してあります。つまり、なるべく負担は少なく、なおかつ原文で読まなければ味わうことのできない醍醐味を知ってもらおうという、欲張りな授業です。初級をクリアしたということは、古代世界を深く知る、それも特権的な資格を得たということです。そうした自負を持って、ためらうことなくこの授業に参加してもらいたいと思います。	I『ガリア戦記』教材プリント配布、ガイダンス。 II 第 1 巻第 1 章 III 第 3 巻第 1 章 IV 第 3 巻第 2 章 V 第 3 巻第 3 章 VI 第 3 巻第 4 章 VII 第 3 巻第 5 章 VIII 第 3 巻第 6 章 IX 第 3 巻第 7 章 X 第 3 巻第 8 章 XI 第 3 巻第 9 章 XII 第 3 巻第 10 章 XIII 第 3 巻第 11 章 XIV 第 3 巻第 12 章 XV第3巻第13章

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習は必須です
テキスト、参考文献	テキストはプリントを配布します．初級で使った教科書を参考書とします．
評価方法	平常点で評価します．毎回の予習と，授業への意欲的な参加を望みます。

08 年度以降	ことばと思想 2(ラテン語 IIb)	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じです。	春学期に引き続きカエサルの『ガリア戦記』を輪読します。 I 第 3 巻第 13 章 II 第 3 巻第 14 章 III 第 3 巻第 15 章 IV 第 3 巻第 16 章 V 第 3 巻第 17 章 VI 第 3 巻第 18 章 VII 第 3 巻第 19 章 VIII 第 3 巻第 20 章 IX 第 3 巻第 21 章 X 第 3 巻第 22 章 XI 第 3 巻第 23 章 XII 第 3 巻第 24 章 XIII 第 3 巻第 25 章 XIV 第 3 巻第 26 章 XV 第 3 巻第 29 章

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習が必須です．
テキスト、参考文献	春学期と同じです。
評価方法	春学期と同じです。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト、 参考文献	
評価方法	

08 年度以降	ことばと思想２(韓国の言語文化)	担当者	金　秀晶

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国語の文法体系をより深く勉強していく受講生は、テキストの内容を理解し、韓国語についてテーマを決め、グループでプレゼンテーションを行う。 毎回精読の上、サマリーを必ずやってくること。	1. 全体ガイダンス、テキストの紹介 2. 第１章総論 3. 第２章文字 4. 第 3 章音韻 5. 第 4 章①単語と品詞 6. 第 4 章②造語と借用語 7. 第 5 章①文構造① 8. 第 5 章②文構造② 9. 第 5 章③文構造③ 10. 第 6 章敬語法 11. 中間テスト 12.プレゼンテーション発表 13.プレゼンテーション発表 14.プレゼンテーション発表 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、 参考文献	李翊燮他『韓国語概説』大修館
評価方法	中間テスト、プレゼンテーション発表、サマリー提出

08 年度以降	ことばと思想２(書き言葉の問題)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
文章は読み手を意識して、初めて成立する。文章作法の基本から応用までが、手紙（メールも含む）作成に凝縮されているので、実際に作成しながら問題点及び留意事項を確認する。 ＳＮＳの進歩はその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやり取りから抜け出して、心を打つ手紙をトレーニングする。また、心を打つ文章とはどのようなものかを意識的に考える。 手紙文の定型。先人の書簡の分析、鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法。	1. ガイダンス　コミュニケーションの本義 2. 文章によるコミュニケーション 3. ポジティブ言語とネガティブ言語 4. 手紙文の約束①拝啓―時候の挨拶 5. 手紙文の約束②本文―敬具―（追伸）まで 6. 時候の挨拶と季節感①　１月～12 月 7. 著名人の手紙鑑賞、解説① 8. 著名人の手紙鑑賞、解説② 9. 著名人の手紙鑑賞、解説③ 10. 手紙を題材にした小説の鑑賞 11. 手紙文添削指導① 12. 手紙文添削指導② 13. メール作成の出し方、メール作成の問題点 14. メール文添削指導 15. まとめ（総集編）

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題出題→課題提出→添削指導→完成のサイクルをもって、事前事後学修をする。
テキスト、参考文献	その都度紹介する。
評価方法	課題及び添削指導５０％。定期レポート５０％。

08 年度以降	ことばと思想２(話し言葉の問題)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
現代の話し言葉は、ギャル語、若者言葉、おやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて、理解しあえる話し言葉を学びながら、そこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を理解する。 流行語と世相の相関関係を見ながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活でのことばの問題だけでなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉について考える。 流行語と世相の相関関係を見ながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活でのことばの問題だけでなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉について考える。3分間スピーチ（自己紹介）を具体的にやってみることから、気付きの講義となる。	1. ガイダンス 2. コミュニケーション能力について 3. 日本型コミュニケーションについて 4. 流行語の変遷（流行語大賞の分析） 5. 若者言葉の問題（世代語についての考察） 6. ポジティブ言語とネガティブ言語 7. 話材集めのテクニック① 8. 話材集めのテクニック② 9. スピーチの実践（スピーチ原稿の添削開始） 10. 心を開かせる挨拶と立ち居振る舞い 11. ３分間スピーチの実践①　全員から講評 12. ３分間スピーチの実践②　全員から講評 13. ３分間スピーチの実践③　全員から講評 14. ３分間スピーチの実践④　全員から講評 15. まとめ（総集編）

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題を提示し、その都度添削指導を行うので、①課題を受ける→②課題を提出→③添削返却→④完成の流れを事前事後学修とする。
テキスト、参考文献	その都度指示する。
評価方法	添削指導歴５０％。単位レポート５０％。

08 年度以降	ことばと思想２(ロマンス語研究入門１)	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
対象となる受講者) 仏語、西語、葡語、伊語（以下「主要ロマンス語」と呼びます）のいずれか一つ以上について一年以上学んだ方（以下既習の言語を「専攻ロマンス語」と呼びます）を対象とします. （目的） 非専攻ロマンス語に関する幅広い知識、および専攻ロマンス語に関するより深い知識・理解の獲得とします. （概要） 前期は主要ロマンス語文法を伝統的な文法項目毎に並行整理し、主要ロマンス語比較文法表(ノート)の作成を目指します. 同時にテクストの読解練習および音読のための発音練習を積み重ねることで、テクスト分析のための基礎力を養成し、後期の授業に備えます. 授業は受講者の専攻ロマンス語歴を考慮して班をつくり発表形式で進めます.	1) ガイダンス 2) 発音 3) 発音 4) 名詞、形容詞、冠詞、前置詞＋定冠詞縮約形 5) 所有形容詞、指示形容詞、人称代名詞 6) 不定詞形、現在形(1) 7) 現在形(2) 8) 過去形(1) 9) 過去形(2) 10) 過去形(3) 11) 再帰代名詞、代名(再帰)動詞 12) 分詞形、完了形、進行形、受動形 13) 未来形、条件法(過去未来形) 14) 接続法(1) 15) 接続法(2)

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクスト読解の予習復習、発表の準備、ノート作成
テキスト、参考文献	教科書に相当する資料を講義支援システムを通じて配布します. 参考書はガイダンスの際に案内します.
評価方法	平常点(発表、ノート作成等)50%、課題提出 50%

08 年度以降	ことばと思想２(ロマンス語研究入門２)	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（概要） コナン・ドイル『バスカヴィル家の犬』の主要ロマンス語版を並行して精読しながら、各テクストの対応部分を主に文法的な観点から比較検討し、観察結果、問題点を発表、レポートに仕上げます.	1) ガイダンス 2) テクスト分析 3) テクスト分析 4) テクスト分析 5) テクスト分析 6) テクスト分析 7) テクスト分析 8) テクスト分析 9) テクスト分析 10) テクスト分析 11) テクスト分析 12) テクスト分析 13) テクスト分析 14) テクスト分析 15) テクスト分析

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクスト読解の予習復習、発表の準備
テキスト、参考文献	教科書に相当する資料を講義支援システムを通じて配布します. 参考書はガイダンスの際に案内します.
評価方法	平常点(発表)40%、課題提出 40%、レポート 20%

08 年度以降	ことばと思想２(プレゼンテーション実習)	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
毎回の講義では、与えられたテーマをパワーポイントにまとめて発表します。発表チームのメンバーは各3～4人です。発表時間やパワーポイントのシート枚数にも規定があります。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。プレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に伝える能力を磨きます。また他者と効果的なコミュニケーション能力獲得します。	1.　イントロダクション 2.　大学で学ぶ目的 1 3.　大学で学ぶ目的 2 4.　大学で学ぶ目的 3 5.　第2−4回目までのまとめ 6.　「幸せ」の定義 1 7.　「幸せ」の定義 2 8.　「幸せ」の定義 3 9.　第6−8回目までのまとめ 10.　感性と理性 1 11.　感性と理性 2 12.　感性と理性 3 13.　第9−12回目までのまとめ 14.　講義総まとめ 1 15.　講義総まとめ 2

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：講義テーマについて考え、メモにして発表準備をしておいて下さい。 事後：自身の発表を振返り、改善点等を確認しておいて下さい。
テキスト、参考文献	講義内で配布します。
評価方法	平常点(20%)、授業への参加度(20%)、最終レポート(60%)

08 年度以降	ことばと思想２(プレゼンテーション実習)	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
毎回の講義では、与えられたテーマをパワーポイントにまとめて発表します。発表チームのメンバーは各3～4人です。発表時間やパワーポイントのシート枚数にも規定があります。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。プレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に伝える能力を磨きます。また他者と効果的なコミュニケーション能力獲得します。	1.　イントロダクション 2.　大学で学ぶ目的 1 3.　大学で学ぶ目的 2 4.　大学で学ぶ目的 3 5.　第2−4回目までのまとめ 6.　「幸せ」の定義 1 7.　「幸せ」の定義 2 8.　「幸せ」の定義 3 9.　第6−8回目までのまとめ 10.　感性と理性 1 11.　感性と理性 2 12.　感性と理性 3 13.　第9−12回目までのまとめ 14.　講義総まとめ 1 15.　講義総まとめ 2

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：講義テーマについて考え、メモにして発表準備をしておいて下さい。 事後：自身の発表を振返り、改善点等を確認しておいて下さい。
テキスト、参考文献	講義内で配布します。
評価方法	平常点(20%)、授業への参加度(20%)、最終レポート(60%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	ことばと思想２（日本文学作品研究 e）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
本居宣長の世界 本居宣長は伊勢・松阪に生まれた江戸時代の国学者です。国学者とは、日本の古典を研究対象とし、日本固有の「道」を明らかにしようとした人々を指しています。宣長の残した古事記の注釈書である『古事記伝』や源氏物語の注釈書である『紫文要領』などは現代でも重要視されている文献です。 本講義では、本居宣長の残した随筆や注釈書から宣長の言葉に表されている「思想」をいくつかのキーワードとして取り上げ、研究者として、また、教育者として活躍した「宣長の思想」を理解し、「生きるとは」「学ぶとは」といったことを考えることを講義の目的とします。	1　ガイダンス―本居宣長とは― 2　生きる力―『排蘆小船』をよむ・その１― 3　生きる力―『排蘆小船』をよむ・その２― 4　生きる力―『玉勝間』をよむ― 5　「心」と「事」と「言葉」―『うひ山ふみ』①― 6　「心」と「事」と「言葉」―『うひ山ふみ』②― 7　「心」と「事」と「言葉」―『うひ山ふみ』③― 8　「心」と「事」と「言葉」―『古事記伝』①― 9　「心」と「事」と「言葉」―『古事記伝』②― 10　「心」と「事」と「言葉」―『古事記伝』③― 11　物学び―『玉勝間』・その１― 12　物学び―『玉勝間』・その２― 13　物学び―『玉勝間』・その３― 14　宣長の思考 15　まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として、提示される課題に取り組んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：特に定めず、適宜プリントを配布します。 参考文献：授業中に紹介します。
評価方法	小テスト（７０％）、課題提出も含めた授業への参加度（３０％）で評価します。

08 年度以降	ことばと思想２（日本文学作品研究 a）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
日本の芸能 奈良時代に渡来した伎楽、雅楽、散楽のうち、「舞」や「滑稽な物真似」、「対話」といったいくつかの要素が特徴的に発展、形成されて中世の能や狂言となりました。 本講義では、古代の芸能としての伎楽、雅楽、散楽から猿楽を経て、能や狂言が分化していくわが国の芸能史を様々な文献からたどり、さらには、演じられる物語のベースになる文献を解読し、理解することを講義の目的とします。	1　ガイダンス―芸能とは― 2　伎楽・雅楽・散楽―その１・伝来― 3　伎楽・雅楽・散楽―その２・芸態― 4　猿楽への分岐―藤原明衡『新猿楽記』をよむ・その１ 5　猿楽への分岐―藤原明衡『新猿楽記』をよむ・その２ 6　大和・近江四座の成立とその展開 7　古典との融合―その１・三輪― 8　古典との融合―その２・三山― 9　古典との融合―その３・松浦佐用姫― 10　古典との融合―その４・枕慈童― 11　古典との融合―その５・姨捨― 12　民衆と芸能―その１・歌舞伎の歴史― 13　民衆と芸能―その２・忠臣蔵― 14　民衆と芸能―その３・世話物― 15　まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として提示される課題に取り組んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：特に定めず、適宜プリントを配布します。 参考文献：授業中に紹介します。
評価方法	小テスト（７０％）、課題提出も含めた授業への参加度（３０％）で評価します。

08 年度以降	ことばと思想２（写本を読む）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
くずし字で読む『小倉百人一首』 『小倉百人一首』は、もともと平安時代の歌人を中心に、奈良時代から鎌倉時代初期に至る歌人の秀歌を集めたもので、藤原定家の撰とされています。当初は二条家の和歌の秘伝として伝授されたりしていましたが、近世期に入って、北村季吟や契沖、賀茂真淵など、様々な人々が注釈書を記しました。 江戸時代中期ごろから、特に女子の古典入門書として取り上げられ、古典教材の他に、家庭遊戯の「かるた」として普及しました。本講座では、架蔵の『百人一首一夕話』をもとに、日本文化の一端としての百人一首を、歌にまつわるエピソードとともにくずし字の習得も含めて学ぶことを目的とします。	1　ガイダンス―『百人一首』の成立― 2　天智天皇①―私の袖は露に濡れたよ― 3　天智天皇②―天智天皇のエピソード― 4　持統天皇①―香具山に夏が来た― 5　持統天皇②―持統天皇のエピソード― 6　柿本人麿①―長き夜を独りで寝るか― 7　柿本人麿②―柿本人麿のエピソード― 8　山部赤人―富士の高嶺に雪が降っている― 9　中納言家持―カササギの橋に霜が置くよ― 10　安倍仲麿―三笠の山に月が― 11　喜撰法師―宇治山の庵に住む― 12　小野小町①―花の色は移ろうもの― 13　小野小町②―小野小町のエピソード 14　陽成院―恋は積もって淵となるよ― 15　まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストとして配布するプリントのくずし字部分を事前に学習することを課題とします。
テキスト、参考文献	テキスト：版本を用いたプリントを配布します。 参考文献：児玉幸多編『くずし字解読辞典』東京堂出版
評価方法	小テスト（６０％）、課題提出も含めた授業への参加度（４０％）で評価します。

08 年度以降	ことばと思想 2（日本文学作品研究 c）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
富士山の伝承と文学 『万葉集』に「奇しくもいます神」と詠まれ、古来から霊山として讃えられてきた富士山は、一方で山容の美しさ、雄大さが様々な文学作品に表現された山でもあります。 本講義では、「伝承」と「文学」の二つの視点から世界文化遺産にも登録された「富士山」を解き明かすことを目的とします。「富士山」をキーワードに、通史としての日本文学史を学び、日本人の志向を文学作品から読み解くことをします。	1　ガイダンス―パワースポット「富士山」― 2　富士に抱く思い―『万葉集』『古今和歌集』― 3　富士山の伝説―その１・『富士山記』― 4　富士山の伝説―その２・『更級日記』― 5　富士山の伝説―その３・『竹取物語』― 6　伝説のクライマー―その１・『日本霊異記』― 7　伝説のクライマー―その２・『聖徳太子伝暦』― 8　富士山の神―その１・『人穴草子』― 9　富士山の神―その２・『富士山縁起』― 10　もう一つのかぐや姫伝説―『皇国地誌』― 11　室町将軍富士山を見る―『覧富士記』― 12　富士信仰の歴史と伝承―その１・古代から中世― 13　富士信仰の歴史と伝承―その２・中世から近世― 14　富士信仰の歴史と伝承―その３・近世― 15　まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として、提示される課題に取り組んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：特に定めず、適宜プリントを配布します。 参考文献：授業時間内に紹介します。
評価方法	小テスト（７０％）、課題提出も含めた授業への参加度（３０％）で評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	ことばと思想２(古典ギリシア語Ｉa)	担当者	高橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞春・秋1年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを第一の目標とします。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとっていきます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れていきます。＜講義概要＞授業は毎回各単元１～２つずつ学習するペースで進みますが、途中10分間ほどの中休みを入れて、古代や現代のギリシアの社会や文化等を映像を交えて紹介しながら、和やかな雰囲気で行います。なお、各回の授業は予習と復習をきちんとしていることを前提に進めていくことになるので、出席は必ず毎回するように心がけて下さい。また、この講座の学修後、Ⅱabにステップアップしてギリシア古典を原文で読み、深い教養に親しむことをお勧めします。	１．　字母・発音・音韻などの分類（自分の名前を書く） ２．　音節・アクセント・句読点（ギリシア語が読める） ３．　動詞の変化・直説法能動相現在（単文の理解が可能） ４．　名詞の第一変化（名詞の格変化の理解が可能） ５．　動詞の変化・直説法能動相未来（未来形の文章理解） ６．　同・直説法能動相未完了過去（動詞の３時制の理解） ７．　名詞の第二変化 ８．　形容詞の第一・第二変化 ９．　前置詞（格支配する前置詞の理解） １０．動詞の変化・アオリスト（動詞の過去時制の理解） １１．同・現在完了と過去完了（加音と畳音の理解） １２．指示代名詞と強意代名詞（新約聖書が読める） １３．直説法能動相本時称の人称語尾 １４．直説法能動相副時称の人称語尾 １５．春学期まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を事前に予習をして、練習問題をやっておき、授業中にその正誤を確認し、授業後は単語帳や文法事項を整理しておいて、次回に提出して下さい。ノートはその場で確認し返却します。
テキスト、参考文献	＜テキスト＞田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門　新装版』(岩波書店、2012 年)（2200 円＋税） ＜参考文献＞特になし。必要に応じて、プリントを配布します。
評価方法	平常点５０％、授業への参加度３０％、小テスト２０％

08 年度以降	ことばと思想２(古典ギリシア語Ｉb)	担当者	高橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 同　上 ＜講義概要＞ 同　上	１．　ε ι μ ί（ある）動詞およびφ η μ ί（言う）動詞 ２．　疑問代名詞と不定代名詞 ３．　動詞の変化・直説法中動相の各時制（１） ４．　動詞の変化・直説法中動相の各時制（２） ５．　人称代名詞とその代用表現 ６．　再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞 ７．　第二アオリストの用法（動詞の不規則変化） ８．　動詞の変化・直説法受動相 ９．　名詞の第三変化（名詞の不規則変化）（１） １０．名詞の第三変化（名詞の不規則変化）（２） １１．能相欠如動詞と約音動詞 １２．形容詞の第三変化 １３．不定法（１） １４．不定法（２） １５．秋学期まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	同　上
テキスト、参考文献	同　上
評価方法	同　上

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	ことばと思想２(心理検査法と自己理解)	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらの学習を通して，心理学の基本的知見を習得してほしい。また，心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果をレポートにまとめてもらう。 **※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000円）を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。**	1．　心理検査とは？ 2．　心理検査の種類と理論 3．　質問紙による性格検査①（Ｙ－Ｇ） 4．　質問紙による性格検査②（Ｙ－Ｇ） 5．　ストレス・コーピング 6．　職業への興味 7．　知能検査 8．　EQS 9．　性格５因子 10.　TEG 11.　グループ・ワークによる自己理解① 12.　グループ・ワークによる自己理解② 13.　グループ・ワークによる自己理解③ 14.　テスト・バッテリーに基づく自己理解 15.　まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で扱う心理検査について、その背景理論などを事前に学習する。事後にあっては、心理検査の結果を踏まえて授業で指示した課題をおこないレポートにより提出する。
テキスト、参考文献	各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう。
評価方法	実施した心理検査の結果をレポートにまとめて提出してもらう(50%)。また、最終レポートを課す(50%)。これらのレポート内容を総合し、最終の評価を決定する。

08 年度以降	ことばと思想 2（フランス思想入門 a）	担当者	根木　昭英

講義目的、講義概要	授業計画
フランスの思想家、作家であるジャン＝ポール・サルトル（1905-80）は、文学的営為をその社会的責任と結び付けて考えたことで知られています。彼のこうした思索はこれまで、もっともまとまった文学論である『文学とは何か』をおもたる典拠として解釈されてきました。本講義では、サルトルが残した著作の全体、すなわち哲学著作や、他の作家たちを対象とした批評群、小説や戯曲などの文学作品にも視野を広げることで、このような従来解釈とは異なるサルトル文学論を再構築する可能性を探ります。 毎回の講義では、サルトルやその他の思想家たちの著作からの抜粋を読解しつつ、考察を進めていきます。講義を通じ、思想的テクストを解釈する一般的な方法論についても学べるようにしたいと思います。 春学期には、神学と文学言語の問題を中心として、サルトルの思索を検討します。	1. 導入 2. サルトルと「ポエジー」の問題 ① 3. サルトルと「ポエジー」の問題 ② 4. サルトルと「ポエジー」の問題 ③ 5. サルトルと神の問題 ① 6. サルトルと神の問題 ② 7. サルトルと神の問題 ③ 8. サルトルと神の問題 ④ 9. サルトルと弁証法の問題 ① 10. サルトルと弁証法の問題 ② 11. サルトルと文学言語の問題 ① 12. サルトルと文学言語の問題 ② 13. サルトルと文学言語の問題 ③ 14. サルトルと文学言語の問題 ④ 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。
テキスト、参考文献	レジュメを配布します。参考文献については、毎回の講義のなかで紹介していきます。
評価方法	期末レポート：70%、コメントペーパーや発言を通じた授業への貢献度：30%

08 年度以降	ことばと思想 2（フランス思想入門 b）	担当者	根木　昭英

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、サルトル文学論の再構築を目的として、諸著作の解釈と解説を行います。秋学期には、おもに「コミュニケーション」と「モラル」の観点から考察を進めます。	1. 導入 2. サルトルとコミュニケーションの問題 ① 3. サルトルとコミュニケーションの問題 ② 4. サルトルとコミュニケーションの問題 ③ 5. サルトルと作家たち 6. サルトルのモラル論 ① 7. サルトルのモラル論 ② 8. サルトルにおける文学とモラル ① 9. サルトルにおける文学とモラル ② 10. サルトルにおける文学とモラル ③ 11. サルトルにおける〈歴史〉と文学 12. サルトルにおける文学論と文学実践の関係 ① 13. サルトルにおける文学論と文学実践の関係 ② 14. サルトルにおける文学と芸術一般との関係 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。
テキスト、参考文献	レジュメを配布します。参考文献については、毎回の講義のなかで紹介していきます。
評価方法	期末レポート：70%、コメントペーパーや発言を通じた授業への貢献度：30%

08 年度以降	ことばと思想２(生活文化の発見)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
「文化」とは人々の行いであり、何気ない日常生活も、先人たちによって築かれた、あるいは知恵の上に成り立っています。このような日常生活の様子を「生活文化」として捉え、具体的にみていきます。文化は時代の価値観を背景にして成り立ちます。それゆえに価値観が変化すれば、生活文化も変ります。文化は常に流動的です。 本講座では、「生活文化」の成立の要因、「地域的差異」生活を成り立たせる「社会組織」がどのようになっていたのかだけではなく、「変化」にも着目して、価値観の変化を背景とした、実際の生活様式・文化の変化、さらに社会意識の変化をも見ていきたいと思います。	１、　講義の概説 ２、　「生活文化」とは何か ３、　地域差の問題（周圏論を中心に） ４、　地域差が生まれる要因１ ５、　地域差が生まれる要因２ ６、　生活様式を捉える１（家の作りを中心に） ７、　生活様式を捉える２（社会組織を中心に） ８、　社会的機能１ ９、　社会的機能２ 10、　明治維新による生活文化の変化 11、　近代化政策による生活文化の変化 12、　高度経済成長期における生活文化の変化 13、　IT革命による生活文化の変化 14、　生活文化意識の中のジェンダーや差別意識 15、　講義のまとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。
テキスト、参考文献	プリントを配布、参考・関連文献は授業中に紹介
評価方法	試験 100%、授業参加度・貢献度を加味する。

08 年度以降	ことばと思想２(生活文化の記述)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
現在はSNSが発達し、誰もが自分の日常や情報を書き、発信することができるようになっています。それは、まさに「生活文化」を記録し、さらには「記録」の他者との共有と考えます。しかし、書き手と読み手との間にずれが生じるでしょう。まず「書く」ことの意味を幕末・明治期の日記から考えます。さらに「生活文化」の記述に特化するならば、それは地方自治体により、「記録」を目的として発行された「民俗誌」があげられるでしょう。そこで「民俗誌」の記述や映像を見つつ、意見交換しながら、特に「文化」の記録や「伝統」の記録について考えていきたいと思います。さらに「文化財指定」の問題にまで踏み込んでいきたいと考えておりますが、これら、「記録」の意味する所を自分の問題として考えることが、本講座の大きな目的です。	１、　講義の概説 ２、　生活を記述すること（日記を中心に） ３、　生活を記述すること（備忘録） ４、　「記録」のための記録（民俗誌） ５、　民俗誌に記されたもの ６、　民俗誌を実際に読む１ ７、　民俗誌を実際に読む２ ８、　民俗誌の利点と問題点 ９、　映像記録を見る１（『ふるさとの伝承』から） 10、　映像記録を見る２（『日本は森の国』から） 11、　映像記録を見る３（『日本風景遺産』から） 12、　映像記録の利点と問題点 13、　文化財としての「保存」 14、　講義のまとめ 15、　講義のまとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。
テキスト、参考文献	プリントを配布、参考・関連文献は授業中に紹介
評価方法	試験 70%、授業への参加度・発言 30%。

08 年度以降	ことばと思想２(論文を書く)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
本科目は、大学生活において、学習・調査・発表・レポート作成を行うのに必要な日本語の基礎的な能力の習得を目指す。 ①基本的な語彙力についての問題を解くことができる。 ②簡単な論文を読んで、内容を要約し、自分の言葉で発表することができる。 ③論題に対する基本的な調査ができる。 ④調べた詳しい内容を、分かりやすいかたちで発表することができる。 ⑤論文の基本的な構成ができる。 ⑥論文の構成に従って、分かりやすい論文を書くことができる。	1. はじめに 2. 社会貢献活動の基本的概念を知る。 3. 発表① 4. 論文を読む① 5. 発表② 6. 発表③ 7. 論点の整理 8. 三角ロジック 9. 論文の構成 10. 資料の検索 11. 発表③ 12. 発表④ 13. 論文作成① 14. 論文作成② 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修　指定された予習課題を提出する。 事後学修　指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。
テキスト、参考文献	プリントを配布
評価方法	①発表、リサーチ、論文、最終レポートの内容　60% ②授業中の取り組み　40%

08 年度以降	ことばと思想２(口頭発表を行う)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
本科目では、日本語の基礎能力を、具体的な発表などを通して、さらに高いレベルで身につけることをねらいとする。 ①基本的な語彙力についての問題を解くことができる。 ②簡単な論文を読んで、内容を要約し、自分の言葉で発表することができる。 ③論題に対する基本的な調査ができる。 ④調べた詳しい内容を、効果的な方法で発表することができる。 ⑤論文の基本的な構成ができる。 ⑥論文の構成に従って、分かりやすい論文を書くことができる。	1. はじめに 2. 論文を読む① 3. 論文を読む② 4. 発生・発音 5. 発表① 6. リサーチ 7. 発表② 8. プレゼンテーションの理論① 9. プレゼンテーションの理論② 10. 発表③ 11. 発表④ 12. 論文の構成 13. 論文作成① 14. 論文作成② 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修　指定された予習課題を提出する。 事後学修　指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。
テキスト、参考文献	プリントを配布
評価方法	①発表、リサーチ、論文、最終レポートの内容　60% ②授業中の取り組み　40%

08 年度以降	ことばと思想２(古典ギリシア語Ⅱa)	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、1年間の授業を通して、古典ギリシア語の初級リーダー、中級前半リーダーの理解が、辞書を片手に、ともかくも可能になることを主目的としています。そのためには、辞書の引き方から文章中に使われている単語の意味の確定、文章理解を一語一語また一文一文と、こまめに根気よく掘り下げていくことから始めたいと思います。その上で内容説明や解説を丁寧にゆっくり、かつ、じっくり取り組むよう心がけます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会と文化にも触れることしたいと考えます。 授業では、毎回、楽しい読み物をごくやさしく、短い文章をもとに、ノートの作り方、辞書による単語の引き方、文章理解のための文法知識、裏話やエピソード、関連する映像などを交えて解説していきます。受講者は初級文法を修了していることがよいけれど、必ずしも拘りません。	１．　はじめに（辞書の引き方、ノートの作り方の指導） ２．　２.『イソップ物語』の教訓：鶏と泥棒（その１） ３．　鶏と泥棒（その２） ４．　きつねとつる（その１） ５．　きつねとつる（その２） ６．　かめとそのねぐら（その１） ７．　かめとそのねぐら（その２） ８．　おおかみの叫び（その１） ９．　おおかみの叫び（その２） １０．猿のものまね上手（その１） １１．猿のものまね上手（その２） １２．最古のギリシア碑文を読む（「ネストルの杯」より） １３．ギリシア大理石碑文（「民会決議碑文」より） １４．クセノポン『ソクラテスの思い出』より） １５．春学期まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習をし、自分で理解できる所とそうでない所を確認しておき、授業後は正しい日本語の訳を付け、単語帳や文法事項を整理しておいて、次回の授業の際、提出して下さい。
テキスト、参考文献	市販のテキストは使用せず、こちらで用意したプリント（テキスト、語彙集、文法一覧表付）を使用します。なお、参考文献は、授業中に紹介します。
評価方法	平常点５０％、授業への参加度５０％

08 年度以降	ことばと思想２(古典ギリシア語Ⅱb)	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
同　上	１．　『人さまざま』(テオフラストスの鋭い人間観察の妙) ２．　おべっか使い（その１） ３．　おべっか使い（その２） ４．　不平たらたらの人（その１） ５．　不平たらたらの人（その２） ６．　他人を信じられない人（その１） ７．　他人を信じられない人（その２） ８．　田舎もの（その１） ９．　田舎もの（その２） １０．プラトン『ソクラテスの弁明』より １１．プラトン『饗宴』より（その１） １２．プラトン『饗宴』より（その２） １３．アリストテレス『政治学』より １４．ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』より １５．秋学期まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	同　上
テキスト、参考文献	同　上
評価方法	同　上

08 年度以降	ことばと思想２(英語通訳)(英語通訳の仕事)	担当者	渡部　富栄

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 : 通訳とは何かを理解し、英語通訳の仕事を知り、通訳訓練法を体験します。 講義概要 : 、通訳のメカニズムを説明したあと、通訳者という仕事について概説します。通訳者の役割と倫理規定も考察します。通訳スキルを説明し、それを身につけるための基礎訓練を実施します。また、通訳に必要な声の出し方の基本を示し、実際にやってみます。最終的には、簡単な通訳ができることを目指します。	1. 通訳とは何か？ 2. 通訳の歴史 3. 英語通訳の仕事 4. 通訳に必要な発声方法の基本 5. 通訳訓練法①リプロダクション、シャドーイング 6. 通訳訓練法②サイトトランスレーション、区切聞き 7. 逐次通訳① 短文の逐次通訳演習 8. 逐次通訳② ノートテーキングの方法 9. 逐次通訳③ ノートをとりながらの逐次通訳演習 10. 通訳者に必要な対人コミュニケーションスキル 11. 通訳者の倫理規定 12. 通訳の現場 13. 良い通訳の要素、通訳ユーザーへの対応 14. 確認のためのテスト 15. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習復習をしっかりしてください。
テキスト、参考文献	授業中にプリントを配布します。
評価方法	授業中のテスト（50%）、授業中の発表（10%）、レポートなどの提出物（20%）、積極的な取り組み（20%）

08 年度以降	ことばと思想２(英語通訳)(英語通訳の仕事)	担当者	渡部　富栄

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化２（Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 1）	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
講義はすべて英語で行います。TOEIC 700、TOEFL(IBT) 71、英検準一級程度以上の英語力を必要とします。 This course is designed to acquaint students with various aspects of Japanese culture through the study of traditional legends, tales and myths. Each topic will be introduced through imagery and will include a lecture, readings and related discussions. For the study of one select topic, the class will make an excursion to a corresponding exhibition or performance. Course Objectives: • To learn and discuss a broad variety of traditional Japanese legends, tales and myths • To learn and discuss the socio-cultural context from which these legends/tales/myths emerged • To learn and discuss the expression of these legends/tales /myths in the context of performance, ritual, and art • To learn and discuss how this selection of legends/tales/ myths reflect the history, traditions, mores, world-view and character of the Japanese people	Animal/Creature Tales, Symbolism and Superstitions • Tiger, Monkey, Fox, Ox, Rooster, Crane, Hawk, etc. Otsu-e Folk Painting • *Oni no Nenbutsu* 鬼の念仏 (Praying Goblin), *Fuji Musume* 藤娘 (Wisteria Maiden), *Zatō* 座頭 (Blind Man), *Gehō no Hashigozori* 外法梯子剃 (Daikoku Shaving Fukurokuju), etc. *Yōkai* • *Yōkai* Illustrated: Key *Yōkai*-related Imagery, from the Medieval Period to the Present Day – *Hyakki yagyō emaki* 百鬼夜行絵巻 (Illustrated Handscroll of Night Parade of One Hundred Demons) – *Tsukumogami emaki* 付喪神絵巻 (Illustrated Handscroll of Transfigured Objects) – *Gazu hyakki yakō* 画図百鬼夜行 (The Illustrated Night Parade of One Hundred Demons)

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト、参考文献	Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.
評価方法	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (20%), the completion of homework assignments (35%), and achievement on a final essay (45%).

08 年度以降	歴史と文化２（Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 2	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
講義はすべて英語で行います。TOEIC 700、TOEFL(IBT) 71、英検準一級程度以上の英語力を必要とします。 This course is designed to acquaint students with various aspects of Japanese culture through the study of traditional legends, tales and myths. Each topic will be introduced through imagery and will include a lecture, readings and related discussions. For the study of one select topic, the class will make an excursion to a corresponding exhibition or performance. Course Objectives: • To learn and discuss a broad variety of traditional Japanese legends, tales and myths • To learn and discuss the socio-cultural context from which these legends/tales/myths emerged • To learn and discuss the expression of these legends/tales /myths in the context of performance, ritual, and art • To learn and discuss how this selection of legends/tales/ myths reflect the history, traditions, mores, world-view and character of the Japanese people	Tales of Possessed Women and Vengeful Female Ghosts: *Ikiryō* 生霊 and *Yūrei* 幽霊 Female Ghost Tales and Associated Beliefs • *Yorimitsu no rōtō Taira no Suetake, ubume ni aishi hanashi* 頼光の郎等平季武、産女にあひし話 (Tale of Taira no Suetake, vassal of Yorimitsu, meeting ubume), *Sayo-no-Nakayama yonaki ishi* 小夜の中山夜泣石 (The Night-Weeping Stone at Sayo Mountain Pass), *Chi-no-ike jigoku* 血の池地獄 (Blood Pool Hell) • *Yotsuya Kaidan* 四谷怪談 (The Yotsuya Ghost Story) • *Sarayashiki* 皿屋敷 (Dish Mansion) Women Possessed: Legends from Noh • *Dōjōji* 道成寺 (Dōjōji Temple) • *Kanawa* 鉄輪 (The Iron Crown) • *Aoi-no-Ue* 葵上 (Lady Aoi)

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト、参考文献	Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.
評価方法	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (20%), the completion of homework assignments (35%), and achievement on a final essay (45%).

08 年度以降	歴史と文化２（Haiku in English）	担当者	Ｊ．ハレスキ

講義目的、講義概要	授業計画
Haiku in English examines the contemporary international practice of haiku through the tradition and development of haiku in Japan. We will start with the literary traditions that influenced the emergence of haiku and move into a close study of Matsuo Basho's work. We will then examine how haiku has been translated and practiced by English language poets in North America, Great Britain and elsewhere. The course will include essay writing and a chance for students to participate in a haiku-kai/ haiku workshop.	1. Introduction 2. Poetry Journals 3. Waka & Renga 4. Matsuo Basho 5. Matsuo Basho 6. Matsuo Basho 7. Haiku Lineages 8. Masaoka Shiki 9. Haiku-kai 10. Translation and Culture: Fennollosa & Pound 11. Translation and Culture: Essential Haiku 12. Imagism: Amy Lowell, Wallace Stevens 13. The Canadian Long Poem: Roy Kiyooka 14. Haiku in Global Context: Jane Hirshfield 15. Haiku in a Global Context

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will prepare for class by doing the assigned readings. Essay assignments should reflect lectures, class discussions and assigned readings.
テキスト、参考文献	Sato, Hiroaki. *Basho's Narrow Road Spring and Autumn Passages.* Berkeley, CA, Stone Bridge Press: 1993. Other readings will be distributed in class or shared electronically.
評価方法	Participation (30%), Short Papers and Assignments (40%), Final Paper (30%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化２（Noh Play in English）	担当者	Ｊ．ハレスキ

講義目的、講義概要	授業計画
Noh Play in English introduces students to the world of noh. We will study the history and development of noh from the fourteenth century to the present day including how the form lives in contemporary practice in Japan and internationally. Our particular focus will be on how contemporary theatre artists draw from noh to make new work that either stages literary classics or tells a new story through some of the aesthetic and formal concepts of noh. As part of this course, students will envision a new noh play and create a short script.	1. Introduction 2. History of Noh 3. History of Noh 4. Art of Noh: Performance Philosophy 5. Art of Noh: Aesthetic Concepts 6. Noh in the Meiji Restoration 7. Spoken Drama and Noh 8. New Employment of Noh 9. Cultural Translation-Create a Noh Play 10. Kyogen in a Global Context 11. Noh in a Global Context 12. Canadian Noh *The Gull* 13. Canadian Noh *The Gull* 14. English Noh 15. Group Presentations

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will prepare for class by doing the assigned readings. Essay assignments should reflect lectures, class discussions and assigned readings.
テキスト、参考文献	Marlatt, Daphne. *The Gull.* Talonbooks: Vancouver, Canada, 2009. Albery, Nobuko. *House of Kanze.* Simon & Schuster: New York, 1986.
評価方法	Participation and in-class assignments (30%), Essays (40%), Play Script and Analysis (30%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化 2(日本文化研究 a)	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：民俗芸能を通して、日本の民衆生活の基盤に潜む概念や価値観・世界観を認識し、理解する。 講義概要：日本の民俗芸能は世界にもまれに見る多様さと濃厚さで民衆生活と結びつき、いまだに多数残存している。いわゆる先進国としては唯一と言って良い。 そこにはっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義する。 具体的には「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点を「境界領域の存在」という地平から照射し、東西日本の様々な民俗芸能・行事を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料も用いて、概念や価値観・世界観の実際がどう機能しているかに留意する。	1. オリエンテーション・導入 2. 日本文化と「見えないもの」、境界領域の存在 3. 神の来訪と芸能①…春日若宮の「おん祭」 4. 神の来訪と芸能②…八重山の祭と芸能 5. 異人の出現と芸能①…「異人」と日本全国の祭・芸能 6. 異人の出現と芸能②…岩手県の鹿踊・剣舞 7. 稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植 8. 稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊り 9. 稲作の習俗と芸能③…能登の「アエノコト」 10. 年齢階梯と芸能①…年齢階梯制とは何か？ 11. 年齢階梯と芸能②…福島県の成人儀礼「幡祭」 12. 年齢階梯と芸能③…福島県の宮座 13. 境界領域の時空①…異人の出現する領域と年齢階梯 14. 境界領域の時空②…日常とは別の時間・空間・社会 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：特に必要はない。授業の内容（特に映像）に集中すること。 事後学修：授業の内容に沿った課題の提出を求める。
テキスト、参考文献	テキスト：特に使わない。　参考文献：『境界領域論（仮題)』(飯島一彦著、新典社)
評価方法	学期末に、記述式の試験を実施する。その成績 50%。課題の提出 50%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化２(日本文化研究 d)	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 : 日本文化全般に潜む「境界領域」の問題を、様々な視点から考える。 講義概要 : 概説では、耳慣れない概念であろう「境界領域」の存在を明らかにしていく。 第４回以降は「祭り」「物語」「歌謡」等の表現分野において「境界領域観」が、どのように発揮されているか、諸相を見ていく。本来それを持たない外来の文化にまで「境界領域観」を付与して日本文化化して行くかという過程まで踏み込んで考える。 文化とは目に見える物の世界だけではなく、目に見えない価値観・世界観・振る舞いまで含むのである。人と人との関わりの中で、どこにどのように目に見えない「境界線」を引いて、どのように物事を考えているのか、ということまでも明らかにしていく。	1. オリエンテーション・導入 2. 概説①（境界領域とは何か？） 3. 概説②（国境・境界・境界領域） 4. 祭りと境界領域① 5. 祭りと境界領域② 6. 祭りと境界領域③ 7. 「異界」「異人」と境界領域 8. 物語と境界領域① 9. 物語と境界領域② 10. 物語と境界領域③ 11. 「世界」「世間」の構造と境界領域 12. 歌謡と境界領域① 13. 歌謡と境界領域② 14. 歌謡と境界領域③ 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：参考文献の該当部分を読んでくること。事後学修：身近に潜む「境界領域」を考えること。
テキスト、参考文献	テキスト :『境界領域論（仮題)』飯島一彦著、新典社　参考文献：テキストに記載
評価方法	授業期間中数回課す予定の課題（50%）とレポートまたは試験の成果（50%）による。

08 年度以降	歴史と文化２(世界戦争の時代のドイツの政治と文化(1890-1945))	担当者	伊豆田　俊輔

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、19世紀末から1945年までの「ドイツ」（帝政⇒共和政⇒ナチ独裁）の歴史と、広義の文化をテーマとしています。 春学期では、 1) 世界戦争の時代（二つの世界大戦)、 2) 「帝国からなる世界」から 「国民国家による世界」への再編成、 3) 世紀転換期からの政治文化・芸術の変容、 この三つを軸にしながら、ドイツの政治史と文化史について学んでいきます。 参加人数に応じて、一人一回（グループごとか単独かは参加人数と出席者の関心によって対応する）の報告、あるいは課題提出を義務付けます。	1. シラバスに基づいた授業ガイダンス 2. ドイツ帝国と第一次世界大戦(1) 3. ドイツ帝国と第一次世界大戦(2) 4. ヴァイマル共和国(1) 5. ヴァイマル共和国(2) 6. ナチ・ドイツの成立と編成 7. ナチ・ドイツと第二次世界大戦(1) 8. ナチ・ドイツと第二次世界大戦(2) 9. ホロコースト 10. 第二次世界大戦の残したもの 11. 発表・課題添削(1) 12. 発表・課題添削(2) 13. 発表・課題添削(3) 14. 発表・課題添削(4) 15. 授業内試験

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業時に出される課題に取り組んで下さい。授業中に指示した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育んでください。
テキスト、参考文献	教科書は指定しない。 参考文献は毎回レジュメに記載する。
評価方法	授業への参加度 15%、課題（発表か小レポート）45%、授業内試験 40%をもとに総合的に判断する。

08 年度以降	歴史と文化２(冷戦と地域統合の中のドイツの政治と文化(1945-2000))	担当者	伊豆田　俊輔

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、1945年から2000年代までの「ドイツ」（四か国による占領⇒二つのドイツ⇒統一ドイツ）の歴史と、広義の文化をテーマとしています。 秋学期では 1) 冷戦と文化冷戦、 2) ヨーロッパ統合（地域統合)、 3) 過去の克服、 この三つを軸にしながら、ドイツの政治史と文化史について学んでゆきます。 参加人数に応じて、一人一回の報告（グループごとか単独かは参加人数と出席者の関心によって対応する)、あるいは課題提出を義務付けます。	1. シラバスに基づいた授業ガイダンス 2. 占領から二重の建国へ 3. 文化冷戦の時代 4. 戦後西ドイツの発展と欧州統合のはじまり 5 西ドイツの「長い60年代」 6. 東ドイツの歴史 7. ブラントの東方外交 8. 「過去の克服」―時効論争を中心に 9. 欧州統合の進展 10. ドイツとヨーロッパ統合 11. 発表・課題添削(1) 12. 発表・課題添削(2) 13. 発表・課題添削(3) 14. 発表・課題添削(4) 15. 授業内試験

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業時に出される課題に取り組んで下さい。授業中に指示した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育んでください。
テキスト、参考文献	教科書は指定しない。 参考文献は毎回レジュメに記載する。
評価方法	授業への参加度 15%、課題（発表か小レポート）45%、授業内試験 40%をもとに総合的に判断する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化２（日本文化研究 b）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
和本リテラシー―写本から版本へ― わが国における文学研究は「訓む」「写す」「使う」「解く」のおよそ４つのキーワードによってその歴史を紡いできました。「和本リテラシー」とは、「和本」に特化した理解力を示しています。 本講義では、現存最古の歌集である『万葉集』をテーマに取り上げ、この作品を各時代の人々がどのように訓み、写し、使い、解いてきたかを文化史的に理解することを講義の目的とします。	1　ガイダンス―『万葉集』あれこれ― 2　訓む―梨壺の五人の奮闘― 3　訓む―道長も訓んだ『万葉集』― 4　写す―『万葉集』の写本あれこれ― 5　使う―藤原敦隆の試み― 6　使う―歌聖の創始・「人麿影供」― 7　使う―印刷の歴史― 8　解く―北村季吟『万葉拾穂抄』― 9　解く―契沖『万葉代匠記』― 10　解く―荷田春満『万葉問答』― 11　解く―賀茂真淵『万葉考』― 12　解く―本居宣長『万葉集玉の小琴』― 13　解く―加藤千蔭『万葉集略解』― 14　解く―鹿持雅澄『万葉集古義』― 15　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として、提示される課題に取り組んでください。
テキスト、参考文献	城崎陽子『万葉集を訓んだ人々―「万葉文化学」のこころみ―』2010 年、新典社。
評価方法	小テスト（７０％）、課題提出も含めた授業への参加度（３０％）で評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化２(日韓比較文化論 a)	担当者	金　熙淑(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取組むことを期待したい。 ●参加型授業による人数制限をする。(50 名まで) ◎注意：テーマごとにグループ分けし話し合う場を設け発表する形式を取る。極力１回目の授業から出席すること。	1. 日韓比較文化概説　ガイダンス 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の村落 5. 韓日の産育習俗 6. 韓日の歳時風俗 7. 韓日の冠婚葬祭 8. 韓日の宗教（民俗信仰） 9. 韓日の家族 10. 韓日の食文化 11. 韓日の食事の作法 12. 韓日の住生活 13. 韓日の服飾 14. 韓国人と日本人のコミュニケーションの取り方 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	文化比較を行う意味は何か
テキスト、参考文献	適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。
評価方法	グループディスカッション、毎回提出するコメントペーパ、課題レポート（講義内容から一つのテーマを選ぶ）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化２(楽典(中級))	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
「歴史と文化２(楽典(音楽通論)―楽譜を読み・書くために)」履修済みの方、および同等の学習を済ませている方(初回授業時にレヴェルチェックを受けてください）を対象に、楽しみながら楽譜を読んだり書いたりしていきたいと思います。 初級では扱えなかった和音連結や楽式（音楽の形式）についても説明しますが、ピアノで弾く簡単な旋律を書き取ったり、短い曲を歌ったり、自分で短い曲や伴奏を書いたりといった実践的な授業にしたいと考えています。各回の授業は、前回までの授業内容を前提に進めますので、毎回必ず出席してください。やむをえず欠席する場合は、欠席回の内容を次の回までに自習しておいてください。 以上のような内容に本当に興味のある方の積極的な受講を期待いたします。 ＊人数に対して教室が大きいので、教室の前半分（できるだけピアノ寄り）に座ってください。	1. ガイダンス、レヴェルチェック 2. 和音（1） 3. 和音（2） 4. 和音（3） 5. 和音（4） 6. 和音（5） 7. 伴奏（1） 8. 伴奏（2） 9. 楽式（1） 10. 楽式（2） 11. 楽式（3） 12. 楽式（4） 13. 楽式（5） 14. 総括 15. まとめ ＊理解度や希望等に応じて、変更することがあります。 ＊一部「ことばと思想１(音楽を言葉で語る―音楽分析入門)」の内容と重なるところがあります。

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の予習・復習および課題。
テキスト、参考文献	教芸音楽研究グループ『改訂 音楽通論』教育芸術社、2009 年および五線ノートを持参すること。 参考文献：柳田孝義『名曲で学ぶ和声法』ほか
評価方法	授業への参加度（50%）、課題（50%）

08 年度以降	歴史と文化２(楽典(音楽通論)―楽譜を読み・書くために)	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
多くの実習を行い、楽譜の読み方・書き方の基本を学んでいきます。音楽を学びたい人のみならず、音楽を聴くのが好きな人やバンド活動をやっている人、耳の感覚に注意を向けてみたい人などにも参加してもらいたいと考えています。 具体的には、『改訂 音楽通論』（教育芸術社）を教材として、音の長さ、音の高さ、記号、音程、音階などについて学びます。短い楽譜を見て歌ってもらったり、リズム打ちをしてもらったりすることもあります。 教室では、前半分（ピアノの近く）の席に座ってください。宿題（それほど長い時間はかからないと思います）も出しますので、本気で楽譜に親しみたいと考えている方、積極的に参加できる方の受講を期待しています。 ＊春学期・秋学期ほぼ同一内容で行います（重複履修不可)。楽典を勉強したことのある方は、「歴史と文化２(楽典(中級))」のシラバスもご覧ください。	1. ガイダンス、レベルチェック 2. 音の長さ（１） 3. 音の長さ（２） 4. 音の高さ（１） 5. 音の高さ（２） 6. 記号 7. 音程（１） 8. 音程（２） 9. 音程（３） 10. 音階（１） 11. 音階（２） 12. 和音入門 13. 復習 14. 授業内試験 15. まとめ ＊理解度等に応じて、変更することがあります。

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の復習。ほぼ毎回、宿題を出します。
テキスト、参考文献	教芸音楽研究グループ『改訂 音楽通論』教育芸術社、2009 年（本体 934 円）を購入すること。 また、五線ノートを準備してください。
評価方法	授業への参加度 50%、試験 50%

08 年度以降	歴史と文化２(楽典(音楽通論)―楽譜を読み・書くために)	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
多くの実習を行い、楽譜の読み方・書き方の基本を学んでいきます。音楽を学びたい人のみならず、音楽を聴くのが好きな人やバンド活動をやっている人、耳の感覚に注意を向けてみたい人などにも参加してもらいたいと考えています。 具体的には、『改訂 音楽通論』（教育芸術社）を教材として、音の長さ、音の高さ、記号、音程、音階などについて学びます。短い楽譜を見て歌ってもらったり、リズム打ちをしてもらったりすることもあります。 教室では、前半分（ピアノの近く）の席に座ってください。宿題（それほど長い時間はかからないと思います）も出しますので、本気で楽譜に親しみたいと考えている方、積極的に参加できる方の受講を期待しています。 ＊春学期・秋学期ほぼ同一内容で行います（重複履修不可)。楽典を勉強したことのある方は、「歴史と文化２(楽典(中級))」のシラバスもご覧ください。	1. ガイダンス、レベルチェック 2. 音の長さ（１） 3. 音の長さ（２） 4. 音の高さ（１） 5. 音の高さ（２） 6. 記号 7. 音程（１） 8. 音程（２） 9. 音程（３） 10. 音階（１） 11. 音階（２） 12. 和音入門 13. 復習 14. 授業内試験 15. まとめ ＊理解度等に応じて、変更することがあります。

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の復習。ほぼ毎回、宿題を出します。
テキスト、参考文献	教芸音楽研究グループ『改訂 音楽通論』教育芸術社、2009 年（本体 934 円）を購入すること。 また、五線ノートを準備してください。
評価方法	授業への参加度 50%、試験 50%

08 年度以降	歴史と文化２(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田　量介

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，スペインとその旧植民地ラテンアメリカのパフォーミングアーツ(音楽・ダンス・演劇)および映像ほか視聴覚メディアを扱います。欧米や日本の事情と比較することで，背景となる社会や時代の諸相を考察します。 この地域の音楽はダンスと一対に様式化されてきたことから，まず身体技法について触れます。クレオールを筆頭に文化混淆がキーワードとなるため，まず個別の構成要素を検討します。グローバルなポピュラー音楽市場に影響を与えたキューバの事例中心です。次にジャマイカのレコード産業やサンバ・ボサノヴァで知られるブラジルに目を向け，ドキュメンタリーを観ながら，クラブカルチャーの源流を探ります。随時，ローカルな民俗芸能が国民文化として戦略的に広報される経緯を追います。芸術はサブカルチャーから流行に至る場合が多い。映画の動向やガウディの商標化も取りあげます。ルーツとは何か。学問的に論じましょう。	1. VTR を交えたイントロダクション 2. カリブ海地域キューバの音楽やダンスにみる文化混淆 3. スペイン系弦楽器にみる口頭伝承的な弾き語り 4. アフリカ系太鼓にみるポリリズムとコール&レスポンス 5. フォルクローレ(民俗)をめぐる身体技法とグローカル化 6. メインストリームと対象化(オブジェクティフィケーション) 7. 映画の媒介、ICAIC からエリセやアルモドーバルまで 8. 世界を席巻するポピュラー音楽と世界で渦巻く対抗文化 9. マス対象の文化産業とサルサほか移民の市場細分化 10. カット&ミックス，ジャマイカのスカ・レゲエ・ダブ... 11. クラブカルチャーのラップから里帰り的なレゲトンへ 12. 音楽大国ブラジルにおけるトロピカリアや農民の祝宴 13. 日本の「大衆演劇」，創られた「ラテン歌謡」や J ポップ 14. 国際的なマーケットでブランド化された建築家ガウディ 15. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義が軸となるため，特に事前学修は必要ないが，関心を抱いたジャンルや実践者については，事後に自分で PV ほかのコンテンツを検索するなどして，最終レポートの下準備につなげること。
テキスト、参考文献	適宜プリント配布し，参考書を紹介するが，地域文化的な各論に関しては以下をあげる。石橋純編『中南米の音楽』(東京堂出版，2010，978-4490206678)
評価方法	平常授業の感想紙におけるコメント等の実績および聴講姿勢(35%)と期末レポート(65%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	歴史と文化２(韓国の宗教)	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
韓国と日本は隣国で似ている点も多いが異なる点も多くある。宗教もその一つで、宗教分布や宗教と人々との関係など、日本と大きく異なっている。本講義では、こうした韓国の宗教状況とそれに関する問題点を理解することにより、韓国社会に対する理解を深めることを目標とする。 講義では、最初に総論として韓国宗教の構造を提示した後、各論として民間信仰、仏教、儒教、キリスト教に分けて講義を行う。講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をする。また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定である。なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。	第1回：ガイダンス 第2回：韓国宗教の構造 第3回：民間信仰 第4回：葬儀と墓地 第5回：仏教（1）仏教略史 第6回：仏教（2）韓国史の中での仏教 第7回：仏教（3）現代韓国の中の仏教 第8回：儒教（1）儒教略史 第9回：儒教（2）韓国史の中の儒教 第10回：儒教（3）現代韓国の中の儒教 第11回：キリスト教（1）キリスト教略史 第12回：キリスト教（2）韓国史の中でのキリスト教 第13回：キリスト教（3）現代韓国のキリスト教 第14回：現代韓国と宗教 第15回：まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：プリントを読んでくること。事後学修：小テストに備え、プリントを見直すこと。
テキスト、参考文献	＜テキスト＞プリントを使用。参考文献は授業中に指示。
評価方法	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）。 ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。

08 年度以降	歴史と文化２（能楽論）	担当者	瀬尾　菊次

講義目的、講義概要	授業計画
舞台芸術として鎌倉・室町時代から各時代に受け継がれ、現代では世界遺産に登録され世界各地でも上演されている、古典芸能「能楽」の全体像を、現役の能楽師の視点から、学術的にのみ捉えるのではなく、ビデオ鑑賞やミニ舞台を設営して、実技・実演を交えながら解りやすく解説していきます 能楽の理解度を深めていただくため、能楽堂での鑑賞レポートを課題の一つとします。（チケット代各自負担。２０００～３０００円）	①　能の紹介 ②　能楽の概説 ③　能を演じる各役 ④　能舞台について ⑤　能の演技（能の見方の実演） ⑥　能の演目Ⅰ ⑦　能の演目Ⅱ（実演・神男女狂鬼） ⑧　能楽の流れ ⑨　能の分類 ⑩　現在能についてⅠ ⑪　現在能についてⅡ ⑫　夢幻能についてⅠ ⑬　夢幻能についてⅡ ⑭　能装束着付実演 ⑮　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	日本の歴史平安時代から明治維新までの概要を予習しておく
テキスト、参考文献	関連資料のコピーを配布
評価方法	課題レポート５０％　能楽鑑賞レポート３０％　平常講義関連事項レポート２０％

08 年度以降	歴史と文化２（能楽における中世武士の諸像）	担当者	瀬尾　菊次

講義目的、講義概要	授業計画
源平合戦の花形「源義経」は数奇な人生を送り、日本人には悲劇のヒーローとして、「平家物語」「義経記」など物語に登場し人々に親しまれてきました。そのエピソードを能ではどのように描いているか、能「舟弁慶」の曲を題材として、「義経」像を解き明かしていくとともに、室町時代に生まれ現代では世界遺産に登録されている、古典芸能「能楽」についても、ミニ舞台による実演・ビデオ鑑賞などを取り入れ、現役の能楽師の視点から解説していきます。春期からの通年受講も可能です。 能楽の理解度を深めていただくため、能楽堂での鑑賞レポートを課題とします。（チケット代各自負担・２０００～３０００円）	①　古典芸能について　（能・歌舞伎・文楽） ②　能「舟弁慶」の背景 ③　能「舟弁慶」の解読　Ⅰ ④　能「舟弁慶」の解読　Ⅱ ⑤　能「舟弁慶」の解読　Ⅲ ⑥　能「舟弁慶」の構成（能の演技・舞台） ⑦　能「舟弁慶」の構成（ミニ舞台による実演） ⑧　能「舟弁慶」の衣装について ⑨　能の分類法 ⑩　現在能について　Ⅰ ⑪　現在能について　Ⅱ ⑫　夢幻能について　Ⅰ ⑬　夢幻能について　Ⅱ ⑭　五番立（神男女狂鬼） ⑮　五番立の実演

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	「保元・平治の乱」「源氏と平家の争い」「平家物語」「義経記」の概要を予習しておく。
テキスト、参考文献	関連資料のコピー配布・　参考資料　櫻間金記『能と義経』（光芒社）
評価方法	課題レポート５０％・能楽鑑賞レポート３０パーセント・平常講義関連事項レポート２０％

08 年度以降	歴史と文化２(イタリアの音楽史)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの音楽史を概観する。なお、オペラについては後期にまとめて扱うので、原則として除外する。	１．ガイダンスと導入 ２．古代ギリシアの音楽と西洋音楽 ３．グレゴリオ聖歌 ４．グレゴリオ聖歌成立後の西洋音楽の発展 ５．「イタリア音楽」の誕生 ６．メディチ家の芸術後援活動 ７．宗教改革と音楽 ８．バロック音楽の誕生 ９．ヴァイオリンの誕生と器楽の発展 10．ヴィヴァルディとヴェネツィア 11．パガニーニと超絶技巧 12．ヴェルディとイタリア国家統一運動 13．レスピーギと古楽復興運動 14．イタリア映画と音楽 15．まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内容をまとめたノートを各自工夫して作成すること。
テキスト、参考文献	プリントを配布する。 参考文献：藤沢道郎『物語 イタリアの歴史』(中公新書 1045)
評価方法	授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）の結果によって評価する（100%)。小テストの時期は授業中に指示する。

08 年度以降	歴史と文化２(イタリアの声楽曲)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの声楽曲の歴史をオペラに焦点を絞って概観する。	１．オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜 ２．オペラ誕生の経緯 ３．フィレンツェにおける初期の試み ４．バロック・オペラの台本 ５．バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力 ６．オペラ・セリアとオペラ・ブッファ ７．バロック・オペラと劇場 ８．ロッシーニの世界 ９．ベッリーニ 10．ドニゼッティ 11．ヴェルディ 12．イタリア・オペラの国際化（１） 13．イタリア・オペラの国際化（２） 14．プッチーニ 15．まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内容をまとめたノートを各自工夫して作成すること。
テキスト、参考文献	プリントを配布する。
評価方法	授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）の結果によって評価する（100%)。小テストの時期は授業中に指示する。

08 年度以降	歴史と文化２(詩と音楽 2)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
ギリシア神話におけるオルペウスの物語は、何人もの作曲家によってさまざまな時代にオペラ化されており、音楽の世界において最も馴染み深い題材の１つである。本講義では、ギリシア神話および西洋古典文学におけるオルペウス像を概観したのち、この神話がどのように音楽史とかかわりを持ち、オペラ化されるようになったのか、またこれらの作品の中でオルペウスの物語がどのように描かれているのかを、実際に作品を鑑賞しながら観察する。なお、オペラ以外の作品（映画）も適宜取り上げて比較・考察する。 **なお、本講義は「詩と音楽2」であるので、昨年度までに「詩と音楽1」「詩と音楽3」「詩と音楽4」「詩と音楽5」「詩と音楽6」の単位を取得した学生も履修できる。**	1　ガイダンスと導入 2　オルペウスとアルゴー号伝説 3　西洋古典文学とオルペウス 4　初期のオペラとオルペウス 5　モンテヴェルディ『オルフェオ』（オペラ）１ 6　モンテヴェルディ『オルフェオ』（オペラ）２ 7　グルック『オルフェオとエウリディーチェ』（オペラ） 8　森鷗外とオルペウス 9　オッフェンバック『地獄のオルフェ』（オペレッタ・仏語版） 10　オッフェンバック『地獄のオルフェ』（同・日本語版） 11　コクトー『オルフェ』（映画）１ 12　コクトー『オルフェ』（映画）２ 13　マルセル・カミュ『黒いオルフェ』（映画）１ 14　マルセル・カミュ『黒いオルフェ』（映画）２ 15　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で鑑賞する映像ソフトには、本学図書館でも利用可能なものがあるので、それらも積極的に活用することが望ましい。
テキスト、参考文献	プリントを配布する
評価方法	期末レポート（50 点満点）の他、授業終了時に提出してもらう「まとめ」（各 5 点）を集計して評価する。

08 年度以降	歴史と文化２(詩と音楽 7)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
ジョアキーノ・ロッシーニ（1792～1868）は19世紀にイタリアとフランスで活躍したオペラ作曲家である。本講義では彼のオペラの中でも一風変わった作品であり、また劇としても非常によく出来ている《泥棒かささぎ》（ミラノ、1817）を取り上げる。 この作品はフランス革命（1789）前後にフランスで好まれた、いわゆる「救出劇」をオペラ化したもので、その題材には当時の世相が色濃く反映されている。 授業では、まずロッシーニの《泥棒かささぎ》をじっくりと鑑賞する。また、同じくフランス革命から強い影響を受けているベートーヴェンの初期作品、特に第三交響曲とオペラ《フィデリオ》も鑑賞し、音楽史におけるフランス革命について考察する。 **なお、本講義は「詩と音楽7」であるので、授業開始までに「詩と音楽1」「詩と音楽2」「詩と音楽3」「詩と音楽4」「詩と音楽5」「詩と音楽6」の単位を取得した学生も履修できる。**	1　ガイダンスと導入 2　ロッシーニ《泥棒かささぎ》第1幕前半（１） 3　ロッシーニ《泥棒かささぎ》第1幕前半（２） 4　ロッシーニ《泥棒かささぎ》第1幕後半（１） 5　ロッシーニ《泥棒かささぎ》第1幕後半（２） 6　ロッシーニ《泥棒かささぎ》第2幕前半（１） 7　ロッシーニ《泥棒かささぎ》第2幕前半（２） 8　ロッシーニ《泥棒かささぎ》第2幕後半（１） 9　ロッシーニ《泥棒かささぎ》第2幕後半（２） 10　ベートーヴェンとフランス革命（概説） 11　ベートーヴェンの第三交響曲 12　ベートーヴェン《フィデリオ》（１） 13　ベートーヴェン《フィデリオ》（２） 14　ベートーヴェン《フィデリオ》（３） 15　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で鑑賞する映像・録音ソフトには、本学図書館でも利用可能なものがあるので、それらも積極的に活用することが望ましい。
テキスト、参考文献	プリントを配布する。
評価方法	期末レポート（50 点満点）の他、授業終了時に提出してもらう「まとめ」（各 5 点）を集計して評価する。

08 年度以降	歴史と文化２（近代世界システム論）	担当者	野澤　丈二

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 イマニュエル・ウォーラーステインが提唱した「近代世界システム」論を足がかりとして、今日にいたる世界の一体化の歴史を、主に経済史的な観点から検討する。 【講義概要】 人、モノ、金の動きは国民国家の枠を越えてますます世界を巡っている。そして世界のほとんどの地域は、資本主義を原理とした経済で動いている。この授業では、現代のグローバルな世界経済システムについて、その歴史的な形成過程をさまざまな角度から検討する。そのうえで、現代の社会が直面する地球規模の課題（環境、格差、移民など）についても考えていく。	1.　講義の概要 2.　「近代世界システム」論とは？ 3.　なぜヨーロッパだったのか？ 4.　ポルトガルのアジア圏への進出 5.　スペインの興隆と衰退 6.　なぜ中国ではなかったのか？ 7.　最初のヘゲモニー国家、オランダ 8.　イギリスとフランスの抗争 9.　西ヨーロッパにおける日常生活の変化 10.　近代世界システムと奴隷制 11.　近代世界システムとアジア 12.　近代世界システムと日本 13.　「成長パラノイア」 14.　まとめ 15.　期末試験 ＊授業内容や順番は、一部変更になる可能性もあります。

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	高校世界史 B の教科書を再読しておくことが望ましい。
テキスト、参考文献	参考文献：イマニュエル・ウォーラーステイン『近代世界システム』１−３（名古屋大学出版会 2013）
評価方法	平常点（授業内課題、リアクション・ペーパー）と期末試験の結果で総合的に判断し、評価する。

08 年度以降	歴史と文化２（食の歴史と文化）	担当者	野澤　丈二

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 食品偽装や食品ロス、和食の無形文化遺産、訪日外国人数増加への対応など、食に対する関心は近年ますます高まっています。この講義では、食をテーマとした具体的な研究事例などをわかりやすく紹介しながら、人間にとって欠かすことのできない営みである「食べる」ことについて、さまざまな角度から考えてみます。 【講義概要】 フランスのアナール学派が開拓した「食」の歴史学をひとつの手がかりとして、人文社会系のさまざまな分野（社会学、文化人類学、民俗学、経済学、地理学、言語学、哲学など）で領域横断的に広く扱われている食について考えます。「食べる」ことを切り口に、現代の社会が直面する問題（資本主義、環境、アイデンティティ、グローバル化、持続可能な社会など）について検討します。時事的なトピックスも随時取り上げる予定です。	1.　講義の概要 2.　食文化史研究の歴史 3.　コロンブスの交換 4.　フランスの食文化 ① 5.　フランスの食文化 ② 6.　フランスの食文化③ 7.　日本の食文化 ① 8.　日本の食文化 ② 9.　日本の食文化 ③ 10.　食とソフトパワー 11.　食とグローバル化 12.　食と宗教 13.　食とメディア 14.　食と移動 15.　講義のまとめ ※ 各回のテーマと順番は変更になる可能性があります。

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞をはじめとするメディアで、食についてどのようなテーマが話題になっているかに目を配る。 個人的に関心のあるテーマについて、関連図書を一冊選び、通読する。
テキスト、参考文献	テキストは特にありません。必要に応じて、参考文献を授業のなかで紹介します。
評価方法	平常点（積極的な参加、授業内課題、リアクション・ペーパー）と期末レポートで総合的に評価する。

08 年度以降	現代社会 2(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	秋野　有紀

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では，受講者のみなさんがそれぞれにドイツ語圏について興味を持っていることに焦点を当てて，少しでもそれについて深く知り，考えることが出来るように取り組んでいきます。その過程で，調査・分析・発表の力を磨いていくことを目的とします。 春学期は主に文化的なテーマを扱います。 グループで議論したり，全体のフィードバックを受けたりしながら，最終的に聞いた人が「面白いなぁ！」と感じてくれるようなグループ・プレゼンを仕上げることがゴールになります。 ＊受講生の人数によって，扱えるテーマの数は変わってきます。	**＜あなたの知らないドイツ語圏　文化・風習・もの編＞** 1. 授業の概要と評価について 2. ブレイン・ストーミング「あなたの知りたいドイツ語圏！」 3. ドイツ語圏のイメージ・偏見を収集＋披露！「こんな話があるらしい」 4. イメージ・偏見①を検証するメソッドを考える 5. 実際はどうだった？調査結果発表「あなたの知らないドイツ語圏①」 6. 誤解はどこから？／イメージ・偏見②を検証するメソッドを考える 7. 実際はどうだった？調査結果発表「あなたの知らないドイツ語圏②」 8. 誤解はどこから？／イメージ・偏見③を検証するメソッドを考える 9. 実際はどうだった？調査結果発表「あなたの知らないドイツ語圏③」 10. 誤解はどこから？イメージ・偏見④を検証するメソッドを考える 11. 実際はどうだった？結果発表「あなたの知らないドイツ語圏④」 12. 発信しよう！「みんなに教えたいドイツ語圏①」準備 13. 発信しよう！「みんなに教えたいドイツ語圏②」準備 14. 「みんなに教えたいドイツ語圏」プレゼン発表会 15. 反省会「分かったこと・分からないこと・伝わったこと」

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	グループワークの準備を丁寧に行ってきて下さい。
テキスト、参考文献	参考文献は、授業内で適宜指示します。
評価方法	平常授業におけるプレゼン（80%）と授業貢献度（20%）が評価対象となります。

08 年度以降	現代社会 2(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』	担当者	秋野　有紀

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では，受講者のみなさんがそれぞれにドイツ語圏について興味を持っていることに焦点を当てて，少しでもそれについて深く知り，考えることが出来るように取り組んでいきます。その過程で，調査・分析・発表の力を磨いていくことを目的とします。 秋学期は主に社会的なテーマを扱います。 グループで議論したり，全体のフィードバックを受けたりしながら，最終的に聞いた人が「面白いなぁ！」と感じてくれるようなグループ・プレゼンを仕上げることがゴールになります。 ＊受講生の人数によって，扱えるテーマの数は変わってきます。	**＜あなたの知らないドイツ語圏　社会・歴史・人物編＞** 1. 授業の概要と評価について 2. ブレイン・ストーミング「あなたの知りたいドイツ語圏！」 3. ドイツ語圏のイメージ・偏見を収集＋披露！「こんな話があるらしい」 4. イメージ・偏見①を検証するメソッドを考える 5. 実際はどうだった？調査結果発表「あなたの知らないドイツ語圏①」 6. 誤解はどこから？／イメージ・偏見②を検証するメソッドを考える 7. 実際はどうだった？調査結果発表「あなたの知らないドイツ語圏②」 8. 誤解はどこから？／イメージ・偏見③を検証するメソッドを考える 9. 実際はどうだった？調査結果発表「あなたの知らないドイツ語圏③」 10. 誤解はどこから？イメージ・偏見④を検証するメソッドを考える 11. 実際はどうだった？結果発表「あなたの知らないドイツ語圏④」 12. 発信しよう！「みんなに教えたいドイツ語圏」準備① 13. 発信しよう！「みんなに教えたいドイツ語圏」準備② 14. 「みんなに教えたいドイツ語圏」プレゼン発表会 15. 反省会「分かったこと・分からないこと・伝わったこと」

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	グループワークの準備を丁寧に行ってきて下さい。
テキスト、参考文献	参考文献は、初回授業時および授業内でも適宜指示します。
評価方法	平常授業におけるプレゼン（80%）と授業貢献度（20%）が評価対象となります。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会２(韓国研究情報収集法)	担当者	金　熙淑(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、実際にどのように韓国研究を行っていくのか、その方法論を理解することを目的とした、演習形式の講義である。韓国研究を行う際の研究課題設定の方法から、資料収集法、現地調査の方法、研究成果のまとめ方、そして研究成果の発表までを、総合的に学んでいく。３－４名のグループをつくり、グループ毎に研究テーマを決めて研究を行い、最終的には研究成果を発表してもらう。履修者にはグループ研究への積極的な取組と発表においても質疑応答の積極的な参加を期待したい。 研究テーマ→政治、経済、宗教、教育、文学、言語、歴史問題、大衆文化（マンガ、マナー、恋愛事情、就職、お風呂、マスメデイア、トイレ文化等）自由に選択	1. ガイダンス 2. 研究課題の設定方法 3. 体系的な情報収集方法 4. 情報収集の手順 5. 情報を精選する方法 6. 資料収集方法 7. 現地調査の方法 8. 研究成果のまとめ方 9. プレゼンテーションの方法 10. 研究発表① 11. 研究発表② 12. 研究発表③ 13. 研究発表④ 14. 研究発表⑤ 15. まとめ 注意：「現地調査」は、授業時間以外にフィールドワークを必須とする。

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	研究テーマを決め発表するまでのプロセスを考える
テキスト、参考文献	レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。
評価方法	発表内容、質疑応答、コメントパーパー、課題レポート

08 年度以降	現代社会２(こども論)	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
●講義目的 　子どもを取り巻く子育て、貧困、少年事件などのトピックに関する政策を再度検討することを目的としている。 　政策が立案される背景には、言説があるがそれらははたして本当なのか。本当だとしたなら、その現状に照らして政策は適切なのか。これらを考える契機となるような入門的な講義にしたいと考えている。 ●講義概要 ２～５では子どもの貧困の現状や政策の現状を概観し、検討していく。 ６～９では、改正された少年法の内容とその意味を考える。合わせて厳罰化で少年犯罪が減少するのかもアメリカ等の事例を参考に検討していく。 １０から１５では、日本、韓国、フランス、アメリカ、スウェーデンなどの子育て支援策を紹介し、比較検討する。 各講義の最後にリアクションペーパーを使用し、質疑や論点整理を行う。	１．　ガイダンス（授業の進め方等について） ２．　子どもの貧困①（子どもの貧困を測る） ３．　子どもの貧困②（誰のための政策か） ４．　子どもの貧困③（母子世帯の子ども） ５．　近年の動向（含ディスカッション） ６．　少年事件①（少年事件は増加したか） ７．　少年事件②（少年法が変わった） ８．　少年事件③（共生の可能性を探って） ９．　近年の動向（含ディスカッション） １０．日本における子育て支援 １１．子育て支援の国際比較① １２．子育て支援の国際比較② １３．子育て支援の国際比較③ １４．子育て支援の国際比較④ １５．近年の動向（含ディスカッション）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修）指定された資料・文献を読む、事後学修）リアクションペーパーを作成・提出
テキスト、参考文献	代表的なものとして、阿部彩(2008)『子どもの貧困』岩波書店、石井小夜子（2001)『少年犯罪と向き合う』、牧野カツコ他編著（2010)『国際比較に見る世界の家族と子育て』等他は講義内で指示・紹介する。
評価方法	①小テスト３０％、②レポート４０％、③リアクションペーパーや発言など３０％で評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会２（家族と法・実践編）	担当者	齋藤　哲

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、世間で話題になっている家族と法にまつわる様々な件や全く話題になっていない件に対して、ちょっとだけ首を突っ込んだり、突っ込まなかったり、深入りしちゃったりする授業です。 **春学期総合講座（家族と法）受講者に限り、受講者を募ります。授業前半一部は春学期の延長になりますが、その後は受講者に個々のテーマについてレポートしてもらいます。**	第１章　家族法の話し 第２章　婚姻の話し 第３章　婚姻解消の話し 第４章　親子の話し 第５章　養子の話し 第６章　親権の話し 第７章　後見の話し 第８章　相続の話し 第９章　遺言の話し 第 10 章　ストーカー法とＤＶ法の話し 第 11 章　扶養と生活保護の話し

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テーマについての事前予習
テキスト、参考文献	齋藤哲『家族と法』（不磨書房・信山社、2017 発行予定）
評価方法	11 回以上出席している受講生のレポート報告（口頭報告及び報告書）又は期末試験

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会 2（社会生活と犯罪・実践編）	担当者	関根　徹

講義目的、講義概要	授業計画
法律は社会を規律するルールです。しかし、我々は特にそのルールを意識することなく、日常生活を送っています。我々が法律を意識するようになるのは、何らかのトラブルが発生した時です。そのトラブルの最たるものが犯罪です。本授業では、社会生活の中で生じている主な犯罪を題材にして、それがどのように解決されるのかということを見て、法律の運用の感覚をつかんでもらいたいと思います。 授業は演習形式で行い、2 回 1 セットで 1 つのテーマを検討することにします。2 回のうち、1 回目は担当教員が問題のとらえ方、問題に対する解決方法などを解説し、2 回目に皆さんに問題の解決方法について考えてもらうことにします。その際、検討結果を簡単なレポートにまとめて提出してもらいます。	1. 講義の概要 2. 刑法の基礎 3. 殺人と同意殺人 1 4. 殺人と同意殺人 2 5. 臓器移植 1 6. 臓器移植 2 7. 過失往来危険 1 8. 過失往来危険 2 9. 正当防衛・詐欺 1 10. 正当防衛・詐欺 2 11. 共同正犯・強盗 1 12. 共同正犯・強盗 2 13. 文書偽造 1 14. 文書偽造 2 15. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	1 回目の解説を聞いて自分で問題について考えてみてください。
テキスト、参考文献	テキストは特に指定しません。解説のプリントを配布します。 参考文献については、必要に応じて紹介します。
評価方法	試験は行いません。2 回に 1 回行うレポートにより評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会２（市民と刑事司法・応用）	担当者	徳永　光

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的） 刑事手続における人権保障のレベルは、その国の人権意識を示すバロメーターとも言えます。しかし、刑事法は、日々の暮らしに縁遠いものとして敬遠され、実はよく知られていない分野でもあります。この講義では、刑事法分野の基本的なものの見方・考え方を確認しながら、具体的な課題についてどのように解決すべきか、参加者に考えてもらいます。 （講義概要） 現在社会1（市民と刑事司法）の内容を踏まえつつ、多少法解釈の話も交えていきます。具体的な課題をいくつか取り上げ、参加者中心で（グループを作り）議論し、発表してもらいます。	1. ガイダンス 2. 犯罪と刑罰 3. 犯罪の成立要件 4. 刑法の機能 5. 捜査の諸原則 6. 新たな捜査手法 7. 取調べと自白 8. 刑事弁護の役割 9. 刑事裁判の流れと基本原則 10. 冤罪と救済 11. 裁判員裁判の運用状況と課題 12. 刑事司法制度改革 13. 少年司法 14. 死刑制度 15. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回翌週のテーマに関する簡単な課題を示しますので、各自検討してきてください。
テキスト、参考文献	適宜、資料を配付します。六法は不要です。
評価方法	授業レポート等（50%）と期末試験（50%）により評価します。

08 年度以降	現代社会２(韓国社会論Ⅰ)	担当者	羅　一等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、韓国社会の教育問題を中心に、韓国社会を取り巻く事象に対する理解を深めることである。受講生は本講義を通じで、韓国社会に関する専門的知識を得ると同時に、それを論理的に分析し、提示する能力を修得する。 授業は、教員による講義と、受講生による発表で構成される。発表では、決められたテーマの中から一つを選んで調査を行い、その内容をまとめて報告、ディスカッションを行う。発表は基本的にグループ単位で行う。 授業の全過程において受講生の積極的な参加が求められる。	1. 講義の概要 2. 方法論１：合理的理解とは何か 3. 方法論２：トゥールミン法 4. 韓国の学校制度の歴史１：由来と発展 5. 韓国の学校制度の歴史２：制度的・文化的特徴 6. 韓国の校内暴力問題１：議論の批判的検討 7. 韓国の校内暴力問題２：問題の構造的分析 8. 韓国の学校教育１：学生の人権問題 9. 韓国の学校教育２：学生の人権問題と教師 10. 韓国の教育熱１：公教育・私教育・家族の三者関係 11. 韓国の教育熱２：オムチナからチヂリまで 12. 韓国の代案教育１：代案教育の意義 13. 韓国の代案教育２：代案教育の事例 14. 学校の未来：MOOC時代の到来と展望 15. 学校の未来：物理的空間としての学校の変容

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：発表を担当するテーマについて、調査を行い、レポート形式でまとめます。 事後：授業でのディスカッション内容を反映させて、レポートの完成版を作成し、提出します。
テキスト、参考文献	テキスト：プリントで配布する。 参考文献：授業で随時紹介する。
評価方法	レポート 60%　発表 30%　平常点 10%

（秋）		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会２（市民社会と法）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが生きるこの社会は「市民社会」です。「民法は、「市民社会の基本法である」と言われます。この授業では、そのことの意味を具体的な民事紛争事例の解決策を検討することを通じて学んでいきたいと思います。そのために、「民法の意義と機能」、「契約の自由とその限界」、「過失責任主義とその限界」の３つのテーマを取り上げ、各テーマに関する具体的な紛争事例の解決に向けて、受講者がグループで活動をしながら、必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。 その結果、受講者が、「『民法は市民社会の基本法である』ということの意味を、家族・友人など民法を学習したことのない人が理解できるように分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭3分、文書1200字程度）説明できる」ようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります）。 具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第１回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第１回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで、履修してください。	1. オリエンテーション 2. ＰＢＬウォーミングアップ 3. 民法の意義と機能（１） 4. 民法の意義と機能（２） 5. 民法の意義と機能（３） 6. 契約の自由とその限界（１） 7. 契約の自由とその限界（２） 8. 契約の自由とその限界（３） 9. 過失責任主義とその限界（１） 10. 過失責任主義とその限界（２） 11. 過失責任主義とその限界（３） 12. 口頭発表会の準備 13. 口頭発表会（その１） 14. 口頭発表会（その２）（予備） 15. まとめと振り返り（予備を兼ねる）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各テーマ１回目の授業後は、授業中の活動を通じて抽出した学習課題について、各自が調査・検討し。２回目の授業では、その結果を持ち寄って、さらに学習課題を抽出し、授業後は、その課題について各自が調査・検討して、３回目の授業にその結果を寄せ合い、検討してまとめる、というサイクルになります。
テキスト、参考文献	学習に必要な文献・資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集するのを基本としますが、必要に応じて、教員が指示ないし配布します。
評価方法	ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）による評価とします。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会２（自己表現の技法）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
大学では（ひいては社会人となれば)、客観的な事実や信頼できる情報に基づいて主張を展開するタイプの文章を作成することが要求されます。ところが、そのような論証型のレポートの作成方法や、口頭発表の方法について、キチンと学習する機会はこれまであまり多くなかったのではないでしょうか？　そこで、この授業では、論証型レポートの作成方法と（それを基にした）口頭発表の方法を仲間同士の協力的な活動（ピア活動）を通じて学んでいきたいと思います。その結果、①論証型レポートの作成と口頭発表を協力して１人でできるようになること、②「自ら問いを発し、自ら学び、議論を通じて理解を深めていくこと」ができるようになること、③互いに学びあう仲間と学びあう学習環境を作ることの３つの目標を受講者には獲得してほしいと思います。 授業の対象としては、レポート作成を初めて体験する大学１年生を念頭に置いていますが、「レポートの作成方法がいまいちよく分からなくて困っている」という２年生以上の人もご遠慮なく！なお、第１回目の授業では、授業の内容や運営方法、成績評価の方法などについてより詳しく説明しますので、受講希望者は、可能な限り出席してください。	1.　この授業で何を学ぶかを知る。 2.　レポートの形を知り、アイディアを練る。 3.　構想を練り、情報を調べる。 4.　テーマを絞り込み、目標を規定する。 5.　文章を組み立てる。 6.　組み立てを再検討する。 7.　パラグラフを書く。 8.　本文を書き込んでいく。 9.　引用しながら書く。 10.　文章・表現・形式を点検する。 11.　発表を準備する。 12.　口頭発表をする。 13.　学んだことを振り返る。 14.　ラーニング・ポートフォリオのピア評価（兼予備)。 15.　授業全体のまとめ（兼予備）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内ではピア・レスポンスの活動が中心となりますので、事前には、授業での活動の前提となるような宿題・課題が、事後には、授業で学習したことを確認・練習するための課題やレポート作成に向けての課題などが、毎回課されます。
テキスト、参考文献	大島弥生ほか『ピアで学ぶ大学生の日本語表現〔第２版〕』（ひつじ書房）＊授業で提出してもらう「課題シート」は、本テキストに付録の「課題提出用シート」に限りますので（コピー不可)、受講者は必ず購入してください。
評価方法	ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）による評価とします。

08 年度以降	現代社会 2 (経理入門 1)	担当者	原　郁代

講義目的、講義概要	授業計画
企業活動のグローバル化が進む中で、それを支える企業会計制度においても国際化が急速に進められている。こうした流れに対応するためには、英語で記帳を行い、財務諸表を作成・理解できる能力が必要となる。 本講では、①基本的な簿記の知識の確認、②専門用語（英語）の確認、③国際検定試験（BATIC）のSubject1(英文簿記)の問題演習を通じた知識の定着という順序で講義を進めていく。上記①、②については、レジュメを配布する。③については、テキストを使用するが、必要に応じてレジュメを配布する。簿記の知識がない学生も履修可能であるが、しっかり復習し、分からないことは積極的に質問して欲しい。 履修する学生のニーズやレベルに合った授業とするため、授業初回に授業に対する要望や簿記の知識の程度などについて確認する。	1　Basic Concepts of Accounting and Bookkeeping 2　Transactions and Journal Entries 3　Transactions and Journal Entries 4　Transactions and Journal Entries 5　Journals and Ledgers 6　Journals and Ledgers 7　Trial Balance 8　Adjusting Entries 9　Adjusting Entries 10　Adjusting Entries 11　Accounting for Inventory and Cost of Sales 12　Worksheet and Closing Entries 13　Worksheet and Closing Entries 14　Worksheet and Closing Entries 15　総復習

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で配布する資料の予習をし、授業後に配布した資料と問題集の復習をすること。
テキスト、参考文献	東京商工会議所編『国際会計検定　BATIC1　英文簿記　問題集』中央経済社　2015 年
評価方法	小テスト 20 点（1 回）、期末試験 80 点により評価する。

08 年度以降	現代社会 2 (経理入門 2)	担当者	原　郁代

講義目的、講義概要	授業計画
企業活動のグローバル化が進む中で、それを支える企業会計制度においても国際化が急速に進められている。こうした流れに対応するためには、英語で記帳を行い、財務諸表を作成・理解できる能力が必要となる。 本講では、①基本的な簿記の知識の確認、②専門用語（英語）の確認、③国際検定試験（BATIC）のSubject1(英文簿記)の問題演習を通じた知識の定着という順序で講義を進めていく。 上記①、②については、レジュメを配布する。③については、テキストを使用するが、必要に応じてレジュメを配布する。簿記の知識がない学生も履修可能であるが、しっかり復習し、分からないことは積極的に質問して欲しい。	1　Transactions and Journal Entries 2　Journals and Ledgers 3　Trial Balance 4　Adjusting　Entries 5　Worksheet and Closing Entries 6　Financial Statements 7　Financial Statements、小テスト 8　Financial Statements 9　Basic Assumptions and IFRS 10　Financial Statement Analysis 11　Financial Statement Analysis 12　Internal Control 13　総合問題演習 14　総合問題演習 15　総合問題演習

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で配布する資料の予習をし、授業後に配布した資料と問題集の復習をすること。
テキスト、参考文献	東京商工会議所編『国際会計検定　BATIC1　英文簿記　問題集』中央経済社　2015 年
評価方法	小テスト 20 点（1 回）、期末試験 80 点により評価する。

08 年度以降	現代社会 2 (英文会計入門 1)	担当者	原　郁代

講義目的、講義概要	授業計画
企業活動のグローバル化が進む中で、それを支える企業会計制度においても国際化が急速に進められている。日本においてIFRS（国際財務報告基準）を採用する企業が増えてきており、ビジネスの場においてもIFRSの知識の修得が必要となってきている。 本講では、①日本の会計基準の確認、②日本基準と比較する形でのIFRSの理解、③テキストを使った問題練習という形で講義を進めていく。①と②についてはレジュメを配布する。履修する学生のニーズやレベルに合った授業とするため、授業初回に授業に対する要望や、簿記及び財務諸表論の知識の程度について確認する。 IFRSの理解には、簿記の知識が必要であるので、本講の履修には日商簿記検定3級程度の知識が最低限必要である。	1　Conceptual Framework of IFRS 2　Financial Statements 3　Cash and Trade Receivables 4　Inventories 5　Property, Plant and Equipment 6　Property, Plant and Equipment 7　Intangible Assets 8　Impairment of Property 9　Lease 10　Financial Assets 11　Financial Liabilities 12　Provisions, Contingent Liabilities and Contingent Assets 13　Provisions, Contingent Liabilities and Contingent Assets 14　Equity 15　前期の総復習

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で配布する資料の予習をし、授業後に配布した資料と問題集の復習をすること。
テキスト、参考文献	東京商工会議所編『国際会計検定　BATIC2　国際会計理論　問題集』中央経済社　2017 年
評価方法	小テスト 20 点（1 回）、期末試験 80 点により評価する。

08 年度以降	現代社会 2 (英文会計入門 2)	担当者	原　郁代

講義目的、講義概要	授業計画
企業活動のグローバル化が進む中で、それを支える企業会計制度においても国際化が急速に進められている。日本においてIFRS（国際財務報告基準）を採用する企業が増えてきており、ビジネスの場においてもIFRSの知識の修得が必要となってきている。 本講では、①日本の会計基準の確認、②日本基準と比較する形でのIFRSの理解、③テキストを使った問題練習という形で講義を進めていく。①と②についてはレジュメを配布する。 IFRSの理解には、簿記の知識が必要であるので、本講の履修には日商簿記検定3級程度の知識が最低限必要である。	1　前期の復習 2　Revenue Recognition 3　Revenue Recognition 4　Revenue Recognition 5　Employee Benefits 6　Income Taxes 7　Statement of Cash Flows 8　Business Combinations/ Consolidated Statements 9　Business Combinations/ Consolidated Statements 10　Business Combinations/ Consolidated Statements 11　Operating Segments 12　Accounting Policies 13　Interim Financial Reporting 14　総合問題演習 15　総復習

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で配布する資料の予習をし、授業後に配布した資料と問題集の復習をすること。
テキスト、参考文献	東京商工会議所編『国際会計検定　BATIC2　国際会計理論　問題集』中央経済社　2017
評価方法	小テスト 20 点（1 回）、期末試験 80 点により評価する。

08 年度以降	現代社会２(新聞を読む 1)	担当者	半田　滋

講義目的、講義概要	授業計画
新聞は「社会の公器」と呼ばれています。情報の発信源であり、知識の供給源でもあるからです。ネット社会とはいえ、ネットニュースの多くは新聞記事を情報源としており、新聞の重要性はいささかも揺らいではいません。確かな情報を入手し、知識や判断力を養うのは社会人として欠かせない日常の行動です。一緒に学んで行きましょう。 東京新聞記者として３６年のキャリアを持つ現役ジャーナリストが新聞の読み方と記事の書き方を指導します。授業は日々の新聞が教科書です。前の授業で示すキーワード（前年春学期は「アメリカ大統領選挙」「熊本地震」「元米兵による沖縄の女性死体遺棄事件」など）が新聞にどのように取り上げられているのか、その記事から何を考えたのか、毎回、５人程度に発表してもらいます。これを論評し、みなさんの意見も聞きます。	1. ガイダンス／授業の進め方を説明 2. 新聞を読んでみよう①／新聞のキーワードの論評 3. 新聞を読んでみよう②／同上 4. 新聞を読んでみよう③／同上 5. 新聞を読んでみよう④／同上 6. 新聞を読んでみよう⑤／同上 7. 新聞を読んでみよう⑥／同上 8. 新聞を読んでみよう⑦／同上 9. 中間まとめ 10. 新聞は真実を伝えているか①／示したテーマの論評 11. 新聞は真実を伝えているか②／同上 12. 新聞は真実を伝えているか③／同上 13. 新聞記者の取材とは／記者、講師の講話と感想文作成 14. 記事を書いてみよう／模擬会見と記事作成 15. まとめ／前回作成した記事の論評

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指名された方は次の授業までに新聞を読み込み指定したキーワードやテーマについてレポートにまとめ、発表してください。他の方には発表を聞いて、見解を述べてもらいます。全員が必ず発表します。
テキスト、参考文献	新聞。朝日、毎日、読売、産経、東京の５紙から選び、最低１紙を講読する。電子新聞は不可。 必要に応じ、記事、社説などのプリントを配布します。
評価方法	レポートの発表５０％、記事、感想文の作成２０％、授業への参加度３０％

08 年度以降	現代社会２(新聞を読む 2)	担当者	半田　滋

講義目的、講義概要	授業計画
新聞はさまざまな情報を提供してくれます。「１面トップ」という言葉があるように新聞にとっての「売り」はその日の第１面です。きょうの１面トップはなぜ、この記事なのでしょうか。あなたにとってこの記事は重要ですか。これらの点を掘り下げることにより、新聞の役割と必要な読み方がはっきり見えてきます。 東京新聞記者として３６年のキャリアを持つ現役ジャーナリストが新聞の読み方と記事の書き方を指導します。 授業は日々の新聞が教科書です。前の授業で示すキーワード（前年秋学期は「カジノ法案」「南スーダンの国連平和維持活動（ＰＫＯ）」など）が次の授業までの新聞にどのように取り上げられているのか、その記事から何を考えたのか、毎回、５人程度に発表してもらいます。これを論評し、みなさんの意見も聞いていきます。	1. ガイダンス／授業の進め方を説明 2. 第１面を読んでみよう①／朝刊１面の論考 3. 第１面を読んでみよう②／同上 4. 記事を読んでみよう①／新聞のキーワードの論評 5. 記事を読んでみよう②／同上 6. 記事を読んでみよう③／同上 7. 記事を読んでみよう④／同上 8. 記事を読んでみよう⑤／同上 9. 中間とりまとめ 10. 社説を読んでみよう①／配布する社説の論考を発表 11. 社説を読んでみよう②／同上 12. 社説を読んでみよう③／同上 13. 新聞記者の取材とは／記者、講師の講話と感想文作成 14. 記事を書いてみよう／模擬会見を受けて記事作成 15. まとめ／前回作成した記事の論評、授業の総評

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指名された方は次の授業までに新聞を読み込み指定したキーワードやテーマについてレポートにまとめ、発表してください。他の方には発表を聞いて、見解を述べてもらいます。全員が必ず発表します。
テキスト、参考文献	新聞。朝日、毎日、読売、産経、東京の５紙から選び、最低１紙を講読する。新聞の電子版は不可。 必要に応じ、記事、社説などのプリントを配布します。
評価方法	レポートの発表５０％、記事、感想文の作成２０％、授業への参加度３０％

08 年度以降	現代社会 2(インターンシップ)	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、春学期に開講する講義と夏休みに実施するインターンシップ実習を通して、自分自身を正確に理解し、進路を真剣に考え、適職を発見する機会を得ることを目的とします。あわせて、コミュニケーション能力や対人関係のスキル、職場でのマナー、時事に関する感性など、社会人に求められる資質も涵養します。 本講座のねらいは、断じて小手先の就活対策やノウハウを学ぶことではなく、履修者の皆さんが、狭義のキャリア（＝職業）をどのように獲得し、広義のキャリア（＝人生）をどのように設計していくかを、色々な角度から模索する場になることを目指します。 本講座の内容は、事前指導（春学期の授業）、夏休みに実施する約１週間のインターンシップ実習、および実習後の報告書作成から構成されています。講義は出欠を記録します。 １ 4月3日（月）15:00～16:00にW-102教室で開催されるガイダンスに必ず出席し、その後に履修登録会場にて各自オンライン登録して下さい。履修者の定員は150 名です。（下欄に続く）	第１回　オリエンテーション：本講座の目的、授業内容、進め方などについて詳しく説明します。また、インターンシップと就職活動の関係、実習先の探し方、R-CAP などについて、キャリアセンターと教務課のスタッフから説明します。 第２回　働くということは何か（講義） 第３回　セカンドベストの選択と職業能力開発（講義） 第４回　コミュニケーションと面接の技術（講義） 第５回　外部講師によるマナー講座①　インターンシップに参加するにあたって必要とされるマナーを身につけます。 第６回インターンシップ経験者による体験談：インターンシップ経験者である先輩から体験談を話していただきます 第７回　R-CAP の講評・分析：Web 上で受験した R-CAP の結果について講評と分析を行い、自分の適職や自分に向いた職場環境を確認します。(R-CAP の担当者から)

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

	（上欄からの続き）	担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
２ R-CAP実施費用（3,200 円）が必要です。履修決定者は自動発行機にて納付書を購入し、第2 回目の授業に必ず持参して下さい。 ３ インターンシップの実習先は、履修者自身が見つけることが原則です。実習先の開拓には単位認定に必要な覚書の締結について、自ら交渉してください。一部、キャリアセンターで選考する大学仲介もありますが、履修者を優先するものではありません。 ４ インターシップ実習に参加しなかった場合、所定の研修プログラムを修了しなかった場合は、たとえ授業（事前指導）に出席したとしても単位は認定されません。 ５．インターンシップを予約した場合は、企業との約束になりますので、よほどの理由がない限り解約はできません。 ６．実習の条件：マナー講座受講、保険加入、直前指導の出席、実習日誌+報告書の提出、のすべてが必要です。 ７．実習は１企業・団体で５日以上、親族経営の事業やアルバイト先は選択不可です。	第８回・９回　時事問題研究：時事問題に関する講義と発表 第10回　グループディスカッションの練習①：グループディスカッションを行い、コミュニケーションスキルの向上を図ります。 第11回　外部講師によるマナー講座②：インターンシップに参加するにあたって必要とされるマナーを身につけます。 第12回　グループディスカッションの練習② 第13回・14回　プレゼンテーションの技術のブラッシュアップ 特定のテーマに関して、全員の前で発表してもらいます。 第15回　直前指導：インターンシップへの参加に先立ち、キャリアセンターと教務課のスタッフから、重要事項（インターンシップ保険、実習後の提出書類等）について説明していただきます。 ※授業内容と日程は都合により変更する場合があります。 10月をめどに昼休みにキャリアセンター主催の報告会を実施しますので、出席して下さい。

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義の際に配布するプリントを精読して、主体的にインターンシップに取り組んでください。
テキスト、参考文献	必要に応じてプリントを配布します。
評価方法	実習日誌 40%、報告書 40%　授業での貢献 20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	現代社会 2(韓国社会論)	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、変貌する韓国社会をジェンダーの視点から読み解いていきます。現在の韓国社会を知るために、教育や生活文化に対する基本的な知識だけでなく、韓国社会をとりまく国際的情勢を視野に入れつつ、ヒトや文化の国際移動を引き起こす背景や影響についても焦点を当てます。 講義の前半では韓国社会の「家族」をめぐるさまざまな変化に焦点を当てて論じ、後半には、視野を広げ歴史における日韓関係、美意識を取り巻く事情、ヒトや文化の国際移動に焦点を当てていきます。	1　イントロダクション・講義紹介 2　韓国はどんな国？ジェンダーとは何か 3　「家族」のとらえ方 －韓国人における家族とは 4　家族と韓国の映画・ドラマ事情 5　映画で読み解く「家族」① - 「少子化社会・韓国」 6　映画で読み解く「家族」② - 家族愛の行方 7　国境を越える教育熱と「キロギアッパ」 8　韓国の歴史とジェンダー 9　韓国の軍隊とジェンダー 10　恋愛・結婚事情 11　映画で読み解く美意識と文化①整形天国の韓国？ 12　映画で読み解く美意識と文化②美容と消費 13　国境を越える美意識と医療観光問題 14　韓国女性の国際移動とジェンダー 15　韓国社会と文化を読み直す

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の指定された箇所を精読してください。
テキスト、参考文献	主な参考文献：柳蓮淑『韓国人女性の国際移動とジェンダー』（明石書店，2013 年） 他の参考文献は授業中に適宜紹介します。
評価方法	レポート（テスト）70%、授業での発言 20%、その他 10%

08 年度以降	現代社会 2（コンピュータ入門 a）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、大学でのレポート作成や調査研究において必要となる情報検索、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの利用方法を、実習により身につけることを目標とする。 講義を通じ、コンピュータの操作方法だけではなく、社会に出てから必要となるコンピュータとネットワークの基礎的な技術を習得する。 なお、授業計画の項目が取り扱われる順序や時間配分については、担当教員により異なる。	1. 講義概要、ログイン、ログアウト、利用環境の設定 2. OS、システム概要、コンピュータの構造 3. インターネットの基礎 4. 情報検索の基礎と応用 5. ワードプロセッサの機能 6. レポート作成 7. 計算式、関数：合計、平均、相対参照と絶対参照 8. さまざまな関数を使った計算：IF、AND、OR 9. 関数の応用：VLOOKUP、IFとの組み合わせ 10. グラフの作成 11. データの並び替え、目的データの抽出、操作の記録 12. データの集計：ピボットテーブル 13. プレゼンテーションソフトの基礎と利用 14. プレゼンテーションのための調査資料作成 15. 効果的なプレゼンテーション方法と評価

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を事前に精読すること。
テキスト、参考文献	立田ルミ編著、今福啓、堀江郁美『大学で必要な情報基礎』日経 BP 社
評価方法	担当教員の指定する方法によって総合的に評価する。

08 年度以降	現代社会 2（コンピュータ入門 b）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
表計算ソフトを有効活用することで、将来的な計画を効率的に処理し、限られた資源を効率的に配分するといった最適な状態を計算することが可能となる。この講義では、表計算を応用したさまざまな問題の最適な答えを求める技法について学ぶ。 また、現代社会で自分の持つ情報を発信するためには、ネットワークを活用することが不可欠である。講義では、そのために必要となる HTML ファイルの作成と JavaScript によるプログラム作成の基礎についても学習する。 なお、授業計画の項目が取り扱われる順序や時間配分については、担当教員により異なる。	1. 複利計算、ローン返済計画 2. 年金の積み立て 3. 利子率の計算：What-if 分析、ソルバー 4. データの集計と予測：ヒストグラム、移動平均、回帰分析 5. 効率的な作業配分：整数計画問題 6. 限られた資源の有効活用：線形計画法 7. Web ページの仕組み 8. 簡単な HTML ファイルの作成 9. JavaScript：単純なプログラム作成 10. JavaScript：場合分けプログラム作成 11. JavaScript：繰り返しプログラム作成 12. JavaScript：関数について 13. JavaScript：アルゴリズム 14. JavaScript：総合プログラム作成演習 15. Web ページの公開、インターネット利用上の注意点

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を事前に精読すること。
テキスト、参考文献	立田ルミ編著、今福啓、堀江郁美『大学で必要な情報基礎』日経 BP 社
評価方法	担当教員の指定する方法によって総合的に評価する。

08 年度以降	現代社会２（ホームページ作成）	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、ホームページを作成する上で必要な知識と技術の基礎を取得し、情報社会をより深く考察できることを目的としている。「ホームページを公開する前に準備すること」と「公開してから保守すること」等に関する知識を理解しながら、ホームページの表現方法（HTML）だけでなく、その背景で支えているインターネット技術の話題（サーバ、IP、ドメイン等）にも触れ、自ら情報収集して、（有償・無償も含め）サーバの選択やインターネット上の脅威を理解し、現代社会の諸問題などの議論に発展できる人材育成をめざしたい。この授業は、メモ帳のようなエディタを使って、HTMLファイルを作成するだけでなく、エクセル（表計算ソフト）と併用して作成することやタイピングを速くするための練習をして、頭だけでなく、技能も高めることが総合評価に含まれるので注意して欲しい。従って、毎日、学内で、もしくは、自宅でPCに触れる機会があることが履修に際して望ましい。意欲ある学生の受講を期待する。	1. ホームページの作成・運用・管理（環境理解） 2. ホームページの作成・運用・管理（入門編） 3. ホームページの作成・運用・管理（実践編） 4. ブログの開設と運用（公開・非公開の理解） 5. ホームページ公開と運用（アップロードの実践） 6. HTML の基本のまとめ 7. CSS の基本のまとめ 8. HTML と CSS の実践 9. Dynamic HTML サンプル 10. Java Script 入門 11. Dynamic HTML 入門 12. 音楽や動画再生の基礎知識 13. 私のホームページの公開（トップページ） 14. 私のホームページの公開（新規ページの追加） 15. 私のホームページの公開（自己紹介ページの追加）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	適宜、参考にする web サイトの紹介や自習用の電子テキストを配布します。
テキスト、参考文献	適宜、熟読する web サイトを紹介します。
評価方法	レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価

08 年度以降	現代社会２（ホームページ作成）	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、ホームページを作成する上で必要な知識と技術の基礎を取得し、情報社会をより深く考察できることを目的としている。「ホームページを公開する前に準備すること」と「公開してから保守すること」等に関する知識を理解しながら、ホームページの表現方法（HTML）だけでなく、その背景で支えているインターネット技術の話題（サーバ、IP、ドメイン等）にも触れ、自ら情報収集して、（有償・無償も含め）サーバの選択やインターネット上の脅威を理解し、現代社会の諸問題などの議論に発展できる人材育成をめざしたい。この授業は、メモ帳のようなエディタを使って、HTMLファイルを作成するだけでなく、エクセル（表計算ソフト）と併用して作成することやタイピングを速くするための練習をして、頭だけでなく、技能も高めることが総合評価に含まれるので注意して欲しい。従って、毎日、学内で、もしくは、自宅でPCに触れる機会があることが履修に際して望ましい。意欲ある学生の受講を期待する。	1. ホームページの作成・運用・管理（環境理解） 2. ホームページの作成・運用・管理（入門編） 3. ホームページの作成・運用・管理（実践編） 4. ブログの開設と運用（公開・非公開の理解） 5. ホームページ公開と運用（アップロードの実践） 6. HTML の基本のまとめ 7. CSS の基本のまとめ 8. HTML と CSS の実践 9. Dynamic HTML サンプル 10. Java Script 入門 11. Dynamic HTML 入門 12. 音楽や動画再生の基礎知識 13. 私のホームページの公開（トップページ） 14. 私のホームページの公開（新規ページの追加） 15. 私のホームページの公開（自己紹介ページの追加）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	適宜、参考にする web サイトの紹介や自習用の電子テキストを配布します。
テキスト、参考文献	適宜、熟読する web サイトを紹介します。
評価方法	レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価

08 年度以降	現代社会２（ホームページ作成）	担当者	和泉　順子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、現代社会における情報発信手段の一つとして WWW 上のホームページ作成に必要となる基本的な知識の習得と実習である。ホームページ作成の基礎となる HTML の形式とデザイン定義のためのスタイルシートを学ぶだけでなく、マルチメディアコンテンツや Dynamic HTML を用いたホームページ作成を目指す。 ホームページ作成に際し、大まかに 以下の知識や技能を学ぶ。 1)　ホームページの仕組み 2)　ホームページの作成（HTML 文書作成） 3)　ホームページのデザイン設計 4)　マルチメディアコンテンツの取り扱い 5)　WWW での情報発信と情報倫理 ホームページ作成に必要な知識と技能を修得するだけでなく、WWW やインターネットの仕組みの概要を理解し、不用意な情報発信によるトラブルを避けるための知識や知的所有権（著作権）等についても学習する。	1. コースの説明、インターネットの仕組み 2. WWWとホームページ 3. ホームページ作成の基本 4. ホームページの構成、編集方法 5. ホームページのデザイン 6. 画像、背景、色の作成 7. テキスト処理、フォント、リンク 8. テーブル、ページのレイアウト 9. スタイルシートの基本 10. HTMLとCSSの実装 11. CSSを使った具体的なレイアウト 12. Dynamic HTML 13. マルチメディアコンテンツの取扱い 14. 情報発信と情報倫理、知的所有権 15. 学期末テスト

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	技術的な専門用語を用いて説明・実習するため、理解度に合わせて適宜復習が必要である。
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	平常点 20%、作品（ホームページ）40%、および学期末テスト 40%による総合評価とする。

08 年度以降	現代社会２（ホームページ作成）	担当者	和泉　順子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、現代社会における情報発信手段の一つとして WWW 上のホームページ作成に必要となる基本的な知識の習得と実習である。ホームページ作成の基礎となる HTML の形式とデザイン定義のためのスタイルシートを学ぶだけでなく、マルチメディアコンテンツや Dynamic HTML を用いたホームページ作成を目指す。 ホームページ作成に際し、大まかに 以下の知識や技能を学ぶ。 1)　ホームページの仕組み 2)　ホームページの作成（HTML 文書作成） 3)　ホームページのデザイン設計 4)　マルチメディアコンテンツの取り扱い 5)　WWW での情報発信と情報倫理 ホームページ作成に必要な知識と技能を修得するだけでなく､WWWやインターネットの仕組みの概要を理解し、不用意な情報発信によるトラブルを避けるための知識や知的所有権（著作権）等についても学習する。	1. コースの説明、インターネットの仕組み 2. WWWとホームページ 3. ホームページ作成の基本 4. ホームページの構成、編集方法 5. ホームページのデザイン 6. 画像、背景、色の作成 7. テキスト処理、フォント、リンク 8. テーブル、ページのレイアウト 9. スタイルシートの基本 10. HTMLとCSSの実装 11. CSSを使った具体的なレイアウト 12. Dynamic HTML 13. マルチメディアコンテンツの取扱い 14. 情報発信と情報倫理、知的所有権 15. 学期末テスト

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	技術的な専門用語を用いて説明・実習するため、理解度に合わせて適宜復習が必要である。
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	平常点 20%、作品（ホームページ）40%、および学期末テスト 40%による総合評価とする。

08 年度以降	自然・環境・人間２(サイエンスライティング a)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことです。 春学期「サイエンスライティングａ」では、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の中のあるテーマについて文章にまとめる作業を通して、科学について書く能力を高めていきます。	1.　はじめに 2.　科学に関する講義の内容の一部をまとめる１ 3.　科学に関する講義の内容の一部をまとめる２ 4.　科学に関する講義の内容の一部をまとめる３ 5.　科学に関する講義の内容の一部をまとめる４ 6.　まとめ文の講評 7.　科学に関するビデオの内容の一部をまとめる１ 8.　科学に関するビデオの内容の一部をまとめる２ 9.　科学に関するビデオの内容の一部をまとめる３ 10.　科学に関するビデオの内容の一部をまとめる４ 11.　まとめ文の講評 12.　科学に関する本の内容の一部をまとめる１ 13.　科学に関する本の内容の一部をまとめる２ 14.　科学に関する本の内容の一部をまとめる３ 15.　まとめ文の講評

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介
評価方法	各テーマにおける「まとめ文」の完成度を総合的に評価する

08 年度以降	自然・環境・人間２(サイエンスライティング b)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことです。 秋学期「サイエンスライティングｂ」では、春学期「サイエンスライティングａ」での実践を前提に、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物等の解説文を実際に書くという作業を通して、文章力をさらに高めていきます。	1.　はじめに 2.　科学に関する講義の解説文を書く 3.　添削と講評を基に書き直し 4.　科学に関する論文形式の文章の解説文を書く 5.　添削と講評を基に書き直し 6.　科学に関するビデオの解説文を書く 7.　添削と講評を基に書き直し 8.　科学者へのインタビュー記事を書く 9.　添削と講評を基に書き直し 10.　科学に関する本の解説文を書く１ 11.　添削と講評を基に書き直し１ 12.　科学に関する本の解説文を書く２ 13.　添削と講評を基に書き直し２ 14.　添削と講評を基に書き直し３ 15.　まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介
評価方法	各テーマにおける「解説文」の完成度を総合的に評価する

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	自然・環境・人間２（統計と調査法）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的 基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける。 授業概要 ・1世帯当たりの平均年間所得は約600万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 私達は常にこのようなデータに囲まれており、それを巧みに利用しながら生活している。「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが、より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をすることができる。この授業では日常的なデータを素材として、その性質を記述し、現象の本質を推測できるように、科学的な分析方法を使うことを学ぶ。基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする。授業期間の後半は，自分たちで収集したクイズ問題の解答をさまざまな角度から分析し、前半で学んだ理論の応用を試みる。	1. 統計量の種類（量的変量・質的変量）：比例変量，間隔変量，順位変量，名義変量 2. アンケートの取りかた，クイズ問題作成説明 3. 度数分布，相対度数，度数分布表 4. 量的変数のグラフ表現，質的変数のグラフ表現 5. 代表値（平均値，中央値，最頻値），値の広がり，能力テストと到達度テスト 6. 正規分布，散布度（標準偏差），歪度，尖度，標準得点，偏差値 7. クイズ問題解答集計 8. 信頼性係数，項目分析，ロジスティック回帰分析 9. 記述統計と推測統計，仮説（帰無仮説，対立仮説） 10. 相関散布図，相関係数，回帰直線，欠損値の推定，相関検定 11. 対応がない場合のt検定，分散分析 12. 対応がある場合のt検定，プリテスト・ポストテスト，時系列分析 13. クロス集計，カイ二乗検定 14. 多変量解析(1) 主成分分析・因子分析・クラスター分析 15. 多変量解析(2) 要因計画法・重回帰分析・対応分析

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト、参考文献	参考文献 内田治『数量化理論とテキストマイニング』（日科技連, 2010）ISBN 978-4-8171-9292-9
評価方法	定期試験（授業への積極的参加度により評価を加減する）。

08 年度以降	自然・環境・人間２(基礎生物学実験 a)	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】この授業では、様々な実験と観察を行い生物学の基礎を学びます。さらに、その結果をレポートにまとめる作業を通して、論理的な文章の書き方を学びます。 【概要】身近な生物を用いて実験および観察を行います。初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は必ず出席して下さい。実験では衣服が汚れることがありますので、汚れてもよい服を着用してください。 【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。 ※受講する学生は2回目の授業までに実習費（¥2,000）を支払う必要があります。	1. 海と生命　－海水を調べる－ 2. 細胞分裂の観察　－タマネギの根の細胞分裂を観察－ 3. 微生物の観察　－カビ（麹）の観察－ 4. 微生物の有用性　－味噌造りにおける微生物の役割－ 5. 光合成色素の観察　－ペーパークロマトグラフィー－ 6. 光合成と糖質　－ジャガイモからデンプンを精製－ 7. タンパク質の性質　―豆腐造りから考える－ 8. 脂質の性質　－バター造りから考える－ 9. 多糖類の性質　－テングサとカンテン－ 10. 動物組織の観察（１）－メダカの色素胞を観察－ 11. 動物組織の観察（２）－魚の脳を解剖 12. 動物組織の観察（３）－イカの神経系を観察－ 13. 原生生物の観察　－ゾウリムシの観察－ 14. 発生の観察　－ムラサキウニの発生を観察－ 15. プレゼンテーション

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：毎回レポートを作成して提出してください。
テキスト、参考文献	資料を配付します。
評価方法	レポート 50%、期末試験の結果 30%、授業への参加度（質問・発言など）20%で評価します。

08 年度以降	自然・環境・人間２(基礎生物学実験 b)	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】この授業では、様々な実験と観察を行い生物学の基礎を学びます。さらに、プレゼンテーション（生物学において興味をもった内容）を実施することで、聴衆が理解しやすい発表方法を身につけます。 【概要】身近な生物を用いて実験および観察を行います。初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は必ず出席して下さい。実験では衣服が汚れることがありますので、汚れてもよい服を着用してください。 【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。 ※受講する学生は2回目の授業までに実習費（¥2,000）を支払う必要があります。	1. 動物の再生　－プラナリアの再生－ 2. 微生物の有用性　－酵母と発酵－ 3. DNA　－ブロッコリーから DNA を抽出－ 4. 刺胞動物　－ヒドラの摂食行動を観察－ 5. 光合成　－葉緑体の観察－ 6. 緩歩動物　－クマムシの採集と観察－ 7. 寄生生物　－食べたら痛い!? 魚に潜む寄生虫－ 8. 染色体　－ユスリカ唾腺染色体の観察－ 9. 節足動物　－クルマエビの心臓と神経系を観察－ 10. 魚類　－魚類の標本を作製－ 11. 軟体動物　－カキの心臓を調べる－ 12. タンパク質の性質　－うどん作りでグルテンを考える－ 13. 発生の観察　－バフンウニの発生を観察－ 14. プレゼンテーション 15. まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：毎回レポートを作成して提出してください。
テキスト、参考文献	資料を配付します。
評価方法	レポート 50%、期末試験の結果 30%、授業への参加度（質問・発言など）20%で評価します。

08 年度以降	自然・環境・人間２(生物学Ⅰ)	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】生命科学の著しい進歩は我々の生活に様々な恩恵を与えてきました。しかしその反面、これまで考える必要のなかった新たな問題を生み出しています。クローン人間、出生前診断、遺伝子操作の是非など、我々は様々な判断を迫られています。これらを的確に判断するためには幅広い教養と生物学の知識が不可欠です。新聞やニュースで報道される生命科学の問題に関し、自分自身の頭で判断するための基礎知識を身につけます。 【講義の概要】本講義では細胞レベルの生物学を概説します。講義形式の授業ですが、授業の途中に実験なども組み込みたいと考えています。	1.　はじめに　－履修の注意・キャンパス内の生物の観察－ 2.　生命の誕生　－生命誕生の謎－ 3.　細胞の特徴　－細胞膜の性質－ 4.　細胞の特徴　－細胞小器官とは－ 5.　細胞の観察　－顕微鏡による細胞の観察－ 6.　細胞を構成する物質　－細胞の生存に必要な物質－ 7.　細胞の分裂　－細胞が増えるしくみ－ 8.　染色体　－顕微鏡による染色体の観察－ 9.　遺伝と遺伝子　－子はなぜ親に似る？_ 10.　核酸　－DNA と RNA－ 11.　DNA を見る　－レバーから DNA を抽出－ 12.　タンパク質と酵素　－ホタルの発光と酵素の関係－ 13.　プレゼンテーション（１） 14.　プレゼンテーション（２） 15.　まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：指定したテーマに関するレポートを作成し提出してください。
テキスト、参考文献	資料を配付します。
評価方法	期末試験 50%、レポート 30%、授業への参加度（質問・発言など）20%で評価します。

08 年度以降	自然・環境・人間２(生物学Ⅱ)	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】「生物学Ⅰ」と同様に、最新の生命科学を理解するために必要な生物学の基礎知識を身につけます。そして、友人たちとの議論（プレゼンテーションと質疑応答）を通して、さらに深い理解を目指します。 【講義の概要】「生物学Ⅰ」の知識を基礎に、組織や器官レベルの生物学を学習します。講義形式の授業ですが、簡単な実験なども組み込みたいと考えています。１回目の授業で履修の注意点を話しますので、履修希望者は必ず出席してください。また、本講義は「生物学Ⅰ」の知識を持っていることを前提に実施します。「生物学Ⅰ」を履修していない方は注意して下さい。	1.　はじめに　－履修の注意－ 2.　身近な生物　－キャンパス内の生物を観察－ 3.　光る生物　－ウミホタルの観察－ 4.　刺激の受容　－眼の構造と働き－ 5.　刺激の受容　－耳、舌、皮膚の構造と働き－ 6.　神経細胞　－体の中の情報伝達－ 7.　筋収縮　－体を動かすしくみ－ 8.　病原体から体を守るしくみ　（１）－体液性免疫－ 9.　病原体から体を守るしくみ　（２）－細胞性免疫－ 10.　寄生生物　－寄生性の多細胞生物－ 11.　寄生生物　－寄生性の単細胞生物－ 12.　ウイルス　－インフルエンザ－ 13.　プレゼンテーション（１） 14.　プレゼンテーション（２） 15.　まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：指定したテーマに関するレポートを作成し提出してください。
テキスト、参考文献	資料を配付します。
評価方法	期末試験 50%、レポート 30%、授業への参加度（質問・発言など）20%で評価します。

08 年度以降	自然・環境・人間２(科学の方法と実験 a)	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
科学とはなんだろうか。小学校以来「理科」の授業で学んできた自然についてのいろいろな知識はどれだけ身についているだろうか。科学とは私たちをとりまく自然世界についての体系的な知識であるが、またそれは、多様な要因が複合的に作用しあった結果として現実に生起する事象を、その絡み合った諸要因を丹念に解きほぐして本質を解明する学問の方法と言うことができよう。これは自然科学のみならず、あらゆる学問分野について言える。だから、身についたというのはそのような方法でものを考えることができる、ということである。そのためには紙の上での学習だけでなく、実験を交え経験を通して考察することが可能かつ必要である。「百聞は一"験"に如かず」である。 この授業では、いくつかの身近な～一見単純に見える～事象を、実験しながら自然の法則性を考え、理解を深めることを目標とする。	1.　イントロダクション　科学的とはどういうことか 2.　記述的科学と論証的科学　定性と定量 3.　「はかる」①　科学における「はかる」ことの意義 4.　「はかる」②　単位のいろいろ 5.　「はかる」③　精密さ・正確さと大雑把 6.　「はかる」④　誤差　有効数字 7.　「はかる」⑤　統計的確からしさ 8.　光と色①　光とはなにか：反射と屈折 9.　光と色②　スペクトル　分光器を作る 10.　光と色③　物質の色 11.　顕微鏡観察①　微小生物の観察 12.　顕微鏡観察②　単レンズ顕微鏡の製作 13.　顕微鏡観察③　ブラウン運動 14.　静水力学①　密度・比重　鉄船が浮くのはなぜか 15.　静水力学②　サイフォンはなぜ流れるか　浮沈子

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指定した参考文献の学習
テキスト、参考文献	テキストなし　プリントを配布する
評価方法	実験レポート

08 年度以降	自然・環境・人間２(科学の方法と実験 b)	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
科学における思い違いを解剖する 科学の思い違いには、単純なうっかり間違いだけでなく、根本的に異なる世界観の対立、夢想的な思い込み、嘘や詐欺、捏造や剽窃や曲解やこじつけ、予想外の副作用、政治的な引き回し、権力的な弾圧など、さまざまあって、真理の探究を目ざす科学研究だが、賢くもない人間たちがやることゆえその成果は常に正しいとは限らない。いっぽう、科学とはつねに間違え、それを正すことによって進歩するものだ、というのもまた正論である。また、誤りと決めつけられた学説が後年になって正しかったことがわかることも多い。歴史上のさまざまな思い違いの事例を解剖してみることによって、教科書を鵜呑みにするのでない、各自自分なりの科学観を鍛えるきっかけとしてほしい。	1.　イントロダクション　科学における思い違い 2.　思い違いのいろいろなパターン 3.　占星術と錬金術 4.　生物は自然発生するか 5.　熱素、燃素、電気、磁気の正体 6.　進化論と創造説 7.　心霊術、こっくりさん、オカルトブーム 8.　UFO、地球外知的生命、タイムマシン 9.　トンデモな科学言説・都市伝説 10.　疫学的方法の大切さ 11.　統計の扱い方① 12.　統計の扱い方② 13.　不適切な科学研究、差別と偏見の助長 14.　不適切な科学研究、剽窃、データ捏造、こじつけ 15.　科学技術の進歩と人間性

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示した参考文献等を読むこと
テキスト、参考文献	参考文献：ブロード、ウェイド著『背信の科学者たち』講談社ブルーバックス、2014、 その他各回のテーマに沿った参考文献を指示する
評価方法	レポート 50%、授業での小レポート 30%、授業での発言 20%

08 年度以降	自然・環境・人間２(体育経営スポーツマネージメント)	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
マネジメントは成果によって定義されるといわれている。スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポーツの発展・普及における過程を理解し、現代社会におけるスポーツの可能性を模索する。そして“今何が求められているか”を問う。身近なスポーツ活動からトップ・プロの動向など幅広く題材として扱い、スポーツの普及とは如何にあるべきかを考える。また、昨今の社会情勢から、わが国におけるスポーツ活動の可能性を模索する。1980 年から 1990 年は、メディアの発達、各種企業のグローバル化によってスポーツ・マーケティングの時代といわれている。このようにスポーツは、社会情勢の影響を受けながら人々の期待に応えてきた。そこで、我が国における体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における体育・スポーツの問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、我が国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。具体的には、アメリカ４大プロスポーツの中でも最も成功していると言われている NFL を中心にプロスポーツのマネジメントを理解する。また、NCAA やヨーロッパサッカーなどのトップ組織を扱うだけではなく、身近な健康問題、アダプテッド・スポーツ、さらには 2020 年の東京オリンピック等も題材として扱う。	1.オリエンテーション 2.スポーツ・マネジメントの概要 3.我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景 4.体育とスポーツ教育学 5.我が国における健康教育のマネジメント 6.北米における学生スポーツの発展 7.プロスポーツとアマチュアスポーツ 8.我が国における学生スポーツのマネジメント 9.アダプテッド・スポーツ 10.プロスポーツのマネジメント 11.メンタル・マネジメント 12.高度競技スポーツにおけるマネジメント 13.スポーツ・マーケティング 14.これからのスポーツ・マネジメント 15.総括

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。また、関連するトピックスを調べ、授業内で発言できる準備をすること。
テキスト、参考文献	授業内で配布する。
評価方法	授業への参加度・貢献度 50%　レポート 30%　小テスト 10%　授業での発言 10%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	自然・環境・人間２(コンピュータと言語)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度情報化社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1. 講義の概要と目標、情報科学の発展 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム（OS） 6. プログラム言語 7. データ構造―リスト、スタック、キュー、2分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10. コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11. 総合演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	サーバー上に開示するテキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。
テキスト、参考文献	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。
評価方法	定期試験の成績、課題の完成度、授業への参加度を併せて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	自然・人間・環境２（自然言語処理 b）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、コンピュータを使用した自然言語の処理に関する方法、そして利用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身につくことを目標とします。 本講義では、自然言語処理 a での知識を踏まえた上で、自然言語処理基礎技術のである意味解析、文脈解析、知識の表現法を学ぶ。世の中に研究・開発されている応用技術に力を入れ、典型的な応用例を紹介します。特に、自動要約システム、機械翻訳システム、文書校正支援システム、自然言語対話システム、質問応答システム、情報検索システムなどの基本技術・アーキテクチャを説明し、演習を行います。そして、現在の自然言語処理システムの問題点などを議論します。	1. 講義の概要と入門知識 2. 自然言語処理のプロセス 3. 自然言語処理における言語資源 4. 知識の表現法 5. 文書処理　言い換えと自動要約の原理 6. 機械翻訳（１）　機械翻訳の処理方式と原理 7. 機械翻訳（２）　機械翻訳システムと性能評価 8. 質問応答システム 9. 情報検索における言語処理技術 10. 対話システム 11. WEBによる自然言語処理 12. 自然言語処理のこれから 13. 総合演習 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出してください。
テキスト、参考文献	（１）　最初の講義で指示します。 （２）　必要な資料を配布します。
評価方法	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	自然・環境・人間２（情報検索と加工）	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】情報爆発といわれている現代社会において，情報検索の技術を駆使し，いかに必要な情報を素早く，的確に見つける能力は不可欠である．本講義は情報検索の仕組を解説し，実習を通して「情報検索力」を身に付けることを目的とする． 【概要】情報検索システムの基本的な理論と方法について，講義と実習形式で解説する． 講義内容は，文系の学生でも理解できるように，情報検索の歴史，情報検索ための情報収集，情報整理，情報抽出，情報評価の順番で説明する． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1. 授業ガイダンス 2. 情報検索の基本（1）：パソコンの世界 3. 情報検索の基本（2）：情報の表現 4. 情報検索の基本（3）：データベース 5. 情報検索の種類 6. 情報検索システムの構成と役割 7. 情報の収集 8. 情報の整理（1） 9. 情報の整理（2） 10. 情報の抽出（1） 11. 情報の抽出（2） 12. 情報の検索と評価 13. 情報検索システムの例：図書検索 14. 情報検索システムの例：ネット検索 15. まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読しておいてください． また、出される課題やレポートなどを解いて提出してください．
テキスト、参考文献	テキスト：必要に応じて資料を配布する． 参考文献：原田，江草，小山，澤井共著『情報検索演習』 新・図書館学シリーズ 6，2007（樹村房）
評価方法	授業の参加態度（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する．

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	自然・環境・人間 2（データ構造とアルゴリズム論）	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】データ構造とアルゴリズムは難しそうなイメージであるが，実は日常の生活と仕事の中でよく利用する身近なものである．情報爆発といわれる現代社会において，いかにデータを構造化し，必要なアルゴリズムで素早く処理する能力は不可欠である．本講義は実習を通してデータ構造とアルゴリズムに対する理解を深めることを目的とする． 【概要】データ構造とアルゴリズムに関する基本的な理論と方法について，講義形式とパソコンを使った実習形式で体験する．講義内容は，文系の学生でも理解できるように，ゲームを取り入れ、体験しながら学ぶ． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1. 講義の概要、基礎知識、目標 2. リスト 3. スタックとキュー 4. 再帰 5. 計算量解析 6. 解析木 7. 二分探索木 8. ソート 1 9. ソート 2 10. 二分探索 11. 平衡木 12. ハッシュ 13. グラフ 14. 動的計画法 15. 授業のまとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読しておいてください． また、出される課題やレポートなどを解いて提出してください．
テキスト、参考文献	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します． 参考サイト：http://www.ieice-hbkb.org/portal/doc_579.html
評価方法	授業の参加態度（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する．

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	自然・環境・人間２（マルチメディア論）	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
マルチメディアというのは、文字だけに限らず画像（写真を含む）や音声もまとめて扱うことを意味しているが、ここでは画像（特に動画）に的を絞る。動画などは今やインターネットの世界では日常的なことになっているが、それはブログなどでただ単に指定通りに張り付けるだけであり、その原理を理解・認識している人は少ない。その基本的原理はパラパラ漫画にも見受けられるが、その処理などを理解し、インターネットの世界での標準ともいえるソフトのフラッシュを用いて自分の力でコントロールできるようになることを目指す。もちろんこれは、ソフトの使いこなしだけを目指すのではなく、自ら作画し、それを動かせるようにすることから始める。	1. ガイダンス 2. イラストの作成① 3. イラストの作成② 4. イラストの作成③ 5. イラストの作品制作 6. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン 7. シンボルの政策、保存。レイヤーの利用 8. トゥイーンアニメーション 9. シェイプトゥイーン① 10. シェイプトゥイーン② 11. 作品の制作① 12. 作品の制作② 13. 作品の制作③ 14. 作品の制作④ 15. 作品の制作予備日

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し､今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について､論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	特別な準備は必要としないが、静止画については Windows に付録でついているペイントなどで基本を押さえておくことが望ましい。
テキスト、参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	制作した作品で評価する。参加度を重視し、欠席回数が多いと不可とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	自然・環境・人間２(文化について調べて書く b)	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
文化に関わる、調査にもとづいたレポートや論文を書くことができる能力を身につけることを目標とする。 ここで言う調査とは、フィールド調査・文献調査を含む。 文化人類学や関連の学問（地域研究・社会学・民俗学など）の授業を履修したことがある者の参加を歓迎する。 本授業は実践研究形式で行う。履修生には授業への積極的な参加を求める。 毎年具体的なテーマを設定して研究・調査をしてもらう。本年度のテーマは「見ることと見られること」とする予定である。 ※「文化について調べて書くa」を履修したことがなくても、この授業を履修することができる。それも含めて授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1. ガイダンス 2. テーマについての文献学習１ 3. テーマについての文献学習２ 4. テーマについて文献学習３ 5. 模擬調査準備 6. 模擬調査 7. 文献調査実習１ 8. 文献調査実習２ 9. 調査成果報告 10. フィールド調査準備 11. フィールド調査実習１ 12. フィールド調査実習２ 13. フィールド調査実習３ 14. 調査成果報告 15. まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト、参考文献	教材は教員が用意するが、調査用に指示したものを持参する必要がある（ノートなど）。参考文献については授業内で指示する。
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、授業内課題・調査課題［70%］を評価対象とする。調査課題・授業内課題の全提出を成績評価の必須条件とする。一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	自然・環境・人間２（人間活動の自然環境への影響のデータからの理解）	担当者	中村　健治

講義目的、講義概要	授業計画
地球環境は人間活動により大きく変化していると同時に人間社会は自然環境に大きく影響を受けています。この自然環境について、日本を中心として講義をします。世界の環境問題の一つは水問題ですが、日本は水に恵まれていると言われています。この水についてその量や水質について講義します。また日本が雨の多いモンスーンアジアの中にあることを理解してもらいます。その後、日本各地の気候について述べます。また、量的な感覚を持ってもらうことも目的としています。このため、講義内容に関わる話題について概算の計算練習も入れます。	1. 講義概要 2. 日本の水問題 3. 川と環境 4. 水の管理 5. 水と人の意識 6. 水の浄化 7. アジアモンスーンと日本 8. コメ 9. 世界の気候環境（１） 10. 世界の気候環境（２） 11. 日本の気候（１） 12. 日本の気候（２） 13. 自然災害と防災 14. 衛星リモートセンシング 15. 復習

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回のレジュメを配布するので学習してください。講義資料をポータルに載せるので復習してください。
テキスト、参考文献	なし。
評価方法	３回程度行う小テスト（30%）と試験（70%）で評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	自然・環境・人間２(スポーツコーチ学 b)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] スポーツコーチ学のなかで特にコーチング方法について、実践・実習をすることを目的とする。 [概要] アリーナで種目により担当者と受講者に分かれて、コーチングの実践・実習を行う。 注意：受講者の人数や運動経験により授業計画が変更になる。	1. ガイダンス 2. スポーツコーチ学の概念と写真付受講票作成 3. バスケットボール＆フットサル研究 4. バスケットボール＆フットサル実技① 5. バスケットボール＆フットサル実技② 6. バドミントン＆卓球研究 7. バドミントン＆卓球実技① 8. バドミントン＆卓球実技② 9. バレーボール研究 10. バレーボール実技① 11. バレーボール実技② 12. スポーツテスト研究 13. スポーツテスト実技① 14. スポーツテスト実技② 15. スポーツ指導評価

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト、参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間 2(スポーツコーチ学 a)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 スポーツ選手の競技力向上には運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、また動作解析やゲーム分析などのパフォーマンスチェックが欠かせない。そこで本講義ではスポーツに関わる身体の基本的な機能と測定・分析方法を学び、実際にスポーツパフォーマンスに関係する様々な測定を経験し、各自のスポーツへのかかわり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指す。 〔講義概要〕 実際にスポーツ中のパフォーマンスに関連するデータを測定し、試合や演技の映像を持ち寄って分析を行う。成果を学期末に発表する。 ☆35周年記念館アリーナ、グラウンドを使用するので室内および屋外用スポーツシューズと運動に相応しい服装を用意すること	1. ガイダンス 2. 運動強度測定（室内スポーツ） 3. 運動強度測定（屋外スポーツ） 4. フィジカルテストの基礎 5. フィジカルテストの実践（グループワーク） 6. フィジカルテストの分析（グループワーク） 7. 動作分析の基礎 8. 動作分析の実践①（グループワーク） 9. 動作分析の実践②（グループワーク） 10. ゲーム分析の基礎 11. ゲーム分析の実践（グループワーク） 12. 成果発表① 13. 成果発表② 14. 成果発表③ 15. 春学期のまとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各種スポーツに必要な身体能力、技術について調べ、講義内で得られたデータをもとに分析すること
テキスト、参考文献	特に指定しない。（必要に応じてプリント等を配布する）
評価方法	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）で総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	自然・環境・人間２(生理学Ⅰ)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 生理学はその名の意味するように「生きる」ことの「理（ことわり）」を考える学問である。私たちのからだは60兆個の様々な細胞がそれぞれに役割を担い、協調しながら生命活動を行っている。この講義では生命現象や生体機能の仕組みを学び、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解することを目指す。 〔講義概要〕 本講義では身体の仕組みや機能について概説する。ここでは呼吸、循環、消化・吸収、排泄、代謝といった生命現象、血液・体液、神経、内分泌、筋・骨といった機能系統について、できるだけ身近な題材と組み合わせて説明する。また各自が興味を持った「からだ」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 生理学の基礎 - ホメオスタシスって - 3. 血液・体液 - 体の中に海？ - 4. 呼吸・循環 - 息して生きてる・高血圧低血圧 - 5. 消化・吸収 - 食べ物の行方 - 6. 代謝・体温 - からだを温めると健康によい？ - 7. 内分泌 - ホルモン、男らしさ女らしさ 8. 神経 - 「運動神経」がない人はいない！ - 9. 感覚 - 第６感？ - 10. 筋・骨 - からだの屋台骨 - 11. 免疫 - からだの防衛隊 - 12.「からだ」の情報交換会①（グループ発表） 13.「からだ」の情報交換会②（グループ発表） 14.「からだ」の情報交換会③（グループ発表） 15. 春学期のまとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し､今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について､論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること
テキスト、参考文献	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する)。
評価方法	授業への参加態度・貢献度（30%)、授業内レポート（20%)、学期末レポート（30%)、発表（準備を含む：20%）により総合的に判断する。

08 年度以降	自然・環境・人間２(生理学Ⅱ)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 「脳」は身体の機能の司令塔であり、また心の源でもある。そしてまだまだ未知な領域として多くの研究者がその機能の解明に取り組んでいる。この講義では、ヒトの身体制御機構である脳機能について学習し、様々な生理機能との関連を理解することを目指す。 〔講義概要〕 春学期の生理学Ⅰで学んだ身体の仕組みや機能の基礎をもとに、秋学期の生理学Ⅱでは私たちの身体の中枢である脳とその機能に焦点をあてて講義する。 また、各自が興味を持った「脳機能」に関する情報を受講生同士（グループに分かれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 神経科学の基礎 3. ニューロン・シナプス・神経伝達物質 4. 中枢神経系（大脳・小脳・脳幹・脊髄）と末梢神経系 5. 味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚① 6. 味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚② 7. 摂食調節 - なぜ食べる？ - 8. 脳・脊髄による運動制御 9. 脳と睡眠 - なぜ眠る？ - 10. 学習と記憶 11. 情動 - 好き嫌い - 12.「脳機能」の情報交換会①（グループ発表） 13.「脳機能」の情報交換会②（グループ発表） 14.「脳機能」の情報交換会③（グループ発表） 15. 秋学期のまとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し､今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について､論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること
テキスト、参考文献	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する)。
評価方法	授業への参加態度・貢献度（30%)、授業内レポート（20%)、学期末レポート（30%)、発表（準備を含む：20%）により総合的に判断する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	自然・環境・人間２(からだの仕組み)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
普段、何気なく生活している中では気づかないが、私たちのからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示している。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が溢れている。まずはもっとも身近な私たち自身のからだの中のことを知って、快適な生活について考える、工夫するきっかけを提供することが本講義の目的である。 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、実際に自分自身のからだを使ってその機能の一部を確かめる、つまり実験・測定を行う（グループワーク）。得られたデータを分析し、まとめることで理解を深める。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 体温調節の基礎 - 冷え症・低体温、熱中症 - 3. 体温調節実験 - 寒冷血管拡張反応 - 4. 体温調節 - まとめ（グループでデータの解析） 5. 血圧調節の基礎 - 身近な健康のバロメータ - 6. 血圧調節実験 - 姿勢変化、運動 - 7. 血圧調節 - まとめ（グループでデータの解析） 8. 運動調節の基礎 - スムーズに動くには - 9. 運動調節実験 - プリズム順応 - 10. 運動調節 - まとめ（グループでデータの解析） 11. 学習・記憶の基礎 - 効率よく勉強するには - 12. 学習効率実験 - 「ながら」暗記課題 - 13. 学習・記憶 - まとめ（グループでデータの解析） 14. 成果発表 15. 総合討論

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し､今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について､論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各テーマの実験データに関連する論文を調査すること、また生理機能の理解を深めるため実験のレポートを都度作成し、提出すること。
テキスト、参考文献	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する)。
評価方法	授業への参加態度・貢献度（40%)、レポート（40%)、発表（準備を含む：20%）で総合的に評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間２(リーダーシップ論)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。 グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目的とします。 授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。 いくつかのグループによって提案された企画は投票によって 1 位を決定し、1 位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。 グループでの話し合いと実践を中心にしたアクティブラーニングを行います。	1 オリエンテーション 2 集団形成：アイスブレーキング 3 グループワークによる問題解決活動と発表 4 イニシアティブゲームによる問題解決活動１ 5 イニシアティブゲームによる問題解決活動２ 6 グループ内での課題についての討論と発表 7 リーダーシップ理論 8 イベント企画作成の手順 9 イベント企画コンテストに向けてのグループ討論 10 イベント企画案の作成 11 イベント企画プレゼンテーション第１回 12 イベント企画プレゼンテーション第２回 13 イベントの実施 14 イベントの評価とまとめ 15 授業のまとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にリーダーシップ理論について学習し、授業で実践した方法を所属する集団で実施すること。
テキスト、参考文献	必要に応じ資料を配布します。
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、小レポート・期末レポート（20%）、企画コンテストを評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

（春）	スポーツ･レクリエーション(インラインスケート a)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目的]インラインスケートについての知識､技術の習得によって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にします。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全能力とモラルが大切になるでしょう。前後方滑走、カーブ、方向転換までの技術習得を目的にします。 [講義概要]実施場所は室内アリーナです｡インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況によって、授業計画は変えていきます。大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。 　足首上までのソックスを必ず着用すること。	第１回：オリエンテーションと用具あわせ（更衣不要ですがソックスを準備して下さい）立ち方・歩き方・とまり方 第２回：前進ひょうたん型 第３回：後進ひょうたん型 第４回：前進ツイスト 第５回：後進ツイスト 第６回：カーブと体のコントロール 第７回：片足で長く滑る 第８回：インラインホッケーの基本 第９回：インラインホッケーを楽しもう 第１０回：「後ろ向きになれよう」足の使い方 第１１回：「後ろ向きになれよう」ボディの使い方 第１２回：「後ろ向きになれよう」バックストロークのバリエーション 第１３回：「方向転換」カーブの練習 第１４回：「方向転換」スリーターン 第１５回：総合滑走

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。
テキスト、参考文献	必要に応じプリントを配布します。
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（秋）	スポーツ･レクリエーション(インラインスケート b)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目的] 　春学期から継続して受講する学生のためのクラスです。インラインスケートの技術のバリエーションを習得することを目的とします。 　秋学期からの履修者は、春学期の基本動作および技術を学習します。 [講義概要] インラインスケートの技術の応用技術であるステップ、ストップ、ジャンプ等を取り入れて授業を進めます。また、インラインホッケーを積極的に行います。学生の技術達成度によって、個々の指導内容を変えていきます。	第１回：インラインホッケーの楽しみ方 第２回：パイロンテクニックその１　大きな動き 第３回：パイロンテクニックその２　小さな動き 第４回：ターン　スリーターン 第５回：ターン　モホークターン 第６回：基本的なストップ 第７回：ストップのバリエーション 第８回：ジャンプ 第９回：フォワードクロッシング　足運びの練習 第１０回：フォワードクロッシング 第１１回：バックワードクロッシングの初歩 第１２回：インラインホッケーリーグ戦　第１ 回 第１３回：インラインホッケーリーグ戦　第２ 回 第１４回：インラインホッケーリーグ戦　第３ 回 第１５回：インラインホッケーリーグ戦　第４回 インラインホッケーは、毎回授業時間後半で行います。

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。
テキスト、参考文献	必要に応じプリントを配布します。
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

（秋）	スポーツ･レクリエーション(インラインスケートb)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的]　インラインスケートについての知識､技術の習得によって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にします。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全能力とモラルが大切になるでしょう。前後方滑走、カーブ、方向転換までの技術習得を目的にします。 [講義概要]　実施場所は室内アリーナです｡インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況によって、授業計画は変えていきます。大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。 足首上までのソックスを必ず着用すること。	第１回：オリエンテーション と用具あわせ（更衣不要ですがソックスを準備して下い） 立ち方・歩き方・とまり方 第２回：前進ひょうたん型 第３回：後進ひょうたん型 第４回：前進ツイスト 第５回：後進ツイスト 第６回：カーブと体のコントロール 第７回：片足で長く滑る 第８回：インラインホッケーの基本 第９回：インラインホッケーを楽しもう 第１０回：「後ろ向きになれよう」足の使い方 第１１回：「後ろ向きになれよう」ボディの使い方 第１２回：「後ろ向きになれよう」バックストローク のバリエーション 第１３回：「方向転換」カーブの練習 第１４回：「方向転換」スリーターン 第１５回：総合滑走

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション(インラインホッケーa)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［目的］ インラインホッケーのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。 ［概要］ 色々なメンバーの組み合わせにより簡易ゲームを行う。 男子20名、女子20名を定員とする 注意：受講者の人数や運動経験により授業計画が変更になる。	1. ガイダンス 2. 写真付受講票の作成とスキルテスト 3. 個人スキル練習 4. 簡易ゲーム練習① 5. 簡易ゲーム練習② 6. 個人スキル練習 7. ゲーム（リーグ戦①） 8. ゲーム（リーグ戦②） 9. 個人スキル練習 10. ２チームでゲーム練習① 11. ２チームでゲーム練習② 12. 個人スキル練習 13. スキル別ゲーム① 14. スキル別ゲーム② 15. テスト

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト、参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

（秋）	スポーツ・レクリエーション(ウェルネス入門 b)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことである。授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的とする。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽にからだを動かすことのできる方法を学び、実践する。運動の強度は軽～中程度とし、運動やスポーツが苦手でも十分取り組める内容で構成している。主にトレーニングルームで行う。 〔受講生への要望〕 各自、室内用のシューズを必ず用意し、運動にふさわしい服装で参加すること。水分補給をこまめに行うようにすること。	1. ガイダンス 2. 自分の「からだ」をチェックしよう 3. 自分の『ウェルネス』について考えてみよう 4. からだをほぐしてリラックス（ストレッチ） 5. バランスボールを使ったエクササイズ① 6. バランスボールを使ったエクササイズ② 7. ヨガの基本ポーズ① 8. ヨガの基本ポーズ② 9. ヨガの基本ポーズ③ 10. ステップエクササイズ（基本編） 11. ステップエクササイズ（応用編） 12. 自分の体重を使って筋力アップ 13. 有酸素運動を理解しよう 14. からだを温めよう 15. 秋学期のまとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	日々の自身の体調をチェックし、授業内で学んだ健康管理の方法を実践するように努めること
テキスト、参考文献	特になし（必要に応じてプリント等を配布する）
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、健康管理方法の理解度（20%）

（春）	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a) _火 2、火 3	担当者	重藤　誠市郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 生涯スポーツとして硬式テニスを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。 【講義概要】 基本的な技術の練習を行い、全体のスキルアップを目指す。初心者から中上級者までレベルに差がある場合は、上級者が初心者をサポートする形をとる場合もある。 授業前半に基本的なスキルやルールを身につけ、後半はダブルスのゲームを中心とした授業展開をしていく。ただし、毎回の授業の最後にはゲーム形式のメニューを行う。 授業終盤には技術の習熟度を測る実技テストを行う。	1.ガイダンス 2.写真付受講票の作成とアイスブレーク 3.フォアハンドストロークの基本 4.フォアハンドストローク（ドライブ、スライス） 5.バックハンドストロークの基本 6.バックハンドストローク（ドライブ、スライス） 7.サービス＆レシーブ 8.ボレー＆スマッシュ 9.サーブ＆ボレー 10.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5 分ローテ） 11.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5 分ローテ） 12.ダブルスゲーム（3 ゲームマッチ） 13.ダブルスゲーム（5 ゲームマッチ） 14.実技テスト　ダブルスゲーム（1 セットマッチ） 15.実技テスト（予備日）ダブルスゲーム（1セットマッチ）

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	健康的な生活に心がけ、体調を整えて授業に備える。 マッサージやストレッチによる体のケアを行い、疲れを残さないようにする。
テキスト、参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b) _火 2、火 3	担当者	重藤　誠市郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 生涯スポーツとして硬式テニスを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。 【講義概要】 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になるため、秋学期からの履修者には原則として、全くの未経験者ではないことが条件となる。 試合を有利に進めるための戦術やスキルを学び、円滑に進めるためにルールやマナーを理解する。 授業終盤に技術の習熟度を測る実技テストとグループワークを行う。	1.ガイダンス及び実技 2.写真付受講票の作成とアイスブレーク 3.回り込みフォアハンド 4.アングルショット 5.ポーチ、ローボレー 6.スピンサービス、フラットサービス 7.ダブルス雁行陣 8.ダブルス平行陣 9.ダブルスチャンピオンシップゲーム（3 ゲームマッチ） 10.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5 ゲームマッチ） 11.実技テスト、グループワーク① 12.実技テスト（予備日）、グループワーク② 13.グループワーク③ 14.グループワーク④、グループ対抗戦 15.総括

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	健康的な生活に心がけ、体調を整えて授業に備える。 マッサージやストレッチによる体のケアを行い、疲れを残さないようにする。
テキスト、参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。	1　オリエンテーション 2　体慣らし 3　サービス、ストローク、ボレー等の練習 4　ルールの確認 5　ルールの確認 6　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 7　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 8　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 9　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 10　技術練習 11　技術練習 12　技術練習 13　シングルス、ダブルスのゲーム 14　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 15　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	種目のルール、戦術の理解が必要。　授業の終わりごとに自己評価を提出する。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組む姿勢５０％、レポートの内容３０％、技能の向上２０％で評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。	1　オリエンテーション 2　体慣らし 3　サービス、ストローク、ボレー等の練習 4　ルールの確認 5　ルールの確認 6　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 7　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 8　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 9　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 10　技術練習 11　技術練習 12　技術練習 13　シングルス、ダブルスのゲーム 14　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 15　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	種目のルール、戦術の理解が必要。　授業の終わりごとに自己評価を提出する。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組む姿勢５０％、レポートの内容３０％、技能の向上２０％で評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a) _水 1、金 1	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 硬式テニスのスキルを理解し、獲得することを第１の目的とする。 次にダブルスのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上とを図ることを第２の目的とする。 [概要] 基本的には、初心者から中級レベルが 4 面にわかれて練習を行う。 授業前半は基本スキル練習、後半はダブルスゲーム形式で応用スキルの練習を色々なグループにより行う。 受講者の人数などの様子により授業内容が変更される可能性がある。	1. ガイダンス 2. 写真付受講票の作成とスキルテスト 3. フォアハンドストローク 4. バックハンドストローク 5. ボレー＆スマッシュ 6. サービス＆レシーブ 7. サービス＆レシーブ＆クロスラリー 8. ダブルスゲーム① 9. ダブルスゲーム② 10. ダブルスゲーム③ 11. ダブルスゲーム④ 12. ダブルスゲーム⑤ 13. ダブルスゲーム⑥ 14. ダブルスゲーム⑦ 15. テスト

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト、参考文献	適宜配布する。
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b) _水 1、金 1	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 硬式テニスのシングルス・ダブルスゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。 [概要] 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になる。 色々な組み合わせによりゲームを行う。	1. 実技とガイダンス 2. 写真付受講票作成とスキルテスト 3. シングルスゲーム① 4. シングルスゲーム② 5. ダブルスゲーム① 6. ダブルスゲーム② 7. ダブルスゲーム③ 8. ダブルスゲーム④ 9. ダブルスゲーム⑤ 10. ダブルスゲーム⑥ 11. ダブルスゲーム⑦ 12. ダブルスゲーム⑧ 13. ダブルスゲーム⑨ 14. ダブルスゲーム⑩ 15. テスト

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト、参考文献	適宜配布する。
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ a) _金 1、金 2	担当者	小笠原　慶太

講義目的、講義概要	授業計画
ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。授業では、ショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやマナーについても細かく説明をし、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。 他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。 【受講者へ】 民間のゴルフ練習場を使用するため、お金が掛かります。春学期は、登録時にあらかじめ10,000円（入場料、ボール代）を徴収させていただきます。また危険防止の為、練習中のグローブ着用を義務付けます。	1. オリエンテーション 2. 学内にてスウィング作り 3. 学内にてスウィング作り 4. 学内にて実習（ショートアイアンのミニゲーム） 5. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 6. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 7. ゴルフ練習場にて実習(50ヤード以内のアプローチ) 8. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン） 9. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン） 10. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン） 11. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン） 12. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイウッド） 13. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイウッド） 14. ゴルフ練習場にて実技テスト） 15. 学内にてルール学習

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ゴルフの動画をみるなど、イメージトレーニングをして下さい。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	実技テスト 20%、技術の向上度 20%、授業態度及び貢献度 60%で評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ b) _金 1、金 2	担当者	小笠原　慶太

講義目的、講義概要	授業計画
ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。授業では、ショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやマナーについても細かく説明をし、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。 他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。 【受講者へ】 民間のゴルフ練習場を使用するため、お金が掛かります。秋学期は、登録時にあらかじめ10,000円（入場料、ボール代）を徴収させていただきます。また危険防止の為、練習中のグローブ着用を義務付けます。	1. 学内にてスウィング作り 2. 学内にてスウィング作り 3. 学内にて実習（ショートアイアンのミニゲーム） 4. 学内にて実習（ショートアイアンのミニゲーム） 5. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 6. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 7. ゴルフ練習場にて実習(50ヤード以内のアプローチ) 8. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン） 9. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン） 10. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン） 11. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン） 12. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイウッド） 13. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイウッド） 14. ゴルフ練習場にて実技テスト 15. 学内にてルール学習

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ゴルフの動画をみるなど、イメージトレーニングをして下さい。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	実技テスト 20%、技術の向上度 20%、授業態度及び貢献度 60%で評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニング a)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 良いパフォーマンスを得る為の準備として、ひとりひとりが自分の身体の状況に関心を持ち理解すること、身体の良いコンディションを理解し整えること、疲労を軽減すること、身体の動きを良くすることを目的とする。 [概要] 良い姿勢とは何か、良いポジションとは何か、について色々な角度から考えてみる。 学生センター2 階のトレーニングルームを使用して授業を行い、受講は男子学生のみとする。 毎回、授業前半は二人組によるお互いの身体の調整を行う。授業後半は個人の目標に応じてトレーニングメニューを考えて実行し自己評価する。	1. 授業ガイダンス 2. 写真付登録票の作成 3. 現在のコンディションの評価 4. 二人組骨盤調整と姿勢①＆個別トレーニング 5. 二人組骨盤調整と姿勢②＆個別トレーニング 6. 二人組骨盤調整と姿勢③＆個別トレーニング 7. 二人組操体法①＆個別トレーニング 8. 二人組操体法②＆個別トレーニング 9. 二人組操体法③＆個別トレーニング 10. 身体の動きとコンディション① 11. 身体の動きとコンディション② 12. 身体の動きとコンディション③ 13. 骨格の位置と動き① 14. 骨格の位置と動き② 15. 自己のコンディションの評価

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト、参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニング b)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 良いパフォーマンスを得る為の準備として、ひとりひとりが自分の身体の状況に関心を持ち理解すること、身体の良いコンディションを理解し整えること、疲労を軽減すること、身体の動きを良くすることを目的とする。 [概要] 良い姿勢とは何か、良いポジションとは何か、について色々な角度から考えてみる。 学生センター2 階のトレーニングルームを使用して授業を行い、受講は女子学生のみとする。 毎回、授業前半は二人組によるお互いの身体の調整を行う。授業後半は個人の目標に応じてトレーニングメニューを考えて実行し自己評価する。	1. 授業ガイダンス 2. 写真付登録票の作成 3. 現在のコンディションの評価 4. 二人組骨盤調整と姿勢①＆個別トレーニング 5. 二人組骨盤調整と姿勢②＆個別トレーニング 6. 二人組骨盤調整と姿勢③＆個別トレーニング 7. 二人組操体法①＆個別トレーニング 8. 二人組操体法②＆個別トレーニング 9. 二人組操体法③＆個別トレーニング 10. 身体の動きとコンディション① 11. 身体の動きとコンディション② 12. 身体の動きとコンディション③ 13. 骨格の位置と動き① 14. 骨格の位置と動き② 15. 自己のコンディションの評価

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト、参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション（コンディショントレーニング a）	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
コンディショントレーニングをするにあたって、 まずは自分自身の体についてよく理解をし、自分の体力の現状やコンディションを把握します。 次に、自分自身の目標を各自設定します。 その目標に向かってトレーニングをしていく中で、 トレーング機器の正しい使用法を理解し、安全にトレーニングを行うことができる能力を身につけます。 そして、正しいトレーニング法を身につけ、より効果的なトレーニングを行える能力を養うことを目的とします。 受講は女子学生のみとします。	1.　ガイダンス 2.　トレーニングの基礎知識 3.　トレーニング機器の使い方 4.　ストレッチ、自重トレーニングの実際 5.　トレーニング① 6.　トレーニング② 7.　トレーニング③ 8.　トレーニング④ 9.　トレーニング⑤ 10.　体の動きとコンディション① 11.　体の動きとコンディション② 12.　体の動きとコンディション③ 13.　体の動きとコンディション④ 14.　体の動きとコンディション⑤ 15.　まとめと評価

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしてくること
テキスト、参考文献	授業中に適宜紹介します
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60%） 積極性、実践力（20%）協調性（20%）

（秋）	スポーツ・レクリエーションスポレク（コンディショントレーニング b）	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
コンディショントレーニングをするにあたって、 まずは自分自身の体についてよく理解をし、自分の体力の現状やコンディションを把握します。 次に、自分自身の目標を各自設定します。 その目標に向かってトレーニングをしていく中で、 トレーング機器の正しい使用法を理解し、安全にトレーニングを行うことができる能力を身につけます。 そして、正しいトレーニング法を身につけ、より効果的なトレーニングを行える能力を養うことを目的とします。 受講は女子学生のみとします。	1.　ガイダンス 2.　トレーニングの基礎知識 3.　トレーニング機器の使い方 4.　ストレッチ、自重トレーニングの実際 5.　トレーニング① 6.　トレーニング② 7.　トレーニング③ 8.　トレーニング④ 9.　トレーニング⑤ 10.　体の動きとコンディション① 11.　体の動きとコンディション② 12.　体の動きとコンディション③ 13.　体の動きとコンディション④ 14.　体の動きとコンディション⑤ 15.　まとめと評価

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしてくること
テキスト、参考文献	授業中に適宜紹介します
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60%） 積極性、実践力（20%）協調性（20%）

（春）	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 1．好きなサッカーを定期的に楽しく実践することによって、運動習慣を身に付けるきっかけにする。 2．サッカーの戦術を理解し、その戦術を自ら意図してプレーできるようになる。 【講義の概要】 授業では、サッカーの攻撃についてテーマを設定しています。各テーマに沿ったウォーミングアップ、技術戦術トレーニングを30分程度行い、その後ゲームを実践します。 天候等によりグランドが使用できないときには、体育館でミニサッカーを行うか、サッカーの歴史・ルールやサッカーサイエンスについて講義します。 【学生への要望】 「どんなに忙しくても、授業でサッカーはやりたい！」という皆さんが多く受講することを期待しています。	1. ガイダンス 2. 「楽しくプレーする」を考える① 3. 「楽しくプレーする」を考える② 4. 「シンプルにプレーする」を考える① 5. 「シンプルにプレーする」を考える② 6. 「プレーへの関わり」を増やす① 7. 「プレーへの関わり」を増やす② 8. 攻撃に人数をかける① 9. 攻撃に人数をかける② 10. 動きながらボールを受ける① 11. 動きながらボールを受ける② 12. 1 つ 2 つ先のプレーを考える① 13. 1 つ 2 つ先のプレーを考える② 14. 一人で守備はできない① 15. 一人で守備はできない②

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	サッカーのプレータイルや専門用語を事前に理解しておくことが望ましい。ポゼッションサッカー、カウンターサッカー、連動する、前から守備をするなどです。
テキスト、参考文献	なし
評価方法	トレーニングや試合へ積極的に取り組む姿勢を重要視します。また、他者への思いやりのある姿勢・プレーを求めます。遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 1．好きなサッカーを定期的に楽しく実践することによって、運動習慣を身に付けるきっかけにする。 2．サッカーの戦術を理解し、その戦術を自ら意図してプレーできるようになる。 【講義の概要】 授業では、サッカーの攻撃についてテーマを設定しています。各テーマに沿ったウォーミングアップ、技術戦術トレーニングを30分程度行い、その後ゲームを実践します。 天候等によりグランドが使用できないときには、体育館でミニサッカーを行うか、サッカーの歴史・ルールやサッカーサイエンスについて講義します。 【学生への要望】 「どんなに忙しくても、授業でサッカーはやりたい！」という皆さんが多く受講することを期待しています。	1. ガイダンス 2. 「楽しくプレーする」を考える① 3. 「楽しくプレーする」を考える② 4. 「シンプルにプレーする」を考える① 5. 「シンプルにプレーする」を考える② 6. 「プレーへの関わり」を増やす① 7. 「プレーへの関わり」を増やす② 8. 攻撃に人数をかける① 9. 攻撃に人数をかける② 10. 動きながらボールを受ける① 11. 動きながらボールを受ける② 12. 1 つ 2 つ先のプレーを考える① 13. 1 つ 2 つ先のプレーを考える② 14. 一人で守備はできない① 15. 一人で守備はできない②

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	サッカーのプレータイルや専門用語を事前に理解しておくことが望ましい。ポゼッションサッカー、カウンターサッカー、連動する、前から守備をするなどです。
テキスト、参考文献	なし
評価方法	トレーニングや試合へ積極的に取り組む姿勢を重要視します。また、他者への思いやりのある姿勢・プレーを求めます。遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。

（春）	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	原仲　碧

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ １．サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しくサッカーに関われるための知識や技能の習得。 ２．サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 ［講義概要］ 受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。 ［受講生への要望］ サッカーをより楽しみたいという学生の受講を願います。	1. ガイダンス 2. 観る（何を）トレーニング① 3. 観る（いつ）トレーニング② 4. ボールを運ぶ技術①（ボールフィーリング、ドリブル） 5. ボールを運ぶ技術②（スクリーン、ターン） 6. ボールを飛ばす技術①（パス、シュート） 7. ボールを飛ばす技術②（ドリブル or パス or シュート） 8. ボールを受ける技術①（コントロール） 9. ボールを受ける技術②（どこで受けるか） 10. ボールを奪う技術①（on the ball の守備） 11. ボールを奪う技術②（off the ball の守備） 12. オーガナイズを考える①（どうすれば全員楽しめる） 13. オーガナイズを考える②（リーグ戦を運営しよう） 14. リーグ戦第１節、第２節 15. リーグ戦第３節、第４節

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	実践力（50%）、授業への取組む姿勢（40%）、授業への貢献度（10%）を総合して評価する。欠席が３回を越えた者は評価の対象としない。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	担当者	原仲　碧

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ １．サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しくサッカーに関われるための知識や技能の習得。 ２．サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 ［講義概要］ 受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。 ［受講生への要望］ サッカーをより楽しみたいという学生の受講を願います。	1. ガイダンス 2. 基本技術の復習① 3. 基本技術の復習② 4. 攻撃のグループ戦術① 5. 攻撃のグループ戦術② 6. 守備のグループ戦術① 7. 守備のグループ戦術② 8. 攻撃しながら守備を考える 9. 守備しながら攻撃を考える 10. リーグ戦① 11. リーグ戦② 12. リーグ戦③ 13. リーグ戦④ 14. リーグ戦⑤ 15. 決勝トーナメント

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。
テキスト、参考文献	特になし。
評価方法	実践力（50%）、授業への取組む姿勢（40%）、授業への貢献度（10%）を総合して評価する。欠席が３回を越えた者は評価の対象としない。

（春）	スポーツ・レクリエーション (スポーツ型デトックス a)_金 1、金 2	担当者	齋藤　初恵

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、さまざまな運動を行うことにより身体の機能の調整を行い、代謝機能を高めるとともに老廃物をスムーズに排泄できる身体づくり、つまりデトックスしやすい身体づくりを目指します。また、この授業で行う運動は、いずれも自分自身の心身と向きあったり、楽しんで行うことが目的です。この授業を通して自分に合った運動を見つけられたら、ぜひ自分自身の生活の中に取り入れていって欲しいと思います。 ○　コアコンディショニング：ストレッチポールで本来の正しい姿勢へと身体を調整します。また、簡単な運動で体幹部の筋肉を鍛えます。 ○　骨盤調整エクササイズ：骨盤をゆるめ→整える運動を行うことで、身体の歪みの調整を目指します。 ○　ベーシックヨーガ：深い呼吸とポーズを組み合わせることにより、心と身体を調和させ、心身のリフレッシュを行います。	1　スポーツ型デトックスについて 　　コアコンディショニング① 2　コアコンディショニング② 3　コアコンディショニング③ 4　コアコンディショニング④ 5　コアコンディショニング⑤ 6　骨盤調整エクササイズ① 7　骨盤調整エクササイズ② 8　骨盤調整エクササイズ③ 9　骨盤調整エクササイズ④ 10　骨盤調整エクササイズ⑤ 11　ベーシックヨーガ① 12　ベーシックヨーガ② 13　ベーシックヨーガ③ 14　ベーシックヨーガ④ 15　ベーシックヨーガ⑤

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	実技で行った内容を、自宅でも実践してみてください。
テキスト、参考文献	なし
評価方法	平常点（90%）、授業への参加態度（10%）により評価します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション (スポーツ型デトックス b)_金 1、金 2	担当者	齋藤　初恵

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、さまざまな運動を通して身体機能の調整や、代謝機能の向上を目指します。授業で行う運動は、春学期の内容をベースとしながら少しレベルアップして行きますが、秋学期から新たに履修しても十分ついて行ける内容となっています。 自分のペースで行うことが可能な運動ばかりなので、今まであまり運動をしてこなかった人にとっては運動を始めるきっかけとして、普段から積極的に運動を行っている人にとっては心身のメンテナンスとして、この授業を活用してほしいと思います。	1　スポーツ型デトックスについて 　　コアコンディショニング＆トレーニング① 2　コアコンディショニング＆トレーニング② 3　コアコンディショニング＆トレーニング③ 4　コアコンディショニング＆トレーニング④ 5　コアコンディショニング＆トレーニング⑤ 6　骨盤調整エクササイズ① 7　骨盤調整エクササイズ② 8　骨盤調整エクササイズ③ 9　骨盤調整エクササイズ④ 10　骨盤調整エクササイズ⑤ 11　パワーヨーガ① 12　パワーヨーガ② 13　パワーヨーガ③ 14　パワーヨーガ④ 15　パワーヨーガ⑤

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	実技で行った内容を、自宅でも実践してみてください。
テキスト、参考文献	なし
評価方法	平常点（90%）、授業への参加態度（10%）により評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール a) _木１、木２	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1．オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など 2．ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明 個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3．前回の復習　ゲームの実施 4．バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング）　リーグ戦 5．前回の復習。リーグ戦 6．リーグ戦 7．守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習　リーグ戦 8．前回の復習　リーグ戦 9～15．リーグ戦

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	（事前）ルール、送球、捕球、バッティングなど基本的なことに目を通しておく。 （事後）予習しておいたことと、授業での実践が的確に行われたか確認する。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	授業態度、取り組み、技術の向上などを総合して評価する。欠席３回を越えた者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール b) _木１、木２	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1．オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など 2．ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明 個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3．前回の復習　ゲームの実施 4．バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング）　リーグ戦 5．前回の復習。リーグ戦 6．リーグ戦 7．守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習　リーグ戦 8．前回の復習　リーグ戦 9～15．リーグ戦

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	（事前）ルール、送球、捕球、バッティングなど基本的なことに目を通しておく。 （事後）予習しておいたことと、授業での実践が的確に行われたか確認する。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	授業態度、取り組み、技術の向上などを総合して評価する。欠席３回を越えた者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

（秋）	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	今野　廣隆

講義目的、講義概要	授業計画
目的］ 　敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 ［概要］ 　基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。	1.　オリエンテーション 2.　実技授業の開始（用具の準備と片付け方法） 3.　ボールの打ち方・スイングの基本 4.　サーブ・レシーブの練習（簡易ゲーム） 5.　フォアハンド・バックハンドの練習（簡易のゲーム） 6.　上記の復習 7.　カット・スマッシュの練習（シングルスゲーム） 8.　グループ内でのシングルスリーグ戦 9.　同上 10.　同上 11.　各グループでのダブルスリーグ戦 12.　同上 13.　シングルス・ダブルスによる団体戦 14.　同上 15.　技能テスト

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	日頃から体調管理をして、卓球のルールを理解するようにする。又、毎回の実技内容とノートにまとめておくようにする。
テキスト、参考文献	適宜資料を配布する。
評価方法	平常点を中心に評価し、授業に臨む態度、実技の達成度等を加味する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2. 用具の準備と片づけ方 基本知識（ラケットの種類、持ち方、基本姿勢） 3. ボールの打ち方、スイングの基本 4. フォアハンド、バックハンドの練習 5. サービス、レシーブの練習　簡易ゲーム 6. これまでの復習 7. カット、スマッシュ 8. 審判法とゲームの進め方　シングルスゲーム 9. シングルスゲーム 10. シングルスゲーム 11. ダブルスゲームの進め方 12. ダブルスゲーム 13. ダブルスゲーム 14. まとめ①（シングルスゲーム） 15. まとめ②（ダブルスゲーム）

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：卓球に関するルールや映像を見て、学習しておくこと。 事後学修：生活の中で、今後も卓球に触れる機会を作る姿勢を持つこと。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	評価方法：平常点 80%、授業への参加姿勢 20%にて評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(卓球ｂ)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1. 復習　基本練習 2. 復習　基本練習 3. シングルスゲーム 4. シングルスゲーム・リーグ戦 5. シングルスゲーム・リーグ戦 6. ダブルスゲーム 7. ダブルスゲーム・リーグ戦 8. ダブルスゲーム・リーグ戦 9. シングルス・トーナメント戦 10. ダブルス・トーナメント戦 11. ミックスダブルス 12. ミックスダブルス・リーグ戦 13. チーム対抗戦（シングルスゲーム・ダブルスゲーム） 14. チーム対抗戦（シングルスゲーム・ダブルスゲーム・ミックスダブルス） 15. 総まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：卓球に関するルールや映像を見て、学習しておくこと。 事後学修：生活の中で、今後も卓球に触れる機会を作る姿勢を持つこと。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	評価方法：平常点 80%、授業への参加姿勢 20%にて評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは、健康や体力の維持増進にとって欠かせないものであり、それを継続させるためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 　また、様々なスポーツを行うことによって自分のことを深く知り、周りを見ることもでき、コミュニケーション能力も養えるようになります。 　ここでは、卓球という種目を通して、技術の習得やルール、マナーを理解するだけでなく、上記のような目標を達成することを目的としています。	1. ガイダンス 2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れる（ボール遊び） 3. 構え、スイングの練習（フォアハンド、バックハンド） 4. 試しのゲーム （ルールの習得） 5. シングルスゲーム 6. シングルス・リーグ戦 7. シングルス・リーグ戦 8. シングルス・リーグ戦 9. ダブルスゲーム（ルールの習得） 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしてくること
テキスト、参考文献	必要に応じて紹介します
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60%） 積極性、実践力（20%）協調性（20%）

（秋）	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは、健康や体力の維持増進にとって欠かせないものであり、それを継続させるためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 　また、様々なスポーツを行うことによって自分のことを深く知り、周りを見ることもでき、コミュニケーション能力も養えるようになります。 　ここでは、卓球という種目を通して、技術の習得やルール、マナーを理解するだけでなく、上記のような目標を達成することを目的としています。	1. ガイダンス 2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れる（ボール遊び） 3. 構え、スイングの練習（フォアハンド、バックハンド） 4. 試しのゲーム （ルールの習得） 5. シングルスゲーム 6. シングルス・リーグ戦 7. シングルス・リーグ戦 8. シングルス・リーグ戦 9. ダブルスゲーム（ルールの習得） 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしてくること
テキスト、参考文献	必要に応じて紹介します
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60%） 積極性、実践力（20%）協調性（20%）

（春）	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 a)	担当者	今野　廣隆

講義目的、講義概要	授業計画
〔目的〕トレーニングの目的は多岐にわたる。例えば、健康維持・増進のため、競技スポーツにおけるパフォーマンス向上のため、さらにはリハビリテーションとしてのトレーニングなどがある。この授業では、各個人の目標（目的）を達成するためのトレーニング理論と実践を学習する。 〔概要〕授業毎にヘルスチェックと十分な W-up を実施し実技を中心に展開する。具体的にはウォーミングアップの理論から始まり、ストレングストレーニング、腰痛及び頸肩腕症候群の予防・改善の為のトレーニング（背そらし、背のばしの運動）、サーキットトレーニング、そして有酸素トレーニング等に関する理論を紹介する。さらには、自らがトレーニングプログラムを作成し、生涯にわたって健康的な生活を営むことができる知識の獲得を狙う。	1. オリエンテーション 2. フィットネスチェック① 3. トレーニングプログラムの作成 4. ウォーミングアップの目的と方法 5. 有酸素トレーニングの目的と方法 6. ウェイトトレーニング（上半身） 7. ウェイトトレーニング（下半身） 8. 道具を使わない筋力トレーニング 9. 体幹筋のトレーニング（背そらし、背のばしの運動） 10. 同上 11. 同上 12. サーキットトレーニングの実際 13. 同上 14. 競技力向上を目的としたトレーニング 15. フィットネスチェック②

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	日頃から体調と健康管理をしてベストコンディションで授業に望み、毎回の実施内容と課題をまとめておくようにする。
テキスト、参考文献	適宜資料を配布する。
評価方法	平常点、授業への参加度・貢献度を担当者の観察によって総合的に評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)	担当者	今野　廣隆

講義目的、講義概要	授業計画
〔目的〕トレーニングの目的は多岐にわたる。例えば、健康維持・増進のため、競技スポーツにおけるパフォーマンス向上のため、さらにはリハビリテーションとしてのトレーニングなどがある。この授業では、各個人の目標（目的）を達成するためのトレーニング理論と実践を学習する。 〔概要〕トレーニング入門 a と同じ内容で実施する。授業毎にヘルスチェックと十分な W-up を実施し実技を中心に展開する。具体的にはウォーミングアップの理論から始まり、ストレングストレーニング、腰痛及び頸肩腕症候群の予防・改善の為のトレーニング（背そらし、背のばしの運動）、サーキットトレーニング、そして有酸素トレーニング等に関する理論を紹介する。さらには、自らがトレーニングプログラムを作成し、生涯にわたって健康的な生活を営むことができる知識の獲得を狙う。	1. オリエンテーション 2. フィットネスチェック① 3. トレーニングプログラムの作成 4. ウォーミングアップの目的と方法 5. 有酸素トレーニングの目的と方法 6. ウェイトトレーニング（上半身） 7. ウェイトトレーニング（下半身） 8. 道具を使わない筋力トレーニング 9. 体幹筋のトレーニング（背そらし、背のばしの運動） 10. 同上 11. 同上 12. サーキットトレーニングの実際 13. 同上 14. 競技力向上を目的としたトレーニング 15. フィットネスチェック②

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	日頃から体調と健康管理をしてベストコンディションで授業に望み、毎回の実施内容と課題をまとめておくようにする。
テキスト、参考文献	適宜資料を配布する。
評価方法	平常点、授業への参加度・貢献度を担当者の観察によって総合的に評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 a)	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングプログラムで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。 【講義の概要】筋力トレーニング、体幹トレーニング、有酸素性トレーニングの代表的な種目を選びトレーニンを実践します。まず第2週目の授業でトレーニング前の身体組成を計測し、各自の目標を設定しトレーニングプログラムを作成します。その後、毎週各自のプログラムに従ってトレーニングを継続し、第15週目の授業でトレーニング後の身体組成を計測し、トレーニングの成果を評価します。各種トレーニングの効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康つくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこないます。 【学生への要望】トレーニングルーム用のシューズと運動に相応しいウエアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることがあることを承知してください。	1. ガイダンス 2. トレーニング前計測・講義① 3. トレーニング① 4. トレーニング② 5. トレーニング③ 6. トレーニング④ 7. トレーニング⑤ 8. トレーニング⑥・講義② 9. トレーニング⑦ 10. トレーニング⑧ 11. トレーニング⑨ 12. トレーニング⑩ 13. トレーニング⑪ 14. トレーニング⑫ 15. トレーニング後計測とまとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	「肥満と疾病」、「運動習慣と健康づくり」などに関連する書籍を読んでおくと、トレーニングに対する意欲が高まります。
テキスト、参考文献	なし
評価方法	トレーニングへの取り組む姿勢を重要視します。遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングプログラムで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。 【講義の概要】筋力トレーニング、体幹トレーニング、有酸素性トレーニングの代表的な種目を選びトレーニンを実践します。まず第2週目の授業でトレーニング前の身体組成を計測し、各自の目標を設定しトレーニングプログラムを作成します。その後、毎週各自のプログラムに従ってトレーニングを継続し、第15週目の授業でトレーニング後の身体組成を計測し、トレーニングの成果を評価します。各種トレーニングの効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康つくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこないます。 【学生への要望】トレーニングルーム用のシューズと運動に相応しいウエアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることがあることを承知してください。	1. ガイダンス 2. トレーニング前計測・講義① 3. トレーニング① 4. トレーニング② 5. トレーニング③ 6. トレーニング④ 7. トレーニング⑤ 8. トレーニング⑥・講義② 9. トレーニング⑦ 10. トレーニング⑧ 11. トレーニング⑨ 12. トレーニング⑩ 13. トレーニング⑪ 14. トレーニング⑫ 15. トレーニング後計測とまとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	「肥満と疾病」、「運動習慣と健康づくり」などに関連する書籍を読んでおくと、トレーニングに対する意欲が高まります。
テキスト、参考文献	なし
評価方法	トレーニングへの取り組む姿勢を重要視します。遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

（秋）	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
トレーニングの目的は多岐にわたる。例えば、健康維持・増進のため、競技スポーツにおけるパフォーマンス向上のため、さらにはリハビリテーションとしてトレーニングは目的化される。この授業では、各個人の目標（目的）を達成するためのトレーニング理論と実践を学習する。 授業最初に理論的な説明を行ってから、実技を中心に展開する。具体的にはウォーミングアップの理論から始まり、ストレングストレーニング、スタビライゼーショントレーニング、コーディネーショントレーニング、アジリティートレーニング、サーキットトレーニング、そして有酸素トレーニング等に関する理論を紹介する。さらには、自らがトレーニングプログラムを作成し、生涯にわたって健康的な生活を営むことができる知識の獲得を狙う。 初回の「1.オリエンテーション」において「トレーニングルーム利用者初級講習会」と同内容の講義を行う。この回を受けることによって同講習会を受講したことになる。	1.オリエンテーション（トレーニングルーム利用者初級講習会） 2.フィットネスチェック① 3.トレーニングプログラムの作成 4.ウォーミングアップの目的と方法 5.有酸素トレーニングの目的と方法 6.ウェイトトレーニング（上半身） 7.ウェイトトレーニング（下半身） 8.道具を使わない筋力トレーニング 9.スタビライゼーショントレーニングの実際 10.コーディネーショントレーニングの実際 11.アジリティートレーニングの実際 12.サーキットトレーニングの実際 13.プライオメトリックトレーニングの実際 14.競技力向上を目的としたトレーニング 15.フィットネスチェック②

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。 トレーニング後の体には栄養と休養が必要である。積極的な休養と栄養摂取を心がけること。
テキスト、参考文献	授業中に適宜配布する。
評価方法	授業への参加度・貢献度 60%、トレーニング記録作成 20%、小テスト 20%

（春）	スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツ a)	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
1. 世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。 2. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。 [受講者への要望] スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし･Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。	1．イントロダクション（各種スポーツの紹介・説明） 2．Flying Disc（フリスビー）を使った競技、投法練習 3．　〃　個人種目　アキュラシー (的通し競技)ほか 4．　〃　集団ゲーム　アルティメット 5．　〃　ディスクゴルフ　ラウンド 6．ターゲットバードゴルフ　技術練習 7，8．　〃　ラウンド 9．ペタンク 10. インディアカ 11. フリーテニス 12. ユニバーサルホッケー 13. ソフトバレーボール 14. キンボール 15. まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	種目の特殊性・技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。
評価方法	技術 20%、理解 20%、態度 20%、平常点 40%で評価します。理解はルールの把握の様子を観察したり、内省報告等で評価します。技術・態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツ b)	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
1. 世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。 2. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。 [受講者への要望] スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし･Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。	1．イントロダクション（各種スポーツの紹介・説明） 2．Flying Disc（フリスビー）を使った競技、投法練習 3．　〃　個人種目　アキュラシー (的通し競技)ほか 4．　〃　集団ゲーム　アルティメット 5．　〃　ディスクゴルフ　ラウンド 6．ターゲットバードゴルフ　技術練習 7，8．　〃　ラウンド 9．ペタンク 10. インディアカ 11. フリーテニス 12. ユニバーサルホッケー 13. ソフトバレーボール 14. キンボール 15. まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	種目の特殊性・技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。
評価方法	技術 20%、理解 20%、態度 20%、平常点 40%で評価します。理解はルールの把握の様子を観察したり、内省報告等で評価します。技術・態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール a) _月 1、月 2	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つでありプロリーグの発足などさらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールの理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点“遊び”を踏まえながらチームスポーツとしての競技特性を体系的に理解しバスケットボールの楽しさを知る。バスケットボールの技術・戦術の習得はもちろん、指導法、審判法などの習得も目指す。授業は初心者・初級者の基本的技術習得を中心に行うが、ゲームを通じての実践的な技術向上を目指すためにも早い段階からゲームを行っていく。具体的には、個人技能の習得に重点を置いたプログラムによって、その日の課題を明確にし、段階的に高度な集団技能へと発展していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。	1.オリエンテーション 2.ゲームの特性・ルールの理解 3.オフェンス・ファンダメンタル①（ボールハンドリング） 4.オフェンス・ファンダメンタル②（シュート） 5.オフェンス・ファンダメンタル③（ドリブル） 6.オフェンス・ファンダメンタル④（パス） 7.チーム・オフェンス①（パス及びドリブルからの展開） 8.チーム・オフェンス②（ハーフコート２ON２、３ON３ブレイクダウン） 9.チーム・オフェンス③（ファストブレイク） 10.ディフェンス・ファンダメンタル①（オンボールディフェンス） 11.ディフェンス・ファンダメンタル②（オフボールディフェンス） 12.チーム・ディフェンス①（シェル・ディフェンス） 13.リーグ編成とイベントマネジメント 14.リーグ戦 15.リーグ戦

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。 試合貢献度を自己評価する。自己評価を基に次回目標を立てる。
テキスト、参考文献	授業中に適宜配布する。
評価方法	授業への参加度・貢献度 60%、試合貢献度自己評価 20%、ルール・テスト 20%

（秋）	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール b) _月 1、月 2	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つでありプロリーグの発足などさらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールの理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点“遊び”を踏まえながらチームスポーツとしての競技特性を体系的に理解しバスケットボールの楽しさを知る。バスケットボールの技術・戦術の習得はもちろん、指導法、審判法などの習得も目指す。授業は初心者・初級者の基本的技術習得を中心に行うが、ゲームを通じての実践的な技術向上を目指すためにも早い段階からゲームを行っていく。具体的には、個人技能の習得に重点を置いたプログラムによって、その日の課題を明確にし、段階的に高度な集団技能へと発展していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。	1.オリエンテーション 2.オフェンス／ディフェンス・ファンダメンタルの確認① 3.オフェンス／ディフェンス・ファンダメンタルの確認② 4.パッシング・ゲーム① 5.パッシング・ゲーム② 6.アーリー・オフェンス① 7.アーリー・オフェンス② 8.モーション・オフェンス① 9.モーション・オフェンス② 10.チーム・ディフェンス① 11.チーム・ディフェンス② 12.リーグ編成とイベントマネジメント 13.リーグ戦（ゲームプランの立案） 14.リーグ戦（スカルセッションの実施） 15.リーグ戦（総括）

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。 試合貢献度を自己評価する。自己評価を基に次回目標を立てる。
テキスト、参考文献	授業中に適宜配布する。
評価方法	授業への参加度・貢献度 60%、試合貢献度自己評価 20%、ルール・テスト 20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

（秋）	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール b) _木 1、木 2	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 　バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 　秋学期はゲーム中心に進める。チームの仲間とコミュニケーションをとり、教えあい、バスケットボールのゲームを楽しみつつ、改善点などを見つけてレベルアップしていこう。 〔受講生への要望〕 　各自、体育館用のシューズを必ず用意し、バスケットボールにふさわしいウェアで参加すること。水分補給はこまめに行うようにすること。	1. ファンダメンタルの確認① 2. ファンダメンタルの確認② 3. ゲームを楽しもう（ルールの確認） 4. ゲーム 5. ゲーム 6. ゲーム 7. ゲーム 8. ゲーム（リーグ戦A①） 9. ゲーム（リーグ戦A②） 10. ゲーム（リーグ戦A③） 11. ゲーム（リーグ戦B①） 12. ゲーム（リーグ戦B②） 13. ゲーム（リーグ戦B③） 14. ゲーム（順位決定戦①） 15. ゲーム（順位決定戦②）

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ウォームアップの方法やトレーニングなどバスケットボールに必要な情報を調べ、理解を深めること
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）

（春）	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として、服装・シューズ忘れ、遅刻は認めない。	1　オリエンテーション 2　体慣らし 3　グリップ、スイング等の練習 4　ルールの確認、ドライブ、ヘアピン等の練習 5　ハイクリヤー、ドロップ等の練習 6　サービス、スマッシュ、レシーブ等の練習 7　技能テスト　基礎技能の総合的な練習 8　技能テスト　基礎技能の総合的な練習 9　技能テスト　基礎技能の総合的な練習 10　技能テスト　基礎技能の総合的な練習 11　ゲーム形式の練習 12　ゲーム形式の練習 13　シングルス、ダブルスのゲーム 14　シングルス、ダブルスのゲーム 15　シングルス、ダブルスのゲーム

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	種目のルール、戦術の理解が必要。　授業の終わりごとに自己評価を提出する。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組む姿勢５０％、レポートの内容３０％、技能の向上２０％で評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として、服装・シューズ忘れ、遅刻は認めない。	1　オリエンテーション 2　体慣らし 3　グリップ、スイング等の練習 4　ルールの確認、ドライブ、ヘアピン等の練習 5　ハイクリヤー、ドロップ等の練習 6　サービス、スマッシュ、レシーブ等の練習 7　技能テスト　基礎技能の総合的な練習 8　技能テスト　基礎技能の総合的な練習 9　技能テスト　基礎技能の総合的な練習 10　技能テスト　基礎技能の総合的な練習 11　ゲーム形式の練習 12　ゲーム形式の練習 13　シングルス、ダブルスのゲーム 14　シングルス、ダブルスのゲーム 15　シングルス、ダブルスのゲーム

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	種目のルール、戦術の理解が必要。　授業の終わりごとに自己評価を提出する。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組む姿勢５０％、レポートの内容３０％、技能の向上２０％で評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a) _水 1、水 2	担当者	藤野　和樹

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ バドミントン競技を一生涯楽しむため、専門的な技能のマスターを主の目的とし、ルールの理解、バドミントンを通じてのコミュニケーション能力を向上させていく。 ［講義概要］ 技術練習の際には、個人の技能獲得のみならず、技術指導のポイントも理解し、バドミントンの技術において深い知識を得てもらう。 授業では技術練習とゲーム練習を組み合わせ、ゲームの中で獲得した技術を試すとともに、審判法もあわせて理解し、自立してゲームを進めていけるようにする。	1. ガイダンス 2. バドミントン競技の概要解説 試しのゲーム 3. バックハンドドライブの基本練習 4. バックハンドロブの基本練習 5. 各種フットワークの基本練習 6. フォアハンドドライブの基本練習 7. オーバーヘッドストロークの基本練習 8. 様々なサーブの基本練習 9. ダブルスのゲーム(ルールの理解) 10. シングルスのゲーム(ルールの理解) 11. ダブルスの総合練習 12. シングルスの総合練習 13. 団体戦の実施 14. テスト 15. 授業全体のまとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	a）身体・健康・保健について学習し、自己の体調管理に努めること b）ルールの理解を深めるために映像を視聴すること
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	技能の向上度、ルールの理解、コミュニケーションを含めた協調性(70%)を総合的に評価するが、授業への参加度(30%)も評価対象とする。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b) _水 1、水 2	担当者	藤野　和樹

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ バドミントン競技を一生涯楽しむため、専門的な技能のマスターを主の目的とし、ルールの理解、バドミントンを通じてのコミュニケーション能力を向上させていく。 ［講義概要］ 技術練習の際には、個人の技能獲得のみならず、技術指導のポイントも理解し、バドミントンの技術において深い知識を得てもらう。 授業では技術練習とゲーム練習を組み合わせ、ゲームの中で獲得した技術を試すとともに、審判法もあわせて理解し、自立してゲームを進めていけるようにする。	1. ガイダンス 2. バドミントン競技の概要解説 試しのゲーム 3. バックハンドドライブの基本練習 4. バックハンドロブの基本練習 5. 各種フットワークの基本練習 6. フォアハンドドライブの基本練習 7. オーバーヘッドストロークの基本練習 8. 様々なサーブの基本練習 9. ダブルスのゲーム(ルールの理解) 10. シングルスのゲーム(ルールの理解) 11. ダブルスの総合練習 12. シングルスの総合練習 13. 団体戦の実施 14. テスト 15. 授業全体のまとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	a）身体・健康・保健について学習し、自己の体調管理に努めること b）ルールの理解を深めるために映像を視聴すること
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	技能の向上度、ルールの理解、コミュニケーションを含めた協調性(70%)を総合的に評価するが、授業への参加度(30%)も評価対象とする。

（春）	スポーツ・レクリエーション（バドミントン a）	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは、健康や体力の維持増進にとって欠かせないものであり、それを継続させるためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 　また、様々なスポーツを行うことによって自分のことを深く知り、周りを見ることもでき、コミュニケーション能力も養えるようになります。 　ここでは、バドミントンという種目を通して、技術の習得やルール、マナーを理解するだけでなく、上記のような目標を達成することを目的としています。	1. ガイダンス 2. バドミントン導入、ラケットとシャトルに慣れる 3. 各ショットの練習 4. ロング＆ショートサーブとレシーブ 5. 半面でのシングルスゲーム（ルールの習得） 6. シングルスゲーム 7. シングルス・リーグ戦 8. シングルス・リーグ戦 9. ダブルスゲーム（ルールの習得） 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしてくること
テキスト、参考文献	必要に応じて紹介します
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60%） 積極性、実践力（20%）協調性（20%）

（秋）	スポーツ・レクリエーション（バドミントン b）	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは、健康や体力の維持増進にとって欠かせないものであり、それを継続させるためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 　また、様々なスポーツを行うことによって自分のことを深く知り、周りを見ることもでき、コミュニケーション能力も養えるようになります。 　ここでは、バドミントンという種目を通して、技術の習得やルール、マナーを理解するだけでなく、上記のような目標を達成することを目的としています。	1. ガイダンス 2. バドミントン導入、ラケットとシャトルに慣れる 3. 各ショットの練習 4. ロング＆ショートサーブとレシーブ 5. 半面でのシングルスゲーム（ルールの習得） 6. シングルスゲーム 7. シングルス・リーグ戦 8. シングルス・リーグ戦 9. ダブルスゲーム（ルールの習得） 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしてくること
テキスト、参考文献	必要に応じて紹介します
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60%） 積極性、実践力（20%）協調性（20%）

（春）	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)	担当者	今野　廣隆

講義目的、講義概要	授業計画
［目的］ 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、 技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 ［概要］ バレーボールのルールを理解し、 個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、 ゲームの展開方法を学習する。	1. オリエンテーション 2. 基本技と動き（アンダー・オーバー）パスゲーム１ 3. レシーブとトス（ボールのつなぎ）パスゲーム２ 4. レシーブとカバーリング（守りの組立）パスゲーム３ 5. サーブ・レシーブから攻撃を組立てたミニゲーム１ 6. スパイクを含んだミニゲーム２ 7. チーム編成（スターティングポジションの決定） 8. ゲーム、６チームによるリーグ戦 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. テスト

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	日頃から体調管理をして、バレーボールのルールを理解するようにする。又、毎回の実技内容をまとめておくようにする。
テキスト、参考文献	適宜資料を配布する。
評価方法	平常点を中心に評価し、授業に臨む態度、実技の達成度等を加味する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

（春）	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a) _金 2、金 3	担当者	佐藤　典子

講義目的、講義概要	授業計画
バレーボールのルールを理解し、個人的および集団的技術を習得するとともに、それらを基にした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 また、様々な学部、学年の学生がコミュニケーションすることによって、親睦を深め、協調性を高めると同時に、生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、バレーボールの特性についてゲームを通して味わえるようにする。	1. オリエンテーション 2. 基本技術（レシーブとトス、サーブ） 3. 基本技術（スパイク、ブロック） 4. 基本技術の確認、ミニゲーム 5. フォーメーションの基本、ゲームⅠ 6. フォーメーションの組立、ゲームⅡ 7. フォーメーションの確立、ゲームⅢ 8. 技術および戦術の習得状況の確認、チーム編成 9. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅰ 10. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅱ 11. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅲ 12. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅳ 13. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅴ 14. ゲームを通して技術および戦術の習得状況の評価 15. 総括

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	バレーボールにおける技術に関するイメージトレーニングを行うことで技能習得に役立てる。
テキスト、参考文献	吉田 清司 著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院
評価方法	学習意欲を中心に評価(50%)し、チームメイトとの協調性(20%)、技術習得への努力度(20%)を加味します。 また、遅刻･服装･準備など、学習態度(10%)もチェックします。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b) _金 2、金 3	担当者	佐藤　典子

講義目的、講義概要	授業計画
バレーボールのルールを理解し、個人的および集団的技術を習得するとともに、それらを基にした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 また、様々な学部、学年の学生がコミュニケーションすることによって、親睦を深め、協調性を高めると同時に、生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、バレーボールの特性についてゲームを通して味わえるようにする。	1. オリエンテーション 2. 基本技術（レシーブとトス、サーブ） 3. 基本技術（スパイク、ブロック） 4. 基本技術の確認、ミニゲーム 5. フォーメーションの基本、ゲームⅠ 6. フォーメーションの組立、ゲームⅡ 7. フォーメーションの確立、ゲームⅢ 8. 技術および戦術の習得状況の確認、チーム編成 9. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅰ 10. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅱ 11. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅲ 12. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅳ 13. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅴ 14. ゲームを通して技術および戦術の習得状況の評価 15. 総括

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	バレーボールにおける技術に関するイメージトレーニングを行うことで技能習得に役立てる
テキスト、参考文献	吉田 清司 著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院
評価方法	学習意欲を中心に評価(50%)し、チームメイトとの協調性(20%)、技術習得への努力度(20%)を加味します。 また、遅刻･服装･準備など、学習態度(10%)もチェックします。

（春）	スポーツ・レクリエーション(フットサルａ)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1.　オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明 個人資料の作成 2.　ボールに親しむ　簡易ゲーム 3.　ボールコントロール　ボールタッチ・ドリブル 4.　ボールコントロール　パス 5.　１対１の攻防 6.　GKトレーニング 7.　４対２① 8.　４対２② 9.　４対２③ 10.　ルールの理解とゲームの進め方 11.　リーグ戦 12.　リーグ戦 13.　リーグ戦 14.　リーグ戦 15.　リーグ戦

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：フットサルに関するルールや映像を見て学習しておくこと。 事後学修：生活の中で、今後もフットサルに触れる機会を作る姿勢を持つこと。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	評価方法：平常点 80%、授業への参加姿勢 20%にて評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(フットサルｂ)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1.　復習　基本技術の確認 2.　攻撃のグループ戦術 3.　守備のグループ戦術 4.　攻守の切りかえ 5.　審判法ならびにゲーム運営 6.　チーム練習① 7.　リーグ戦 8.　リーグ戦 9.　チーム練習② 10.　リーグ戦 11.　リーグ戦 12.　チーム練習③ 13.　リーグ戦 14.　リーグ戦 15.　リーグ戦

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：フットサルに関するルールや映像を見て学習しておくこと。 事後学修：生活の中で、今後もフットサルに触れる機会を作る姿勢を持つこと。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	評価方法：平常点 80%、授業への参加姿勢 20%にて評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(フットサルａ)	担当者	原仲　碧

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ １．フットサルを楽しむために、フットサルの基本技術、ルール、審判法を学び、実践できるようになる。 ２．フットサルというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 ［講義概要］ **フットサルの基本技術（ドリブル、コントロール、パス、シュート）の習得は、受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、ルールや審判法も学習し、スポーツを支える側の実践力も身につけ**る。 ［受講生への要望］ フットサルを楽しみたいという学生の受講を願います。	1. ガイダンス 2. ボールフィーリング 3. ドリブル 4. パス 5. コントロール 6. シュート 7. ボールを奪う 8. ゴールキーパー 9. ルール・審判法 10. リーグ戦第１節 11. リーグ戦第２ 節 12. リーグ戦第３節 13. リーグ戦第４ 節 14. リーグ戦第５節 15. リーグ戦第６節

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。
テキスト、参考文献	特になし
評価方法	実践力（50%）、授業への取組む姿勢（40%）、授業への貢献度（10%）を総合して評価する。欠席が３回を越えた者は評価の対象としない。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(フットサルｂ)	担当者	原仲　碧

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ １．フットサルを楽しむために、フットサルの基本技術、ルール、審判法を学び、実践できるようになる。 ２．フットサルというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 ［講義概要］ **フットサルの基本技術（ドリブル、コントロール、パス、シュート）の習得は、受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、ルールや審判法も学習し、スポーツを支える側の実践力も身につける。** ［受講生への要望］ フットサルを楽しみたいという学生の受講を願います。	1. ガイダンス 2. 基本技術の復習① 3. 基本技術の復習② 4. 攻撃のグループ戦術① 5. 攻撃のグループ戦術② 6. 守備のグループ戦術① 7. 守備のグループ戦術② 8. １次リーグ戦 9. １次リーグ戦 10. １次リーグ戦 11. １次リーグ戦 12. ２次リーグ戦 13. ２次リーグ戦 14. ２次リーグ戦 15. ２次リーグ戦

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。
テキスト、参考文献	特になし。
評価方法	実践力（50%）、授業への取組む姿勢（40%）、授業への貢献度（10%）を総合して評価する。欠席が３回を越えた者は評価の対象としない。

（春）	スポーツ・レクリエーション(フットサル a)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［目的］ 　フットサルのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。 ［概要］ 　色々なメンバーの組み合わせによりゲームを行う。 　男子30名、女子15名を定員とする 注意：受講者の人数や運動経験により授業計画が変更になる。	1.　ガイダンス 2.　写真付受講票の作成とスキルテスト 3.　個人スキル練習 4.　簡易ゲーム練習 5.　ゲーム（リーグ戦①） 6.　ゲーム（リーグ戦②） 7.　ゲーム（リーグ戦③） 8.　ゲーム（リーグ戦④） 9.　ゲーム（リーグ戦⑤） 10.　個人スキル練習 11.　ゲーム（リーグ戦①） 12.　ゲーム（リーグ戦②） 13.　ゲーム（トーナメント①） 14.　ゲーム（トーナメント②） 15.　テスト

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト、参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

（春）	スポーツ・レクリエーション(フリスビーa)	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
1.　フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2.　フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。 3.　授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で 250m を越す飛距離と円盤特性による曲進性･滞空性です。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解･吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 [受講者への要望] 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。	1．イントロダクション　フライングディスクとは 2．基礎投法　技術練習（バックハンド・スロー） 3．基礎投法　技術練習（サイドアーム・スロー） 4．技能記録会　遠投　アキュラシー (的通し競技) セルフコートフライト（滞空時間・距離計測） 5．集団ゲーム　アルティメット　導入 6．集団ゲーム　アルティメット　基礎 7．集団ゲーム　アルティメット　基礎 8．個人種目　ディスクゴルフ　導入 9．個人種目　ディスクゴルフ　展開 1 10～12. アルティメット　発展 13. 個人種目　ディスクゴルフ　展開 2 14. 個人総合練習 15. 技能記録会　まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。
評価方法	技術 20%、理解 20%、態度 20%、平常点 40%で評価します。理解はルールの把握の様子を観察したり、内省報告等で評価します。技術・態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
1.　フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2.　フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。 3.　授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で 250m を越す飛距離と円盤特性による曲進性･滞空性です。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解･吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 [受講者への要望] 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。	1．イントロダクション　フライングディスクとは 2．基礎投法　技術練習（バックハンド・スロー） 3．基礎投法　技術練習（サイドアーム・スロー） 4．技能記録会　遠投　アキュラシー (的通し競技) セルフコートフライト（滞空時間・距離計測） 5．集団ゲーム　アルティメット　導入 6．集団ゲーム　アルティメット　基礎 7．集団ゲーム　アルティメット　基礎 8．個人種目　ディスクゴルフ　導入 9．個人種目　ディスクゴルフ　展開 1 10～12. アルティメット　発展 13. 個人種目　ディスクゴルフ　展開 2 14. 個人総合練習 15. 技能記録会　まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。
評価方法	技術 20%、理解 20%、態度 20%、平常点 40%で評価します。理解はルールの把握の様子を観察したり、内省報告等で評価します。技術・態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト、 参考文献	
評価方法	

（秋）	スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験します。各個人が日常生活で友人に教えたり、家族と楽しんだりするための実力をつけることを目的とします。 [講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの競技種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。 学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。	1 オリエンテーション 2 フリスビーの基本的な技術 3 バックハンドスロウとキャッチのドリル練習 4 バックハンドスロウを正確に投げよう 5 バックハンドスロウを遠くへ投げよう 6 サイドアームスローの投げ方 7 サイドアームスローを正確に遠くへ投げよう 8 他の競技種目の紹介と体験（ガッツ） 9 他の競技種目の紹介と体験（ディスクゴルフ） 10 アルティメットのルールと楽しみ方 11 アルティメットの試合（簡単なルールで楽しむ） 12 アルティメットの試合（より高度なルールで楽しむ） 13 アルティメットの試合（チーム戦略を練る） 14 アルティメットの試合（リーグ戦１） 15 アルティメットの試合（リーグ戦 2）とまとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。
テキスト、 参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンス a) _水 1、水 2	担当者	内堀　祐子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　欧米では、身近にあるボールルームダンス（社交ダンス）。 日本でも生涯スポーツとして、ジュニア世代から高齢者まで幅広く踊られています。 　目の前の相手とのコミュニケーションの取り方、音楽にのって体を動かすことの楽しさを学びながら、踊れるようになることを目標にしています。 【講義概要】 　ボールルームダンスを通じて、正しい姿勢及び柔軟な体作りをします。特に体幹を意識していきます。 　楽しく踊るための、ステップ・技術を学習していきます。	１．　オリエンテーション・ボールルームダンスとは ２．　正しい立ち方・歩き方、リズムの取り方 ３．　手及び腕の使い方 ４．　体の各部分の使い方 ５．　回転動作の学習 ６．　ラテン基礎編①、モダン基礎編① ７．　ラテン基礎編②、モダン基礎編② ８．　ラテン基礎編③、モダン基礎編③ ９．　サンバ編①、ワルツ編① １０．サンバ編②、ワルツ編② １１．サンバ編③、ワルツ編③ １２．ルンバ編①、ワルツ編④ １３．ルンバ編②、ヴェニーズワルツ編① １４．ルンバ編③、ヴェニーズワルツ編② １５．各種目の総復習

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で学習したステップの復習
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	ダンス技術取得度　４０％、授業への参加度　６０％

（秋）	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンス b) _水 1、水 2	担当者	内堀　祐子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　ボールルームダンスaの講義の続きとなります。 　前学期よりスムーズに踊れることを目標とします。 　基本の姿勢、動きを復習し、さらに高度なステップを学んでいきます。 　相手との距離の取り方、相手へのステップの伝え方を学びます。 【講義概要】 　正しい姿勢、柔軟な体、体幹の意識、バランスのよい筋肉をつけていきます。 　ダンスを通じてのコミュニケーションの取り方を学びます。 　ボールルームダンス10種目のうち、前期と合わせて、８種目に触れ、ステップを踏めるようにしていきます。	１．　春期講座の振り返り ２．　ラテン基礎編④、モダン基礎編④ ３．　パソドブレ編①、タンゴ編① ４．　パソドブレ編②、タンゴ編② ５．　パソドブレ編③、タンゴ編③ ６．　パソドブレ編④、タンゴ編④ ７．　ジャイブ編①、クイックステップ編① ８．　ジャイブ編②、クイックステップ編② ９．　ジャイブ編③、クイックステップ編③ １０．ジャイブ編④、クイックステップ編④ １１．リードとフォローについて １２．体の動作の細かい動きと表現方法について １３．立ち位置の確認 １４．世界のボールルームダンス １５．総まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で学習したステップの復習
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	ダンス技術修得度　４０％、授業への参加度　６０％

（春）	スポーツ・レクリエーション(マットピラティス a)	担当者	板垣　悦子

講義目的、講義概要	授業計画
呼吸法の重要性を理解し、センターリングの意識（詳細は授業時に説明）による姿勢の改善とともに、特に腹筋群の強化を中心に全身全ての筋肉をバランスよく鍛える。 マットエクササイズの継続により、自身の身体を上手くコントロールする基礎的な方法、身体コンディショニング方法を理解し習得することを目的とする。さらに身体の変化を実感しながら自身が目指す身体つくり、さらには日常的な運動習慣への動機づけを得ることも目的とする。	1　授業概要・姿勢チェック・呼吸法の基礎・センターリングの実践及び自身の身体への気づき。自己目標の設定。 2　呼吸法、腹部の使い方、基礎動作。ピラティス導入 3　ピラティス初級① 4　ピラティス初級② 5　ピラティス初級③ 6　ピラティス初級まとめ 7　ピラティス中級① 8　ピラティス中級② 9　ピラティス中級③ 10　ピラティス中級まとめ 11　ピラティス上級① 12　ピラティス上級② 13　動きの総まとめ① 14　動きの総まとめ② 15　まとめ及び自己評価

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ピラティスとはどのようなエクササイズかを予習してくること。
テキスト、参考文献	参考文献『リターン・トゥー・ライフ・スルー・コントロロジー』ジョセフ・H・ピラティス（著）ピラティス研究会（訳）現代書林『ピラティス・マスタリー』Amanda Teresa（著）新関真人（訳）スキージャーナル株式会社
評価方法	①授業への参加態度：積極的な取り組み。 ②授業内容の理解度：「テーマ」に対する自己チェック表の記入。これらを総合的に評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(マットピラティス b)	担当者	板垣　悦子

講義目的、講義概要	授業計画
呼吸法の重要性を理解し、センターリングの意識（詳細は授業時に説明）による姿勢の改善とともに、特に腹筋群の強化を中心に全身全ての筋肉をバランスよく鍛える。 マットエクササイズの継続により、自身の身体を上手くコントロールする基礎的な方法、身体コンディショニング方法を理解し習得することを目的とする。さらに身体の変化を実感しながら自身が目指す身体つくり、さらには日常的な運動習慣への動機づけを得ることも目的とする。	1　授業概要・姿勢チェック・呼吸法の基礎・センターリングの実践及び自身の身体への気づき。自己目標の設定。 2　呼吸法、腹部の使い方、基礎動作。ピラティス導入 3　ピラティス初級① 4　ピラティス初級② 5　ピラティス初級③ 6　ピラティス初級まとめ 7　ピラティス中級① 8　ピラティス中級② 9　ピラティス中級③ 10　ピラティス中級まとめ 11　ピラティス上級① 12　ピラティス上級② 13　動きの総まとめ① 14　動きの総まとめ② 15　まとめ及び自己評価

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図–ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ピラティスとはどのようなエクササイズかを予習してくること。
テキスト、参考文献	参考文献『リターン・トゥー・ライフ・スルー・コントロロジー』ジョセフ・H・ピラティス（著）ピラティス研究会（訳）現代書林『ピラティス・マスタリー』Amanda Teresa（著）新関真人（訳）スキージャーナル株式会社
評価方法	①授業への参加態度：積極的な取り組み。 ②授業内容の理解度：「テーマ」に対する自己チェック表の記入。これらを総合的に評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
レクリエーション活動のうち、レクリエーショナルスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。 この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。	1. 授業の内容と計画についての説明 2. アイスブレーキングゲーム 3. イニシアチブゲーム１ 4. イニシアチブゲーム２ 5. アウトドアクッキングの計画 6. アウトドアクッキングの実践 7. ペタンクの紹介と練習 8. ペタンクの試合 9. フリスビーの練習 10. アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12. ウォークラリーの実践 13. ターゲットバードゴルフの練習 14. ターゲットバードゴルフコンペ 15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各種目について事前にネット上のビデオを視聴すること、また実践の機会をつくること。
テキスト、参考文献	必要に応じプリントを配布します。
評価方法	授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション（アウトドア山岳）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
滞在型のキャンプ活動を行います。 将来、家族で再び訪れることを前提にした内容で行いますので身体的にはそれほどハードではありません。(運動不足ではハードに感じます) 皆さんには、キャンプ場を中心とした山間地域に行くときの計画、持ち物、マナー、道具の使い方、自然の見方、楽しみ方を学んでいただきます。 毎日の食事はアウトドアで作りますが、それが当たり前でたいへんなことでないという感覚を身に付けてほしいと思います。道具と技術があれば、今までの苦労も楽しみとなります。山での過ごし方全体をそのように感じてもらえる活動になればよいと思います。 合宿は、同じ大学の仲間たちと共有の時間を過ごします。積極的に関わることによって、たくさんの友人を得られるでしょう。このこともこの授業の大切な目的としています。 履修人数によって、合宿の場所、内容を変更する場合があります。 ハイキング用シューズ、ザック（30ℓ以上）、雨具（上下セパレート）を準備して下さい。	合宿について（予定） 場所：栃木県、群馬県、長野県のキャンプ場 期日：2016 年 8 月 4 日（金）~8 月 8 日（火） 4 泊 5 日 費用：15000 円程度（宿泊費、食費、傷害保険料、プログラム費） この他に現地までの交通費が別途かかります。 合宿日程 第 1 日目　集合、キャンプ設営 散策 第 2 日目　ファイヤービルディング、ハイキング 第 3 日目　アウトドアクッキング 第 4 日目　お好み活動、パーティー 第 5 日目　キャンプ撤収、昼頃解散

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	合宿地域の地理、歴史、植生について学習しておくこと。
テキスト、参考文献	必要に応じて資料を配布する。
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
レクリエーション活動のうち、レクリエーショナルスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。教員志望の方はぜひ受講して下さい。クラス経営に役立ちます。	1. 授業の内容と計画についての説明 2. アイスブレーキングゲーム 3. イニシアチブゲーム１ 4. イニシアチブゲーム２ 5. アウトドアクッキングの計画 6. アウトドアクッキングの実践 7. ペタンクの紹介と練習 8. ペタンクの試合 9. フリスビーの練習 10. アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12. ウォークラリーの実践 13. ターゲットバードゴルフの練習 14. ターゲットバードゴルフコンペ 15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で取り扱っている種目に関する情報を動画サイトなどで学習し、事後にはその経験を生活の中で活かせるよう心掛けること。
テキスト、参考文献	必要に応じ資料を配布します。
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション(ウィンドサーフィン)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
ウィンドサーフィンとは、ボードの上に立ちボードにつながれた帆を操作し、風の力を進行方向への力に変えて進む滑走艇のことで、波を使うサーフィンやヨットとは違うものです。オリンピック種目にもなっているスポーツです。 千葉県館山市の獨協学園海の家において、ウィンドサーフィン技術の習得を通して海浜環境で安全に楽しく過ごすための知識技術を習得することを目標とします。また、炊事や清掃など共同生活を通じての人間関係の育成も目標としています。 初心者から受講できます。 [受講者への要望] 海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。	場所：千葉県館山市（現地集合現地解散） 期日（予定）: 2017年9月11日（月）~15日（金） 4 泊5 日 費用（予定）: 16000 円（宿泊費、傷害保険料、食費、プログラム費） （内11000円を大学自動発行機で振込、5000円を現地で徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 合宿日程 1日目　現地集合・開講式・組み立て・セイルトリム 2日目　セイルアップからセイリングポジション 3日目　方向転換 4日目　いろいろな方向へのセイリング 5日目　レース・午後3時解散

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。
テキスト、参考文献	必要に応じ資料を配布します。
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
レクリエーション活動のうち、レクリエーショナルスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。 この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。教員志望の方はぜひ受講して下さい。クラス経営に役立ちます。	1. 授業の内容と計画についての説明 2. アイスブレーキングゲーム 3. イニシアチブゲーム１ 4. イニシアチブゲーム２ 5. アウトドアクッキングの計画 6. アウトドアクッキングの実践 7. ペタンクの紹介と練習 8. ペタンクの試合 9. フリスビーの練習 10. アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12. ウォークラリーの実践 13. ターゲットバードゴルフの練習 14. ターゲットバードゴルフコンペ 15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で取り扱っている種目に関する情報を動画サイトなどで学習し、事後にはその経験を生活の中で活かせるよう心掛けること。
テキスト、参考文献	必要に応じ資料を配布します。
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
海浜型アウトドアレクリエーションでは、新潟県佐渡島を舞台にスキンダイビング（ナイトダイビングも行います）、シーカヤック、星座観察、釣り、調理、地域研究等、良好な自然環境と地域の環境を活かすプログラムを 4 泊 5 日の合宿生活の中で体験してもらいます。この授業の特徴はそのプログラムと実施場所にあります。わざわざ新潟県佐渡市という離島で合宿を行う理由は、その美しい自然環境とその中に住む人々がつくる地域社会を知って欲しいからです。また、この授業では特徴的なプログラムとして状況適応能力や判断力を養うためのサバイバルプログラムを取り入れています。自然活動を体験し、活動を安全に楽しむことのできる知識技術を習得すること、及び合宿生活を送る上で必要な良好な人間関係を育成することがこの授業の目標となります。 [受講者への要望] 海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。	[集中授業]「海浜型アウトドアレクリエーション」 場所：新潟県佐渡市 期日（予定）：2017 年 8 月 16 日（水）～20 日（日） 4 泊 5 日 費用：32000 円（宿泊費、傷害保険料、プログラム費） （内 31260 円を大学自動発行機で振込､740 円を現地徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 （青春 18 切符が利用できるスケジュールにしてあります。） 合宿日程 第 1 日目　現地集合・開講式 第 2 日目　スキンダイビング、シーカヤック 第 3 日目　スキンダイビング、地域研究 第 4 日目　サバイバルクッキング、海中清掃 第 5 日目　午前中解散 すべて自炊を行います。

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	健康状態の把握、維持増進を継続的に大学トレーニングルーム等を利用して行うこと。
テキスト、参考文献	必要に応じ資料を配布します。
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(スケートトレーニング)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的と概要］ アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。秋学期の毎週の授業ではアイススケートを目的としたインラインスケートでの練習を行います。 アイススケートはメディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。カーリングは、長野オリンピックから正式種目となり、カーリングを題材とする映画もつくられましたが、まだまだマイナーなスポーツです。どちらのスポーツも、氷の上で行いますが、近年アイススケート場が次々と閉鎖され、体験のチャンスが少なくなっています。見るだけではなく体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてあなたの可能性を広げてみませんか。 アイススケート、カーリング初心者の方から受講できます。	1 オリエンテーション（更衣不要） 2 用具あわせ、基本動作 3 基本動作 4 フォアストロークとバリエーション その１ 5 フォアストロークとバリエーション その２ 6 パイロンを利用した練習 7 バックストロークとバリエーション その１ 8 バックストロークとバリエーション その２ 9 ホッケーにチャレンジ その１ 10 フォアクロッシング その１ 11 フォアクロッシング その２ 12 バッククロッシング 13 バッククロッシング 14 ホッケーにチャレンジ　その２ 15 集中授業についてのオリエンテーション ストップ、ステップ、カーブ、トランジション等は皆さんの上達状況に応じて、適宜取り入れていきます。

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。
テキスト、参考文献	必要に応じ資料を配布します。
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（冬季集中）	スポーツ・レクリエーション(アイススポーツ)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。 長野県軽井沢町のアイススケート、カーリング施設を利用し、3 泊 4 日で合宿を行います。 アイススケートは、アイススケートの基本的な滑走技術の習得を目指します。技術の進歩度や天候によって内容を変えます。 カーリングは、試合を楽しめるまでの基本的な知識、技術を学習します。 合宿生活ですので、親しい友人を持つ絶好のチャンスとなります。 秋学期のスケートトレーニングの授業との組み合わせで受講すると合宿での効率的な技術向上ができます。	合宿について（予定） 時期： 2017 年 12 月 26 日（火）～29 日（金）　 3 泊 4 日 場所： 長野県軽井沢町 現地集合解散 宿泊： リゾートイングリーン軽井沢 費用： 27500 円（宿泊費、傷害保険料、入場料、貸靴代他） (内、20500 円を自動発行機で振込、7000 円を現地徴収) 1 日目　午後： アイススケート 靴合わせと基本的技術 夜　： 講義「アイススケートの楽しみ方」 2 日目　午前： アイススケート 基本技術と応用 午後： アイススケート 夜　： 講義「カーリングの楽しみ方」 3 日目　午前： カーリング基本練習 午後： カーリング実践練習 夜　： ミーティング 4 日目　午前： カーリング大会 午後： 昼食後解散

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。
テキスト、参考文献	必要に応じ資料を配布します。
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション (コーディネーショントレーニング)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［目的］ 　複数の動き接続してまとめる感覚をトレーニングすることによって、運動能力と、スポーツを楽しむ能力とを向上させることを目的とする。 ［概要］ 　授業はグラウンドとアリーナで行う。トランポリン、インラインスケート、ノルディックウォーキング、アルティメット、バレーボール、卓球を行う予定である。 注意：スキー&スノーボード合宿とのセット履修となる。	1.　ガイダンス 2.　写真付受講票作成・トランポリン 3.　インラインスケート① 4.　インラインスケート② 5.　インラインホッケー① 6.　インラインホッケー② 7.　ノルディックウォーキング① 8.　ノルディックウォーキング② 9.　アルティメット① 10.　アルティメット② 11.　バレーボール① 12.　バレーボール② 13.　卓球① 14.　卓球② 15.　スキー・スノーボード授業ガイダンス

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト、参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。

（冬季集中）	スポーツ・レクリエーション(スキー&スノーボード)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
目的] 　スキーとスノーボードの基本から応用までを合宿を通じて指導し、ひとりひとりの能力の向上を図る。 　また、合宿を通じてコミュニケーション能力を高める。 [概要] 　アルペンスキーとスノーボードの班を編成し、各班に指導教員がつき実習を行う。宿泊費予約分として18000円を履修登録と同時に大学に納める。宿泊費以外の必要経費は現地で徴収し精算する。学内のコーディネーショントレーニング授業とのセット履修が原則となっている。 （注意）この授業のみを履修したい場合には、Ｅ棟１階のスポーツ・レクリエーション教員準備室にて担当者の許可を得てから履修登録と宿泊費予約分18000円を大学に納入すること。月１回の予定で行われる合宿ガイダンスに出席すること。	合宿期間：2018年2月3-6日を予定している。 合宿場所：秋田県たざわ湖スキー場 宿泊場所：秋田県立田沢湖スポーツセンター 合宿費用：宿泊費18000円（3泊9食予定） （大学に履修登録決定次第納入すること） 保険500円は現地精算 （注意）リフト代（約6000円）・交通費・レンタル代等は各自別途負担となる。また、秋学期履修登録時に、期間・場所・宿泊・費用について変更になる可能性もある。秋学期履修登録期間の掲示等に十分注意し確認すること。 ＊リフト代については雪マジ19（対象期間誕生者無料）が利用できる場合がある。

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト、参考文献	適宜紹介する。
評価方法	合宿授業への参加度、参加中の変化を担当者の観察により総合的に評価する。

08 年度以降	English(リーディング Ⅰa) / (Academic Reading Strategies Ia)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies Ⅰ とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目です。原則として通年で履修すること。 ○様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とします。使用言語は原則とし英語です。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材 *Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* 学習(大学HPのMyDOCから各自ダウンロード)。 3. 教室外で、コンピューターによる英語学習 (ALC Net Academy) を行うことが義務づけられており、期末試験にも出題される。 ○オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、連絡事項を聞き漏らさないようにすること。リーディング活動とは英文和訳のことではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。	1. オリエンテーション 2. ～15 各担当教員が指定した教科書に基づく授業。詳細は、各担当教員から配布される個別シラバスを参照すること。 毎回 *Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* を範囲とした語彙小テストを実施する。 年度末(1 月)に全員が TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes) 」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各担当教員のシラバスを見て予習。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備。授業での指示に従い、課題に取り組む。
テキスト、参考文献	教科書は、大学 HP、大学書店の掲示、第 1 回目の授業での指示に従うこと。 "Dokkyo 1964" (獨協大学全カリ英語語彙リスト) : HP の MyDOC ページから各自ダウンロード
評価方法	○各担当教員のシラバスに記載。共通語彙テストは成績の 15%。 ○原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(リーディング Ⅰb) / (Academic Reading Strategies Ib)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies Ⅰ とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目です。原則として通年で履修すること。 ○春学期に引き続き、様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とします。使用言語は原則として英語です。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材 *Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* (大学HPのMyDOCから各自ダウンロード)を学習。 3. 教室外で、コンピューターによる英語学習 (ALC Net Academy) を行うことが義務づけられており、期末試験にも出題される。 ○オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、連絡事項を聞き漏らさないようにすること。リーディング活動とは英文和訳のことではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。	1. オリエンテーション 2. ～15 各担当教員が指定した教科書に基づく授業。詳細は、各担当教員から配布される個別シラバスを参照すること。 毎回 *Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* を範囲とした語彙小テストを実施する。 年度末(1 月)に全員が TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes) 」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各担当教員のシラバスを見て予習。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備。授業での指示に従い、課題に取り組む。
テキスト、参考文献	教科書は、大学 HP、大学書店の掲示、第 1 回目の授業での指示に従うこと。 "Dokkyo 1964" (獨協大学全カリ英語語彙リスト) : HP の MyDOC ページから各自ダウンロード
評価方法	○各担当教員のシラバスに記載。共通語彙テストは成績の 15%。 ○原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English（リーディング I a） / (Academic Reading Strategies Ia)	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies I とともに、１年生の英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ドイツ語、フランス語、経済、経営、国際環境経済、法律、国際関係法、総合政策の各学科１年生のうち、入学時に TOEIC で高得点だった学生が受講する科目である。使用言語は英語。様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。 １．担当者が指示したリーディング教科書。 ２．大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材（大学 HP の MyDOC から各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 ３．コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。 【重要】リーディングは英文和訳ではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、グループワークやディスカッションを織り交ぜた活動を、英語で行います。	1. オリエンテーション 2. Unit 1 What makes someone admirable? 3. Unit 1 What makes someone admirable? 4. Unit 1 Vocabulary skill & writing 5. Unit 2 What makes you want to buy something? 6. Unit 2 What makes you want to buy something? 7. Unit 2 Vocabulary skill & writing 8. Mid-term exam 9. Unit 3 What important lessons do we learn as children? 10. Unit 3 What important lessons do we learn as children? 11. Unit 3 Vocabulary skill and writing 12. Unit 4 Two styles of writing 13. Unit 4 Two styles of writing 14. Unit 4 Vocabulary skill & writing 15. Spring term wrap-up, Q & A

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	シラバスを参照して予習する。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備。毎回の授業の最後に出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。
テキスト、参考文献	Q: Skills for Success Book 4 Second Edition (Oxford University Press) 英々辞書を用意すること。
評価方法	積極的な授業参加 20%、語彙小テスト 15%、課題 10%、中間テスト 25%、期末テスト(ALC 課題を含む)30%。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English（リーディング Ib / (Academic Reading Strategies Ib)	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies I とともに、１年生の英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ドイツ語、フランス語、経済、経営、国際環境経済、法律、国際関係法、総合政策の各学科１年生のうち、入学時に TOEIC で高得点だった学生が受講する科目である。使用言語は英語。様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。 １．担当者が指示したリーディング教科書。 ２．大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材（大学 HP の MyDOC から各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 ３．コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。 【重要】リーディングは英文和訳ではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、グループワークやディスカッションを織り交ぜた活動を、英語で行います。	1. Unit 5 Should science influence what we eat? 2. Unit 5 Should science influence what we eat? 3. Unit 5 Vocabulary skill & writing 4. Unit 6 Does school prepare you for work? 5. Unit 6 Does school prepare you for work? 6. Unit 7 Is discovery always a good thing? 7. Unit 7 Is discovery always a good thing? 8. Mid-term exam 9. Mid-term review 10. Unit 7 Vocabulary skill & writing 11. Unit 8 Why is it important to play? 12. Unit 8 Why is it important to play? 13. Unit 8 Vocabulary skill & writing 14. Selected reading material 15. Fall term wrap-up, Q & A

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	シラバスを参照して予習する。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備。毎回の授業の最後に出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。
テキスト、参考文献	Q: Skills for Success Book 4 Second Edition (Oxford University Press) 英々辞書を用意すること。
評価方法	積極的な授業参加 20%、語彙小テスト 15%、課題 10%、中間テスト 25%、期末テスト(ALC 課題を含む)30%。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼ 国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 ▼ 本科目の目的は、英語のアカデミック・ライティングの基礎であるパラグラフ・ライティングのルールを学び、論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばすことです。パラグラフ(段落）の基本構造を学び、効果的なトピック・センテンスやサポーティング・センテンスの書き方、効果的な接続語の使い方、情報や出来事、自分の考えを分かりやすく説明する文章の書き方を練習します。書く前の計画からアウトライン作成、文章作成、書き直し、校正までの「プロセス」を重視します。これまでに学んだ語彙や文法を基に、「和文英訳」ではないライティング力を身につけます。 ▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行う場合もあります。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第 1 回 ガイダンス・タイピング練習 第 2 回 英文メールの書き方 第 3 回 英文メールの書き方 第 4 回 Punctuation and Capitalization 第 5 回 Paragraph Organization 第 6 回 Unity and Coherence 第 7 回 Brainstorming & Outlining 第 8 回 Descriptive Paragraphs 第 9 回 Descriptive Paragraphs 第 10 回 Process Paragraphs 第 11 回 Process Paragraphs 第 12 回 Summary Writing 第 13 回 Summary Writing 第 14 回 Summary Writing 第 15 回 Wrap-up

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。
テキスト、参考文献	担当教員の指示に従うこと。英文メールの書き方の教材は、各自 My DOC よりダウンロードすること。
評価方法	積極的な授業活動への参加、ライティング課題、期末テストなどによる総合評価。 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼ 国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 ▼ 春学期同様、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばします。秋学期には、書き始める前の情報整理と計画、効果的な論展開の方法についてさらに理解を深め、より短い時間でパラグラフを完成させることを目指します。他の履修中の英語科目(リーディング、リスニングなど）で学ぶ語彙や表現も意識的に使ってみましょう。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目です。計画から校正まで文章を完成させるプロセスを大切にしてください。 ▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ My DOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行う場合もあります。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 Review of Paragraph Organization 第 3 回 Classification Paragraphs 第 4 回 Classification Paragraphs 第 5 回 Classification Paragraphs 第 6 回 Cause and Effect Paragraphs 第 7 回 Cause and Effect Paragraphs 第 8 回 Cause and Effect Paragraphs 第 9 回 Comparison and Contrast Paragraphs 第 10 回 Comparison and Contrast Paragraphs 第 11 回 Comparison and Contrast Paragraphs 第 12 回 Opinion Paragraphs 第 13 回 Opinion Paragraphs 第 14 回 Opinion Paragraphs 第 15 回 Wrap-up

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。
テキスト、参考文献	担当教員の指示に従うこと。MyDOC から補助教材をダウンロードする場合もある。
評価方法	積極的な授業活動への参加、ライティング課題、期末テストなどによる総合評価。 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(スピーキング Ia) / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to use English in academic settings. Themes will include speaking with your classmates and teachers about school life, club activities, and study strategies. Class time will be spent on speaking activities to help you build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。　練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。 評価は、中間テスト、期末テスト、スピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。	Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Meeting your classmates Classes 4, 5 - Talking to your teachers Classes 6, 7 - Personality: knowing yourself Class 8 – **Mid-term exam**; Talking about school Class 9 - Talking about school Classes 10, 11 - Study strategies and learning goals Class 12, 13 - Club activities Class 14 - Speaking practice; final exam review Class 15 -- **In-class speaking evaluation** 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for activities, evaluations and exams outside of class time and to speak actively in each class.
テキスト、参考文献	Note: specific textbook and class content will be determined by your instructor. Check the bookstore for details about your class. **注意：教科書は教員によって異なります。教務課及び DUO(丸善書店)の掲示板を確認すること。**
評価方法	Classroom participation/homework 30%; Mid-term exam 20%; In-class speaking evaluation 20% ; Final exam 30%

08 年度以降	English(スピーキング Ib) / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to use English in academic settings. Themes will include speaking with your classmates and teachers about school life, club activities, and study strategies. Class time will be spent on speaking activities to help you build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。　練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。 評価は、中間テスト、期末テスト、スピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。	Tentative schedule: Class 1 – Fall orientation, etc. Classes 2, 3 - Travel Classes 4, 5 - Entertainment Classes 6, 7 - Part-time jobs Class 8 – **Mid-term speaking evaluation** Class 9, 10 - Choosing your career Classes 11, 12 - Job interviews Classes 13, 14 - Studying abroad Class 15 – **Final in-class speaking evaluation** 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for activities, evaluations and exams outside of class time and to speak actively in each class.
テキスト、参考文献	Note: specific textbook and class content will be determined by your instructor. Check the bookstore for details about your class. **注意：教科書は教員によって異なります。教務課及び DUO (丸善書店)の掲示板を確認すること。**
評価方法	Classroom participation/homework 30%; In-class speaking evaluations 30% (2 x 15%); Final exam 40%

08 年度以降	English(リスニング Ia) / (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングIとともに通年で履修すること。	1. Course Introduction 2. Unit 1: Lesson A 3. Unit 1: Lesson B 4. Unit 1 Video: Unit Test 1 5. Unit 2: Lesson A 6. Unit 2: Lesson B 7. Unit 2: Video: Unit Test 2 8. Unit 3: Lesson A 9. Unit 3: Lesson B 10. Unit 3 Video: Unit Test 3 11. Unit 4: Lesson A 12. Unit 4: Lesson B 13. Unit 4 Video: Unit Test 4 14. Review/TOEIC exercises 15. Review/TOEIC exercises

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト、参考文献	Pathways 1*: Listening, Speaking and Critical Thinking*. Cengage Learning. ※教科書購入時には間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。
評価方法	授業参加・課題 20%　ユニットテスト 40% (10% x 4 回)　統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(リスニング Ib) / (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングIとともに通年で履修すること。	1. Unit 5: Lesson A 2. Unit 5: Lesson B 3. Unit 5 Video: Unit Test 5 4. Unit 7: Lesson A 5. Unit 7: Lesson B 6. Unit 7 Video: Unit Test 7 7. Unit 8: Lesson A 8. Unit 8: Lesson B 9. Unit 8 Video: Unit Test 8 10. Unit 9: Lesson A 11. Unit 9: Lesson B 12. Unit 9 Video: Unit Test 9 13. Review/TOEIC exercises 14. Review/TOEIC exercises 15. Review/TOEIC exercises

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト、参考文献	Pathways 1*: Listening, Speaking and Critical Thinking*. Cengage Learning. ※教科書購入時には間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。
評価方法	授業参加・課題 20%　ユニットテスト 40% (10% x 4 回)　統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(リスニング Ia) / (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングIとともに通年で履修すること。	1. Course Introduction 2. Unit 1: Lesson A 3. Unit 1: Lesson B 4. Unit 1 Video: Unit Test 1 5. Unit 2: Lesson A 6. Unit 2: Lesson B 7. Unit 2: Video: Unit Test 2 8. Unit 3: Lesson A 9. Unit 3: Lesson B 10. Unit 3 Video: Unit Test 3 11. Unit 4: Lesson A 12. Unit 4: Lesson B 13. Unit 4 Video: Unit Test 4 14. Review/TOEIC exercises 15. Review/TOEIC exercises

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト、参考文献	Pathways 2*: Listening, Speaking and Critical Thinking*. Cengage Learning. ※教科書購入時には間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。
評価方法	授業参加・課題 20%　ユニットテスト 40% (10% x 4 回)　統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(リスニング Ib) / (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングIとともに通年で履修すること。	1. Unit 5: Lesson A 2. Unit 5: Lesson B 3. Unit 5 Video: Unit Test 5 4. Unit 6: Lesson A 5. Unit 6: Lesson B 6. Unit 6 Video: Unit Test 6 7. Unit 7: Lesson A 8. Unit 7: Lesson B 9. Unit 7 Video: Unit Test 7 10. Unit 10: Lesson A 11. Unit 10: Lesson B 12. Unit 10 Video: Unit Test 10 13. Review/TOEIC exercises 14. Review/TOEIC exercises 15. Review/TOEIC exercises

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト、参考文献	Pathways 2*: Listening, Speaking and Critical Thinking*. Cengage Learning. ※教科書購入時には間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。
評価方法	授業参加・課題 20%　ユニットテスト 40% (10% x 4 回)　統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(リスニング Ia) / (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	M. クロフォード

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively.	1. Introduction to the course 2. Chapter 1 3. Chapter 1 (continued) 4. Chapter 2 5. Chapter 2 (continued) 6. Chapter 3 7. Chapter 3 (continued) 8. Review 9. Chapter 4 10. Chapter 4 (continued) 11. Chapter 5 12. Chapter 5 (continued) 13. Chapter 6 14. Chapter 6 (continued) 15. Final exam

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Outside of class, students will be expected to prepare for discussions and write summaries of lectures.
テキスト、参考文献	Listening and Notetaking Skills (Cengage, 2014)
評価方法	Class participation (20%), homework assignments (30%), final exam (50%)　原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English(リスニング Ib) / (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	M. クロフォード

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively.	1. Introduction to the course 2. Chapter 1 3. Chapter 1 (continued) 4. Chapter 2 5. Chapter 2 (continued) 6. Chapter 3 7. Chapter 3 (continued) 8. Review 9. Chapter 4 10. Chapter 4 (continued) 11. Chapter 5 12. Chapter 5 (continued) 13. Chapter 6 14. Chapter 6 (continued) 15. Final exam

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Outside of class, students will be expected to prepare for discussions and write summaries of lectures.
テキスト、参考文献	Listening and Notetaking Skills (Cengage, 2014)
評価方法	Class participation (20%), homework assignments (30%), final exam (50%)　原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English(リーディング IIa) / (Academic Reading Strategies IIa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
◆ この科目は、1年生で履修した Academic Reading Strategies I（リーディングI）の上位科目です。原則として通年で履修してください。リーディングI で学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。 ◆ 春学期には、大きく以下の2つの活動を行います。使用言語は原則として英語です。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2．1年次に引き続いて、各自が、MyDOCからダウンロードした *Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* を教室外で学習し、毎週範囲を決めて語彙小テストを実施します。 ◆ 大学 2 年生は、英語運用能力を伸ばすのに最もふさわしくまた重要な 1 年間です。得意・不得意にかかわらず、現在の自分の力を少しでも伸ばす積極的な姿勢を持って取り組みましょう。	第 1 回 オリエンテーション 第 2～14 回 ・各担当教員が指定した教科書での学習 ・*Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* の指定箇所を範囲とする語彙小テスト 第 15 回. 春学期のまとめ ◆ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 ◆ 年度末（1月）に全員 TOEIC®を受験するので、計画的に学習すること。

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。My DOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備をする。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。
テキスト、参考文献	◆各担当教員指定教科書を購入して使用する。大学 HP、大学書店の掲示、および担当教員の指示に従うこと。 ◆Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List から該当範囲を各自ダウンロードする。
評価方法	◆各担当教員から配布されるシラバスに記載。共通語彙テストは成績の 15%となる。 ◆原則として 4 回以上欠席した学生は評価の対象とならないので、欠席しないように注意。

08 年度以降	English(リーディング IIb) / (Academic Reading Strategies IIb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
◆ この科目はAcademic Reading Strategies I （リーディングI）の上位科目です。春学期に引き続き、原則として通年で履修してください。リーディングI で学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。 ◆ 春学期には、大きく以下の３つの活動を行います。使用言語は原則として英語です。 １．担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 ２．各自が、MyDOCからダウンロードしたDokkyo 1964 Academic Vocabulary List を教室外で学習し、毎週範囲を決めて語彙小テストを実施します。 ３．TOEIC対策の副教材(5-minute quizzes for the TOEIC Test Reading 1)を用いて、授業内に短時間のTOEIC対策を行う。（秋学期のみ実施）	第1回. オリエンテーション 第2～14回 ・各担当教員が指定した教科書での学習 ・*Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List*の指定箇所を範囲とする語彙小テスト ・共通の副教材を用いて、TOEIC®テスト対策 第15回 秋学期のまとめ ◆ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 ◆ 年度末（1月）に全員TOEIC® を受験するので、計画的に学習すること。

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。My DOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備をする。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。
テキスト、参考文献	◆各担当教員指定教科書 ◆TOEIC 対策の共通副教材(5-minute quizzes for the TOEIC Test Reading 1) ◆Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List から該当範囲を各自ダウンロードする。
評価方法	◆各担当教員から配布されるシラバスに記載。共通語彙テストは成績の 15%となる。 ◆原則として 4 回以上欠席した学生は評価の対象とならないので、欠席しないように注意。

08 年度以降	English（リーディング IIa) /（Academic Reading Strategies IIa）	担当者	三谷　裕美

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の2年次学生対象のクラス指定科目です。1年修了時のTOEICテストスコアが高かった学生を集め、学部を超えたクラス編成になっています。各学部の必修科目と重ならないよう5時限に配置されているので、他学科の学生と英語を勉強できる貴重な機会として、積極的に授業に参加してください。 ARS Iに引き続き、リーディングを中心にアカデミックな総合的英語運用能力を身につけることを目的とします。各自の専門分野にも活かせるように、学術的テーマや社会問題を扱ったテキストを用いて、多読・速読・精読を行い、効果的に読むためのストラテジーを使えるようにします。内容を的確に把握できるように、語彙力・文法力などの基礎的な側面を伸ばし、文章の主題を即時に捉えて、アウトラインや要約を書く練習をします。さらに、内容を批判的に吟味し、それに対する自分の考えを、口頭および文章で表現できるようにします。授業は全て英語で実施します。 ・毎週授業の初めにVocabulary Testを行うので準備しておくこと。 ・原則として通年で履修すること。	1. Course introduction; Unit 1 Preview 2. Unit 1 Global Health (1) 3. Unit 1 Global Health (2) 4. Unit 1 Global Health (3) 5. Unit 1 Global Health (4) 6. Unit 1 Global Health (5) 7. Unit 1 Test; Unit 2 Preview 8. Unit 2 Multicultural Societies (1) 9. Unit 2 Multicultural Societies (2) 10. Unit 2 Multicultural Societies (3) 11. Unit 2 Multicultural Societies (4) 12. Unit 2 Multicultural Societies (5) 13. Unit 2 Test; Presentation preparation 14. Presentations 15. Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および語彙の練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト、参考文献	Pakenham, K. J., McEntire, J. & Williams, J. (2013) *Making Connections, Level 3.* Cambridge University Press.
評価方法	授業参加 10%　課題 10%　語彙テスト 15%　章末テスト 20%　期末発表 15%　期末試験 30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とはならない。

08 年度以降	English（リーディング II b) /（Academic Reading Strategies II b）	担当者	三谷　裕美

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の2年次学生対象のクラス指定科目です。1年修了時のTOEICテストスコアが高かった学生を集め、学部を超えたクラス編成になっています。各学部の必修科目と重ならないよう5時限に配置されているので、他学科の学生と英語を勉強できる貴重な機会として、積極的に授業に参加してください。 春学期と同様、リーディングを中心にアカデミックな総合的英語運用能力を身につけることを目的とします。各自の専門分野にも活かせるように、学術的テーマや社会問題を扱ったテキストを用いて、多読・速読・精読を行い、効果的に読むためのストラテジーを使えるようにします。内容を的確に把握できるように、語彙力・文法力などの基礎的な側面を伸ばし、文章の主題を即時に捉えて、アウトラインや要約を書く練習をします。さらに、内容を批判的に吟味し、それに対する自分の考えを、口頭および文章で表現できるようにします。授業は全て英語で実施します。 ・毎週授業の初めにVocabulary Testを行うので準備しておくこと。 ・原則として通年で履修すること。	1. Course introduction; Unit 3 Preview 2. Unit 3 Aspects of Language (1) 3. Unit 3 Aspects of Language (2) 4. Unit 3 Aspects of Language (3) 5. Unit 3 Aspects of Language (4) 6. Unit 3 Aspects of Language (5) 7. Unit 3 Test, Unit 4 Preview 8. Unit 4 Sustaining Planet Earth (1) 9. Unit 4 Sustaining Planet Earth (2) 10. Unit 4 Sustaining Planet Earth (3) 11. Unit 4 Sustaining Planet Earth (4) 12. Unit 4 Sustaining Planet Earth (5) 13. Unit 4 Test; Presentation preparation 14. Presentations 15. Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および語彙の練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト、参考文献	Pakenham, K. J., McEntire, J. & Williams, J. (2013) *Making Connections, Level 3.* Cambridge University Press.
評価方法	授業参加 10%　課題 10%　語彙テスト 15%　章末テスト 20%　期末発表 15%　期末試験 30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とはならない。

08 年度以降	English(ライティング IIa) / (Academic Writing IIa: Essay)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼ 国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 ▼ 本科目の目的は、Academic Writing I で学んだパラグラフの知識を基に、複数のパラグラフから成り立つアカデミック・エッセイ（論文）を書けるようになることです。「和文英訳」ではありません。英語論文の典型的な構成と論展開、書き始める前の計画やアウトライン作成法、効果的なthesis statementと各段落のtopic sentenceなどの書き方、説得力のある論の組み立て方、効果的な接続表現や例の使い方、引用する情報の要約と言い換え、適切な引用方法などを練習します。計画から複数回の修正、最終構成までの「プロセス」を経て論文を完成させます。他の英語科目で学んだ語彙や表現もライティングで実際に使ってみる努力をしてください。 ▼ 授業では、個人ライティングだけでなく、クラスメートと原稿を読み合ってピアフィードバックを交換したり、グループライティングしたり、学生同士が互いに学ぶ学習活動も行います。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第 1 回 ガイダンス Review of Paragraph Organization 第 2 回 Essay Organization 第 3 回 Listing-Order Essays 第 4 回 Listing-Order Essays 第 5 回 Listing-Order Essays 第 6 回 Listing-Order Essays 第 7 回 Comparison and Contrast Essays 第 8 回 Comparison and Contrast Essays 第 9 回 Comparison and Contrast Essays 第 10 回 Comparison and Contrast Essays 第 11 回 Summarizing and Paraphrasing 第 12 回 Summarizing and Paraphrasing 第 13 回 Summarizing and Paraphrasing 第 14 回 Summarizing and Paraphrasing 第 15 回 Wrap up

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。
テキスト、参考文献	担当教員の指示に従うこと。My DOC に補助教材が提示される場合もある。
評価方法	積極的な授業活動への参加、ライティング課題、期末テストなどによる総合評価。 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(ライティング IIb) / (Academic Writing IIb: Essay)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼ 国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 ▼ 本科目の目的は、春学期に学んだアカデミック・エッセイライティングの基礎をさらに発展させ、様々な文章構成法と引用文献を使って、説得力のある英語論文を書けるようになることです。英語論文の典型的な構成と論展開、書き始める前の計画やアウトライン作成法、効果的なthesis statementと各段落のtopic sentenceなどの書き方、一貫性のある論展開の組み立て方、効果的な接続表現や例の使い方、信頼できる引用文献の探し方、引用する情報の要約と言い換え、適切な引用方法などを練習します。計画から複数回の修正、最終構成までの「プロセス」を経て論文を完成させます。他の英語科目で学んだ語彙や表現もライティングで実際に使ってみる努力をしてください。 ▼ 授業では、個人ライティングだけでなく、クラスメートと原稿を読み合ってピアフィードバックを交換したり、グループライティングしたり、学生同士が互いに学ぶ学習活動も行います。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第 1 回 ガイダンス・Review of Essay Organization 第 2 回 Review of Summarizing and Paraphrasing 第 3 回 Citing Sources 第 4 回 Citing Sources 第 5 回 Definition Paragraphs 第 6 回 Cause and Effect Essays 第 7 回 Cause and Effect Essays 第 8 回 Cause and Effect Essays 第 9 回 Cause and Effect Essays 第 10 回 Argumentative Essays 第 11 回 Argumentative Essays 第 12 回 Argumentative Essays 第 13 回 Argumentative Essays 第 14 回 Argumentative Essays 第 15 回 Wrap-up

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。
テキスト、参考文献	担当教員の指示に従うこと。My DOC に補助教材が提示される場合もある。
評価方法	積極的な授業活動への参加、ライティング課題、期末テストなどによる総合評価。 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(リスニング IIa) / (Academic Listening Strategies IIa)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. Main skill objectives By the end of the course students should be able to: • understand the main ideas of news broadcasts, interviews, and/or academic lectures • understand how supporting ideas are related to main ideas • take notes effectively as they listen	1. Introduction to the course 2. Unit 1 3. Unit 1 (continued) 4. Unit 2 5. Unit 2 (continued) 6. Unit 3 7. Unit 3 (continued) 8. Unit 4 9. Unit 4 (continued) 10. Unit 5 11. Unit 5 (continued) 12. Unit 6 13. Unit 6 (continued) 14. Review 15. Final exam

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview and/or review the course content (approximately 1 hour per week).
テキスト、参考文献	初回の授業で指示する。
評価方法	各担当教員の指示にしたがうこと。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English(リスニング IIb) / (Academic Listening Strategies IIb)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. Main skill objectives By the end of the course students should be able to: • understand the main ideas of news broadcasts, interviews, and/or academic lectures • understand how supporting ideas are related to main ideas • take notes effectively as they listen	1. Introduction to the course 2. Unit 7 3. Unit 7 (continued) 4. Unit 8 5. Unit 8 (continued) 6. Unit 9 7. Unit 9 (continued) 8. Unit 10 9. Unit 10 (continued) 10. Unit 11 11. Unit 11 (continued) 12. Unit 12 13. Unit 12 (continued) 14. Review 15. Final exam

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview and/or review the course content (approximately 1 hour per week).
テキスト、参考文献	初回の授業で指示する。
評価方法	各担当教員の指示にしたがうこと。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English(リスニング IIa) / (Academic Listening Strategies IIa)	担当者	Ｊ．ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner. These skills will be useful, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as gender, diet, and the environment), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.	entative schedule: Class 1 - Course outline, etc. Classes 2 to 4 - Marketing: Gender and spending habits Classes 5 to 7 - Marketing: Advertisements in everyday life Class 8 – Mid-term Examination Classes 9 to 11 - Science: Diet Classes 12 to 14 - Science: The effects of air pollution Class 15 - Presentations

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare a presentation outside of class time, to study vocabulary in preparation for in-class quizzes, and to review class materials for the examinations.
テキスト、参考文献	Lecture Ready 2 (著者 P. Sarosy & K. Sherak; 出版社 Oxford University Press)
評価方法	Participation 10%; Presentation 25%; Vocabulary quizzes 20%; Mid-term exam 20%; Final exam 25% (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)

08 年度以降	English(リスニング IIb) / (Academic Listening Strategies IIb)	担当者	Ｊ．ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner. These skills will be useful, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as news, television, and the internationalization of English), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.	Tentative schedule: Class 1 - Course outline, etc. Classes 2 to 4 - Media Studies: News and modern technology Classes 5 to 7 - Media Studies: Themes on television Classes 8 to 10 - Linguistics: Slang Classes 11 to 13 - Linguistics: International English Classes 14 to 15 - Presentations / Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare a presentation outside of class time, to study vocabulary in preparation for in-class quizzes, and to review class materials for the final examination.
テキスト、参考文献	Lecture Ready 2 (著者 P. Sarosy & K. Sherak; 出版社 Oxford University Press)
評価方法	Participation 10%; Presentation 25%; Vocabulary quizzes 30%; Final exam 35% (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)

13 年度以降	English（リーディング IIIa）/（Academic Reading and Writing Strategies IIIa）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼ Academic Reading Strategies Iab と IIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目です。クラス指定科目ですので、原則として通年履修してください。 ▼ 対象：経済学部経済学科および経営学科 ▼ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。使用言語は原則として英語。 ▼ 指定図書は “Writing to communicate” です。クラスにより、Book 1, Book 2 または Book 3 を使用します。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1，2 年次とは一味違う授業内容となります。リーディングは英文和訳ではなく、ライティングは和文英訳ではありません。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。	第1回　オリエンテーション・コース紹介 ・各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 第2～14回 ・指定教科書 Writing to communicate による授業 ・担当者が副教材を指定した場合には、それも並行して積極的に学習する。 第15回 春学期のまとめ ▼ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	▼ 各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。 ▼ 毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。
テキスト、参考文献	▼ 指定教科書　Writing to communicate. Book 1, Book 2, Book 3 （Pearson）大学書店の掲示に注意して該当する教科書を購入し準備すること。▼ 担当教員から副教材の指定があった場合には、これも購入して準備すること。
評価方法	▼ 各担当教員のシラバスに記載。 ▼ 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

13 年度以降	English（リーディング IIIb）/（Academic Reading and Writing Strategies IIIb）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目です。クラス指定科目ですので、原則として、春学期に続き通年履修してください。 ▼ 対象：経済学部経済学科および経営学科 ▼ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。使用言語は原則として英語。 ▼ 指定図書は “Writing to communicate” です。クラスにより、Book 1, Book 2 またはBook 3 を使用します。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1，2年次とは一味違う授業内容となります。リーディングは英文和訳ではなく、ライティングは和文英訳ではありません。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。	第1回　オリエンテーション ・各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 第2～14回 ・指定教科書 Writing to communicate による授業 ・担当者が副教材を指定した場合には、それも並行して積極的に学習する。 第15回 秋学期のまとめ ▼ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	▼ 各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。 ▼ 毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。
テキスト、参考文献	▼ 指定教科書　Writing to communicate. Book 1, Book 2, Book 3 （Pearson） 春学期に引き続き使用する。 ▼ 担当教員から副教材の指定があった場合には、これも購入して準備すること。
評価方法	▼ 各担当教員のシラバスに記載。 ▼ 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

13 年度以降	English（テーマ研究 a）/（Selected Topics in Social Sciences a）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼国際環境経済学科３年生のクラス指定科目です。 ▼日本や世界で起きている事象や問題を、社会科学の切り口で英語を使って調査し考察する、プロジェクトベースの英語科目です。この科目では、 基本的なデータ・図表の説明、ミニリサーチ、ディスカッション、発表、報告書作成などを通して、研究テーマについての理解と知識を深めるとともに、英語でのリサーチスキルも伸ばします。１～２年次の英語科目で身につけた、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの力を授業活動ですべて統合して使いますので、さらに高いレベルの実践的な英語アカデミックスキルを習得することができます。 ▼春学期は、主に英語での図表の説明のしかたと表現の基礎を学び、グループごとにテーマを決めてアンケートを使ったミニリサーチを行います。データの分析を行い、適切な図表を使って調査結果を発表します。 ▼原則として授業活動は英語で行います。 ▼資料配布、連絡、学習活動などにMyDOCを活用します。	1. Course introduction; What is Social Science? 2-3. Describing graphs and tables 4-5. Preparation for a group presentation 6-7. Group presentations and discussions 8-9. Designing and conducting a group research (topic, research question, survey questions, data collection, data analysis) 10. Designing a graph/table 11. Preparation for a group presentation 12-13. Group presentations 14. Review of group presentations 15. Final exam

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、教科書・補助教材の指定箇所の学習と、グループプロジェクトの調査・発表準備などの課題を行う。前回授業で課された宿題・課題の完了を前提に次回授業が進められる。
テキスト、参考文献	Rogers, L. & Willoughby, D. (2013) *Numbers: Data and statistics for the non-specialist*. Collins. その他教材は MyDOC で配布。
評価方法	Active class participation 20%; Quizzes and tests 30%; Project assignments (group presentations x2) 50% 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

13 年度以降	English（テーマ研究 b）/（Selected Topics in Social Sciences b）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼国際環境経済学科３年生のクラス指定科目です。 ▼日本や世界で起きている事象や問題を、社会科学の切り口で英語を使って調査し考察する、プロジェクトベースの英語科目です。この科目では、 基本的なデータ・図表の説明、ミニリサーチ、ディスカッション、発表、報告書作成などを通して、研究テーマについての理解と知識を深めるとともに、英語でのリサーチスキルも伸ばします。１～２年次の英語科目で身につけた、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの力を授業活動ですべて統合して使いますので、さらに高いレベルの実践的な英語アカデミックスキルを習得することができます。 ▼秋学期は、春学期に習得した英語での図表の説明のしかたをさらに発展させます。また、グループごとに国際的な社会問題に関するテーマを選び、文献研究をもとに問題点を整理し、その問題点についてアンケートによる意識調査を行います。研究計画のポスター発表をし、調査報告論文を作成します。 ▼原則として授業活動は英語で行います。 ▼資料配布、連絡、学習活動などにMyDOCを活用します。	1. Course introduction 2. Introduction to group research project on controversial social issues 3-6. Reading literature and developing a research question, Preparing for a poster presentation 7. Poster presentations 8-9. Designing a survey study and collecting data 10-14. Analyzing components of a research paper (e.g., abstract, organization, in-text citations, data analysis, references); Writing a research paper 15. Revising and editing a research paper

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、教科書・補助教材の指定箇所の学習と、グループプロジェクトの調査・発表準備・論文作成などの課題を行う。前回授業で課された宿題・課題の完了を前提に次回授業が進められる。
テキスト、参考文献	Rogers, L. & Willoughby, D. (2013) *Numbers: Data and statistics for the non-specialist*. Collins. その他教材は MyDOC で配布。
評価方法	Active class participation 20%; Quizzes and tests 20%; Project assignments (group poster presentation and research paper) 60% 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(ライティング Ia) _選択 / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
▼ ドイツ語学科、フランス語学科、経済学科、経営学科、法律学科の学生を対象とする選択科目です。原則として学期完結科目ですが、春・秋学期通年で履修することも可能です。 ▼ 本科目の目的は、英語のアカデミック・ライティングの基礎であるパラグラフ・ライティングのルールを学び、論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばすことです。パラグラフ（段落）の基本構造を学び、効果的なトピック・センテンスやサポーティング・センテンスの書き方、効果的な接続語の使い方、情報や出来事、自分の考えを分かりやすく説明する文章の書き方を練習します。書く前の計画からアウトライン作成、文章作成、書き直し、校正までの「プロセス」を重視します。これまでに学んだ語彙や文法を基に、「和文英訳」ではないライティング力を身につけます。 ▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行います。	以下は授業計画の一例です。 第 1 回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。 第 1 回 ガイダンス・タイピング練習 第 2 回 英文メールの書き方 第 3 回 英文メールの書き方 第 4 回 Punctuation and Capitalization 第 5 回 Paragraph Organization 第 6 回 Unity and Coherence 第 7 回 Brainstorming & Outlining 第 8 回 Descriptive Paragraphs 第 9 回 Descriptive Paragraphs 第 10 回 Process Paragraphs 第 11 回 Process Paragraphs 第 12 回 Summary Writing 第 13 回 Summary Writing 第 14 回 Summary Writing 第 15 回 Wrap-up

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。
テキスト、参考文献	教科書は第 1 回目の授業で発表する。 英文メールの書き方の教材などの補助教材は、各自 My DOC よりダウンロードすること。
評価方法	積極的な授業活動への参加、クイズ、ライティング課題などによる総合評価。 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(ライティング Ib) _選択 / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
▼ ドイツ語学科、フランス語学科、経済学科、経営学科、法律学科の学生を対象とする選択科目です。原則として学期完結科目ですが、春・秋学期通年で履修することも可能です。 ▼ 春学期同様、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばします。秋学期には、書き始める前の情報整理と計画、効果的な論展開の方法についてさらに理解を深め、文献を引用して説得力のあるパラグラフを完成させることを目指します。他の履修中の英語科目（リーディング、リスニングなど）で学ぶ語彙や表現も意識的に使ってみましょう。「和文英訳」ではありません。計画から校正まで文章を完成させるプロセスを大切にしてください。 ▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行います。	以下は授業計画の一例です。 第 1 回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 Review of Paragraph Organization 第 3 回 Classification Paragraphs 第 4 回 Classification Paragraphs 第 5 回 Classification Paragraphs 第 6 回 Cause and Effect Paragraphs 第 7 回 Cause and Effect Paragraphs 第 8 回 Cause and Effect Paragraphs 第 9 回 Comparison and Contrast Paragraphs 第 10 回 Comparison and Contrast Paragraphs 第 11 回 Comparison and Contrast Paragraphs 第 12 回 Opinion Paragraphs 第 13 回 Opinion Paragraphs 第 14 回 Opinion Paragraphs 第 15 回 Wrap-up

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。
テキスト、参考文献	教科書は第 1 回目の授業で発表する。補助教材は MyDOC から各自ダウンロードする。
評価方法	積極的な授業活動への参加、クイズ、ライティング課題などによる総合評価。 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(ライティング Ia) _選択 / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、比較的容易なテキストを使い、英語での理解度を上げること、受講者の英語でのメモリーを上げる、それが目標。授業で具体的に行うことは、担当者が英語を読み上げ、学生が耳で理解し、それをまとめたり、当該箇所についての英語の問に英語で答えたり、当該箇所に対して、学生が英語での問を考えてきて、それに対して他の学生が答えたり、といった activity である。ほら、英語のメモリーは上がりそうだ。また、出欠は、授業での質問に答えて出席となる。2回目以降、質問に答えた場合は、定期テストへの加点となる。ひとつの Unit が終われば、150字以上の英作文を課す。そこでは、たんなる英作文ではなく、学術的な論文の書き方のイロハを踏まえた書き方で書いてもらう。もちろん、書き方は、指導する。毎年、学生へと伝えているが、この授業で単位を取れなかったら、どこで単位を取るんだ、と考えている。	1) introduction 2) Unit 1, Reading 1 3) ditto 4) Unit 1, Reading 2 5) ditto 6) Unit 2, Reading 1 7) ditto 8) Unit 2, Reading 2 9) ditto 10) Unit 3, Reading 1 11) ditto 12) Unit 3, Reading 2 13) ditto 14) Unit 4, Reading 1 15) ditto

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	予習が不要の時もあるが、基本的に予習をしてくること。
テキスト、参考文献	*Weaving It Together*（Cengage Learning）
評価方法	テスト、英作文 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(ライティング Ib) _選択 / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じく、比較的容易な英文テキストを、さまざまな方法で読んでいく。外国語習得は、地道な作業である。それを、春学期から引き続き行っていく。	1) introduction 2) Unit 4, Reading 2 3) ditto 4) Unit 5, Reading 1 5) ditto 6) Unit 5, Reading 2 7) ditto 8) Unit 6, Reading 1 9) ditto 10) Unit 6, Reading 2 11) ditto 12) Unit 7, Reading 1 13) ditto 14) Unit 7, Reading 2 15) ditto

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	予習が不要の時もあるが、基本的に予習をしてくること。
テキスト、参考文献	*Weaving It Together*（Cengage Learning）
評価方法	テスト、英作文 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(ライティング Ia) _選択 / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	T．マティカイネン

講義目的、講義概要	授業計画
▼ ドイツ語学科、フランス語学科、経済学科、経営学科、法律学科の学生を対象とする選択科目です。原則として学期完結科目ですが、春・秋学期通年で履修することも可能です。 ▼ 本科目の目的は、英語のアカデミック・ライティングの基礎であるパラグラフ・ライティングのルールを学び、論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばすことです。パラグラフ（段落）の基本構造を学び、効果的なトピック・センテンスやサポーティング・センテンスの書き方、効果的な接続語の使い方、情報や出来事、自分の考えを分かりやすく説明する文章の書き方を練習します。書く前の計画からアウトライン作成、文章作成、書き直し、校正までの「プロセス」を重視します。これまでに学んだ語彙や文法を基に、「和文英訳」ではないライティング力を身につけます。 ▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行います。	以下は授業計画の一例です。 第 1 回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。 第 1 回 ガイダンス・タイピング練習 第 2 回 英文メールの書き方 第 3 回 英文メールの書き方 第 4 回 Punctuation and Capitalization 第 5 回 Paragraph Organization 第 6 回 Unity and Coherence 第 7 回 Brainstorming & Outlining 第 8 回 Descriptive Paragraphs 第 9 回 Descriptive Paragraphs 第 10 回 Process Paragraphs 第 11 回 Process Paragraphs 第 12 回 Summary Writing 第 13 回 Summary Writing 第 14 回 Summary Writing 第 15 回 Wrap-up

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。
テキスト、参考文献	教科書は第 1 回目の授業で発表する。 英文メールの書き方の教材などの補助教材は、各自 My DOC よりダウンロードすること。
評価方法	積極的な授業活動への参加、クイズ、ライティング課題などによる総合評価。 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(ライティング Ib) _選択 / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	T．マティカイネン

講義目的、講義概要	授業計画
▼ ドイツ語学科、フランス語学科、経済学科、経営学科、法律学科の学生を対象とする選択科目です。原則として学期完結科目ですが、春・秋学期通年で履修することも可能です。 ▼ 春学期同様、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばします。秋学期には、書き始める前の情報整理と計画、効果的な論展開の方法についてさらに理解を深め、文献を引用して説得力のあるパラグラフを完成させることを目指します。他の履修中の英語科目（リーディング、リスニングなど）で学ぶ語彙や表現も意識的に使ってみましょう。「和文英訳」ではありません。計画から校正まで文章を完成させるプロセスを大切にしてください。 ▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行います。	以下は授業計画の一例です。 第 1 回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 Review of Paragraph Organization 第 3 回 Classification Paragraphs 第 4 回 Classification Paragraphs 第 5 回 Classification Paragraphs 第 6 回 Cause and Effect Paragraphs 第 7 回 Cause and Effect Paragraphs 第 8 回 Cause and Effect Paragraphs 第 9 回 Comparison and Contrast Paragraphs 第 10 回 Comparison and Contrast Paragraphs 第 11 回 Comparison and Contrast Paragraphs 第 12 回 Opinion Paragraphs 第 13 回 Opinion Paragraphs 第 14 回 Opinion Paragraphs 第 15 回 Wrap-up

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。
テキスト、参考文献	教科書は第 1 回目の授業で発表する。補助教材は MyDOC から各自ダウンロードする。
評価方法	積極的な授業活動への参加、クイズ、ライティング課題などによる総合評価。 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(ライティング Ia) _選択 / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	髙畑　哲男

講義目的、講義概要	授業計画
Eメールの普及によってライティングの重要性が高まってきた。この授業では、教科書とその他の実例を使ってエッセイライティングへのステップであるパラグラフライティングのスキルアップを図る。まず、パラグラフの構造を学び、さらにさまざまな角度からパラグラフを具体的に知り、自ら書くことによって「効果的な」英文を書く力をつけてもらう。「畳の上の水練」という言葉があるように、ライティングもその方法を理解するだけでなく、実際に書くことではじめて技量が向上する。授業では教科書の英文理解から始めて、プリントも積極的に活用しながら文章の要約、記事の見出し付けも交えてのライティングをおこなう。なお、学期中には数回の課題提出と指名発表を求める。熱意のある受講者を期待します。	1. ガイダンス（授業内容と進行計画、その他） 2. The Topic Sentence of the Paragraph(1) 3. The Topic Sentence of the Paragraph(2) 4. The Topic Sentence of the Paragraph(3) 5. The Specific Details of the Paragraph(1) 6. The Specific Details of the Paragraph(2) 7. The Specific Details of the Paragraph(3) 8. Time Order(1) 9. Time Order(2) 10. Time Order(3) 11. Space Order(1) 12. Space Order(2) 13. Space Order(3) 14. Process and Direction(1) 15. Process and Direction(2)

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の当該箇所を熟読して英文を作成し、作成した英文をブラッシュアップする。
テキスト、参考文献	***Paragraphs That Communicate　2nd edition*** **(Macmillan Language House)**
評価方法	期末試験またはレポート(70%)、提出物(15%)、板書発表を含む授業参加、貢献(15%)によって評価する。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(ライティング Ib) _選択 / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	髙畑　哲男

講義目的、講義概要	授業計画
ライティングⅠaに続いて、教科書とその他の実例を使ってエッセイライティングへのステップであるパラグラフラフライティングのスキルアップを図る。 さまざまな角度からパラグラフを具体的に知り、自ら書くことによって「効果的な」英文を書く力をつけてもらう。 「畳の上の水練」という言葉があるように、パラグラフもその方法を理解するだけではなく、実際に書くことではじめて技量が向上することをよく理解してもらいたい。 授業では教科書の英文理解から始めて、プリントも積極的に活用しながら文章の要約、記事の見出し付けも交えてのライティングをおこなう。なお、学期中には数回の課題提出と指名発表を求める。熱意のある受講者を期待します。	1. ガイダンス（授業内容と進行計画、その他） 2 .Cause and Effect(1) 3. Cause and Effect(2) 4. Cause and Effect(3) 5. Examples(1) 6. Examples(2) 7. Examples(3) 8. Definition(1) 9. Definition(2) 10. Definition(3) 11. Classification(1) 12. Classification(2) 13. Classification(3) 14. Comparison and Contrast(1) 15. Comparison and Contrast(2)

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の当該箇所を熟読して英文を作成し、作成した英文をブラッシュアップする。
テキスト、参考文献	***Paragraphs That Communicate　2nd edition*** **(Macmillan Language House)**
評価方法	期末テストまたはレポート(70%)、提出物(15%)、板書発表を含む授業参加、貢献(15%)によって評価する。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(スピーキング Ia) / (Speaking in Academic Contexts Ia) **選択科目**	担当者	W．ヘイ

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to build confidence in your conversation and discussion skills through exploring a variety of personal and social issues. By the end of this course you will be able to: 1. Discuss and understand topics and themes which relate to everyday life. 2. Share your point of view with other students and the teacher. 3. Feel an improvement in your comprehension and critical thinking skills.	1. Course Orientation 2. Unit 1 Friends 3. Unit 1 Friends (cont-d) 1st short talk 4. Unit 2 Free Time 5. Unit 2 Free Time (cont-d) 2nd short talk 6. Unit 3 The Past 7. Unit 3 The Past (cont-d) 8. Midterm Speaking Evaluation 9. Unit 4 The Family 10. Unit 4 The Family (cont-d) 3rd short talk 11. Unit 5 Work 12. Unit 5 Work (cont-d) 4th short talk 13. Unit 6 City Life 14. Unit 6 City Life (cont-d) 15. Final Speaking Evaluation

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to preview the lesson in the textbook before each class. After the class, students should review the content of the lesson and prepare a short talk for the next class.
テキスト、参考文献	Paul, D. Communication Strategies 1. Cengage Learning
評価方法	Speaking Evaluations (40%), Short talks (40%), Class Participation (20%) *原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。* In principle, 4 or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English(スピーキング Ib) / (Speaking in Academic Contexts Ib) **選択科目**	担当者	W．ヘイ

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to build confidence in your conversation and discussion skills through exploring a variety of personal and social issues. By the end of this course you will be able to: 1. Discuss and understand topics and themes which relate to everyday life. 2. Share your point of view with other students and the teacher. Feel an improvement in your comprehension and critical thinking skills.	1. Course Orientation 2. Unit 7 Beliefs 3. Unit 7 Beliefs (cont-d) 1st short talk 4. Unit 8 The Future 5. Unit 8 The Future (cont-d) 2nd short talk 6. Unit 9 Transportation 7. Unit 9 Transportation (cont-d) 8. Midterm Speaking Evaluation 9. Unit 10 Vices 10. Unit 10 Vices (cont-d) 3rd short talk 11. Unit 11 Marriage 12. Unit 11 Marriage (cont-d) 4th short talk 13. Unit 12 Animals 14. Unit 12 Animals (cont-d) 15. Final Speaking Evaluation

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to preview the lesson in the textbook before each class. After the class, students should review the content of the lesson and prepare a short talk for the next class.
テキスト、参考文献	Paul, D. Communication Strategies 1. Cengage Learning
評価方法	Speaking Evaluations (40%), Short talks (40%), Class Participation (20%)*原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。* In principle, 4 or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English(スピーキング Ia) / (Speaking in Academic Contexts Ia) **選択科目**	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to develop students' ability to speak English in academic contexts. Students will have opportunities to speak about themselves, but will be expected to go beyond that and also discuss academically-oriented topics. Class activities will include pair work and group work, and may also include presentations and/or debates. Active participation by students will be expected.	授業計画は教員によって異なります。第一回目の授業で配布されるクラス・シラバスを確認すること。

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to spend approximately one hour per week previewing or reviewing course content.
テキスト、参考文献	**注意：教科書は教員によって異なります。教務課及び DUO (丸善書店)の掲示板を確認すること。**
評価方法	教員によって異なります。第一回目の授業で配布されるクラス・シラバスを確認すること。

08 年度以降	English(スピーキング Ib) / (Speaking in Academic Contexts Ib) **選択科目**	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to develop students' ability to speak English in academic contexts. Students will have opportunities to speak about themselves, but will be expected to go beyond that and also discuss academically-oriented topics. Class activities will include pair work and group work, and may also include presentations and/or debates. Active participation by students will be expected.	授業計画は教員によって異なります。第一回目の授業で配布されるクラス・シラバスを確認すること。

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to spend approximately one hour per week previewing or reviewing course content.
テキスト、参考文献	**注意：教科書は教員によって異なります。教務課及び DUO (丸善書店)の掲示板を確認すること。**
評価方法	教員によって異なります。第一回目の授業で配布されるクラス・シラバスを確認すること。

08 年度以降	English(スピーキング Ia) / (Speaking in Academic Contexts Ia) **選択科目**	担当者	S. フォー

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to develop communicative competence through Pair and Group Activities on a number of carefully chosen topics that are naturally interesting to young people like you. Emphasis will be on how to use vocabulary, and conversation strategies to help you develop interpersonal communication. By the end of the course, I hope you will be able to have more meaningful, fluent and active conversations, void of long and unnecessary silences.	1. Welcome / Introduction 2. Family 3. Friends 4. Culture 5. Education 6. Sports 7. Work 8. Skits/Vocabulary quiz 9. Food 10. Studying English 11. Health 12. Clothes 13-15. Review/Skits/Vocabulary quiz

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students in groups are expected to spend at least an hour a week to study the vocabulary and key expressions learned in the previous lesson.
テキスト、参考文献	English Listening and Speaking Patterns (NAN'UN-DO)
評価方法	Vocab. quizzes: 20%, Mid-term speaking evaluation: 30%, Final speaking evaluation: 30%, Class participation: 20%　*NB: Four or more absences will automatically result in a grade of 'F' or 'X'.*

08 年度以降	English(スピーキング Ib) / (Speaking in Academic Contexts Ib) **選択科目**	担当者	S. フォー

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to develop communicative competence through Pair and Group Activities on a number of carefully chosen topics that are naturally interesting to young people like you. Emphasis will be on how to use vocabulary, and conversation strategies to help you develop interpersonal communication. By the end of the course, I hope you will be able to have more meaningful, fluent and active conversations, void of long and unnecessary silences.	1. Welcome back 2. Travelling 3. Music 4. Movies 5. Shopping 6. Internet 7. Weather 8. Skits/Vocabulary quiz 9. Feelings 10. Government 11. Art 12. The Future 13-15. Review/Skits/Vocabulary quiz

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students in groups are expected to spend at least an hour a week to study the vocabulary and key expressions learned in the previous lesson.
テキスト、参考文献	English Listening and Speaking Patterns (NAN'UN-DO)
評価方法	Vocab. quizzes: 20%, Mid-term speaking evaluation: 30%, Final speaking evaluation: 30%, Class participation: 20%　*NB: Four or more absences will automatically result in a grade of 'F' or 'X'.*

08 年度以降	English(スピーキング Ia) / (Speaking in Academic Contexts Ia) **選択科目**	担当者	E. パタソン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to build students' vocabulary and improve speaking confidence on a wide variety of contemporary topics. Special emphasis will be placed on word roots, prefixes and suffixes common to English, French and German. Students will participate in small group discussions & pair-work conversations, in which they will utilize new vocabulary while reinforcing their use of daily conversation patterns. All class activities will be conducted in English.	Week 1: Introduction to the course Week 2: Understanding Basic Language Units Week 3: Health Week 4: Health (continued) Week 5: Culture & Tradition Week 6: Culture & Tradition (continued) Week 7: Energy Week 8: Energy (continued) Week 9: Intelligence Week 10: Intelligence (continued) Week 11: Water Week 12: Water (continued) Week 13: Waste Week 14: Waste (continued) Week 15: Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	This class requires students to complete at least one hour of homework (primarily review) each week.
テキスト、参考文献	Communication Strategies 3; Jun Liu, Tracy Davis & Susanne Rizzo; Cengage Learning 2009
評価方法	Participation (40%), in-class speaking evaluation (30%), vocabulary & listening tests (30%) Four or more absences will automatically result in a grade of 'F'

08 年度以降	English(スピーキング Ib) / (Speaking in Academic Contexts Ib) **選択科目**	担当者	E. パタソン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to build students' vocabulary and improve speaking confidence on a wide variety of contemporary topics. Special emphasis will be placed on word roots, prefixes and suffixes common to English, French and German. Students will participate in small group discussions & pair-work conversations, in which they will utilize new vocabulary while reinforcing their use of daily conversation patterns. All class activities will be conducted in English.	Week 1: Introduction to the course Week 2: Understanding Basic Language Units Week 3: Our Planet Week 4: Our Planet (continued) Week 5: Human Origins Week 6: Human Origins (continued) Week 7: Food Week 8: Food (continued) Week 9: Business Week 10: Business (continued) Week 11: Survival Week 12: Survival (continued) Week 13: Our Future Week 14: Our Future (continued) Week 15: Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	This class requires students to complete at least one hour of homework (primarily review) each week.
テキスト、参考文献	Communication Strategies 3; Jun Liu, Tracy Davis & Susanne Rizzo; Cengage Learning 2009
評価方法	Participation (40%), in-class speaking evaluation (30%), vocabulary & listening tests (30%) Four or more absences will automatically result in a grade of 'F'

08 年度以降	English(スピーキング IIa) / (Speaking in Academic Contexts II a: Presentation)	担当者	松岡　昇

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to provide students with skills of giving a presentation in English, which is urgently sought after in many international businesses today. Presentation is a way of giving information to a group of people, usually in a formal way. Therefore, there are some certain techniques to be employed. To learn to make it effective, persuasive and impressive, four projects will be assigned in the spring semester. Two of them will be done by individuals and the other two by groups. Through these projects with a variety of topics, strategies will be learned for improving fluency, accuracy and effectiveness in speaking and giving a presentation.	W1：Orientation; Basics of an English Presentation W2：Mission 1: "INTRODUCE YOURSELF"（Step 1: Write a Speech） W3：Mission 1:（Step 2: Make PowerPoint Slides） W4：Mission 1: Give a Presentation W5：Mission 2: "GIVE YOUR IDEAS"（Step 1: Write a Speech） W6：Mission 2:（Step 2: Make PowerPoint Slides） W7：Mission 2: Give a Presentation W8：Review W9：Mission 3: "NICE PLACES IN JAPAN"（Step 1: Write a Speech） W10：Mission 3:（Step 2: Make PowerPoint Slides） W11：Mission 3: Give a Presentation W12：Mission 4: " SUMMER PLANS"（Step 1: Write a Speech） Week 13：Mission 4:（Step 2: Make PowerPoint Slides） Week 14：Mission 4: Give a Presentation Week 15：Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	1）Preparation：Read sample presentations, study vocabulary and expressions, and prepare your own topic to talk about. 2）Review：Look at your own performance on a recorded video. Self-evaluate and work to improve where you went wrong.
テキスト、参考文献	*One-minute Presentation in English*（Noboru Matsuoka & Kazuo Sobajima, DHC）
評価方法	80% from presentation performances; 20% from papers S:100-90%、A:89-80%、B:79-70%、C:69-60%、Failure：59% or below（In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.）

08 年度以降	English(スピーキング IIb) / (Speaking in Academic Contexts II b: Presentation)	担当者	松岡　昇

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to provide students with skills of giving a presentation in English, which is urgently sought after in many international businesses today. Presentation is a way of giving information to a group of people, usually in a formal way. Therefore, there are some certain techniques to be employed. To learn to make it effective, persuasive and impressive, four projects will be assigned in the fall semester. Two of them will be done by individuals and the other two by groups. Through these projects with a variety of topics, strategies will be learned for improving fluency, accuracy and effectiveness in speaking and giving a presentation.	W1：Orientation; Basics of an English Presentation (Review) W2：Mission 5: "CLASSMATES"（Step 1: Write a Speech） W3：Mission 5:（Step 2: Make PowerPoint Slides） W4：Mission 5: Give a Presentation W5：Mission 6: "JAPANESE CULTURE"（Step 1: Write a Speech） W6：Mission 6:（Step 2: Make PowerPoint Slides） W7：Mission 6: Give a Presentation W8：Review W9：Mission 7: "SOLVE PROBLEMS"（Step 1: Write a Speech） W10：Mission 7:（Step 2: Make PowerPoint Slides） W11：Mission 7: Give a Presentation W12：Mission 8: "FUTURE PLANS"（Step 1: Write a Speech） Week 13：Mission 8:（Step 2: Make PowerPoint Slides） Week 14：Mission 8: Give a Presentation Week 15：Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	1）Preparation：Read sample presentations, study vocabulary and expressions, and prepare your own topic to talk about. 2）Review：Look at your own performance on a recorded video. Self-evaluate and work to improve where you went wrong.
テキスト、参考文献	*One-minute Presentation in English*（Noboru Matsuoka & Kazuo Sobajima, DHC）
評価方法	80% from presentation performances; 20% from papers S:100-90%、A:89-80%、B:79-70%、C:69-60%、Failure：59% or below(In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)

08 年度以降	English(スピーキング IIa) / (Speaking in Academic Contexts II a: Presentation)	担当者	Ｊ．ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
Learning should be fun. We will use English every day. We will learn how to make presentations more exciting, more interesting We will do and watch presentations. We will use YouTube, TED talks, etc. Students will do 3 major presentations each semester. We will analyze 3 professional presentations each semester. There will be new vocabulary introduced and quizzed. Leaning takes practice. To learn, you must come to class. Questions or problems, send me an e-mail: sumiink@hotmail.com	1 Introduction 2. create first presentation 3. practice in groups 4. present to the class 5. Analyze presentations 6. Create 2nd presentation 7. Work in groups, begin debate skills 8. Present to the class 9. Analyze and review 10 begin midterm presentation 11. practice debating 12. formal debate 13. present to full class 14. present 15. Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	You will compose presentations, and view professional presentations outside of class. A good presentation requires practice.
テキスト、参考文献	No text. Please save the papers I give you in class.
評価方法	Class work (Formal Presentations): 60%　Homework 15% Quizzes and examinations 25% 4 absences is, in principle, an automatic F or X

08 年度以降	English(スピーキング IIb) / (Speaking in Academic Contexts II b: Presentation)	担当者	Ｊ．ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
Learning should be fun. We will use English every day. We will learn how to make presentations more exciting, more interesting We will do and watch presentations. We will use YouTube, TED talks, etc. Students will do 3 or 4 major presentations each semester. We will analyze 3 professional presentations each semester. There will be new vocabulary introduced and quizzed. Leaning takes practice. To learn, you must come to class. Questions or problems, send me an e-mail: sumiink@hotmail.com	1. Introduction 2. create first presentation 3. practice in groups 4. present to the class 5. Analyze presentations 6. Create 2nd presentation 7. Work in groups, begin debate skills 8. Present to the class 9. Analyze and review 10 begin midterm presentation 11. practice debating 12. formal debate 13. present to full class 14. present 15. Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	You will compose presentations, and view professional presentations outside of class. A good presentation requires practice.
テキスト、参考文献	No text. Please save the papers I give you in class.
評価方法	Class work (Formal Presentations): 60%　Homework 15% Quizzes and examinations 25% 4 absences is, in principle, an automatic F or X

08 年度以降	English（リーディング IIIa）/（Academic Reading and Writing Strategies IIIa） **選択科目**	担当者	中西　貴行

講義目的、講義概要	授業計画
▽ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目（選択）です。 ▽ 対象：外国語学部（独・仏）、法学部（法律・総政・国関法）で、TOEICスコアがおおむね500点以上の学生を対象とします。 ▽ 選択科目です。春学期のみ、または通年での履修となります。 ▽ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。使用言語は英語。 ▽ 指定図書は “Writing to communicate Book 3” です。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります。	1. Writing in English 2. Chapter 1 The process of writing 3. Chapter 1 The process of writing 4. Chapter 1 The process of writing 5. Chapter 2 The cause and effect essay 6. Chapter 2 The cause and effect essay 7. Chapter 2 The cause and effect essay 8. Chapter 3 The problem and solution essay 9. Chapter 3 The problem and solution essay 10. Chapter 3 The problem and solution essay 11. Chapter 4 Summarizing and responding 12. Chapter 4 Summarizing and responding 13. Chapter 4 Summarizing and responding 14. Chapter 4 Summarizing and responding 15. Review and Final assignment submission

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を読み、課題に取り組む。事後には、修正箇所を見直すこと。
テキスト、参考文献	指定教科書　Writing to communicate. (Pearson) Book 3
評価方法	Active Participation　20 % Assignments (extensive reading & writing assignments) 50% Final Exam　30%

08 年度以降	English（リーディング IIIb）/（Academic Reading and Writing Strategies IIIb） **選択科目**	担当者	中西　貴行

講義目的、講義概要	授業計画
▽ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目（選択）です。 ▽ 対象：外国語学部（独・仏）、法学部（法律・総政・国関法）で、TOEICスコアがおおむね500点以上の学生を対象とします。 ▽ 選択科目です。春学期のみ、または通年での履修となります。 ▽ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。使用言語は英語。 ▽ 指定図書は “Writing to communicate Book 3” です。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります。	1. Chapter 5 Responding to a travel story 2. Chapter 5 Responding to a travel story 3. Chapter 5 Responding to a travel story 4. Chapter 6 Two sides of an issue 5. Chapter 6 Two sides of an issue 6. Chapter 6 Two sides of an issue 7. Chapter 7 The first draft 8. Chapter 7 The first draft 9. Chapter 7 The first draft 10. Chapter 8 Doing research 11. Chapter 8 Doing research 12. Chapter 8 Doing research 13. Chapter 9 Revising and editing 14. Chapter 9 Revising and editing 15. Review and Final assignment submission

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を読み、課題に取り組む。事後には、修正箇所を見直すこと。
テキスト、参考文献	指定教科書　Writing to communicate. (Pearson) Book 3
評価方法	Active Participation　20 % Assignments (extensive reading & writing assignments) 50% Final Exam　30%

08 年度以降	English(e-ラーニング) / (Computer Assisted English Learning (CAEL)	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者：短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。教室外での集中的で継続的な自主学習が必要です。抽選に合格したら必ず履修する意欲のある方だけ登録してください。 受講条件：・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい （現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります） 重要事項： ・教室外で、春学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学期初めに設定した目標のユニット数をクリア ・学習プランの作成と詳細な学習記録（ジャーナル） ・学習自己評価（2 回） ・実力診断テスト・毎回の実力語彙テスト ・期末テスト 本科目は半期完結なので、通年受講はできません。また、2 単位科目なので学習量は特に多いことを理解すること。 受講希望者は、第1回の授業に参加して下さい。	1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 (listening), 4. テキスト Day 6 (listening), 語彙実力テスト 1 5. テキスト Days 9-10 (listening), 語彙実力テスト 2 6. テキスト Day 11 (listening), 語彙実力テスト 3 7. リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 (reading), 語彙実力テスト 4 10. テキスト Day 5(reading), 語彙実力テスト 5 11. テキスト Days 7-8 (reading), 語彙実力テスト 6 12. テキスト Day 9 (reading), 語彙実力テスト 7 13. テキスト Day 10 (reading), 14. リーディング実力診断テスト 15. Wrap-up, 自己評価レポート

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	1. シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。2. 毎回の授業の最後に出される指示に従い、次回の授業までに e-learning を行うと同時に、詳細なジャーナルを作成して次の授業で提出する。
テキスト、参考文献	1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』（ロバート・ヒルキ他著、アルク） 2. ぎゅっと e プログラム　（体験版は http://gyutto-e.jp）
評価方法	積極的な授業参加 20%、詳細な学習記録（ジャーナル）20%、学習プランと 20 時間以上の自習、自己評価レポート 20%、授業内語彙実力テスト 10%、期末テスト 30%。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(e-ラーニング) / (Computer Assisted English Learning (CAEL)	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者：短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。教室外での集中的で継続的な自主学習が必要です。抽選に合格したら必ず履修する意欲のある方だけ登録してください。 受講条件：・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい （現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります） 重要事項： ・教室外で、春学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学期初めに設定した目標のユニット数をクリア ・学習プランの作成と詳細な学習記録（ジャーナル） ・学習自己評価（2 回） ・実力診断テスト・毎回の実力語彙テスト ・期末テスト 本科目は半期完結なので、通年受講はできません。また、2 単位科目なので学習量は特に多いことを理解すること。 受講希望者は、第1回の授業に参加して下さい。	1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 (listening), 4. テキスト Day 6 (listening), 語彙実力テスト 1 5. テキスト Days 9-10 (listening), 語彙実力テスト 2 6. テキスト Day 11 (listening), 語彙実力テスト 3 7. リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 (reading), 語彙実力テスト 4 10. テキスト Day 5(reading), 語彙実力テスト 5 11. テキスト Days 7-8 (reading), 語彙実力テスト 6 12. テキスト Day 9 (reading), 語彙実力テスト 7 13. テキスト Day 10 (reading), 14. リーディング実力診断テスト 15. Wrap-up, 自己評価レポート

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	1. シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。2. 毎回の授業の最後に出される指示に従い、次回の授業までに e-learning を行うと同時に、詳細なジャーナルを作成して次の授業で提出する。
テキスト、参考文献	1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』（ロバート・ヒルキ他著、アルク） 2. ぎゅっと e プログラム　（体験版は http://gyutto-e.jp）
評価方法	積極的な授業参加 20%、詳細な学習記録（ジャーナル）20%、学習プランと 20 時間以上の自習、自己評価レポート 20%、授業内語彙実力テスト 10%、期末テスト 30%。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(コンテント ii) / (English Explorations)	担当者	Ｊ．ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
This class is an examination of English words from the perspective of applied linguistics. Through lectures, independent research, and in-class activities, we will attempt to answer a number of questions about English words including: - What is a word? - How many English words are there? - What does it mean to *know* a word? - How many English words do you know right now? - How many English words does a Japanese university student need to know? - What is the best way to learn new words? - How is vocabulary organized in the mind? Students should have achieved a TOEIC score of around 450 or more before enrolling in this class. Evaluation will be based on a research project, vocabulary quizzes, and a final exam. * Note: This course is only one-semester in length. It is offered in both the spring and fall semesters.	Tentative Schedule: 1. Course introduction 2. Applied Linguistics 3. What is a word? 4. Vocabulary Testing (This is not a test. This is a lesson about how to measure the number of words someone knows.) 5. Types of words: Content and function words 6. Types of word knowledge 7. Counting words: Lemmas and lexemes 8. Corpus Linguistics 9. Semantic relations between words 10. Word association 11. Vocabulary learning strategies 12. Vocabulary acquisition 13. Research projects 14. Research projects 15. Final exam

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare a research presentation outside of class time, to study vocabulary in preparation for in-class quizzes, and to review class materials for the final exam.
テキスト、参考文献	*Vocabulary for Languages and Linguistics*（著者 J. Racine, T. Nakanishi; 出版社 南雲堂）
評価方法	Participation 15%; Research project 20%; Vocabulary quizzes 40%, Final exam 25% (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)

08 年度以降	English(コンテント ii) / (English Explorations)	担当者	Ｊ．ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
This class is an examination of English words from the perspective of applied linguistics. Through lectures, independent research, and in-class activities, we will attempt to answer a number of questions about English words including: - What is a word? - How many English words are there? - What does it mean to *know* a word? - How many English words do you know right now? - How many English words does a Japanese university student need to know? - What is the best way to learn new words? - How is vocabulary organized in the mind? Students should have achieved a TOEIC score of around 450 or more before enrolling in this class. Evaluation will be based on a research project, vocabulary quizzes, and a final exam. * Note: This course is only one-semester in length. It is offered in both the spring and fall semesters.	Tentative Schedule: 1. Course introduction 2. Applied Linguistics 3. What is a word? 4. Vocabulary Testing (This is not a test. This is a lesson about how to measure the number of words someone knows.) 5. Types of words: Content and function words 6. Types of word knowledge 7. Counting words: Lemmas and lexemes 8. Corpus Linguistics 9. Semantic relations between words 10. Word association 11. Vocabulary learning strategies 12. Vocabulary acquisition 13. Research projects 14. Research projects 15. Final exam

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare a research presentation outside of class time, to study vocabulary in preparation for in-class quizzes, and to review class materials for the final exam.
テキスト、参考文献	*Vocabulary for Languages and Linguistics*（著者 J. Racine, T. Nakanishi; 出版社 南雲堂）
評価方法	Participation 15%; Research project 20%; Vocabulary quizzes 40%, Final exam 25% (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)

08 年度以降	English(資格 I) / (Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原　伸一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、主として語彙を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。 スコアアップにつながる効果的な学習方法として、カードを使用した単語学習、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。 この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。 ① この科目は目安として TOEIC 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。 ② 半期完結。通年履修不可。	1. G（文法)、R（読解)、L（リスニング)、W（単語） 2. G, R, L, W 3. G, R, L, W 4. G, R, L, W 5. まとめと確認テスト（1） 6. G, R, L, W 7. G, R, L, W 8. G, R, L, W 9. G, R, L, W 10. まとめと確認テスト（2） 11. G, R, L, W 12. G, R, L, W 13. G, R, L, W 14. G, R, L, W 15. 総括と学習到達度確認テスト

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業において使用したプリントについて、誤った部分を中心に復習する。また、次回の授業の理解を深めるため、単語リストの予習を行う。
テキスト、参考文献	授業において、指示します。
評価方法	原則として、4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。

08 年度以降	English(資格 I) / (Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原　伸一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、主として語彙を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。 スコアアップにつながる効果的な学習方法として、カードを使用した単語学習、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。 この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。 ② この科目は目安として TOEIC 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。 ② 半期完結。通年履修不可。	1. G（文法)、R（読解)、L（リスニング)、W（単語） 2. G, R, L, W 3. G, R, L, W 4. G, R, L, W 5. まとめと確認テスト（1） 6. G, R, L, W 7. G, R, L, W 8. G, R, L, W 9. G, R, L, W 10. まとめと確認テスト（2） 11. G, R, L, W 12. G, R, L, W 13. G, R, L, W 14. G, R, L, W 15. 総括と学習到達度確認テスト

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業において使用したプリントについて、誤った部分を中心に復習する。また、次回の授業の理解を深めるため、単語リストの予習を行う。
テキスト、参考文献	授業において、指示します。
評価方法	原則として、4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。

08 年度以降	English(資格 II) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡　昇

講義目的、講義概要	授業計画
In an increasingly globalizing world, English competence is no longer just a nice skill to have – it is a necessary skill for success in various fields. The purpose of this course is to provide students with good communication skills in English and, as a consequence, help them get a high score of the TOEIC. For this purpose, a TOEIC Listening/Reading workbook will be used as a main textbook, focusing on both listening and reading exercises. The course activities also include intensive and extensive vocabulary-building exercises and quick grammar review to totally strengthen their command of English. Students are expected to work hard both in class and at home so that all of them can get a score of 730 points or above of the TOEIC when they finish the course.	Week 1：Orientation; About International Communication and TOEIC Week 2：Missions 1, 2: Shopping; At a Restaurant Week 3：Missions 3, 4: At an Airport; Entertainment Week 4：Missions 5, 6 : At a Hotel; Job Hunting Week 5：How to break through the "Wall of Speed" Week 6：Missions 7, 8: Telephoning; Negotiating Week 7：Missions 9, 10: Giving a Presentation; Appointment Week 8：How to break through the "Wall of Pronunciation" Week 9：Missions 11, 12: At a Bank; On the Street Week 10：Missions 13, 14: Taking a Trip; Dealing with Troubles Week 11：Missions 15, 16: Renting an Apartment; Meetings Week 12：Missions 17, 18: Handling Customer Complaints Week 13：Missions 19, 20: Advertising; Parties Week 14：TOEIC Mock Test Week 15：Feedback and Advice for Further Study

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	1）Preparation：Work out your answers to all the questions in a designated Mission (Chapter).Also, be prepared for a "snowballing" vocabulary quiz. 2）Revie: Read transcriptions of listening questions to check where you made mistakes.
テキスト、参考文献	*Raise Your Score 150 Plus on the TOEIC Test*（松岡昇、傍島一夫共著、松柏社）
評価方法	50% from Vocabulary Quizzes, 50% from TOEIC Mock Tests　AA:100-90、A:89-80、B:79-70、C:69-60、Failure：59 or below（In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.）

08 年度以降	English(資格 II) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡　昇

講義目的、講義概要	授業計画
In an increasingly globalizing world, English competence is no longer just a nice skill to have – it is a necessary skill for success in various fields. The purpose of this course is to provide students with good communication skills in English and, as a consequence, help them get a high score of the TOEIC. For this purpose, a TOEIC Listening/Reading workbook will be used as a main textbook, focusing on both listening and reading exercises. The course activities also include intensive and extensive vocabulary-building exercises and quick grammar review to totally strengthen their command of English. Students are expected to work hard both in class and at home so that all of them can get a score of 730 points or above of the TOEIC when they finish the course.	Week 1：Orientation; About International Communication and TOEIC Week 2：Missions 1, 2: Shopping; At a Restaurant Week 3：Missions 3, 4: At an Airport; Entertainment Week 4：Missions 5, 6 : At a Hotel; Job Hunting Week 5：How to break through the "Wall of Speed" Week 6：Missions 7, 8: Telephoning; Negotiating Week 7：Missions 9, 10: Giving a Presentation; Appointment Week 8：How to break through the "Wall of Pronunciation" Week 9：Missions 11, 12: At a Bank; On the Street Week 10：Missions 13, 14: Taking a Trip; Dealing with Troubles Week 11：Missions 15, 16: Renting an Apartment; Meetings Week 12：Missions 17, 18: Handling Customer Complaints Week 13：Missions 19, 20: Advertising; Parties Week 14：TOEIC Mock Test Week 15：Feedback and Advice for Further Study

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	1）Preparation：Work out your answers to all the questions in a designated Mission (Chapter).Also, be prepared for a "snowballing" vocabulary quiz. 2）Revie: Read transcriptions of listening questions to check where you made mistakes.
テキスト、参考文献	*Raise Your Score 150 Plus on the TOEIC Test*（松岡昇、傍島一夫共著、松柏社）
評価方法	50% from Vocabulary Quizzes, 50% from TOEIC Mock Tests　AA:100-90、A:89-80、B:79-70、C:69-60、Failure：59 or below（In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	English(資格 III) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	中西　貴行

講義目的、講義概要	授業計画
▼ ドイツ語学科・フランス語学科・経済学部・法学部 1~4 年生を対象とする全カリ英語部門の選択科目です。 ▼ TOEFL iBT は、英語圏の大学レベルの英語を理解する能力と、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングスキルを統合して、アカデミックな課題を遂行する能力を評価する試験です。授業では、TOEFL iBT テストの各パートで求められる英語力と基本の test-taking strategies を理解し、テスト問題の実践練習を繰返して行います。さらに、テスト問題練習に加え、様々な学習活動を通してアカデミックな英語コミュニケーションの実践力を伸ばす練習も行います。 ▼ 将来、英語圏大学への留学を考えている学生、TOEFL に関心がある学生、より高度なアカデミック英語を学びたい学生に適した科目です。 ▼ MyDOC を使って連絡、教材・資料配布、学習活動、課題提出などをしますので、毎週定期的に確認できるように設定してください。	1. Course introduction 2. Overview of the TOEFL iBT 3. Listening section 4. Writing: Independent (Q2) 5. Writing Integrated (Q1) 6. Reading section 7. Speaking: independent 8. Speaking: integrated (Q3&5) 9. Speaking: integrated (Q4) 10. Summarizing practice 11. Summarizing practice 12. Practice test 13. Practice test 14. Reviewing, Final exam (Speaking) 15. Final exam (Reading, Listening, Writing)

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、次の授業までに教科書・補助教材の指定箇所の学習と課題提出を行う。
テキスト、参考文献	初回の授業で指定します。
評価方法	Participation 20%; Assignments 40 %; Final exam 40%

08 年度以降	English(資格 IV) / (English(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	鈴木　朝美

講義目的、講義概要	授業計画
This course will help students to prepare to take the IELTS (International English Language Testing System) exam. Students will first be given an introduction to the contents of the exam. Then, each week they will learn both study strategies and test-taking strategies for improving their performance on the exam. They will have an opportunity to complete a large number of practice questions for all four sections of the test, as well as to take a practice test. Although the course is primarily designed for students who actually intend to take the IELTS, it is also open to students who want to improve their general academic English skills. * This course is designed for students with TOEIC scores of 450 or above.	1. Introduction to the course / IELTS exam 2. Unit 1 3. Unit 1 (continued) 4. Unit 2 5. Unit 2 (continued) 6. Unit 3 7. Unit 3 (continued) 8. Unit 4 9. Unit 4 (continued) 10. Unit 5 11. Unit 5 (continued) 12. Unit 6 13. Unit 6 (continued) 14. Review 15. Final exam

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do approximately one hour of homework per week in order to preview and/or review the course content.
テキスト、参考文献	The textbook will be announced on the first day of class.
評価方法	Class participation: 20%, Homework: 30%,　Final exam: 50% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

08 年度以降	English (発音) / (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の内容が同一のため、履修は半期 1 回のみです。 大学や仕事の様々な場面、特に公の場（プレゼンテーション、ディスカッションなど）で英語が使えるよう、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニカティブな授業活動と、シャドーイングなどの自律的学習を通して練習します。 ・母音・子音の発音 ・強勢、イントネーション、リズム ・音の短縮・脱落・同化・結合 ・発声、スピード、音量 ・発音記号と辞書の使い方 ・日本語と英語の発音の違い 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。	1. Course Introduction; Ch.2 Overview 2. Ch.3 Voiceless and voiced sounds 3. Ch.1 Your pronunciation profile (recording) 4. Ch.4 Grammatical Endings 5. Ch.5 Word stress in nouns, verbs, & numbers 6. Ch.6 Stress in words with suffixes 7. Ch.7 Rhythm in phrases and sentences 8. Midterm speech presentations 9. Ch.8 Thought groups 10. Ch.9 Focus words 11. Ch.10 Final intonation 12. Ch.11 Linking and sound change 13. Ch.12 Consonant clusters 14. Final speech presentations; Ch.1 (recording) 15. Review ※上記の予定は担当教員により多少内容・順番が変わることがあります。詳細は第1回目に配付のクラスシラバス参照のこと。

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習およびスピーチの練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト、参考文献	Grant, L. (2017). *Well Said*, Fourth Edition. Cengage.
評価方法	授業参加 30%　課題 10%　中間発表 10%　期末発表 20%　期末試験 30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English (発音) / (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の内容が同一のため、履修は半期 1 回のみです。 大学や仕事の様々な場面、特に公の場（プレゼンテーション、ディスカッションなど）で英語が使えるよう、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニカティブな授業活動と、シャドーイングなどの自律的学習を通して練習します。 ・母音・子音の発音 ・強勢、イントネーション、リズム ・音の短縮・脱落・同化・結合 ・発声、スピード、音量 ・発音記号と辞書の使い方 ・日本語と英語の発音の違い 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。	1. Course Introduction; Ch.2 Overview 2. Ch.3 Voiceless and voiced sounds 3. Ch.1 Your pronunciation profile (recording) 4. Ch.4 Grammatical Endings 5. Ch.5 Word stress in nouns, verbs, & numbers 6. Ch.6 Stress in words with suffixes 7. Ch.7 Rhythm in phrases and sentences 8. Midterm speech presentations 9. Ch.8 Thought groups 10. Ch.9 Focus words 11. Ch.10 Final intonation 12. Ch.11 Linking and sound change 13. Ch.12 Consonant clusters 14. Final speech presentations; Ch.1 (recording) 15. Review ※上記の予定は担当教員により多少内容・順番が変わることがあります。詳細は第1回目に配付のクラスシラバス参照のこと。

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習およびスピーチの練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト、参考文献	Grant, L. (2017). *Well Said*, Fourth Edition. Cengage.
評価方法	授業参加 30%　課題 10%　中間発表 10%　期末発表 20%　期末試験 30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない

08 年度以降	English(基礎文法 a) / (Special Topics: Grammar Refresher a)	担当者	垣下　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようになることを目標とします。 文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解が不十分な項目に焦点をあてます。単なるドリル形式の演習ではなく、リーディングやリスニング、ライティングの形式を取り入れながら、実際に活用して、総合的な英語力の向上につなげていきます。 授業では、テキストを用いての練習問題に加え、学習した文法事項が実生活でどのように用いられているかを、雑誌・ニュース・映画などで確認する活動や、グループワークやペアーワークで実際に使用する活動を行います。更には、単元毎に、小テストを実施し、知識の定着を図ります。 TOEICの得点が、３００点台後半から４００点台半ば程度の学生が受講することが望まれます。	1. オリエンテーション、現在形、現在進行形 2. 現在形・現在進行形 3. 過去形・過去進行形 4. 過去形・過去進行形 5. 名詞・冠詞 6. 名詞・冠詞 7. 代名詞・数詞 8. 代名詞・数詞 9. 未来形 10. 未来形 11. 助動詞 12. 助動詞 13. 動名詞・不定詞 14. 動名詞・不定詞 15. 総復習

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各単元ごとに行われる小テストには、よく復習をして臨んでください。 また、ライティングの課題が出されるので、指示に従って提出してください。
テキスト、参考文献	テキスト：*ELEMENTS of SUCCESS 2A*（Oxford）
評価方法	積極的な授業参加（20%）課題（10%）小テスト(30%)　期末試験(40%)とする。 原則として、４回以上欠席した学生は、成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(基礎文法 b) / (Special Topics: Grammar Refresher b)	担当者	垣下　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようになることを目標とします。 文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解が不十分な項目に焦点をあてます。単なるドリル形式の演習ではなく、リーディングやリスニング、ライティングの形式を取り入れながら、実際に活用して、総合的な英語力の向上につなげていきます。 授業では、テキストを用いての練習問題に加え、学習した文法事項が実生活でどのように用いられているかを、雑誌・ニュース・映画などで確認する活動や、グループワークやペアーワークで実際に使用する活動を行います。更には、単元毎に、小テストを実施し、知識の定着を図ります。 TOEICの得点が、３００点台後半から４００点台半ば程度の学生が受講することが望まれます。	1. オリエンテーション、現在完了形・過去完了形 2. 現在完了形・過去完了形 3. 助動詞 4. 助動詞 5. 形容詞・関係代名詞 6. 形容詞・関係代名詞 7. 副詞 8. 副詞 9. 副詞節 10. 副詞節 11. 比較級・最上級 12. 比較級・最上級 13. 複文・付加疑問文 14. 複文・付加疑問文 15. 総復習

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各単元ごとに行われる小テストには、よく復習をして臨んでください。 また、ライティングの課題が出されるので、指示に従って提出してください。
テキスト、参考文献	テキスト：*ELEMENTS of SUCCESS 2B*（Oxford）
評価方法	積極的な授業参加（20%）課題（10%）小テスト(30%)　期末試験(40%)とする。 原則として、４回以上欠席した学生は、成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(基礎文法 a) / (Special Topics: Grammar Refresher a)	担当者	豊田　宣是

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、文章を正しく理解し、自分の考えを正確に伝えるために必要となる英文法のおさらいをします。 発表形式を採用し、各章の担当者に文法事項と練習問題の解説をしてもらい、教員はその補助を行います。 各章に設けられている練習問題の数が多いので、全てを取り扱うことはできません。学生は自主的に学習し、わからないことがあれば、積極的に質問し、授業内で解決できるように心がけて下さい。	1. Orientation 2. Module 1: Nouns and articles 3. Module 1: Nouns and articles 4. Module 2: Possessives, pronouns and quantifiers 5. Module 2: Possessives, pronouns and quantifiers 6. Module 3: Prepositions 7. Module 4: Adjectives and adverbs 8. Module 5: Present tenses 9. Midterm Exam 10. Module 6: Past tenses 11. Module 7: Present perfect 12. Module 8: Future forms 13. Module 9: Modal verbs 14. Module 10: Conditionals 15. Final Exam

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に練習問題を一通り解いて、わからないところを見つけ、授業後に必ず復習してください。
テキスト、参考文献	Mark Foley, Diane Hall, My Grammar Lab Intermediate B1/B2, Pearson.
評価方法	中間試験（40%）+ 期末試験（40%）+ 発表（20%）原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象とはなりません。

08 年度以降	English(基礎文法 b) / (Special Topics: Grammar Refresher b)	担当者	豊田　宣是

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、文章を正しく理解し、自分の考えを正確に伝えるために必要となる英文法のおさらいをします。 発表形式を採用し、各章の担当者に文法事項と練習問題の解説をしてもらい、教員はその補助を行います。 各章に設けられている練習問題の数が多いので、全てを取り扱うことはできません。学生は自主的に学習し、わからないことがあれば、積極的に質問し、授業内で解決できるように心がけて下さい。	1. Orientation 2. Module 11: Word order and sentence patterns 3. Module 11: Word order and sentence patterns 4. Module 12: Verbs with *-ing* forms and infinitives 5. Module 13: Reported speech 6. Module 14: Relatives, particles and other clauses 7. Module 15: Linking words 8. Review 9. Midterm Exam 10. Module 16:　Passive forms 11. Module 17: Word combinations 12. Module 18: Word formation 13. Module 19: Formal and written English 14. Module 20: Spoken English 15. Final Exam

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に練習問題を一通り解いて、わからないところを見つけ、授業後に必ず復習してください。
テキスト、参考文献	Mark Foley, Diane Hall, My Grammar Lab Intermediate B1/B2, Pearson.
評価方法	中間試験（40%）+ 期末試験（40%）+ 発表（20%）原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象とはなりません。

08 年度以降	English(基礎文法 a) / (Special Topics: Grammar Refresher a)	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。また、補助教材を活用し、応用力をつけることを目指す。学部学科の枠を超えた学生が切磋琢磨し、積極的に授業に参加することを求める。 TOEIC の得点が 400 点台半ば以上の学生が受講することが望ましい。	1. オリエンテーション、現在形・現在進行形 2. 現在形・現在進行形 3. 過去形・過去進行形 4. 動名詞、so, neither の用法 5. 現在完了形と現在完了進行形 6. 現在完了形と過去形 7. 6 回目の授業までのまとめ 8. 疑問文 9. 過去完了、過去完了進行形 10. 目的語を２つ取る動詞、時を表す節 11. 間接話法（１） 12. mustn't と don't have to,の用法、 had better と would rather の用法 13. 推量の表現、so, such の用法 14. both, neither ; all, none の用法 15 総復習

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で行う予定の解説を読み、問題を解いておくこと。授業内容を振り返り、教室外での学習に反映すること。
テキスト、参考文献	*Grammar three*　Third Edition (Oxford University Press)
評価方法	授業への参加の姿勢（30%）、課題等の提出（30%）、期末テスト（40%）。原則として 4 回以上欠席した学生は評価の対象とならない。

08 年度以降	English(基礎文法 b) / (Special Topics: Grammar Refresher b)	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。また、補助教材を活用し、応用力をつけることを目指す。学部学科の枠を超えた学生が切磋琢磨し、積極的に授業に参加することを求める。 TOEICの得点が400点台半ば以上の学生が受講することが望ましい。	1. オリエンテーション、仮定法過去・不可算名詞 2. 不定詞、使役動詞 3. need+-ing ; have/get something done の用法 4. 関係詞 5. 間接疑問文 6. 必要・義務の表現、動詞句 7. 付加疑問・願望の表現（１）、可算名詞 8. 義務の表現 9. 不定詞（２）・動名詞（２） 10. 副詞・願望の表現（２） 11. 受動態（１） 12. 受動態（２） 13. 仮定法過去完了 14. 時制のまとめ 15 総復習

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で行う予定の解説を読み、問題を解いておくこと。授業内容を振り返り、教室外での学習に反映すること。
テキスト、参考文献	*Grammar three*　Third Edition (Oxford University Press)
評価方法	授業への参加の姿勢（30%）、課題等の提出（30%）、期末テスト（40%）。原則として 4 回以上欠席した学生は評価の対象とならない。

08 年度以降	基礎コース　ドイツ語（Ia 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト、参考文献	清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD　Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	基礎コース　ドイツ語（Ib 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト、参考文献	清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD　Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	総合コース　ドイツ語（Ia 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト、参考文献	清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD　Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	総合コース　ドイツ語（Ib 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト、参考文献	清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD　Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	総合コース　ドイツ語（Ia 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1　Guten Tag, wie gehts? (1) 3. Lektion 1　Guten Tag, wie gehts? (2) 4. Lektion 1　Guten Tag, wie gehts? (3) 5. Lektion 2　Familie! Familie? (1) 6. Lektion 2　Familie! Familie? (2) 7. Lektion 2　Familie! Familie? (3) 8. Lektion 2　Familie! Familie? (4) 9. Lektion 3　In meiner Freizeit (1) 10. Lektion 3　In meiner Freizeit (2) 11. Lektion 3　In meiner Freizeit (3) 12. Lektion 3　In meiner Freizeit (4) 13. Lektion 3　In meiner Freizeit (5) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト、参考文献	Akamatsu, Enrico / Meyer, Andreas 2016: プラン D Plan D　Deutsch für Anfänger Kursbuch und Arbeitsbuch　CD[MP3 付き，三修社
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	総合コース　ドイツ語（Ib 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 4　So wohne ich (1) 3. Lektion 4　So wohne ich (2) 4. Lektion 4　So wohne ich (3) 5. Lektion 4　So wohne ich (4) 6. Lektion 5　Mein Tag (1) 7. Lektion 5　Mein Tag (2) 8. Lektion 5　Mein Tag (3) 9. Lektion 5　Mein Tag (4) 10. Lektion 6　Studieren und Lernen (1) 11. Lektion 6　Studieren und Lernen (2) 12. Lektion 6　Studieren und Lernen (3) 13. Lektion 6　Studieren und Lernen (4) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト、参考文献	Akamatsu, Enrico / Meyer, Andreas 2016: プラン D Plan D　Deutsch für Anfänger Kursbuch und Arbeitsbuch　CD[MP3 付き，三修社
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	基礎コース　ドイツ語（IIa 基礎）	担当者	八幡　さくら

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト、参考文献	橋本他：『グレードアップドイツ語』（郁文堂）2012 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	基礎コース　ドイツ語（IIb 基礎）	担当者	八幡　さくら

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト、参考文献	橋本他：『グレードアップドイツ語』（郁文堂）2012 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	総合コース　ドイツ語（IIa 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト、参考文献	橋本他：『グレードアップドイツ語』（郁文堂）2012 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	総合コース　ドイツ語（IIb 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト、参考文献	橋本他：『グレードアップドイツ語』（郁文堂）2012 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	総合コース　ドイツ語（IIa 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト、参考文献	佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver :『CD 付き　スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語（Szenen 2 integriert)』（三修社）2007 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	総合コース　ドイツ語（IIb 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト、参考文献	佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver :『CD 付き　スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語（Szenen 2 integriert)』（三修社）2007 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	ドイツ語（IIIa 会話）	担当者	D．H．マッコイ

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch)および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材 ＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 1 (1) 3. Abschnitt 1 (2) 4. Abschnitt 2 (1) 5. Abschnitt 2 (2) 6. Abschnitt 3 (1) 7. Abschnitt 3 (2) 8. Abschnitt 4 (1) 9. Abschnitt 4 (2) 10. Abschnitt 5 (1) 11. Abschnitt 5 (2) 12. Abschnitt 6 (1) 13. Abschnitt 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。
テキスト、参考文献	Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	ドイツ語（IIIb 会話）	担当者	D．H．マッコイ

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch)および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材 ＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 7 (1) 3. Abschnitt 7 (2) 4. Abschnitt 8 (1) 5. Abschnitt 8 (2) 6. Abschnitt 9 (1) 7. Abschnitt 9 (2) 8. Abschnitt 10 (1) 9. Abschnitt 10 (2) 10. Abschnitt 11 (1) 11. Abschnitt 11 (2) 12. Abschnitt 12 (1) 13. Abschnitt 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。
テキスト、参考文献	Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降	基礎コース　フランス語（Ia 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週1回の授業で2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。春学期には、*Tome 1* の第 5 課まで進む予定。	1. ガイダンス、発音と綴り字の読み方 2. 発音と綴り字の読み方 3. 第 1 課 4. 第 1 課 5. 第 2 課 6. 第 2 課 7. 第 3 課 8. 第 3 課 9. 第 4 課 10. 第 4 課 11. 第 5 課 12. 第 5 課 13. まとめ 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：*Tome 1*（第三書房）
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

08 年度以降	基礎コース　フランス語（Ib 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週 1 回の授業で 2 年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。秋学期には、*Tome 1* の第 6課から第10課まで進む予定。	1. 第 6 課 2. 第 6 課 3. 第 7 課 4. 第 7 課 5. 第 8 課 6. 第 8 課 7. 第 9 課 8. 第 9 課 9. 第 10 課 10. 第 10 課 11. annexe 12. 総合問題（bilan） 13. まとめ 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：*Tome 1*（第三書房）
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

08 年度以降	総合コース　フランス語（Ia 総合 J）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は*Conversation et Grammaire*で（Ia 総合J）は日本人講師、（Ia 総合F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ia 総合F）とのペアでしか受講できない。 この（Ia 総合J）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

08 年度以降	総合コース　フランス語（Ib 総合 J）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は*Conversation et Grammaire*で（Ib 総合J）は日本人講師、（Ib 総合F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ib 総合F）とのペアでしか受講できない。 この（Ib 総合J）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト、参考文献	教科書：Conversation et Grammaire (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

08 年度以降	総合コース　フランス語（Ia 総合 F）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ia 総合J：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ia 総合J）とのペアでしか受講できない。 この（Ia 総合F）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision, bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

08 年度以降	総合コース　フランス語（Ib 総合 F）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ib 総合J：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ib 総合J）とのペアでしか受講できない。 この（Ib 総合F）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すか、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

08 年度以降	基礎コース　フランス語（IIa 基礎）	担当者	M．デルヴロワ

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の２年目。１年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. Unité 1 2. Unité 1 3. Unité 1 4. Unité 2 5. Unité 2 6. Unité 2 7. Unité 3 8. Unité 3 9. Unité 3 10. Unité 4 11. Unité 4 12. Unité 4 13. Unité 5 14. Unité 5 15. Unité 5

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書： *Bis, amicalement*（駿河台出版社）
評価方法	Contrôle continu, participation active, prononciation, devoirs, présentations, assiduité

08 年度以降	基礎コース　フランス語（IIb 基礎）	担当者	M．デルヴロワ

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の２年目。１年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. Unité 6 2. Unité 6 3. Unité 6 4. Unité 7 5. Unité 7 6. Unité 7 7. Unité 8 8. Unité 8 9. Unité 8 10. Unité 9 11. Unité 9 12. Unité 9 13. Unité 10 14. Unité 10 15. Unité 10

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書： *Bis, amicalement*（駿河台出版社）
評価方法	Contrôle continu, participation active, prononciation, devoirs, présentations, assiduité

08 年度以降	総合コース　フランス語（IIa 総合 J）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語（Ia/b 総合）に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は*Conversation et Grammaire*で、（IIa 総合 J）は日本人講師、(IIa 総合 F)はフランス人講師が担当する(再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語（IIa 総合 F）とのペアでしか受講できない。 この（IIa 総合 J）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：Conversation et Grammaire (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

08 年度以降	総合コース　フランス語（IIb 総合 J）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語（Ia/b 総合）に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は*Conversation et Grammaire*で、（IIb 総合 J）は日本人講師、(IIb 総合 F)はフランス人講師が担当する(再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語（IIb 総合 F）とのペアでしか受講できない。 この（IIb 総合 J）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：Conversation et Grammaire (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

08 年度以降	総合コース　フランス語（IIa 総合 F）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語（Ia/b 総合）に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIa 総合 J）は日本人講師、（IIa 総合 F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIa 総合 J）とのペアでしか受講できない。 この（IIa 総合 F）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト、参考文献	教科書：Conversation et Grammaire (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

08 年度以降	総合コース　フランス語（IIb 総合 F）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語（Ia/b 総合）に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIb 総合 J）は日本人講師、（IIb 総合 F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIb 総合 J）とのペアでしか受講できない。 この（IIb 総合 F）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト、参考文献	教科書：Conversation et Grammaire (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

08 年度以降	フランス語（Ⅲa）	担当者	Ｆ．－Ａ．メール

講義目的、講義概要	授業計画
日常の平易な短い会話を通して、一年目、二年目で学んだ基礎事項を実際の場面で使用し、フランス語でコミュニケーションすることを目標にします。この授業を履修し勉強すれば、フランス語で簡単な会話ができるようになります。テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008	1. Se présenter　自己紹介 2. Présenter quelqu'un, présenter un ami 他己紹介 3. Les chiffres 字・基数l'heure 時間を言う 4. Pr. interrogatifs 疑問代名詞questions 質問を聞く 5. テスト 6. Le temps/la date/donner un RV　日付や曜日を言う 7. 代名動詞 8. 直接法複合 9. 直接法複合と否定形 10. 近い未来 11. 近い未来と否定形 Parler de ses projets 12. Révisions 復習 13. Révisions 復習 14. Vidéo 15. テスト

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする
事前・事後学修の内容	事前：課題が出た場合、必ず課題をやること・事後：授業中に行った会話のパターンを復習すること
テキスト、参考文献	テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008
評価方法	授業への出席と参加度にもとづく平常点と、期末試験により、総合評価します。授業の内容上、出席は必須です。

08 年度以降	フランス語（Ⅲb）	担当者	Ｆ．－Ａ．メール

講義目的、講義概要	授業計画
日常の平易な短い会話を通して、一年目、二年目で学んだ基礎事項を実際の場面で使用し、フランス語でコミュニケーションすることを目標にします。この授業を履修し勉強すれば、フランス語で簡単な会話ができるようになります。テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008	1. Parler de ses vacances au passé複合過去形の復習 2. L'imparfait 半過去形 3. L'imparfait et le passé composé 複合過去・半過去形 4. Exercices pratiques, jeux de rôle 5. テスト 6. Raconter une histoire 1 物語を語る 7. Exercices pratiques, jeux de rôle 8. Vidéo 9. Raconter une histoire 2 物語を語る 10. Les pronoms relatifs QUI et QUE　関係代名詞 11. Résumer une histoire 1 物語をまとめる 12. Résumer une histoire 2 物語をまとめる 13. Révisions 復習 14. Vidéo 15. テスト

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：課題が出た場合、必ず課題をやること・事後：授業中に行った会話のパターンを復習すること
テキスト、参考文献	テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008
評価方法	授業への出席と参加度にもとづく平常点と、期末試験により、総合評価します。授業の内容上、出席は必須です。

08 年度以降	基礎コース　スペイン語（Ｉa 文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。 スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	①　発音・アクセント ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　名詞の性・数、冠詞 ⑤　形容詞 ⑥　形容詞 ⑦　ser, estar動詞の用法 ⑧　ser, estar動詞の用法 ⑨　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑩　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑪　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑫　代名詞の用法 ⑬　gustar型動詞の用法 ⑭　gustar型動詞の用法 ⑮　今学期の復習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	基礎コース　スペイン語（Ｉb 文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。 スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。再帰動詞や現在完了形・現在進行形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	①　春学期の復習 ②　代名詞の用法（復習） ③　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ④　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑤　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑥　動詞の活用---再帰動詞 ⑦　動詞の活用---再帰動詞 ⑧　再帰動詞の用法 ⑨　動詞の現在形のまとめ ⑩　動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑪　動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑫　現在分詞と過去分詞の用法 ⑬　受け身表現 ⑭　今学期の復習 ⑮　春・秋学期のまとめと未習の文法事項について

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	総合コース　スペイン語（Ｉa 文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。 スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 **原則としてスペイン語（Ｉa会話）とペアで履修することとなる。**	①　発音・アクセント ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　名詞の性・数、冠詞 ⑤　形容詞 ⑥　形容詞 ⑦　ser, estar動詞の用法 ⑧　ser, estar動詞の用法 ⑨　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑩　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑪　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑫　代名詞の用法 ⑬　gustar型動詞の用法 ⑭　gustar型動詞の用法 ⑮　今学期の復習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	総合コース　スペイン語（Ｉb 文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。再帰動詞や現在完了形・現在進行形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 **原則としてスペイン語（Ｉb 会話）とペアで履修することとなる。**	①　春学期の復習 ②　代名詞の用法（復習） ③　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ④　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑤　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑥　動詞の活用---再帰動詞 ⑦　動詞の活用---再帰動詞 ⑧　動詞の活用---再帰動詞 ⑨　動詞の現在形のまとめ ⑩　動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑪　動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑫　現在分詞と過去分詞の用法 ⑬　受け身表現 ⑭　今学期の復習 ⑮　春・秋学期のまとめと未習の文法事項について

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	総合コース　スペイン語（Ｉａ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **原則としてスペイン語（Ｉa文法）とペアで履修することとなる。**	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉａ文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ｉａ会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ｉａ文法）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	**テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社** また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	総合コース　スペイン語（Ｉｂ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **原則としてスペイン語（Ｉb文法）とペアで履修することとなる。**	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉｂ文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ｉｂ会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ｉｂ文法）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	**テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社**
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	基礎コース　スペイン語（Ⅱa 文法）	担当者	蔦原　亮

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語（Ⅰb 文法）の継続の授業である。 現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	①　既習事項の復習 ②　動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ③　動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ④　動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤　動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑥　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑦　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑧　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑨　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪　点過去と線過去の違い ⑫　点過去と線過去の違い ⑬　比較表現 ⑭　比較表現 ⑮　今学期の復習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	基礎コース　スペイン語（Ⅱb 文法）	担当者	蔦原　亮

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 文法）の継続の授業である。 **基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象**としている。 接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。初級スペイン語文法の学習を終える。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	①　春学期の復習 ②　既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③　動詞の活用 --- 未来形 ④　動詞の活用 --- 未来形 ⑤　動詞の活用 --- 過去未来形 ⑥　動詞の活用 --- 過去未来形 ⑦　動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑧　動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑨　動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑩　動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑪　命令表現 ⑫　命令表現 ⑬　接続法を使った表現 ⑭　接続法を使った表現 ⑮　今学期の復習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	総合コース　スペイン語（Ⅱa 文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語（Ⅰb 文法）の継続の授業である。 現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 **原則としてスペイン語（Ⅱa会話）とペアで履修すること**を要望する。	①　既習事項の復習 ②　動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ③　動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ④　動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤　動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑥　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑦　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑧　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑨　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪　点過去と線過去の違い ⑫　点過去と線過去の違い ⑬　比較表現 ⑭　比較表現 ⑮　今学期の復習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	総合コース　スペイン語（Ⅱb 文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 文法）の継続の授業である。 **基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象**としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。初級スペイン語文法の学習を終える。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 **原則としてスペイン語（Ⅱｂ会話）とペアで履修すること**を要望する。	①　春学期の復習 ②　既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③　動詞の活用 --- 未来形 ④　動詞の活用 --- 未来形 ⑤　動詞の活用 --- 過去未来形 ⑥　動詞の活用 --- 過去未来形 ⑦　動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑧　動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑨　動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑩　動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑪　命令表現 ⑫　命令表現 ⑬　接続法を使った表現 ⑭　接続法を使った表現 ⑮　今学期の復習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	総合コース　スペイン語（Ⅱa 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 原則としてスペイン語（Ⅱa文法）とペアで履修することを要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱa文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱa会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ⅱa文法）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）、およびプリント。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	総合コース　スペイン語（Ⅱb 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 会話）の継続の授業である。 **基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象**としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **原則としてスペイン語（Ⅱa文法）とペアで履修すること**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱb文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱb会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ⅱb文法）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）、およびプリント。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	スペイン語（Ⅲa 講読）	担当者	金澤　直也

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語I, IIを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目標とする。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。 なお、スペイン語Ⅱまでに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	スペイン語（Ⅲb 講読）	担当者	金澤　直也

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲa 講読）スペイン語（Ⅲa 講読）の継続の授業である。 スペイン語Ⅰ,Ⅱを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目標とする。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	スペイン語（Ⅲa 会話）	担当者	M．サンチェス

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ,Ⅱを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	スペイン語（Ⅲb 会話）	担当者	M．サンチェス

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲa 会話）の継続の授業である。 スペイン語Ⅰ,Ⅱを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降	基礎コース　中国語（Ｉa 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及び発音の表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方から学び始め、文法の基礎を学習し、平易な日常会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く ・言語をコミュニケーション手段として使いこなすには正しい発音・声調を身につけることが前提であり、授業において発音練習、リスニング練習などを行う。 ・基礎的な文法を理解し、ドリルなどによって定着した知識とする。	1（発音編）声調、単母音、そり舌母音、 2、　　複合母音、子音、鼻母音 3、　　発音のルール、中国語の音節構造 4、　　声調の組合せ、あいさつ言葉　等 5、　第１課　人称代名詞、“是”、“吗”、“呢” 6、　第2課　所在の“在”、疑問詞疑問文、形容詞述語文 7、　第3課、存在・所有の“有”、数の数え方　等 8、　第4課　動詞述語文、反復疑問文　等 9、　まとめ、試験　など 10、　第5課　名詞述語文、完了の“了”等 11、　第6課　変化・新事態発生の“了、経験の“过”等 12、　第7課　助動詞“会”、結果補語、可能補語　等 13、　第8課　動作の進行、選択疑問文　等 14、　まとめ、試験、補足など 15、　まとめ、試験、補足など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

08 年度以降	基礎コース　中国語（Ｉｂ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続いて、コミュニケーション手段としての中国語の習得を目指す。 【講義概要】 ・「正しい発音・声調で話すこと」および「聴きとる」訓練を経て、「発音できる語彙」「聴きとれる語彙」を増やす。 ・学んだ基礎的文法事項を定着させるため、置き換え練習、聞き取り練習、作文などを行う。 ・日常生活に関することを表現するに必要な教科書以外の語彙を補充する。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第９課　受益の“给”、様態補語　等 3.　第10課　主述述語文、助動詞“能”等 4.　第11課　方向補語、“把”構文　等 5.　第12課　存現文、受け身文　等 6.　第13課　動作・状況の持続、動詞の重ね型　等 7.　まとめ、試験　など 8.　まとめ、試験　など 9.　第14課　副詞の“再”、副詞の“就”等 10.　第14課　助動詞“要”、前置詞の“跟”等 11.　第15課　就要～了”、“打算”　等 12.　第15課　仮定の“要是”、等 13.　第16課　形容詞＋“地”、“对～感兴趣”等 14.　第16課　前置詞の“通过”、持続の“着”　等 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

08 年度以降	総合コース　中国語（Ｉa 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及び発音の表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方から学び始め、文法の基礎を学習し、平易な日常会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く ・言語をコミュニケーション手段として使いこなすには正しい発音・声調を身につけることが前提であり、授業において発音練習、リスニング練習などを行う。 ・基礎的な文法を理解し、ドリルなどによって定着した知識とする。	1（発音編）声調、単母音、そり舌母音、 2、　　複合母音、子音、鼻母音 3、　　発音のルール、中国語の音節構造 4、　　声調の組合せ、あいさつ言葉　等 5、　第1課　人称代名詞、“是”、“吗”、“呢” 6、　第2課　所在の“在”、疑問詞疑問文、形容詞述語文 7、　第3課、存在・所有の“有”、数の数え方　等 8、　第4課　動詞述語文、反復疑問文　等 9、　まとめ、試験　など 10、　第5課　名詞述語文、完了の“了”等 11、　第6課　変化・新事態発生の“了、経験の“过”等 12、　第7課　助動詞“会”、結果補語、可能補語　等 13、　第8課　動作の進行、選択疑問文　等 14、　まとめ、試験、補足など 15、　まとめ、試験、補足など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

08 年度以降	総合コース　中国語（Ｉｂ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続いて、コミュニケーション手段としての中国語の習得を目指す。 【講義概要】 ・「正しい発音・声調で話すこと」および「聴きとる」訓練を経て、「発音できる語彙」「聴きとれる語彙」を増やす。 ・学んだ基礎的文法事項を定着させるため、置き換え練習、聞き取り練習、作文などを行う。 ・日常生活に関することを表現するに必要な教科書以外の語彙を補充する。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第９課　受益の“给”、様態補語　等 3.　第10課　主述述語文、助動詞“能”等 4.　第11課　方向補語、“把”構文　等 5.　第12課　存現文、受け身文　等 6.　第13課　動作・状況の持続、動詞の重ね型　等 7.　まとめ、試験　など 8.　まとめ、試験　など 9.　第14課　副詞の“再”、副詞の“就”等 10.　第14課　助動詞“要”、前置詞の“跟”等 11.　第15課　就要～了”、“打算”　等 12.　第15課　仮定の“要是”、等 13.　第16課　形容詞＋“地”、“对～感兴趣”等 14.　第16課　前置詞の“通过”、持続の“着”　等 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

08 年度以降	総合コース　中国語（Ｉa 講読・文法 ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及びその表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方、文法の基礎を学習し、平易な文章の読解ができることを目指す。 【講義概要】 ・週2回の総合コースでこの時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・中国語の発音表記法であるローマ字を用いた“ピンイン”による表記法と発音のルールを知り、単語、フレーズ、文を音読できるようにする。 ・基本的な文型を学習し、作文練習などのドリルで知識を定着化し、さらに既習文型を用いた文章の読解をする。 ・1年間で初級レベルの語彙および基本的文法事項を学び、2年次でさらに発展した学習ができる基礎を作る。	1.　中国語とは？　授業の進め方など 2.　第1課　韻母―単母音、複合母音　声母1 3.　第2課　声母2、鼻母音、ピンイン、声調変化① 4.　第3課　軽声、変調②③、ｒ化、声調の組合せ　等 5.　第4課　“是”の文、疑問文～吗、副詞“也”“都” 6.　第4課　人称代名詞 7.　第5課　Ｓ＋Ｖ＋Ｏ、姓名の尋ね方と言い方　等 8.　第5課　疑問詞疑問文、選択疑問文　等 9.　まとめ、試験　など 10.　第6課　名詞述語文、省略疑問文、省略可能な“的” 11.　第6課・第7課　形容詞述語文、 12.　第7課　比較文、反復疑問文、指示代名詞のまとめ 13.　第8課　所在の“在”、存在・所有の“有” 14.　第8課　時点と時量、量詞 15.　まとめ、試験　など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『中国語への道　―近きより遠きへ―』内田慶市　他　著　（金星堂）
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

08 年度以降	総合コース　中国語（Ｉｂ講読・文法 ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、語彙を増やし、基礎的文法事項を学び「使える単語」「使える言い回し」を増やす。 【講義概要】 ・発音に留意し、「聞いて分かる単語」、「相手に通じる単語」＝「使える単語」にする。 ・基本文型を用いた作文練習などのドリルを通じて知識を定着させ、中国語の初級レベルの文法ルールを知る。 ・それによって平易な文章の読解力をつけ、併せて「文を書く」「話す」などの発信できる力をつけられるように練習する。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第9課　前置詞、経験の“过”、数量補語　等 3.　第9課方位詞・第10課　主述述語文、２つの“了” 4.　第10課“有点儿”と“一点儿”、願望・意思の助動詞 5.　第11課　進行の“在”持続の“着”、連動文 6.　第11課　結果補語、{動/形}を含む連体修飾節 7.　第12課　可能、必然・当然の助動詞、“是～的”構文 8.　第12課　副詞“就”と“才” 9.　まとめ、試験　など 10.　第13課　様態補語、二重目的語をとる動詞　等 11.　第13課　受け身文、動詞の重ね型　等 12.　第14課　存現文、方向補語　等 13.　第14課　可能補語、“把”構文　等 14.　第15課　使役文、副詞“又”と“再”、“不是～吗” 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『中国語への道　―近きより遠きへ―』内田慶市　他　著　（金星堂）
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

08 年度以降	基礎コース　中国語（Ⅱa　会話）	担当者	張　継英

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1年次に履修した中国語Ⅰの基礎を適時復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていくことを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を練習し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1.　復習課　　1年次の復習、 2.　第1課　打电话　課文、ポイント、ドリル 3.　第1課･第2課　接风　課文、ポイント、ドリル 4.　第2課 5.　第3課　介绍　課文、ポイント、ドリル 6.　第3課・第４課　交通工具1課文、ポイント、ドリル 7.　第4課 8.　まとめ、試験　など 9.　第5課　换钱　課文、ポイント、ドリル 10.　第5課・第６課　吃饭　課文、ポイント、ドリル 11.　第6課 12.　第7課　生病　課文、ポイント、ドリル 13.　第7課 14.　まとめ、試験、補足など 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

08 年度以降	基礎コース　中国語（Ⅱｂ　会話）	担当者	張　継英

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、文法の基礎を復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を練習し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第8課　交通工具2　課文、ポイント、ドリル 3.　第8課・第9課　网上聊天儿1　課文、ポイント、ドリル 4.　第9課 5.　第10課　网上聊天儿2　課文、ポイント、ドリル 6.　第10課・第11課　买东西　課文、ポイント、ドリル 7.　第11課 8.　第12課　爱好　課文、ポイント、ドリル 9.　まとめ、試験など 10.　第13課　坐火车　課文、ポイント、ドリル 11.　第13課・14課　观光(游外滩)　課文、ポイント 12.　第14課 13.　第15課　送行　課文、ポイント、ドリル 14.　第15課　試験など 15.　まとめ、

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

08 年度以降	総合コース　中国語（Ⅱa　会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1年次に履修した中国語Ⅰの基礎を適時復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていくことを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を練習し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1.　復習課　　1年次の復習、 2.　第1課　打电话　課文、ポイント、ドリル 3.　第1課·第2課　接风　課文、ポイント、ドリル 4.　第2課 5.　第3課　介绍　課文、ポイント、ドリル 6.　第3課・第４課　交通工具1課文、ポイント、ドリル 7.　第4課 8.　まとめ、試験　など 9.　第5課　换钱　課文、ポイント、ドリル 10.　第5課・第６課　吃饭　課文、ポイント、ドリル 11.　第6課 12.　第7課　生病　課文、ポイント、ドリル 13.　第7課 14.　まとめ、試験、補足など 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

08 年度以降	総合コース　中国語（Ⅱｂ　会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、文法の基礎を復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を練習し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第8課　交通工具2　課文、ポイント、ドリル 3.　第8課・第9課　网上聊天儿1　課文、ポイント、ドリル 4.　第9課 5.　第10課　网上聊天儿2　課文、ポイント、ドリル 6.　第10課・第11課　买东西　課文、ポイント、ドリル 7.　第11課 8.　第12課　爱好　課文、ポイント、ドリル 9.　まとめ、試験など 10.　第13課　坐火车　課文、ポイント、ドリル 11.　第13課・14課　观光(游外滩)　課文、ポイント 12.　第14課 13.　第15課　送行　課文、ポイント、ドリル 14.　第15課　試験など 15.　まとめ

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

08 年度以降	総合コース　中国語（Ⅱa 講読・文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1 年次に中国語 I を履修した学生を対象とし、学んだ文法の基礎を確認しつつ更に高いレベルの文法項目を学習し、150 字～350 字程度の文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・週 2 回の総合コースでこの時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・1 年次より量的に多い文章に対し、語の意味を適切に把握し、学んだ文法事項を生かして文の意味を正確に読み取る練習をする。 ・学習した文法事項を用いた作文など練習問題を行い定着した知識とする。 ・1 年次に引き続き発音練習を行い、一文ではなく文章を読む練習をする。 ・各課の内容に即して初歩的な中国事情を知る。	1.　1年次の復習、ガイダンス 2.　第1課　「大学生的周末」ポイント、本文 3.　第1課　練習問題 4.　第2課　「饮食习惯」ポイント、本文 5.　第2課　練習問題 6.　第3課　「北京的交通」ポイント、本文 7.　第3課　練習問題 8.　まとめ、試験など 9.　第4課　「对数字的喜好」ポイント、本文 10.　第4課　練習問題 11.　第5課　「大学生的“打工”现状」ポイント、本文 12.　第5課　練習問題 13.　第6課　「集体生活的好处」ポイント、本文 14.　第6課　練習問題 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『知っておきたい中国事情　改訂版』　吉田泰謙　相原里美　葛婧　著　　白水社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

08 年度以降	総合コース　中国語（Ⅱ b　講読・文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、中国語 I で学んだ文法の基礎を確認しつつ、更に高いレベルの文法項目を学習し、やや長い文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「読む」「書く」ことに重点を置く。 ・量的に多い文章に対し、学んだ文法事項を生かして単語・文の意味を正確に読み取り、文章の趣旨を的確に把握する練習をする。 ・学習した文法事項を用いた作文練習をおこなう、文章理解をもとに、内容についての中国語の質問に答えるなど、発信できる力を身につける練習をする。 ・春学期に引き続き発音練習を行う。 ・日本文化に大きな影響を与えてきた中国について知る。	1.　春学期の復習、ガイダンス 2.　第7課　「讨价还价」ポイント、本文 3.　第7課　練習問題 4.　第8課　「送礼的讲究」ポイント、本文 5.　第8課　練習問題 6.　第9課　「“中国式”结婚」ポイント、本文 7.　第9課　練習問題 8.　まとめ、試験　など 9.　第10課　「双职工家庭」ポイント、本文 10.　第10課　練習問題 11.　第11課　「中国人的称呼」ポイント、本文 12.　第11課　練習問題 13.　第12課　「理想职业」ポイント、本文 14.　第12課　練習問題 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『知っておきたい中国事情　改訂版』　吉田泰謙　相原里美　葛婧　著　　白水社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

08 年度以降	中国語（IIIa 会話）	担当者	柴田　奈津美

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、中級以上の中国語能力を持つ学生を対象とする。ある程度の量と難易度のある文章を読み、それを使って聞き取りや会話の練習をする事で、読解力、聴解力、会話力を含む総合的な中国語能力の向上を目指す。 新しい語彙や表現を増やす事に加え、これまで身につけてきた中国語の知識を用いて様々な言い回しができるようトレーニングをすることで、表現力を養う。 具体的には、ディクテーションを通して、正確に聞き取りができるようになることや、これまで習った比較的難易度の高い文法事項を復習・練習することで、知識として知っているだけでなく、運用できるようになることを目指す。	1. ガイダンス、 第1课 女娲－古代传说中造人，补天的创世女神 2. 第1课 女娲－古代传说中造人，补天的创世女神 3. 第1课 女娲－古代传说中造人，补天的创世女神 4. 第2课 嫦娥奔月－优美动人的民间爱情神话故事 5. 第2课 嫦娥奔月－优美动人的民间爱情神话故事 6. 第3课 牛郎织女－一年一度鹊桥相会的民间爱情传说 7. 第3课 牛郎织女－一年一度鹊桥相会的民间爱情传说 8. 試験 9. 第4课 孟姜女哭长城－感天动地的民间爱情传奇 10. 第4课 孟姜女哭长城－感天动地的民间爱情传奇 11. 第5课 北京故宫 含有神秘数字的古代皇宫 12. 第5课 北京故宫 含有神秘数字的古代皇宫 13. 第6课 秦始皇兵马俑－威武壮观的庞大地下军团 14. 第6课 秦始皇兵马俑－威武壮观的庞大地下军团 15. 試験

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業において指示する。
テキスト、参考文献	『聴解・読解・朗読文選　中国文化 15 話』白帝社
評価方法	定期試験 70%、授業への参加度 30%

08 年度以降	中国語（IIIb 会話）	担当者	柴田　奈津美

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ教科書を用い、読解力、聴解力、会話力を含む総合的な中国語能力の更なる向上を目指す。 新しい語彙や表現を増やす事に加え、これまで身につけてきた中国語の知識を用いて様々な言い回しができるようトレーニングをすることで、表現力を養う。 具体的には、ディクテーションを通して、正確に聞き取りができるようになることや、これまで習った比較的難易度の高い文法事項を復習し、運用できるようにトレーニングすることに重点を置く。	1. 第7课 敦煌莫高窟－享誉全球的“墙壁上的图书馆” 2. 第7课 敦煌莫高窟－享誉全球的“墙壁上的图书馆” 3. 第8课 布达拉宫－世界屋脊上的璀璨明珠 4. 第8课 布达拉宫－世界屋脊上的璀璨明珠 5. 第9课 “年”－华夏民族几千年来的口头传说 6. 第9课 “年”－华夏民族几千年来的口头传说 7. 試験 8. 第10课 清明节－祭祖扫墓、踏青、放风筝的传统节日 9. 第10课 清明节－祭祖扫墓、踏青、放风筝的传统节日 10. 第11课 端午节－吃粽子、赛龙舟、纪念屈原的传统节日 11. 第11课 端午节－吃粽子、赛龙舟、纪念屈原的传统节日 12. 第12课 普洱茶－来源于一个意外的错误 13. 第12课 普洱茶－来源于一个意外的错误 14. 復習、まとめ 15. 試験

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業において指示する。
テキスト、参考文献	『聴解・読解・朗読文選　中国文化 15 話』白帝社
評価方法	定期試験 70%、授業への参加度 30%

08 年度以降	中国語（Ⅲa　講読・文法）	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法の定着・発展を図り、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な読解力の養成を目指します。 読解では、急速に発展をしている中国社会の様々な側面、色々な文化現象を体感できる文章を対象に、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。 中国の様々な社会事情・生活習慣についても学べるテキストです。内容を楽しんで読解力を付け、最新の中国文化と社会事情をより深く理解してもらいたいと思います。	１．　第１課「上海ディズニー」読解 ２．　第１課　解読の手がかり ３．　第２課「中国企業が世界を爆買い」読解 ４．　第２課　解読の手がかり ５．　第３課「モーメンツが世代の溝を拡大」読解 ６．　第３課　解読の手がかり ７．　第４課「東北、野獣と暮らす村」読解 ８．　第４課　解読の手がかり ９．　第５課「ママ、僕をこんな目に遭わせないで」読解 １０．第５課　解読の手がかり １１．第６課「砂漠を緑にした人たち」読解 １２．第６課　解読の手がかり １３．第７課「都市のこぼれ話」解読 １４．第７課　解読の手がかり １５．春学期総復習

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に各課の放題鏡（エッセイ）を読んで内容を理解し、本文を予習しておくこと。 また、各課ごとの課題文を訳し、次回に提出すること。
テキスト、参考文献	『2017 年度版　時事中国語の教科書』朝日出版社
評価方法	期末試験 60%・平常点（発表・課題・参加姿勢）40%によって評価します。

08 年度以降	中国語（Ⅲb　講読・文法）	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法の定着・発展を図り、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な読解力の養成を目指します。 読解では、急速に発展をしている中国社会の様々な側面、色々な文化現象を体感できる文章を対象に、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。 中国の様々な社会事情・生活習慣についても学べるテキストです。内容を楽しんで読解力を付け、最新の中国文化と社会事情をより深く理解してもらいたいと思います。	１．　第８課「仲良くするにはハグしよう」読解 ２．　第８課　解読の手がかり ３．　第９課「香港の路面電車」読解 ４．　第９課　解読の手がかり ５．　第10課「自分の家で食事を」読解 ６．　第10課　解読の手がかり ７．　第11課「世の中は何事も人づてが頼り」読解 ８．　第11課　解読の手がかり ９．　第12課「大涼山イ族の現況は」読解 １０．第12課　解読の手がかり １１．第13課「日中異文化コミュニケーション」読解 １２．第13課　解読の手がかり １３．第14課「中国アニメの歴史に思いを」解読 １４．第14課　解読の手がかり １５．秋学期総復習

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に各課の放題鏡（エッセイ）を読んで内容を理解し、本文を予習しておくこと。 また、各課ごとの課題文を訳し、次回に提出すること。
テキスト、参考文献	『2017 年度版　時事中国語の教科書』朝日出版社
評価方法	期末試験 60%・平常点（発表・課題・参加姿勢）40%によって評価します。

08 年度以降	韓国語（Ｉａ　基礎）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の発音や文字の読み書きを基礎から丁寧に学びながら、簡単な日常会話ができることを目標とします。韓国の文化事情を理解するために、韓国のドラマや映画、K-POP などの視聴覚教材も適宜取り入れる予定です。 韓国語をはじめから学びたい方、韓国語・韓国文化に興味のある方、ぜひチャレンジしてみてください！同じ漢字文化圏である韓国語は日本人にとって学びやすい言語です。	1. 講義の概要、韓国語で挨拶 2. ハングルとは 3. ハングルの構造（基本母音） 4. ハングルの構造（基本子音） 5. 韓国のイモチョモ１、復習 6. ハングルの構造（激音、農音）） 7. ハングルの構造（合成母音 8. ハングルの構造（パッチム） 9. 私の名前はリナです 10. 韓国のイモチョモ２、復習 11. 韓国人ではありません 12. 趣味は音楽鑑賞です 13. 得意な料理はパスタです 14. 学校はどこにありますか 15. 講義のまとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストまたは副教材の指定された課題を予習・復習してください。
テキスト、参考文献	初回の授業で提示します
評価方法	定期試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における会話や復習テストなどの実績（20%）も評価対象とします。

08 年度以降	韓国語（Ｉｂ　基礎）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
入門で学んだ基礎的な文法や語彙を復習しつつ、基礎文法や語彙を体系的に学ぶことによって、様々な場面での高度の日常会話ができることを目標とします。 文法事項の解説を最小にとどめ、発音や聞き取り、ペアワークによる応用練習に力を入れます。積極的に発声し、予習・復習を積み上げることによって、読む、書く、話す、聞くといった四技能の向上が実感できるはずです。 韓国の文化事情を理解するために、韓国のドラマや映画、K-POP などの視聴覚教材も適宜取り入れる予定です。	1. 講義の概要、前期の学習内容の復習 2. 主に学校で勉強します 3. 週末には何をしていますか 4. 韓国料理は好きですか 5. 辛すぎる料理は好きではありません 6. サークルで韓国映画を上映します 7. 月曜日から金曜日までです 8. 今週の週末に何をしますか 9. 友達と一緒にコンサートに行きます 10. 家から学校までどのぐらいかかりますか 11. 電車で 45 分かかります 12. リンゴを五つください 13. 休日は家で音楽を聴きます 14. 土曜日は友達に会って食事します 15. 講義のまとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストまたは副教材の指定された課題を予習・復習してください。
テキスト、参考文献	授業で提示します。
評価方法	定期試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における会話や復習テストなどの実績（20%）も評価対象とします。

08 年度以降	韓国語（Ｉａ　基礎）火２限	担当者	金　熙淑(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
言語はその国の文化を知る一番の近道である。ハングル文字の構造は科学的、体系的であり、発音上の多様な表現を可能にする。 本講義では、韓国語の基本的な会話表現を学びながらハングル文字の学習と発音の変化の規則を学ぶ。はじめて出会うハングル文字の読み書きができる楽しさ、初級段階の基本的な文法を知る楽しさ、挨拶や自己紹介などの簡単な会話ができる楽しさを知る。そのためには地道な努力が必要であり、常に復習と予習を繰り返し、韓国語を学ぶ夢がもてるようにする。 ※韓国文化の一つとして民謡（アリラン）、歌曲（故郷の春などの歌を学ぶ ●「ハングル文字」の読み書きが出来るように復習・予習を徹底的に行うこと。	1　ガイダンス 2. ハングルの構造 3. 母音 4. 子音（平音、激音） 5. 子音（農音） 6. パッチム（パッチムの種類、鼻音） 7. パッチム（流音、口音） 8. 発音規則① 9. 発音規則② 10. 発音規則③ 11. 新入生のオリエンテーションでの会話 12. 発音・語彙 13. 文法と表現 14. まとめ 15. 復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習・予習・ＣＤを聞く
テキスト、参考文献	『おはよう　韓国語Ｉ』朝日出版社
評価方法	授業への参加度、課題、小テスト、期末テスト

08 年度以降	韓国語（Ｉｂ　基礎）火２限	担当者	金　熙淑(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
ハングルの文字が読めるようになれば、一気に楽しくなる。本講義では、見てわかる、聞いてわかるという「理解語彙」と、書ける、話せるという「使用語彙」を増やす学習をめざす。基礎段階で学習すべき文法も体系的に学び、より豊かな表現力を身につけ、韓国語ができるという自身感をもてるようにする。 ●「韓国語ができるという」楽しさを知り、実際のコミュニケーションを楽しむようになるには、継続的な復習、予習が必要である ※クリスマスソング等を歌う	1　春学期の復習 2. 大学のキャンパスでの会話 3. 文法と表現 4. まとめ 5. 図書館で 6. 文法と表現 7. まとめ 8. ウンジの家の前で 9. 文法と表現 10. まとめ 11. 公園での会話 12. 文法と表現 13. まとめ 14. 靴屋での会話 15. 文法と表現

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習・予習・CD を聞く
テキスト、参考文献	『おはよう韓国語Ｉ』朝日出版社
評価方法	授業への参加度、課題、小テスト、期末テスト

08 年度以降	韓国語（Ｉａ　基礎）火３限	担当者	金　熙淑(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
言語はその国の文化を知る一番の近道である。ハングル文字の構造は科学的、体系的であり、発音上の多様な表現を可能にする。 本講義では、韓国語の基本的な会話表現を学びながらハングル文字の学習と発音の変化の規則を学ぶ。はじめて出会うハングル文字の読み書きができる楽しさ、初級段階の基本的な文法を知る楽しさ、挨拶や自己紹介などの簡単な会話ができる楽しさを知る。そのためには地道な努力が必要であり、常に復習と予習を繰り返し、韓国語を学ぶ夢がもてるようにする。 ※韓国文化の一つとして民謡（アリラン)、歌曲（故郷の春などの歌を学ぶ ●｢ハングル文字｣の読み書きが出来るように復習・予習を徹底的に行うこと。	1　ガイダンス 2. ハングルの構造 3. 母音 4. 子音（平音、激音） 5. 子音（農音） 6. パッチム（パッチムの種類、鼻音） 7. パッチム（流音、口音） 8. 発音規則① 9. 発音規則② 10. 発音規則③ 11. 新入生のオリエンテーションでの会話 12. 発音・語彙 13. 文法と表現 14. まとめ 15. 復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習・予習・ＣＤを聞く
テキスト、参考文献	『おはよう韓国語Ｉ』朝日出版社
評価方法	授業への参加度、課題、小テスト、期末テスト

08 年度以降	韓国語（Ｉｂ　基礎）火３限	担当者	金　熙淑(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
ハングルの文字が読めるようになれば、一気に楽しくなる。本講義では、見てわかる、聞いてわかるという「理解語彙」と、書ける、話せるという｢使用語彙｣を増やす学習をめざす。基礎段階で学習すべき文法も体系的に学び、より豊かな表現力を身につけ、韓国語ができるという自身感をもてるようにする。 **※クリスマスソング等を歌う** ●｢韓国語ができるという」楽しさを知り、実際のコミュニケーションを楽しむようになるには、継続的な復習、予習が必要である。	1　春学期の復習 2. 大学のキャンパスでの会話 3. 文法と表現 4. まとめ 5. 図書館で 6. 文法と表現 7. まとめ 8. ウンジの家の前で 9. 文法と表現 10. まとめ 11. 公園での会話 12. 文法と表現 13. まとめ 14. 靴屋での会話 15. 文法と表現

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習・予習・ＣＤを聞く
テキスト、参考文献	『おはよう韓国語Ｉ』朝日出版社
評価方法	授業への参加度、課題、小テスト、期末テスト

08 年度以降	韓国語（Ｉa 基礎）	担当者	呉 吉煥（ｵｰ･ｷﾙﾊﾝ）

講義目的、講義概要	授業計画
授業では、韓国語文字（ハングル）の正確な発音と書き方、文章の構造や作り方、そして日常会話でよく使う簡単な決まり文句などの習得を目指す。 授業の前半には、ハングルの子音と母音の発音、書き方などを覚える。そして後半の授業では、文章を作るため基礎的な文法事項と数字、用言の活用方法などについて学習する。なお、授業で学習した内容を確かめるために、課題や小テストを行う場合がある。	1. ガイダンス、ハングルについて 2. 母音字①（基本母音） 3. 子音字①（基本子音） 4. 子音字②（濃音）、子音字のまとめ 5. 子音字②（濃音）、子音字のまとめ 6. 複合母音 7. パッチム（終声の発音） 8. 発音の規則 9. 復習 10. 基本文型の作り方（A は B です・A は B ですか） 11. 指示語と体言の否定形 12. 存在の有無を表す表現 13. 位置関係の言い方 14. 復習または補助教材 15. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習として、毎回の授業後に必ず文字の発音をもう一度確認しておくこと。
テキスト、参考文献	テキスト：金智賢『教養韓国語－初級』（朝日出版社、2015）
評価方法	授業への参加度：３０％、期末試験：７０％

08 年度以降	韓国語（Ｉb 基礎）	担当者	呉 吉煥（ｵｰ･ｷﾙﾊﾝ）

講義目的、講義概要	授業計画
後期の授業では、前期に学んだことを復習しつつ、基本的な文法事項を習得する。また日常生活で使う基礎的な会話の表現なども学習し、基礎課程の完成を目指す。 授業の内容については、韓国語文章の意味を正しく理解するために必要な文法知識を身につけていく。主に用言の様々な活用形の作り方、助詞や数詞の使い方などを学習する。なお、授業で学習した内容を確かめるために、課題や小テストを行う場合がある。	1. 補助教材 2. 用言の丁寧形①（「ハムニダ体」） 3. 動作の対象や目的を表す表現 4. 年月日の言い方（漢数詞の使い方） 5. 曜日と用言の否定形①（「後置否定形」） 6. 体言と用言の尊敬形（「ハムニダ体」） 7. 副詞と体の名称 8. 復習 9. 用言の丁寧形②（「ヘヨ体」） 10. 用言の否定形②（「前置否定形」） 11. 固有数詞の使い方 12. 体言と用言の尊敬形（「ヘヨ体」） 13. 過去形の作り方 14. 時間の言い方 15. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習として、毎回の授業後に必ず文字の発音と文法事項をもう一度確認しておくこと。
テキスト、参考文献	テキスト：金智賢『教養韓国語－初級』（朝日出版社、2015）
評価方法	授業への参加度：３０％、期末試験：７０％

08 年度以降	韓国語（Ｉa 基礎）	担当者	沈　民珪

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語をはじめて学ぶ人を対象にし、ハングル文字の発音、読み書きと挨拶や自己紹介など短文中心の簡単な表現を学んでいく。さらに、韓国語を学んでいく上に必要な基礎文法や基本文型を学習し、日常会話の基本フレーズを身につけて簡単なコミュニケーションができるように練習していく。	1　韓国語とハングル文字、基本母音 2　基本子音 3　合成母音 4　バッチム 5　発音規則 6　文字と発音のおさらい、韓国語の文法的な仕組み 7　Review 8　私は日本人です 9　これは何ですか 10　誰の本ですか 11　学校はどこにありますか 12　何をしますか 13　どこに行きますか 14　会話練習（簡単な自己紹介等） 15　Review

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください
テキスト、参考文献	李昌圭『韓国語をはじめよう』朝日出版社、2009 年
評価方法	中間テスト及び小テスト 20%、期末テスト 50%、課題 10%、授業参加度 20%

08 年度以降	韓国語（Ｉb 基礎）	担当者	沈　民珪

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語をはじめて学ぶ人を対象にし、ハングル文字の発音、読み書きと挨拶や自己紹介など短文中心の簡単な表現を学んでいく。さらに、韓国語を学んでいく上に必要な基礎文法や基本文型を学習し、日常会話の基本フレーズを身につけて簡単なコミュニケーションができるように練習していく。	1　前期のおさらい 2　天気はどうですか 3　今日は何日ですか 4　数詞１ 5　数詞２ 6　数詞３ 7　Review 8　どこに住んでいますか 9　週末に何をしますか 10　昨日は何をしましたか 11　Review 12　今何をしていらっしゃいますか 13　何を食べましょうか 14　会話練習 15　Review

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回だされる課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	李昌圭『韓国語をはじめよう』朝日出版社、2009 年
評価方法	中間テスト及び小テスト 20%、期末テスト 50%、課題 10%、授業参加度 20%

08 年度以降	韓国語（Ｉａ 総合１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1．ハングルのしくみ① 2．ハングルのしくみ② 3．ハングルのしくみ③ 4．あいさつ① 5．あいさつ② 6．名詞文 7．存在文 8．用言文 9．数詞① 10．数詞② 11．否定形 12．尊敬形 13．連用形 14．해요体 15．해요体の尊敬形

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

08 年度以降	韓国語（Ｉｂ 総合１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする	1．基本事項の確認① 2．基本事項の確認② 3．過去形 4．連体形① 5．連体形② 6．未来意思形 7．ㄹ語幹 8．ㄷ変則用言 9．ㅅ変則用言 10．ㅂ変則用言 11．ㅎ変則用言 12．ㄹ変則用言 13．変則用言のまとめ 14．まとめと復習① 15．まとめと復習②

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

08 年度以降	韓国語（Ｉa 総合２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1．ハングルのしくみ① 2．ハングルのしくみ② 3．ハングルのしくみ③ 4．あいさつ① 5．あいさつ② 6．名詞文 7．存在文 8．用言文 9．数詞① 10．数詞② 11．否定形 12．尊敬形 13．連用形 14．해요体 15．해요体の尊敬形

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

08 年度以降	韓国語（Ｉb 総合２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする	1．基本事項の確認① 2．基本事項の確認② 3．過去形 4．連体形① 5．連体形② 6．未来意思形 7．ㄹ語幹 8．ㄷ変則用言 9．ㅅ変則用言 10．ㅂ変則用言 11．ㅎ変則用言 12．ㄹ変則用言 13．変則用言のまとめ 14．まとめと復習① 15．まとめと復習②

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

08 年度以降	韓国語（Ⅱa 講読・会話）	担当者	沈　民珪

講義目的、講義概要	授業計画
義は韓国語をはじめて学ぶ人を対象にし、ハングル文字の発音、読み書きと挨拶や自己紹介など短文中心の簡単な表現を学んでいく。さらに、韓国語を学んでいく上に必要な基礎文法や基本文型を学習し、日常会話の基本フレーズを身につけて簡単なコミュニケーションができるように練習していく。	1　基礎文法のおさらい１ 2　基礎文法のおさらい２ 3　第１課　サッカーがお好きですか１ 4　第１課　サッカーがお好きですか２ 5　第２課　明日は何をなさいますか１ 6　第２課　明日は何をなさいますか２ 7　第３課　郵便局に行く１ 8　第３課　郵便局に行く２ 9　第４課　喫茶店にて１ 10　第４課　喫茶店にて２ 11　第５課　韓国レストランにて１ 12　第５課　韓国レストランにて２ 13　第６課　道を尋ねる１ 14　第６課　道を尋ねる２ 15　Review

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください
テキスト、参考文献	李昌圭『韓国語中級』白帝社、2010 年
評価方法	中間テスト及び小テスト 20%、期末テスト 50%、課題 10%、授業参加度 20%

08 年度以降	韓国語（Ⅱb 講読・会話）	担当者	沈　民珪

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の基礎文法・文型の学習を終えた人を対象とする。様々な接続形を学習し、短文から複文へと表現力を広げていく。さらに、話せるための種々の重要文型を学び、日常会話力や自己表現力の向上を目指す。	1　第７課　地下鉄駅で１ 2　第７課　地下鉄駅で２ 3　第８課　タクシーに乗る１ 4　第８課　タクシーに乗る２ 5　Review 6　第９課　約束をする１ 7　第９課　約束をする２ 8　第１０課　天気１ 9　第１０課　天気２ 10　Review 11　第１１課　電話をかける１ 12　第１１課　電話をかける２ 13　第１２課　ショッピングをする１ 14　第１２課　ショッピングをする１ 15　Review

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	李昌圭『韓国語中級』白帝社、2010 年
評価方法	中間テスト及び小テスト 20%、期末テスト 50%、課題 10%、授業参加度 20%

08 年度以降	韓国語（Ⅱa 総合１）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1．第一課 空港に出迎え 2．第二課 部屋探し 3．第三課 自己紹介 4．第四課 ソンミンの家で 5．まとめと復習 6．中間テスト 7．アクティビティ 8．第五課 帰り道 9．第六課 百日記念日 10. 第七課 引越しパーティーの日 11. アクティビティ 12. 第八課汽車に乗っておでかけ 13. まとめと復習 14. まとめと復習 15. 期末テスト

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか
評価方法	中間テスト、期末試験によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績も評価対象とする。

08 年度以降	韓国語（Ⅱb 総合１）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1．春学期の復習 2．春学期の復習 3．第九課 村の風景 4．第十課 ソンミンさんを訪ねて 5．第六課～第十課の復習 6．第十一課　下宿に帰って 7．中間テスト 8．アクティビティ 9．第十二課　診察を受ける 10. 第十三課　和解 11. 第十四課　悲しみよ，さようなら 12. 第十一課から第一四課の復習 13. アクティビティ 14. まとめと復習 15. 期末テスト

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか
評価方法	中間テスト、期末試験によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績も評価対象とする。

08 年度以降	韓国語（Ⅱa 総合２）	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1．第一課空港に出迎え 2．第二課部屋探し 3．第三課自己紹介 4．第四課ソンミンの家で 5．まとめと復習 6．アクティビティ 7．第五課帰り道 8．まとめ 9．第六課百日記念日 10. 第七課引越しパーティーの日 11. アクティビティ 12. 第八課汽車に乗っておでかけ 13. まとめと復習 14. まとめと復習 15. アクティビティ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか
評価方法	中間テスト、期末テスト

08 年度以降	韓国語（Ⅱb 総合２）	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1．春学期の復習 2．春学期の復習 3．第九課村の風景 4．第十課ソンミンさんを訪ねて 5．復習 6．第十一課下宿に帰って 7．中間テスト 8．アクティビティ 9．第十二課診察を受ける 10. 第十三課和解 11. 第十四課悲しみよ，さようなら 12. 復習 13. アクティビティ 14. ことわざ 15. まとめと復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか
評価方法	中間テスト、期末テスト

08 年度以降	韓国語（Ⅲa 総合３）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の初級段階を履修した学習者を対象に、これまで学んだ文法や語彙を復習しながら、より高度な表現を身につけていきます。文法事項の解説を最小にとどめ、発音や聞き取り、会話の応用練習に力を入れます。韓国の文化事情を理解するために、韓国のドラマや映画、K-POP などの視聴覚教材も適宜取り入れる予定です。 授業スケジュールは、参加者のニーズを考慮し、多少変更する可能性があります。	１．講義の概要、韓国語で挨拶 ２．紹介 ３．旅行 ４．予約 ５．韓国のイモゾモ①、復習 ６．案内 ７．ショッピング ８．交通 ９．取り消し １０．韓国のイモゾモ②、復習 １１．新聞 １２．伝言 １３．食事 １４．韓国のイモゾモ③、復習 １５．講義のまとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストまたは副教材の指定された課題を予習・復習してください。
テキスト、参考文献	初回の授業で提示します。
評価方法	定期試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における会話や復習テストなどの実績（20%）も評価対象とします。

08 年度以降	韓国語（Ⅲb 総合３）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
前期の学習内容を復習しつつ、これまで学んだ文法や語彙を復習しながら、より高度な表現を身につけていきます。文法事項の解説を最小にとどめ、発音や聞き取り、会話の応用練習に力を入れます。韓国の文化事情を理解するために、韓国のドラマや映画、K-POP などの視聴覚教材も適宜取り入れる予定です。 授業スケジュールは、参加者のニーズを考慮し、多少変更する可能性があります。	１．講義の概要 ２．電話 ３．問い合わせ ４．美容室 ５．韓国のイモゾモ①、復習 ６．礼儀 ７．非言語行動 ８．手紙 ９．描写 １０．韓国のイモゾモ②、復習 １１．パンマル １２．相談 １３．昔物語 １４．韓国のイモゾモ③、復習 １５．講義のまとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストまたは副教材の指定された課題を予習・復習してください。
テキスト、参考文献	授業で提示します。
評価方法	定期試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における会話や復習テストなどの実績（20%）も評価対象とします。

08 年度以降	外国語（イタリア語 Ia 基礎）	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。	1．ガイダンスと導入（イタリア語のアルファベット） 2．イタリア語の発音について 3．名詞と冠詞（1） 4．名詞と冠詞（2） 5．挨拶の表現、形容詞 6．イタリア語のbe動詞とhave動詞：essereとavere 7．規則動詞の現在形（1） 8．規則動詞の現在形（2） 9．規則動詞の現在形（3） 10．会話表現：自分の名前を言う、相手の名前を尋ねる 11．前置詞 12．不規則で重要な動詞（1） 13．不規則で重要な動詞（2） 14．不規則で重要な動詞（3） 15．まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、教科書に目を通しておくこと。教科書の内容に準拠した練習問題をプリントとして配布するので、知らない単語を辞書で確認し、授業後には練習問題の復習を怠らないこと。
テキスト、参考文献	教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『入門イタリア語の最初歩【改訂版】』（三修社）／推薦する辞書：授業時に紹介する／その他、プリントを配布する。
評価方法	平素の学習態度（20%）と、授業内に随時行う小テストの成績（80%）による。あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。

08 年度以降	外国語（イタリア語 Ib 基礎）	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。	1．会話表現：家族構成を話す 2．様態動詞（～できる、～しなくてはならない、～したい） 3．所有形容詞（1） 4．所有形容詞（2） 5．会話表現：住んでいる場所、出身地を話す 6．代名動詞（1） 7．代名動詞（2） 8．会話表現：あるものが存在するかしないかを聞く 9．比較級と最上級 10．近過去（1） 11．近過去（2） 12．直接・間接目的語代名詞 13．半過去（1） 14．半過去（2） 15．まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、教科書に目を通しておくこと。教科書の内容に準拠した練習問題をプリントとして配布するので、知らない単語を辞書で確認し、授業後には練習問題の復習を怠らないこと。
テキスト、参考文献	教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『入門イタリア語の最初歩【改訂版】』（三修社）／推薦する辞書：授業時に紹介する／その他、プリントを配布する。
評価方法	平素の学習態度（20%）と、授業内に随時行う小テストの成績（80%）による。あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。

08 年度以降	外国語（イタリア語 I a 基礎）	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります. （受講上の注意点） 教科書、辞書は必ず購入して下さい．推奨辞書はガイダンスの際に案内します.	1) ガイダンス 2) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(1) 3) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(2) 4) 規則動詞の練習(1) 5) 規則動詞の練習(2) 6) 規則動詞の練習(3) 7) 規則動詞の練習(4) 8) 基本不規則動詞の練習(1) 9) 基本不規則動詞の練習(2) 10) 基本不規則動詞の練習(3) 11) 冠詞･形容詞・所有形容詞のまとめ(1) 12) 冠詞･形容詞・所有形容詞のまとめ(2) 13) 頻出不規則動詞の練習(1) 14) 頻出不規則動詞の練習(2) 15) 頻出不規則動詞の練習(3)

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ディアロゴの予習復習、新出文法項目を扱う練習問題(宿題)の履行
テキスト、参考文献	(教科書) 一ノ瀬俊和・他『私のイタリア』朝日出版社、2016 年.
評価方法	平常点(授業参加、宿題履行等)40%、期末試験 60%

08 年度以降	外国語（イタリア語 I b 基礎）	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります.	1) 人称代名詞の練習(1) 2) 人称代名詞の練習(2) 3) 近過去形の練習(1) 4) 近過去形の練習(2) 5) 近過去形の練習(3) 6) 近過去形の練習(4) 7) 近過去形の練習(5) 8) 再帰動詞の練習(1) 9) 再帰動詞の練習(2) 10) 再帰動詞の練習(3) 11) 半過去形の練習(1) 12) 半過去形の練習(2) 13) 半過去形の練習(3) 14) 半過去形の練習(4) 15) 映画鑑賞

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ディアロゴの予習復習、新出文法項目を扱う練習問題(宿題)の履行
テキスト、参考文献	(教科書) 一ノ瀬俊和・他『私のイタリア』朝日出版社、2016 年.
評価方法	平常点(授業参加、宿題履行等)100%

08 年度以降	外国語（イタリア語Ⅱa 基礎）	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） イタリア文化のいくつかのトピックに関する説明テクストの読解を軸に伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習を並行して行います. また60年代のカンツォーネを鑑賞し、その歌詞を解釈する作業もとりいれます.	1) 過去形・再帰動詞の復習(1) 2) 過去形・再帰動詞の復習(2) 3) 過去形・再帰動詞の復習(3) 4) 過去形・再帰動詞の復習(4) 5) 過去形・再帰動詞の復習(5) 6) 大過去形の練習(1) 7) 大過去形の練習(2) 8) 未来形の練習(1) 9) 未来形の練習(2) 10) 条件法の練習(1) 11) 条件法の練習(2) 12) 条件法の練習(3) 13) 遠過去形の練習(1) 14) 遠過去形の練習(2) 15) 遠過去形の練習(3)

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テクスト読解の予習復習、新出文法項目を扱う練習問題(宿題)の履行
テキスト、参考文献	(教科書) 一ノ瀬俊和・他『文で味わうイタリア』朝日出版社、2012 年.
評価方法	平常点(授業参加、宿題履行等)100%

08 年度以降	外国語（イタリア語Ⅱb 基礎）	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 前半はイタリア文化のいくつかのトピックに関する説明テクストの読解を軸に伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習を並行して進めます. 後半では受講者のレヴェルに応じて、ストーリー性を備えた長めの会話テクスト、映画のシナリオ、時事文、小説を中心とした文学作品等の高度なテクストを講読し、読解力養成を図ります. 最終授業ではしめくくりとしてイタリア映画の鑑賞を行います.	1) 接続法の練習(1) 2) 接続法の練習(2) 3) 接続法の練習(3) 4) 接続法の練習(4) 5) 接続法の練習(5) 6) 接続法の練習(6) 7) 接続法の練習(7) 8) 講読(1) 9) 講読(2) 10) 講読(3) 11) 講読(4) 12) 講読(5) 13) 講読(6) 14) 講読(7) 15) 映画鑑賞

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テクスト読解の予習復習、新出文法項目を扱う練習問題(宿題)の履行
テキスト、参考文献	(教科書) 一ノ瀬俊和・他『文で味わうイタリア』朝日出版社、2012 年.
評価方法	平常点(授業参加、宿題履行等)100%

08 年度以降	外国語（ポルトガル語 I a 総合）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義はポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、後期のポルトガル語 I bに続く形でポルトガル語の初級文法を中心に学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は授業後に受け付けます	1. ガイダンス、教科書用プリント配布、文字と発音 2. 主格人称代名詞、不規則動詞 ser、否定文、疑問文 3. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞、形容詞の性数変化 4. 規則動詞の直説法現在形、基本前置詞 de, em, com 5. 不規則動詞 estar、所有詞、基数詞 6. 規則動詞の直説法現在形、疑問詞、指示詞、曜日 7. 不規則動詞の直説法現在形、前置詞 a, para, por 8. 規則動詞の直説法過去形、不規則動詞の直説法過去形 9. 不規則動詞の直説法現在形と直説法過去形 10. 対格・与格人称代名詞、序数詞 11. 再帰人称代名詞、再帰動詞、基数詞、序数詞 12. 感嘆文、強調構文、時間表現 13. 直説法半過去形、月日、名詞・形容詞の特殊な複数形 14. 関係代名詞 que と quem、接尾辞-inho、命令形 15. 試験

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業の範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。 また授業後は、テキストがすらすらと読めるまで音読しておいてください。
テキスト、参考文献	テキスト：講師がプリント形式で用意します。 辞書：上記の「講義目的、講義概要」を参照のこと。
評価方法	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08 年度以降	外国語（ポルトガル語 I b 総合）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では前期のポルトガル語 I a に引き続いてポルトガル語の初級文法を中心に学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は授業後に受け付けます	1. 過去分詞、直説法大過去形、絶対最上級 2. 優等比較級、劣等比較級、同等比較級、相対最上級 3. 法動詞 poder と dever、完了不定詞、人称不定詞 4. 受動文、結果構文、接尾辞-mente 5. 斜格人称代名詞、不規則動詞の直説法現在形 6. 直説法複合過去形、二重過去分詞 7. 直説法未来形、直説法前未来形、気象表現 8. 直説法過去未来形、直説法過去前未来形、時間表現) 9. 現在分詞句、補文標識 se 10. 過去分詞句、関係代名詞 o que と quem、指示詞 o 11. 関係代名詞 o qual、関係形容詞 cujo 12. 接続法現在形、強調構文、接続法半過去形 13. 時間表現、接続法過去形、接続法大過去形 14. 接続法未来形、接続法前未来形、仮定文 15. 試験

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業の範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。 また授業後は、テキストがすらすらと読めるまで音読しておいてください。
テキスト、参考文献	テキスト：講師がプリント形式で用意します。 辞書：上記の「講義目的、講義概要」を参照のこと。
評価方法	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08 年度以降	外国語（ポルトガル語 I a 会話）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
ポルトガル語 I （会話）では、会話と単語の補強を中心としてポルトガル語を学びます。 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です。 本格的に学習するのであれば、辞書はぜひ購入することをお勧めします。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は授業後に受け付けます。	1. イントロダクション「挨拶する」「出身地を尋ねる」 2. 「物の名を尋ねる」「持ち主を尋ねる」 3. 「曜日を尋ねる」「日付を尋ねる」 4. 「健康状態を尋ねる」「場所を尋ねる」 5. 「時間を尋ねる」「約束・待ち合わせをする」 6. 「人を待つ」「物の貸し借りをする」 7. 「聞き返す」「好き嫌いを述べる」 8. 「食事をする」「買い物をする」 9. 「感想を述べる」「希望を述べる」「天候を尋ねる」 10. 「義務を課す」「許可を与える」「同意する」 11. 「身体の状態を述べる」「経験を述べる」 12. 「頻度を尋ねる「選択を述べる」「勧誘する」 13. 「道順を尋ねる」「伝聞を述べる」「誇張して述べる」 14. 「日常生活について述べる（起床・身支度・就寝）」 15. 試験

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業の範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。 また授業後は、会話テキストがすらすらと口をつくまで復習しておいてください。
テキスト、参考文献	テキスト：講師がプリント形式で用意します。 辞書：上記の「講義目的、講義概要」を参照のこと。
評価方法	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08 年度以降	外国語（ポルトガル語 I b 会話）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
ポルトガル語 I （会話）では、会話と単語の補強を中心としてポルトガル語を学びます。 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です。 本格的に学習するのであれば、辞書はぜひ購入することをお勧めします。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は授業後に受け付けます。	1. イントロダクション・既習事項の復習 2. 「相互動作を表現する」「過去の事柄を表現する」 3. 「感謝する」「話題に取り上げる」「乗り物の表現」 4. 「休暇について尋ねる」「未遂の事柄を述べる」 5. 「過去の習慣を述べる」「過去の状態を述べる」 6. 「願望を婉曲的に述べる」「喜びを表現する」 7. 「人を褒める」「羨望を述べる」 8. 「驚き・残念・嘆き・後悔を表現する」 9. 「忠告する」「推測する」「断定する」 10. 「丁寧に頼む」「丁寧に断る」 11. 「可能性のある『もし…なら』」 12. 「可能性のない『もし…なら』」 13. 「謙遜して述べる」 14. 総まとめ 15. 試験

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業の範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。 また授業後は、会話テキストがすらすらと口をつくまで復習しておいてください。
テキスト、参考文献	テキスト：講師がプリント形式で用意します。 辞書：上記の「講義目的、講義概要」を参照のこと。
評価方法	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08 年度以降	外国語（ロシア語Ｉa 総合）	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
初心者を対象としてロシア語の文法を学ぶ授業です。キリル文字の読み書きから始め、秋学期を含めた一年間でロシア語の初歩をマスターすることを目指します。 ロシア語は様々な分野で非常に重要な言語であるにもかかわらず、大学以外ではなかなか学ぶ場がありません。この機会にぜひロシア語の世界へ足を踏み入れてみてください。 会話を中心とした「ロシア語I 会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。	教科書の第 10 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 1-8 キリル文字の発音・書き方、 　基本的な文型（平叙文、疑問文、否定文） 9-10 名詞の性、形容詞類の変化 11-12 動詞の現在形（1） 13-14 場所の表現（前置詞、名詞類の格変化の導入） 15 まとめ 授業では受講者の皆さん一人一人の練習を中心とします。春学期はとくに発音の練習に力を入れます。ロシアの地理・歴史・文化についても話してゆくつもりです。

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	小テストの準備、および宿題。
テキスト、参考文献	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）。辞書については授業時に説明するので、それを聞いたうえで購入のこと。
評価方法	末試験（80%）、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点（20%）（%はおおよその目安）

08 年度以降	外国語（ロシア語Ｉb 総合）	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ia総合」の続きの授業です。「Ia」と同じ教科書をもちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます	教科書の第 18 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。また、並行して簡単なテキストの読解練習を行ないます。 1-2 動詞の現在形（2） 3 動詞の現在形　（3） 4-5 形容詞の変化 6-7 名詞の複数形 8-9 名詞類の格変化（1）生格 10-11 名詞類の格変化（2）対格 12 動詞の過去形 13-14 移動の動詞、方向の表現 15 まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	小テストの準備、および宿題。
テキスト、参考文献	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）。辞書については授業時に説明するので、それを聞いたうえで購入のこと。
評価方法	①期末試験（80%）、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点（20%）（%はおおよその目安）

08 年度以降	外国語（ロシア語Ｉa 会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスははじめてロシア語を学ぶ人を対象としています。 キリル文字といわれるロシア語アルファベットの文字と発音に慣れるところから始めて、会話を中心にしながらロシア語の基礎を学習していきます。自己紹介や挨拶、買い物、道の訊ね方等、日常に必要な表現を習得します。 またロシア語学習に奥行きをもたせるためにも、授業のなかでおもに映像によりながらロシアの現在や文化の一端を紹介していきたいと思います。	1. ガイダンス 2. 文字と発音（1） 3. 文字と発音（2） 4. 文字と発音（3） 5. いろいろなあいさつ 6. 名詞の性、人称代名詞（1） 7. 形容詞の変化（1） 8. 「AはBである」 9. 名詞の複数形 10. 所有代名詞 11. 形容詞の変化（2） 12. 人称代名詞（2） 13. 動詞の現在形 14. 動詞と目的語の関係 15. まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	とくに課すものはありませんが、各自で復習は欠かさないでください。
テキスト、参考文献	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。
評価方法	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%

08 年度以降	外国語（ロシア語Ｉb 会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
ロシア語Ia の続きの授業になります。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で、ロシア語の基礎学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。	1. 春学期の復習 2. 名詞の対格（1） 3. 不規則変化の動詞（1） 4. 願望の表現 5. 命令形の表現 6. 人称代名詞の与格 7. 方向と場所の表現（1） 8. 数詞 9. 時間の表現 10. 年齢の表現 11. 運動の動詞 12. 方向と場所の表現（2） 13. 名詞の生格 14. 所有の表現 15. まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	とくに課すものはありませんが、各自で復習は欠かさないでください。
テキスト、参考文献	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。
評価方法	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%

08 年度以降	外国語（ロシア語 IIa 総合）	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度の「ロシア語Ⅰ　総合」の続編の授業です。昨年度と同じ教科書、およびプリント教材を用いて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。最終的に、秋学期の終わりには、ロシア語の基本文法（検定試験 3 級程度）をすべてマスターすることを目標にします。 会話を中心とした「ロシア語Ⅱ　会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 昨年度「ロシア語Ⅰ　総合」を履修していなくても、ロシア語の初歩を勉強したことがある人ならば受講可能です。	教科書の第 18 課から始めます。 1-2 移動の動詞、方向の表現 3-4 格変化・生格 5-6 格変化・前置格 7 数詞 8-9 格変化・与格 10-11 状態の表現（無人称文） 12 未来の表現 13-14 格変化・造格 15 まとめ 平行して簡単なテキストの読解練習を行ないます。

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	小テストの準備、および宿題。
テキスト、参考文献	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）。辞書については授業時に説明するので、それを聞いたうえで購入のこと。
評価方法	末試験（80%）、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点（20%）（%はおおよその目安）

08 年度以降	外国語（ロシア語 IIb 総合）	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅱa 総合」の続きの授業ですので、詳しくはそちらをご覧ください。	教科書の残りの課を終えたうえで、プリント教材を用いて新たな文法事項を学びます。簡単なテキストの読解練習も引き続き行ないます。 1-2 数と名詞 3 前置詞と格変化 4-6 動詞の体（不完了体と完了体） 7-8 格変化の総まとめ 9 形容詞短語尾 10 比較級・最上級 11-12 関係代名詞、不定人称文 13 仮定法 14 形動詞、副動詞 15 まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	小テストの準備、および宿題。
テキスト、参考文献	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）
評価方法	①期末試験（80%）、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点（20%）（%はおおよその目安）

08 年度以降	外国語（ロシア語 IIa 会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語 I 会話」の続きの授業ですが、「ロシア語 I」の既習者、およびロシア語の初歩を学んだことのある人を対象とします。 この授業では学んだことを生かして自分なりに文章を作り上げられるようになることを目標にします。 教科書は「ロシア語 I 会話」で前年度に使用したものを引き続き使っていきます。	1. ガイダンス 2. 名詞の生格、所有代名詞、所有の表現 3. 曜日の表現 4. 未来の表現（1） 5. 形容詞の変化 6. 名詞の前置格と場所の表現 7. 不規則変化の動詞 8. 再帰動詞 9. 「〜の中に」と「〜の上に」 10. 動詞の過去（1） 11. 動詞の過去（2） 12. 名詞の対格（2） 13. 人称代名詞の対格 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	とくに課すものはありませんが、各自で復習は欠かさないでください。
テキスト、参考文献	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。
評価方法	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%

08 年度以降	外国語（ロシア語 IIb 会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語 IIa 会話」の続きの授業です。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。	1. 春学期の復習 2. 名詞の与格 3. 名詞の造格 4. 不完了体動詞と完了体動詞（1） 5. 不完了体動詞と完了体動詞（2） 6. 未来の表現（2） 7. 形容詞の格変化 8. 無人称文 9. 運動の動詞（2） 10. 前置詞のまとめ 11. 仮定の表現 12. 関係代名詞 13. 自己紹介文を作る（1） 14. 自己紹介文を作る（2） 15. まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	とくに課すものはありませんが、各自で復習は欠かさないでください。
テキスト、参考文献	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。
評価方法	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%

08 年度以降	外国語（タイ語Ｉａ会話）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
入門レベルの標準タイ語会話を翻字（ローマ字と発音記号）で学ぶ。声調、子音や母音の発音、翻字のルールなどの特徴を理解したうえで、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学ぶ。また、その背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。 なお、文字の読み書きはタイ語Ⅱａで学ぶ。Ⅱａの方が難易度が高いので、Iaを先に履修することが望ましい。復習時間に余裕のある人は、両方同時に履修してもよい。また、昨年度も同様の科目を履修した人がもう一度この科目を申請する場合、昨年度とは異なる教科書を用いる場合もあるのでぜひとも講師に相談されたい。	1　導入：タイ社会の現状、タイ語を学ぶ意義について 発音練習（声調・数字・子音・母音、翻字のルール） 2　会話１（挨拶、所在に関する表現） 3　会話２（ものの性質などに関して） 4　会話３（家族）、タイ語を聞いて書く 5　会話４（所有、存在）、タイ語を聞いて書く 6　会話５（職業、国名）タイ語を聞いて書く 7　会話６（可能、不可能）、タイ語を聞いて書く 8　会話７（名前、所在、手段などに関する表現） 9　会話８（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く 10　会話９（レストランで）、タイ語を聞いて書く 11　会話10（お金の計算）タイ語を聞いて書く 12　会話11（形容詞の使い方）タイ語を聞いて書く 13　タイ事情（映画どのビジュアル教材の鑑賞） 14　タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞） 15　試験

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習に力をいれること。CD を聞いて発音練習をすること。
テキスト、参考文献	2000 円程度のテキスト使用する。最初の授業で指定する。
評価方法	定期試験の成績を 80 パーセント、課題や小テストなどを 20 パーセントとして総合的に判断する。

08 年度以降	外国語（タイ語Ｉｂ会話）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
Ｉａに引き続き、標準タイ語会話を中心に学ぶ。声調、子音や母音の発音などの理解を深め、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を身につけ、文法事項についても整理する。特に類別詞の使い方について重点的に理解し、比較表現などに応用できるようにする。また、言葉の背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 ディクテーションによる表記練習や、作文練習によって運用能力や表現能力を高める。 インターネット動画や映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。	1　会話１（類別詞の用法１）、タイ語を聞いて書く 2　会話２（日付に関する表現）、タイ語を聞いて書く 3　会話３（時刻の表し方）、タイ語を聞いて書く 4　会話４（年月などの表し方）、タイ語を聞いて書く 5　会話５（類別詞の用法２）、タイ語を聞いて書く 6　会話６（類別詞の用法３）、タイ語を聞いて書く 7　会話７（類別詞の用法４）、タイ語を聞いて書く 8　会話８(比較を含む表現)、タイ語を聞いて書く 9　会話９（電話をかける）、タイ語を聞いて書く 10　会話10（受身の表現）、タイ語を聞いて書く 11　会話11（依頼の表現）、タイ語を聞いて書く 12　会話12（病気のとき）、タイ語を聞いて書く 13　タイ事情（映画鑑賞など） 14　タイ事情（映画鑑賞など） 15　試験

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習に力をいれること。CD を聞いて発音練習をすること。
テキスト、参考文献	前期と同じテキスト（2000 円程度）の予定。
評価方法	定期試験の成績を 80 パーセント、課題や小テストなどを 20 パーセントとして総合的に判断する。

08 年度以降	外国語（タイ語Ⅱａ 文字の読み書き）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
文字の表記と発音を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。文字が判読でき、正しく発音できること,タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢を身につけることが目標である。本講義では、翻字のルール、発音方法、文字の書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。随時、インターネット動画、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。初めてタイ語を学ぶ人は、タイ語会話Ⅰａを先に履修する方が望ましいが、復習時間に余裕があれば同時に履修してもかまわない。Ⅱａのみを履修したい人は前もって講師に相談されたい。	1　導入；今タイ語を学ぶ意義は？社会のタイ語需要 2　タイ文字の成立と種類､タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音 3　文字の読み書き１（中子音・高子音） 4　文字の読み書き２（低子音と長母音） 5　文字の読み書き３（真正二重子音・平音節・促音節） 6　文字の読み書き４（声調符号、短母音） 7　文字の読み書き５（高子音化、擬似二重子音） 8　文字の読み書き６（一字再読字） 9　文字の読み書き７（タイ数字など） 10　文字の読み書き８（特殊な表記） 11　タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定） 12　タイ事情（映画などのビジュアル教材） 13　講読１（読み方、文章のつながり方など） 14　講読２（読み方、タイ語らしい言い回し） 15　テスト

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習は難しいので、復習をしっかりと行って知識の定着をはかる。
テキスト、参考文献	「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント
評価方法	定期試験の成績を 80 パーセント、課題や小テストなどを 20 パーセントとして総合的に判断する。

08 年度以降	外国語（タイ語Ⅱｂ 文字の読み書き）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
Ⅱａ で学んだタイ文字の読み書き能力をさらに高め、小学校の国語の教科書など、簡単な文章を講読しながら背景にあるタイの文化、社会、人の行動様式や考え方などについても理解する。暗唱にも力をいれる。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。 なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。タイ検定への挑戦についてもできるかぎりのバックアップを行う予定である。遠慮なく自分の課題について相談してほしい。	1　講読１　(読み方、文章のつながり方など) 2　講読２　(平易な物語など) 3　文法１　(指示詞の用法) 4　文法２　(一般動詞の用法) 5　文法３　(形容詞の用法) 6　講読３　(平易な物語など) 7　文法４　(類別詞の用法・比較) 8　講読４　(タイの文化・祭り) 9　講読５　(首都バンコクについて) 10　文法５　(否定の表現) 11　講読６　(子どもの夢) 12　講読７　(書店) 13　タイ事情（現代映画の鑑賞） 14　タイ事情（現代映画の鑑賞） 15　試験

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの購読を行うので、自分でできるところまで進めておく。暗唱をしてみよう。
テキスト、参考文献	「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント
評価方法	定期試験の成績を 80 パーセント、課題や小テストなどを 20 パーセントとして総合的に判断する。

08 年度以降	外国語（アラビア語 Ia　会話と文化）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア語は総人口が 3 億に達するアラブ 22 カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。またイスラームの啓典『クルアーン（コーラン)』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、16 億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界でもっとも誤解された宗教」と言われています。アラブ世界もまた、世界でもっとも誤解された文化圏の一つだと言えるでしょう。 本講義では、会話と文化に焦点を絞り、「言いたいことを言う」自己表現のためのアラビア語を学びます。毎回一つのテーマを決め、「言いたいこと」を募り、それをアラビア語で言う練習をします。 この講義は、「アラビア語 IIa　読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。	1. Introduction、発音の基礎 2. 「あなたに平和を」挨拶に対するアラブ人のこだわり 3. 「ありがとう」「どういたしまして」「すみません」 4. 「ご機嫌いかがですか？」「私の名前は・・・」 5. 「彼女の名前は」 6. 「おはようございます。今日の天気は？」 7. 「これは何ですか？エジプトのパンですか？」 8. アラビア文字の基礎 9. アラビア文字を読む 10. これまで学んだことの応用 11. 「アラブの様々な食べ物」 12. 「トイレはどこですか？」 13. アラブのテレビを観る 14. 「どうしたんですか？」「お腹が痛いんです」 15. 復習

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で学んだ表現を使って何を言いたいか、何を伝えられるか、毎回考えて次の授業で発表・質問・確認してください。
テキスト、参考文献	『ニューエクスプレス・アラビア語』(竹田敏之著・白水社) 参考文献 :『これなら覚えられるアラビア語単語帳』(師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版)
評価方法	積極的な授業参加に重点を置きます。また、常時会話の小テストを行います。

08 年度以降	外国語（アラビア語 Ib　会話と文化）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、会話と文化に焦点を絞って、アラビア語を使ったコミュニケーション・スキルと異文化理解を深めていきます。 この講義は、「アラビア語 IIｂ読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。	1. 前期の復習 2. 数と数字 3. 「アラビア語を学んだことがありますか？」 4. 「あなたに兄弟はいますか？」 5. 「私たちはピラミッドの前にいます」 6. 「ラクダに乗ったことがありますか？」 7. 「日本にはたくさんの大学がありますか？」 8. 「あなたは何を勉強していますか？」 9. 「私はお腹がすきました」 10. 「コシャリを食べたことはありません」 11. 「気に入りましたか？」 12. 「書店に行きたいです」 13. 「どちらがより近いですか？」 14. 復習 15. 応用

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で学んだ表現を使って何を言いたいか、何を伝えられるか、毎回考えて次の授業で発表・質問・確認してください。
テキスト、参考文献	『ニューエクスプレス・アラビア語』(竹田敏之著・白水社) 参考文献 :『これなら覚えられるアラビア語単語帳』(師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版)
評価方法	積極的な授業参加に重点を置きます。また、常時会話の小テストを行います。

08 年度以降	外国語（アラビア語 IIa　読み書きと文法の基礎）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア語は総人口が 3 億人に達するアラブ 22 カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。 また近年は、世界的金融危機を背景に「イスラーム金融」が注目され、ドバイをはじめとして湾岸地域が世界有数のビジネスの中心地として世界の関心を集めています。こうした世界の動向から見ても、アラビア語やアラブ文化の知識は、将来において大いに有益であると言えます。 本講義では、アラビア文字、アラビア語の読み書きの基本と基礎的な文法を学習しますが、文法の規則を知るだけでなく、すぐに使える文章を通して、楽しみながらアラビア語の論理を吸収してもらうことを目的としています。 この講義は、「アラビア語 Ia　会話と文化」と同時に履修することができます。	1. Introduction 2. アラビア文字を覚える（1）　挨拶の言葉 3. アラビア文字を覚える（2）　挨拶の言葉 4. アラビア文字を覚える（3）　自己紹介 5. アラビア文字に覚える（4）　「私は日本人です」 6. アラビア文字を覚える（5）　アラブの国名 7. 自分の名前を書く！ 8. 自己紹介の文章を書く！ 9. 自己紹介の文章を書く！ 10. アラビア語を読む 11. 男性形と女性形「私は学生です」 12. 定冠詞の使い方「駅はどこですか」 13. 「それは何ですか？」「アラブのコーヒーです」 14. 復習 15. テスト・アラビア語によるビデオ鑑賞

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	小テストを行うので、学んだテクストは必ず書けるようになるまで毎回練習してください。
テキスト、参考文献	テキスト：プリントを配ります。　参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『これなら覚えられるアラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）
評価方法	授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。

08 年度以降	外国語（アラビア語 IIb　読み書きと文法の基礎）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深めてもらうことを目指しています。 本講義では、前期に引き続き、アラビア語の読み書きと文法の基礎を学習します。歌謡曲やビデオなど、様々なメディアを通じて自然にアラビア語を吸収してほしいと考えています。 この講義は、「アラビア語 Ib　会話と文化」と同時に履修することができます。	1. 前期の復習 2. 前置詞を使う「私はいつも○○にいます」 3. 前置詞を使う「私はいつも○○にいます」（続き） 4. 所有の表現「あなたは車を持っていますか？」 5. 形容詞の使い方「それはいい考えだ！」 6. イダーファ構文「これはナイルの水ですか？」 7. アラビア語の動詞は過去形から「彼は飲んだ」 8. アラビア語の動詞は過去形から「誰が言ったの？」 9. 現在形動詞「あなたは知っていますか？」 10. 現在形動詞の否定「知りません」 11. 現在形動詞と未来形「どうするつもりですか」 12. 複数と双数「エジプトのアーティストたち」 13. 辞書の引き方の基礎・復習 14. テスト 15. アラブの詩を読む、覚える

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	小テストを行うので、学んだテクストは必ず書けるようになるまで毎回練習してください。
テキスト、参考文献	テキスト：プリントを配ります。　参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『これなら覚えられるアラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）
評価方法	授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。

08 年度以降	外国語（現代ヘブライ語 Ia 基礎）	担当者	阿部　望

講義目的、講義概要	授業計画
イスラエル国の公式言語であり、旧約聖書、タルムードなどの言語であるヘブライ語の基礎を学びます。 現代ヘブライ語は、三千年以上のユダヤ人の歴史や思想を現代に伝えています。現代ヘブライ語を学ぶことは、コミュニケーションの手段としてだけではなく、ユダヤ学全体への入口となります。フェニキア文字から発展したアルファベットの歴史を学び、ヘブライ文字の書き方、発音練習を通して、欧米諸語で使われる人名、地名のオリジナル発音を探ります。 さらに、クラシック音楽の表題、シャガールの絵画、小中学校で踊るフォークダンス「マイム・マイム」など幅広く使われるヘブライ語を正しく理解します。授業は随時配布されるプリントにそって進められます。	1. アルファベットの歴史・発音練習 2. 発音練習 3. ヘブライ文字の書き方練習 4. 会話練習。ヘブライ語で自己紹介 5. ヘブライ語起源の人名 6. 名詞と形容詞の性　男性名詞と女性名詞 7. 名詞と形容詞の複数形 8. 動詞の現在形、「マイム　マイム」 9. 動詞の現在形２ 10. ヘブライ語の神名 11. 数字としてのヘブライ文字 12. イスラエルの自然 13. 動詞の現在形（３） 14. 動詞の現在形（４） 15. 総復習

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定部分の精読と返却されたプリントの確認
テキスト、参考文献	Print を配布
評価方法	授業毎のプリント提出(40%)、試験(60%)

08 年度以降	外国語（現代ヘブライ語 Ib 基礎）	担当者	阿部　望

講義目的、講義概要	授業計画
セム語におけるヘブライ語の正しい位置を把握し、ヘブライ語史の問題点を学びます。 １．アラビア語とヘブライ語の違い。 ２．イエス・キリスト時代の言語 ３．ヘブライ語が死語になったとはどういう意味か。 ４．現代ヘブライ語はどのように“復活”したのか。 ５．ユダヤ人が使っていた各種のユダヤ語とは何か。 ６．ユダヤ人のファミリーネームと文化的背景 さらに、ユダヤ人の祭りや習慣を学び、ユダヤ人とお付き合いする際の注意点やエチケットを学びます。 「ユダヤ教」、「キリスト教」、「イスラム教」の違いを正しく認識し、それぞれの特徴を学びます。	1. 春学期の復習 2. ユダヤ人の祭（１）、会話練習 3. ユダヤ人の祭（２）、会話練習 4. ユダヤ人の祭（３）、ヘブライ語の復活 5. ユダヤ人のファミリーネーム（１） 6. ユダヤ人のファミリーネーム（２） 7. ユダヤ人のファミリーネーム（３） 8. ユダヤ人の言語、ユダヤ語とヘブライ語 9. ユダヤ人との付き合い方、食習慣 10. 所有、所在、存在の表現（１） 11. 所有、所在、存在の表現（２） 12. 動詞の不定詞（１） 13. 動詞の不定詞（２） 14. 動詞の不定詞（３） 15. 総復習

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定部分の精読と返却されたプリントの確認
テキスト、参考文献	プリントを配布
評価方法	授業毎のプリント提出(40%)、試験(60%)

08 年度以降	外国語（トルコ語 Ⅰa 総合）	担当者	M. チャクル

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、初めてトルコ語を学ぶ学生を対象に、トルコ語の文法や読み書きを中心に学習を進めていきます。また、トルコの文化や歴史などについて知る時間も設け、トルコについて総合的に学ぶとともに、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 アルタイ語族に属するトルコ語は、日本語とも同語族とされ、基本的な文法構造が似ています。また、文字は英語のアルファベットに近く、発音も規則的なことから、日本人にとっては比較的習得しやすい言語の一つと考えられています。 トルコだけでなく、バルカン諸国や東欧、中央アジア、西アジアにもまたがるトルコ語話者は、同系言語を含めると2億2千万人がいるとされ、汎用性の高い言語です。 単独での履修も可能ですが、会話を中心に学ぶ「トルコ語Ⅰa 会話」とあわせて受講することを勧めます。	1）アルファベット 2）数字 3）挨拶の言葉 4）挨拶の練習 5）人称代名詞／トルコ料理の紹介 6）人称・指示代名詞で文を作る「これはAです」 7）人称・指示代名詞で質問を作る「これは何ですか」 8）国と言語の名前／トルコの観光 9）肯定文の作り方 10）疑問文の作り方 11）否定文の作り方／トルコの歴史 12）形容詞の使い方 13）自己紹介をする 14）単語の複数形 15）まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。
テキスト、参考文献	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレ インスティトゥート編）ほか補助教材を使用。
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。

08 年度以降	外国語（トルコ語 Ⅰb 総合）	担当者	M. チャクル

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、「トルコ語Ⅰa 総合」の続きになります。 授業では、文法や読み書きを中心にトルコ語の基礎を学んでいきますが、あわせてトルコの建築、芸術、食文化などさまざまな側面についても説明し、トルコについて総合的に学んでいきます。また、前期同様、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。 なお、単独での履修も可能ですが、会話を中心に学ぶ「トルコ語Ⅰb 会話」とあわせて受講することを勧めます。	1）前期の復習 2）家族について紹介する（1） 3）家族について紹介する（2） 4）命令形の作り方／トルコの芸術（マーブリング） 5）生活環境についての単語（1） 6）生活環境についての会話（2） 7）場所を聞く（1） 8）場所を聞く（2） 9）色の名前／トルコのコーヒーと紅茶 10）現在進行形（肯定文） 11）現在進行形（疑問文） 12）現在進行形（否定文） 13）現在進行形の総合練習 14）スケジュールを説明する 15）まとめ、総合練習

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。
テキスト、参考文献	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレ インスティトゥート編）ほか補助教材を使用。
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。

08 年度以降	外国語（トルコ語 Ⅰa 会話）	担当者	M. チャクル

講義目的、講義概要	授業計画
トルコはアジアとヨーロッパの接点として、古くからさまざまな文明が交錯しました。そのため、世界有数の観光地として、日本人を含め多くの観光客が集まります。一方で、近年は経済的な発展もとげ、ヨーロッパだけでなく、中近東、アフリカ、中央アジア諸国へのゲートウェイとして、さまざまな企業の進出が続いており、トルコ語の注目度も増してきています。 このクラスは、初めてトルコ語を学ぶ学生を対象とし、授業では日常生活やトルコへの旅行などで使えるフレーズを中心に、会話の練習を行いながらコミュニケーション能力を身につけていきます。また、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 単独での履修も可能ですが、リーディングやライティングを中心に学ぶ「トルコ語Ⅰa 総合」とあわせて受講することを勧めます	1）アルファベットと数字 2）初めての挨拶 3）自己紹介／肯定文 4）タクシーに乗る／疑問形 5）レストランで①／所有形 6）ホテルでの会話／人称代名詞 7）買い物をする①「～をください」 8）家族を紹介する／複数語尾 9）レストランで② 10）依頼する 11）予約をする 12）両替をする／未来形 13）乗り物に乗る「～へ行きます」 14）買い物をする②／未来形 15）まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習として授業で学習した会話を音読するとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。
テキスト、参考文献	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレ インスティトゥート編）ほか補助教材を使用。
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。

08 年度以降	外国語（トルコ語 Ⅰb 会話）	担当者	M. チャクル

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、「トルコ語Ⅰa会話」の続きになります。 授業では会話の学習を中心に進め、トルコを訪れた際、必要な日常会話ができるようになることを目指します。 後期では、定型表現だけでなく、簡単な文章を使いながら、自分の状況や考えを相手に伝える練習も行います。また、前期同様、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。 なお、単独での履修も可能ですが、リーディングやライティングを中心に学ぶ「トルコ語Ⅰb総合」とあわせて受講することを勧めます。	1）前期の復習 2）自分の体験を語る／過去形 3）「週末何をしましたか？」／過去形 4）「～だそうです」／伝聞完了形 5）インフォメーションでの会話 6）電話で話す／未来形と中立形 7）バスターミナルで／中立形の否定形 8）買い物の会話「～できますか？」 9）様々な疑問詞・許可／「～してもいいですか？」 10）趣味について話す「～が好きですか？」 11）「～しよう」 12）レストランでの会話 13）別れの場面／「～でいてください」 14）復習 15）まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習として授業で学習した会話を音読するとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。
テキスト、参考文献	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレ インスティトゥート編）ほか補助教材を使用。
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。

08 年度以降	外国語(トルコ語 II a 応用)	担当者	M. チャクル

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、トルコ語の基礎的な学習を行った学生を対象としています。 トルコ語の文法と会話を中心に総合的に練習を重ね、トルコ語のレベルアップを目指します。特に、トルコ語において重要な動詞の活用については、現在進行形、未来形、過去形、超越形の構造を身につけ、会話の中でも使えるように取り組みます。 あわせて、トルコの文化や歴史などについて知る時間を設けるとともに、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。	1）挨拶、人称 2）自己紹介の復習 3）現在進行形（肯定文） 4）現在進行形（疑問文） 5）現在進行形（否定文）／トルコ料理の紹介 6）「を」格 7）「へ」格／トルコ映画 8）「から」の表現方法格 9）家族について話す 10）過去形（肯定文）／トルコの歴史 11）過去形（否定文、疑問文） 12）時間を表す表現 13）時間を表す表現／トルコの芸術（マーブリング） 14）時間表現を使って話す 15）まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。
テキスト、参考文献	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレ インスティトゥート編）ほか補助教材を使用。
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。

08 年度以降	外国語(トルコ語 II b 応用)	担当者	M. チャクル

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、「トルコ語II a応用」の続きのクラスです。 中級レベルのトルコ語会話を中心に学び、旅行や日常生活など様々な場面で使えるフレーズを身に付けます。今までに学習した文章を使いながら、会話だけでなく、自分の考えや状況を相手に伝える練習も行い、トルコ語でのコミュニケーション力の向上を図ります。 授業は会話の練習を中心に進んでいきますが、トルコの習慣や、観光、芸術、食文化などについても説明し、トルコについて総合的に学んでいきます。あわせて、ネイティブスピーカーとの交流会など、トルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。	1）前期の復習 2）ile とveの使い方 3）-lı, -liの使い方 4）日常生活の会話 5）週末の予定について話す 6）家族について話す 7）交通機関 8）買い物の会話 9）計量単位 10）食事の会話 11）道を尋ねる 12）時間を尋ねる 13）トルコのお金 14）スーパーでの会話 15）まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。
テキスト、参考文献	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレ インスティトゥート編）ほか補助教材を使用。
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。

シラバス 全学共通授業科目

2017年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1661

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	